徳島の剣道

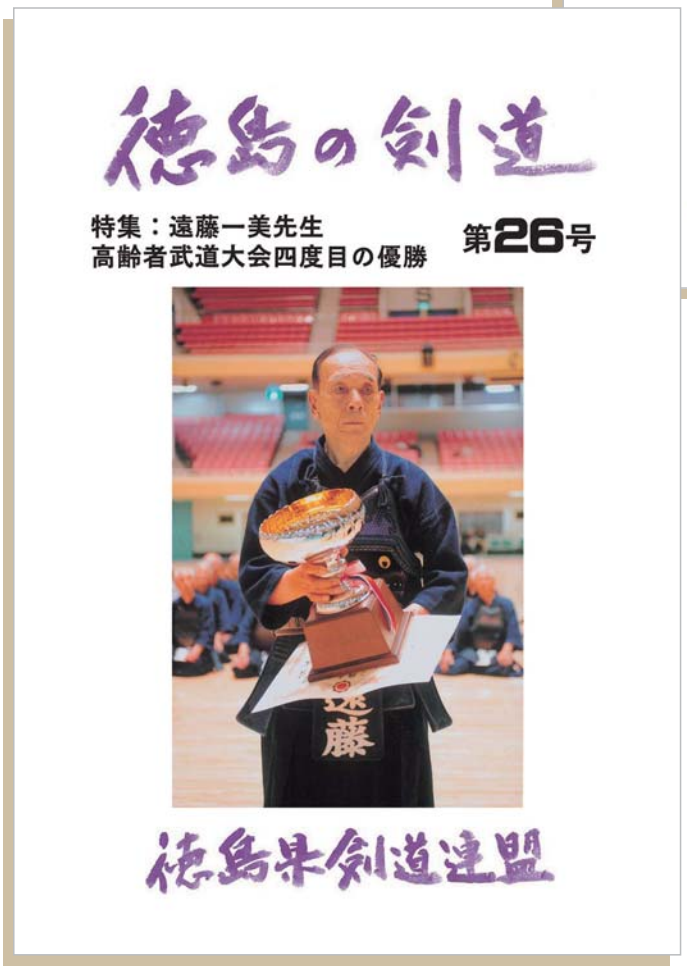
特報

1. 追悼 遠藤一美先生
2. ふるさとトーク 吉田博三先生

第35号

ありし日の遠藤一美先生

徳島県剣道連盟



生前の遠藤先生を特集した「徳島の剣道」の表紙

巻頭言

改元と阿波の歴史

徳島県剣道連盟　会長　三木　毅

平成三十一年五月一日に改元される。そのような歴史的な年に巡り合えることに深い感慨にふけっている。天皇即位の大行事である「大嘗祭」に私は二回出会うことができるからである。我が阿波徳島は、大嘗祭と深い歴史があり、全国に、いや世界に徳島県の歴史の深さや伝統を知らしめることができることはこの上ない喜びとしなければならないと思うからである。

宮中行事の一つに、毎年秋には、天皇が新穀を神に供え、自らも食される「新嘗祭」が行われているが、天皇が即位後初めて国内外に大規模に宣言する一大行事が「大嘗祭」なのである。この一大行事に、天皇が身に付ける衣装が「麁服」（アラタエ）である。歴史書を紐解いてみると、深い歴史を感じることとなる。

我が阿波の徳島に古代から存在する忌部族について、忌部神社御由緒には、いわゆる太古時代に天日鷲命（アメノヒワシノミコト）は、穀麻（カジアサ）を植え製紙製麻紡績の諸業を創始され、特に天照大神が天岩戸にお隠れになった時、白幣を作り、神々と共に祈られ、天岩戸開きにおおきな功績をあげた。その子孫は「忌部」と称して国家祭祀の礼典を掌り神武天皇の御代が阿波国へ下り代々朝廷に「麁服」を貢上した。よく天日鷲命を奉祭する。徳島県民の祖神を祭り阿波国総鎮守の神社として古来からひろく尊崇あつく、官幣大社に列せられ、四国一宮とも称されたとある。

阿波の国で麻を栽培して、繊維を取り出し機織り機で「麁服」をつくり、天皇に献上するのが忌部族と言われ、美馬市穴吹町木屋平の三木家が伝承している。此の太古からの歴史のとおり、歴代天皇即位後の大嘗祭に麁服が献上されてきた。徳島新聞の報道によると、吉野川市山川町では、麁服つくりの準備が開始されたという。

この一連の諸業は歴史の壮大さを感じるし、伝統と歴史が確実に伝承されていることの重厚さに大きな誇りを感じるのである。

私どもが、日々生活する中で、洋の東西を問わず節目があることは極めて大事であると思うのである。新たな、元号の時代が、大きな節目であり、繁栄と幸多かれと希望するのは多くの国民の総意であると思うのである。

その中身は、広範多岐に亘ることとなるであろうが、近代社会に生きる我々一人一人の向上心や結束力と我が国が内外に示している力からすると必ず実現されると確信するところである。

本年が、各剣士諸氏にとって活気に満ちた年として、向上されることを祈念いたします。

『徳島の剣道 第三十五号』目次

巻頭言……三木　毅……1

《特報Ⅰ　追悼　遠藤一美先生》

遠藤一美先生「剣道への三つの柱」……三木　毅……4

遠藤一美先生を偲ぶ……高島　稔之……6

敬愛する遠藤一美先生を偲んで……西岡　侃……8

遠藤一美先生を偲んで……北條　憲治……10

遠藤一美先生を偲んで……坂本　信幸……13

《特報Ⅱ　ふるさとトーク》

私の剣道の原点・徳島……吉田　博三……16

顕彰一覧

剣道有功賞

警察剣道等と歩んだ五十年……中尾　正輝……21

少年剣道教育奨励賞

少年剣道教育奨励賞を受賞して……大川　功……23

わかあゆ会と共に！……山田　耕司……25

全国都道府県対抗

第六十六回全日本都道府県対抗優勝剣道大会報告…玉田　晋作……27

全国スポーツ少年団大会

第四十回全国スポーツ少年団剣道交流大会に参加して…岩原　千佳……29

全国郵政大会

第六十回記念全国郵政武道大会における永年功労賞を受賞して…久保　隆司……31

平成三十年度徳島県中学校剣道優秀選手……33

平成三十年度徳島県高等学校剣道優秀選手……34

先生を偲ぶ

野口直之先生を偲んで……坂本　憲一……35

野口直之先生を悼む……中村　稔裕……37

菱田晋先生を偲ぶ……元木　武……39

全国講習会報告

剣道中央講習会に参加して……佐藤　佳宏……41

第四十五回居合道中央講習会に参加して……森　将夫……43

柳生講習会に参加して……中尾　幸雄……46

第二十二回長期育成強化訓練「作道正夫先生指導要録」…平野　誠司……50

第十七回女子審判法研修会（全剣連主催）受講結果について…平野　悦子……52

第四十二回全国高等学校・中学校剣道（部活動）指導者研修会に参加して…岸野　哲也……53

徳島の剣道史

徳島出身の新選組隊士　前野五郎……坂本　憲一……55

大会・行事所感

安全で効果的な剣道授業の展開……米倉　滋……60

徳島県大学選手権眉山杯大会の今昔……久保　宜明……63

徳島春風館道場設立三十年を迎えて……青木　茂生……65

第四十七回徳島県社会人大会　選手宣誓の言葉…小野　勝……67

四国医科学生剣道交歓試合を主管して……阿部　有矢……69

各種大会に参加して

勝負は応用の跡なり「第十六回全日本選抜剣道八段優勝大会」…平野　誠司……70

全日本都道府県対抗女子剣道大会に参加して…白木　洋一……72

矯正職員剣道大会について……前田　秀一……74

勝ちに不思議の勝ちあり、負けに不思議の負けなし…谷本　浩志……75

全国選抜大会に出場して……冨田　孔明……78

挑んだ全国選抜……堺　麗美……79

平成三十年度全国高等学校総合体育大会

三重インターハイに出場して……坂野　修造……81

目的と目標……大城明　裕奈……84

全国中学校剣道大会に出場して……田上　力……86

全国中学校剣道大会に参加して……河野菜々子……88

第六十回全国教職員剣道大会団体戦第五位

『さらなる飛躍を目指して』……福多　雅英……89

第十三回全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会に参加して…山本　泰史……91

第十三回全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会に参加して…長地　千景……95

四国教職員剣道大会三連覇！……岩原　靖人……97

第五十七回全日本女子剣道選手権大会を終えて…木浦　萌愛……99

交剣知愛　第六十四回全日本東西対抗剣道大会…平野　誠司……101

明治百五十年記念第七十三回国民体育大会に出場して……浅田　光貴……103

第五十三回全日本居合道大会に出場して……徳山　豊……104

全日本剣道選手権大会に臨んで……大石　洋史……106

秋期関西医歯薬大会での優勝……阿部 有矢……108
第七十回四国四県剣道大会に参加して……富田 正……110
平成三十年度全国警察剣道大会を終えて……山室 雅幹……113
平成三十年度徳島県高齢剣友会活動状況……乾 清孝……116
第五回四国高齢者剣道交流大会 四回目の優勝……美馬 勝行……118
第三十一回全国健康福祉祭とやま大会に参加して……富田 正……122
第四十回全日本高齢者武道大会……乾 清孝……125
徳島県剣道道場連盟だより……谷本 浩志……127

随想

雑感 小学生のころ……三木 毅……133
「不動智神妙録」から学んだこと……米倉 滋……135
剣道が変えてくれた私の人生……立川 信彦……137
警察学校の朝稽古に参加して……安田 勝裕……139
人生の道づれに……福井 勝……140
赤いリンゴ……高木 壽史……142
体解（たいげ）……富浦 廣志……143
居合と藍に携わって……村井 恒治……144

称号・段位合格者

剣道七段に昇段して……兼松 佳史……146
七段に合格して……金野 卓司……148
七段合格……金野 裕美……149
「剣道七段合格」を目標に設定して……川添 義仁……150
七段審査に合格して……谷 喜史……151
剣道七段に合格して……柳谷 照男……153
七段に合格して……北條 雄司……155
六段審査に合格して……田上 裕之……157
六段に合格して……西堀 和文……158
六段昇段について……小笠原 徹……159
六段審査に合格して……喜浦 理砂子……160
六段審査に合格して……安丸 孝生……162
六段取得までに……清水 英典……163
六段合格を振り返って……美馬 敦子……164
六段審査への挑戦……田村 和之……166
称号と芋焼酎……長崎 秀信……168
称号・段位合格者一覧……171

がんばろう徳島

事務局取材レポート
頑張ってます！ 大麻錬成館……藤川 和秋……175
専門部報告
事業部……切中 克樹……178
審査部……佐藤 佳宏……179
強化部……平野 誠司……180
少年部……松村 和宏……181
女子部……竹内 佳代子……182
居合道部……福井 勝……184
審判部……富浦 廣志……186
中体連……佐藤 浩……187
高体連専門部……玉田 晋作……189
大学連……木原 資裕……192
徳島県剣道稽古場所一覧……194
居合道 道場案内……197
平成三十年度 大会記録……198
徳島新聞に見る戦いの跡……239
平成三十一年度 昇段審査学科試験問題・解答例……263
平成三十一年度 徳島県剣道連盟行事予定表……271
平成三十一年度 審査実施計画表……273
徳島県剣道連盟審査資格・審査料等……274
剣連事務局について……木下 裕康……275

編集後記

表紙題字 堀江幸夫（元徳島県剣道連盟名誉会長・故人）
さし絵 村嶋恒徳（茨城県在住）

特報Ⅰ　追悼遠藤一美先生

遠藤一美先生「剣道への三つの柱」

徳島県剣道連盟　会長　三　木　　毅

平成三十年十二月六日　遠藤一美先生は九十三歳の天寿を全うされました。先生は人生の大半を議会人と剣道人とを見事に務めあげられた希有の人であり、その分野でのご功績は次代に語り継がれることと思います。心から哀悼の意を捧げ、ご冥福をお祈りいたします。

先生との出会いは剣道の稽古場でありました。私は昭和三十七年に阿南警察署に赴任後、剣道特錬生として参加していた徳島武道館の稽古でお会いしたのが初対面で、先生が阿南市在住であったことを知り身近な先生となりました。その後先生は昭和四十年秋に阿南市会議員となり、十八年を経て、昭和五十八年に徳島県議会議員となられました。平成二十三年まで県議をつとめられ、八十七歳で後進に道を譲られたのであります。

一方、剣道界では、徳島県剣道連盟阿南支部長を十四年務められ、平成九年に徳島県剣道連盟会長に就任、平成二十三年までの十三年間に亘り徳島県剣道界において剣道の普及発展に大きく力を注がれたのであります。また、全国組織の中の徳島県高齢剣友会の会長も兼務され、更に東京本部の役員も務められておりました。

私は平成十五年四月から遠藤会長の下で理事長として八年間ご指導を受けました。

平成十五年の大事業は、先ずは会員から年会費を徴収する制度をスタートさせたことでありました。次の大事業は秋の「全国ねんりんピック剣道交流徳島大会」であります。この会場はねんりんピックのために新築された阿南市総合スポーツセンターでありました。大会の準備は、仕事の合間を見ての作業であり、とにかく大変な作業工程であったのですが、遠藤先生の地元への肩入れと阿南市役所チームの方々の絶大な努力で成し遂げることができました。

そしてまた、「全国中学校総合体育大会剣道徳島大会」「全国スポーツ少年団剣道交流徳島大会」の大事業も遠藤先生のご指導で成し遂げることができたのであります。

ある時、先生が若き時のことを話され、今も鮮明に覚えていることがあります。先生は十七歳で満州鉄道に就職され、大陸に渡られ二十歳で終戦となり、西ロシアへ連行され役務に就き、極寒の土地では食べることが大変であった。野外作業中に草の先を千切りポケットに隠し、翌朝の食事に出されるスープに草の葉を入

れ食の足しにしていたこと、ネズミやカエル、蛇などを口にしたとも語られたことであります。この話を聞き青年期の食べ盛りに満足な食べ物がなく、空腹の辛さは尋常な精神状態ではなく、只々生き延びることだけの執念だったのでないか、そして体力が生死の別れ目であったのでないかということであった。無事に帰還されたことはご本人の天命とか運命を感じるお話と受け止めたことがありました。このような体験をお持ちの先生はある意味、筋金入りの人なのであります。

遠藤先生との深い交わりはやはり剣道の場であります。先生の剣道への取り組みは、「剣道が好き、稽古が好き、試合が好き」と剣道への三つの柱をとことん堅持され、剣道生活を続けられておられました。その結果は全日本高齢者武道大会の個人戦で四度の優勝を獲得されており、日頃の取り組みの成果を示されたことであります。先生は八十五歳を超えても、全国優勝五回目を目指して大会に臨んでおられました。準優勝や第三位の成果を上げられました。この成績は大変な成績でありまして先生の剣道への三つの柱の証であると思っております。晩年の先生は、「両膝の状態が良くなれば剣道が出来るのに」と無念そうに話されておられました。これこそが生涯剣道の在り方を説いている本意であると思えてならないのであります。

先生が自ら示された剣道への取り組み三つの柱を脳裏に刻み、お礼を申し上げ、ご冥福をお祈りする次第であります。

遠藤一美先生を偲ぶ

徳島県剣道連盟審議委員長
徳島県高齢剣友会会長
全日本高齢剣友会副会長
高島　稔之

元徳島県剣道連盟会長・元徳島県高齢剣友会会長遠藤一美先生について、徳島県高齢剣友会に関わる内容について書かせて頂きます。

教員退職前（平成十五年二月頃）に、東内勉先生が、わざわざ城西中学校の校長室までお越しくださり、徳島県高齢剣友会への入会をお勧め頂いたお陰で、『生涯剣道』への道が開けたことを心から感謝しています。

当初（平成十五年四月頃）は、五十数名ほどであった会員数も、事務局長→理事長→会長（現）と務めさせて頂く内に、その後は百十名を越える大組織となり、剣道連盟の重鎮である六十歳以上の先生方の大多数が御加入頂いている現状となっています。

徳島県剣道連盟会長としての遠藤先生との関わりは、以前からありましたが、徳島県高齢剣友会会長としての遠藤先生との関わりは、私が教職を退いてから（平成十五年四月以降）、事務局長に就任してからのことになります。

平成十五年十月十九日～二十日に阿南市総合スポーツセンターで開催されることになっていた「全国ねんりんピック徳島二〇〇三剣道交流大会（全国から五十九チームが参加）」に、事務局長兼・徳島県Aチームの選手として出場が決まっていました。

遠藤先生は、「稽古が大好き・試合も大好きな方」で、何時も車のトランクに、剣道具を積んでおられました。先生は、それまでにも、全日本高齢者武道大会において、A組で優勝（平成七年）、特組で優勝（平成十三年）をされていました。

遠藤先生は徳島大会の大会長ですが、徳島県Aチームの大将としても出場したいと言われるのを、三木毅先生（当時：県剣道連盟理事長・現：剣道連盟会長）と二人掛かりで、選手は他の方にお任せして欲しいとお諌めし、壇上の大会長席にお座りいただいたことを昨日のことのように思い出します。徳島県チームの選手団は大奮闘し、Aチームが優勝、Bチームが三位入賞を果たすことができたことを懐かしく思い出します。

遠藤先生は、その後も全日本高齢者武道大会に出場され、寿B組（八〇歳～八四歳）でも優勝を二回（平成十七年・平成二十一年）され、計四回の優勝と、準優勝を二回、第三位を二回、合計八回の受賞をされています。ただただ驚嘆するばかりです。

私が理事長になってからは、それまで年二回（春・秋）実施していた徳島県高齢剣友会の大会の内、平成二十五年春の大会からは、その大会を、四国高齢者剣道交流大会に昇格させ、四県で持ち回りの大会とすることを遠藤会長に提言し、県下会員の賛同を得ると共に、他の三県の了解を得て実現することができました。（他の三県は、高知・愛媛・香川の順で高齢剣友会の組織ができ

あがったので、その順で四国大会を持ち回りで実施することになりました。）

平成三十年度の春の大会から、二巡目の大会（第五回）となり、徳島県が四回目の優勝を成し遂げることができたことは、会員皆んなのこの上ない喜びでした。

遠藤先生が会長で私が理事長になってからの諸行事は、平成二十七年度からの新体制（会長＝高島、理事長＝美馬、事務局長＝乾）の下でも、継承・改善を加えながら実施しています。

その主な行事は、

・定期的稽古会（毎月二回、第二・第四土曜日、十四時～、松茂）
・宿泊を伴う年二回の稽古会（七月＝美郷、十二月＝阿南）
・理　事　会（二月）
・総　　会（三月）
・県内大会（九月＝徳島県健康福祉祭とくしまねんりんピック剣道交流大会）
・四国大会（四月＝四国高齢者剣道交流大会）
・全国大会（六月＝全国高齢者武道大会：日本武道館）
（十一月＝全国健康福祉祭全国ねんりんピック剣道大会）

となっています。

昨年十二月八日（土）の南部稽古会（阿南市）の日は、奇しくも遠藤一美先生の告別式の日となりました。

多くの剣道関係者が阿南の地に集まり、遠藤先生の御霊（みたま）の安らかならんことを祈念した後、「稽古大好き・試合大好き」の遠藤先生の御霊が見守ってくれる中での高齢剣友会の稽古会となりました。

『十二月八日は、私にとって、稽古の大切さを再認識させてくれる大切な日』となりました。

遠藤一美先生の御冥福を心から祈念し、偲ぶ言葉とさせていただきます。

合掌

敬愛する遠藤一美先生を偲んで

阿南支部　顧問　西　岡　侃

遠藤一美先生は平成二十四年十一月三日（文化の日）に旭日中綬章を拝受され、天皇陛下に拝謁の栄誉と共にお言葉まで戴いておられます。剣道の理念である『剣の理法の修練による人間形成の道』を実践されてきたお方であります。数々の功績を築かれ、その立派な人柄から県民各位より徳島県議会議員として推挙され、県議会議長まで務めておられます。また、剣道界においても徳島県剣道連盟会長ならびに名誉会長として信頼と尊敬を得ておられ、高齢者社会の良きリーダーとして大黒柱的存在でありました。

しかし、人の世の常とは言え、師走の十二月六日に先生の訃報が入った際には、一瞬唖然となりました。翌日、午後七時より自宅にてお通夜が営まれ、昼前から降り出した雨も悲しみの雨と変わり降り続き、大勢の参列者は会場に入れず傘をさして外で並んでおられました。その中には剣道連盟会長の三木毅先生、高齢者剣友会会長の高島稔之先生の姿もございました。私は焼香を済ましし、遠藤先生のご遺体にお水を差し上げることができました。

八日には富岡町の青峰会館にて葬儀が営まれ、会場の玄関には、元阿南市議会議長・元徳島県議会議長・元徳島県剣道連盟会長遠藤一美告別式会場と立派な看板で祭壇には、穏やかにほほ笑む先生の遺影が飾られており、数多くの参列される方々を見守っておられました。

思い起こせば、私が遠藤先生と出会ったのは、昭和二十八年頃大野地区の武道同志会が青少年健全育成の一環として剣道の誘いがあり、当時の青年団が私を含め十一名で入部した時が始まりです。その当時は、片田先生・清原先生・遠藤先生他大勢の先生方が稽古に励んでおられました。また町外からは磯部先生・松本先生ら多くの先生方が自転車で稽古に来られ、汗を流されていました。そんな中、遠藤先生は皆さんのためにと五右衛門風呂を運んでこられ、練習場（公民館）の裏手に先生自らお風呂場を作られたのを思い出します。

昭和四十三年頃、遠藤先生は清原先生らと共に剣道人口増加のため剣道教室の開設にご尽力され、大野小学校剣道部・阿南剣道教室・新野剣道教室が先生の熱意と行動力により誕生し、最終的に阿南支部内には十四の剣道教室が開設されました。大野小剣道部には遠藤先生より少年用の剣道具を十組も寄贈してくださり、「子供たちの指導は西岡に任したからしっかりやってくれよ」と言っていただきました。そんな数々の思い出が走馬灯のように思い浮かびます。

平成三十年十二月三十日の徳島新聞に「二〇一八年 徳島県の人々の胸に感動した墓碑銘」と題した記事が掲載され、十五名の方々が選ばれておりました。その中に顔写真入りで遠藤先生が掲載されており、私たちに感動を与えてくれました。

遠藤先生は常に気配り上手で幅広く活動をされ、人知れず努力

を重ねて、人々に尊敬される人物になられております。特に、剣道において、率先垂範の稽古をされている姿が目に浮かびます。

最後になりましたが、先生のご家族が陰で先生の活躍を支えてこられたことに感謝するとともに、遠藤家のご清栄を心からお祈りするとともに先生のご冥福を心よりお祈りいたします。

遠藤一美先生を偲んで

審議員　阿南支部　北條憲治

出合い

人との出合いが、その人の一生の〝道しるべ〟になるかも知れない。まさに一期一会である。先生と初めてお合いしたのは、阿南警察署の剣道場でした。阿南少年剣道教室が開設されて、間もなく私もお世話になる様になった。昭和四十八年頃の冬だったと記憶している。当時、清原栄先生、有賀秀敏先生が中心で、支部も活動していた、市議会議員を務めていた先生は、限られた夜の時間を惜しむ様に、剣道をしていたお姿が目に浮んできます。

支部長と、議会議員との両立

五代目阿南支部長を、八年間勤められたと思います。当時私が事務局長としてお手伝いをして居ました。当時支部内に少年剣道教室が、十一教室（阿南、那賀川、育英館、羽ノ浦、大野、錬武館、至誠館、桑野川、新野、加茂谷、如水館）活動しておりました。非常に盛んな時代でもありました。先生と相談して支部の底辺の充実を目標に掲げて、少年剣士・保護者・指導者の話し合いの場を設ける事、中堅指導者の養成（後の青年部）剣道を通じての健全育成に取組みました。

市議会議員、県議会議員を長期務められ、両議長も歴任され、剣道精神により、国家・社会・人類を愛し、阿南市体育協会会長としても九十歳まで務められ、後輩の指導に当たられた事は範とすべきだと思います。又県剣道連盟会長、高齢剣友会会長も長きに渡り務められた事は皆様の知る所であります。

各種大会に同行して

私が先鋒で初めてねんりんピックへ出場した折、当然先生は大将です。平成十五年の静岡県大会（藤枝）から、北海道（札幌）、熊本大会に参加しました。（菊地）目標は最高齢表彰でしたが、おしくも届かず残念。全国には元気な老剣士が健在でした。

今年度は富山大会（砺波市）であり、私も大将で出場するので「行って来ます」お見舞いがてら挨拶に伺った。先鋒から大将まで、元気で剣道が出来る喜びを幾度となく思い出話をしました。大会から帰って、ベスト十六の結果を報告に伺うと、先生の体力はだいぶ弱っていた。床に伏せった状態でしたが、剣道の話になると口元がゆるみ、拳を振り上げた、思わず先生と手をにぎり合った。その時の表情は今でも脳裏から離れません。

終りに

少年剣士と戯れる様に、剣道を楽しみ、又一般の先生方とは、

剣を交え剣理を常に追求し、若者に対しても流汗おしまず指導に当り、地域の発展においても率先して行動、エネルギー溢れた先生でした。九十三歳で天国での武者修行に出かけられ、今頃は少年剣士と笑顔で戯れている事でしょう。本当に先生長い間有難うございました。さようなら！

合掌

昭和63年　徳島県社会人大会　優勝　阿南支部Ａ

全日本高齢者武道大会で優勝

第57会 四国四県剣道大会　優勝　平成17年５月22日

ねんりんピック2011　熊本大会に出場
左より、三木毅、遠藤一美、川田武、美馬勝行、筆者

遠藤一美先生を偲んで

阿南支部　支部長　坂本信幸

十二月七日早朝に遠藤一美先生ご逝去のお知らせをいただきました。近年、膝が痛いにもかかわらず、支部大会等においでくださり祝辞や激励の言葉をいただいておりました。なんとも心の整理がつかない中、支部連絡網で訃報を送信しました。その後、自宅に伺い、安らかに眠っておられる先生と家族、親戚の方にお悔やみを申し上げ、葬儀等について打ち合わせをしました。八日午後大勢の参列者を迎えて葬儀・告別式が行われました。要職を歴任され、徳島県の発展や健全な人間の育成に貢献された偉大な先生の葬送でした。

私の遠藤先生観は、「剣道が大好き」「負けず嫌い」「教え子のためには労を惜しまない」「誰にでも平等に接する」「偉ぶらない」です。その先生との出会いや人となりを振り返ってみます。

先生との出会いは、昭和四十一年、阿南第一中学校で剣道を始めたときでした。先輩が、体の大きなおじさんと稽古をしているのですが、間合いを詰められるので、掛かり稽古になりすぐに息が上がっていました。「あのおっさん誰？」先輩に聞くと「大野の遠藤先生じゃ」。先生にかかる稽古はきついのですが、ジュース、スイカや豚汁等の差し入れがあり、稽古の後、笑顔の先生と一緒にいただき、おいしく楽しかったことを覚えています。阿南工業高校に入学しても、稽古をつけていただきました。間合いを詰められるので、すぐに掛かり稽古になり息が上がりました。大学から帰ってきたときは、阿南少年剣道教室の練習に誘われ、当時小学生の玉田八段、桝山七段、中西六段他と稽古をしました。稽古後は、先生の行きつけの店で楽しく食事をしたことが思い出されます。教職についてからも、生徒や私の指導をしていただきました。先生からは、正々堂々と前に出る剣道、むやみに退くことのない剣道を教えていただきました。これからも正々堂々と前に出ていく剣道を追求していこうと思っています。

先生は、お子さんが富岡東高校に入学されていましたので、長年体育後援会会長をされておられました。スポーツが盛んで、剣道部をはじめ多くの部活動が全国大会等に出場する高校でした。先生は、生徒の旅費等の補助のため、個人、会社や企業の賛助者に頭を下げ寄付を募られたそうです。先生の後、会長になられた方に話を聞くと、「これだけの賛助者の開拓や寄付の依頼は一人ではできない、大変だ。先生はすごい。」と言われていました。また、当時の剣道部女子部員らは、先生の風貌から「遠爺(えんじい)」と親しみをもってあだ名をつけ呼んでいました。部員が道場へ行くと笑顔の「遠爺」が剣道着姿で素振りをしていることが度々あり、一番に稽古を初め、最後まで稽古するのが、いつものパターンでした。大会や練習試合で忘れ物をしてもひと時の間

に用意する。優勝や良い試合をすると、生徒や先生を食事で慰労する。阿南市の企業に生徒の就職を斡旋し、剣道部の創設に尽力されました。学校での初稽古会は毎年参加されておられましたが、近年は膝痛のため見学されることがあり「遠爺」の体調を心配する教え子達が、笑顔の先生に合い楽しいお話をいただくために挙って稽古会に参加していました。

新野少年剣道教室では室長として少年の指導にあたられました。遠藤旗争奪新野少年剣道錬成大会では、県内では珍しい試合前の先生方と参加選手全員による合同錬成、先生方の錬成を取り入れた大会を行われました。最初に優勝旗がないと気づかれ、その日の閉会式には優勝旗を調達されました。これが遠藤旗となりました。

このように、子どもたちのために物心両面にわたっての労を惜しみませんでした。剣道を通じて健全な人間をつくるという剣道の理念を実践され、剣道のもつ特性を青少年の健全育成に活かしておられました。その遺志を受け繋ぎ、剣道を通し、健康で心豊かな子どもたちと後進、自分自身の育成に努めてまいりたいと考えています。

稽古でお姿を拝見することはできないと思うと、言葉では言い表せない気持ちでいっぱいです。先生に教わった数えきれない教え子全員が、共通の思いでいるはずです。これからもずっと私たちを見守っていてください。遠藤先生はいつまでも私たちの恩師です。

最後になりましたが、親身なご指導とたくさんの温かい思い出ありがとうございました。ご冥福を、先生のすべての教え子とともに心からお祈り申し上げます。

合掌

遠藤先生の人柄を偲び、『徳島の剣道第二十六号』に寄稿された遠藤先生の文章を再掲載します。

特集 遠藤一美先生高齢武道大会四度目の優勝

高齢者武道大会に優勝して

徳島県剣道連盟　会長　遠藤一美

高齢者武道大会で四度目の優勝に際し、たくさんの剣友諸氏から祝福していただき、恐縮しております。思い返せば、昭和二十年八月の太平洋戦争終戦の後、三年五ヵ月のシベリア抑留を終え、昭和二十三年十二月六日にナホトカ港から舞鶴港へ、生きて帰ってくることができ、また、戦後の混乱期を懸命に生きてきました。その中で、二十八歳の時に剣道を習い始めました。これまでの人生の中で、剣道を通して色々な人と出会い、すばらしくうれしい体験をさせていただきました。剣道のお陰で、毎日が楽しく、健康にも恵まれ、充実した生活が送れているように思います。実にありがたいことです。

平成十四年に徳島県で全日本剣道連盟の社会体育講習会が行われた際、講師である岡村忠典先生に『徳島の剣道』に特別寄稿をお願いし、その寄稿文が第十九号に「向上しつつ生涯剣道」とのタイトルで掲載されています。その最後の部分を引用させていただき、私の今の思いにかえさせていただきたいと思います。

●すばらしい一本を求め続けよう

すばらしい一本を求め続けて稽古をすることが良い剣道を創造していくための秘訣である。子供は子供なりに、壮年はそれなりに、高齢者は高齢者としての理想的な一本を求めて行きたい。夢のような一本を稽古でも試合でも求め続けていきたい。

そのほかに私が大事なことと思っていることを箇条書きにまとめておくので考えてみてほしい。

・技の選択とその練度
・見取り稽古
・読　書
・打ち間の研究
・自分の目標を追う稽古
・呼吸法

剣道はすばらしい。みんなで仲良く楽しく剣道をしよう。

特報Ⅱ　ふるさとトーク

私の剣道の原点・徳島

吉田博三
（旧姓　藤田）
（昭和三十二年徳島農業高校卒業・埼玉県在住）

『徳島の剣道』に寄稿の機会をいただき、誠に有難うございます。

昭和二十七年、江原中学二年生の時、恩師下村富夫先生にお会いしたのが私の剣道のスタートです。最初にご指導いただいたのは『しない競技』でした。私が中学三年生の夏、下村先生は城西高校（その後、昭和三十一年に徳島農業高校、平成九年に再度、城西高校と校名変更）に転任されました。実は私が進学しようと決めていた学校は城西高校で、徳島を代表する剣士の下村先生に引き続きご指導いただけるのも神仏のお引き合わせかと思う程の出来事でありました。早速先生のお宅へ挨拶に伺うと、〝剣道をやりたくて、わしを頼って来た〟と思われたのでしょう、先生は大変喜んでくださいました。

入学後は、厳しい中にも温かいご指導をいただきました。高校への通学は汽車と自転車で片道二時間半以上かかりましたが、通学は体力を作るよいトレーニングと思っていました。稽古後の帰路は、下村先生と同じ汽車に乗り、剣道の学科を教わり、反省と課題の確認をする機会となりました。三年間欠席や遅刻は皆無でした。

剣道部員は全員一年生で私が三年間主将を務めました。高校日本一を目指して一緒に頑張った同期は鈴木清さん、久次米俊治さん、堀部武志さん、石本芳照さんの四人でした。今も皆元気でおり電話で、近況報告や昔話に花を咲かせるのも楽しみの一つです。

高校で共に稽古に励んだ部員は十三名でした。先生に一本勝負のつもりで掛っていき、それが終わるとかかり稽古、切返し。これが大変キツくて、死んだ方が楽だと思う位でした。「稽古が終って目をつむっては駄目だ」と言われたのを思い出します。この時の猛稽古が後々の私の剣道の原動力となり、現在も稽古出来るのはこのお陰です。

その後、昭和三十二年に徳島農業高校（現・城西高校）を卒業し、法政大学経済学部へ進み、昭和三十六年に同大学を卒業しました。大学へ入学しますと、我こそは日本一の部長であると自負される剣道一直線の丸山義一先生に目をかけていただきました。「君は下村先生という良い指導者に恵まれて良かったなあ。直すところはない。しっかり稽古をしなさい。」と励ましていただきました。私は突が好きで盛んに使いました。今から思うと生意気な一年生だったと思います。そんな私に、丸山先生はニコニコしながら「君の突は本物だ」と言って認めてくださいました。先生

は常々「自分は剣道の専門家ではない」と言って技のことや技術的なことはほとんど仰いませんでした。その代わり高名な剣道の先生を毎日のように招いてくださいました。我々生徒は居ながらにして高名な先生方に指導をいただく幸運に恵まれました。

法政大学での稽古は十時～十二時まで一・二年生を指導。三時～五時は全員による稽古、夜は二部学生の剣道学科の助手として、一日六～七時間道場に立っていたこともありました。又、稽古が終わると私と鐙(あぶみ)君は丸山部長に連れられて、後楽園ジムの都連の稽古会に行き、先生方に鍛えていただきました。

大学二年生の時、新人戦に大将として出場しましたが、調子が悪く、優勝候補であったにもかかわらず、早々と負けてしまいました。神田国民体育館（試合場）の片隅で沈んでいる処へ、当時、日本一の剣士と言われた東京教育大学の中野八十二先生がお見えになり私に声をかけてくださいました。「君は今勝てないね。今のように自分流の一本調子でやっていては勝てなくなる。負けないようにするには、相手をタイプ別に仕分けること、そして、それぞれに戦略と具体的な戦術（技）を考え稽古する。それが準備である。引き出し（タイプ別に対応できる）を沢山作っておけば、負けは少なくなる。」と教えていただきました。考えてみると、他大学の学生にそんな大事な極意を教える人はいないでしょう。中野先生の心の大きさとご厚意に助けられたことに大変感謝しております。そのことが、その後の私の剣道の大きな指針となりました。又、大学卒業間際、済寧館で、警視庁主席師範の中島五郎蔵先生に「三本勝負をしよう」と仰っていただいたことも、今では考えられないことで、心に強く残っています。この経験も素晴らしい宝物として心に大切にしまっております。

三十七歳で法政大学体育会剣道部師範、四十二歳で監督を命ぜられましたが、仕事と剣道の両立は難しく充分なことは何も出来ず、申し訳なかったと思っております。東西対抗には四回出場させていただきました。岐阜大会で松原輝幸先輩と共に優秀選手に選ばれましたが、これが松原先輩とご一緒させていただいた最後になってしまいました。

剣道は温故知新、不易流行と言ったことも必要だと思いますが、勇気をもって新しいことを取り入れていくべき時だと思います。剣道界も会員が主役で進化していくことを望みます。

最後に日本を代表する文化遺産剣道が、世界平和のために貢献することを思い願っております。

剣道歴

インターハイ団体ベスト八　二回　優秀選手賞　二回受賞
国民体育大会団体高校の部　第三位
関東大学剣道大会団体　優勝　昭和三十五年　四年生時
関東大学剣道大会個人　準優勝　昭和三十五年　四年生時
全日本学生剣道優勝大会個人　ベスト八　昭和三十四年　三年生時
全日本都道府県対抗剣道優勝大会　埼玉県から五回出場

全日本東西対抗剣道大会　四回出場
明治百年記念剣道大会出場
法政大学体育会剣道部　師範　監督　歴任
法政大学体育会剣道部創部百年記念特別功労賞　受賞

以上

徳島県剣道連盟のご発展と会員皆様のご多幸をお祈り申し上げます。

「剣道一言録」

心構え

一　称号や段位にこだわらず　帝王の剣を求めよ
一　剣道修行の敵は己に有り　己の剣は己で測れ　他人にまかすな　平素が最も大切
一　試合に勝ちたければ稽古せよ　それ以外に方法は無い
一　心一流なれば技も一流になる
一　剣道は人の道　徳を積め
一　一道は万芸に通ず
一　閃(ひらめ)きを沢山もらう為に礼をする

技術

一　一瞬の閃(ひらめ)きが宝
一　技は気剣体一致しないと決まらない
一　剣先は相手の中心に　気は三六〇度　技は千変万化
一　立派に打たれる事も大事
一　残心は次の動作の心構え
一　残心の無い打突は気の抜けたビール
一　卒爾(そつじ)に動くな　表裏を尽くして起こりを打て
一　ハッとしたら負け　ハッとさせろ
一　練り上げた構えには吸い込まれる様な気がする
竹刀を持って行かれる様な気がする
己の構えをよく見るべし
一　竹刀は手で持つな、臍で持て
一　力を入れたければ臍下三寸の所にせよ(臍下丹田)
一　技は子供が上手である　切り落としの稽古で子供達に面を打ってもらい、それを切り落とす練習をさせてもらえ　感謝
一　弧を描いて弦で打て

指導・師・剣友

一　道場は真心と思いやりの発揮場所
一　子供に技を教えるには○ツがつくうちに教える事（九ツまで）
一　剣道はよく説明し　よく見本を示して見せ　やらせてみる
できたら褒めてやる　少年も大人も指導は同じ
一　師は一生を掛けて探せ
一　交剣知剣　剣徳護国
一　剣朋自遠方来亦楽乎
一　ひとたび剣を交えれば生涯の友(高野佐三郎)
一　剣道ができる有り難さを考えよ
家庭の理解　自らの健康　良い師・仲間

試合・勝負

一　勝負は対峙する前から始まっている

一　審判の判定に従うのが剣道　絶対である故に審判の責任は重い

一　審判を味方にするような剣道をする　審判も心の中で試合をしている

一　試合者の攻めが審判の攻めと一致すれば旗は上がる

一　試合に負けて言い訳する選手になるな

一　稽古の蓄積無くして、試合をするな

一　まぐれ勝ちは有れど、まぐれで負ける事は無

平成三十年度　顕彰一覧

剣道有功賞（全日本剣道連盟）「平成三十年十一月五日決定」

○ **中　尾　正　輝**（徳島県剣道連盟審議員）

警察官として奉職し、警察の全国大会や国体等に選手、監督として多数出場したほか、徳島県警察剣道上席師範を務め警察剣道の奨励発展に大きく寄与した。また、徳島県剣道連盟においても常任理事を経て審議員を務め徳島県剣道連盟の発展に大きく貢献した。

少年剣道教育奨励賞（全日本剣道連盟）

○ **半田剣道教室**（指導者代表　大川　功）

昭和五十二年四月に創設され四十一年間にわたり青少年の剣道育成に尽力してきた。県西部山間部に位置し過疎地のため子供の少ない中で、地道に地域とともに剣道教室を運営してきた。その活動は県西部の同じ現状を抱える剣道教室の模範ともなっており、その努力に敬意を表するものである。

○ **那賀川剣道教室わかあゆ会**（指導者代表　山田耕司）

平成八年に剣道の最も盛んな県南部で創設され、二十二年間にわたり青少年の剣道育成に尽力してきた。会員数は県下で最も多く、毎年県下のトップクラスの選手を育成し、少年剣道の基盤の強化に大きく寄与している。また合同稽古会を開催するなど地域との交流も重視し、その活動は県南部の中核として他の教室の模範となっている。

体育功労者表彰（徳島県体育協会）「平成三十一年二月十一日表彰」

○ **熊　澤　信　行**（徳島県剣道連盟事務局次長）

徳島県剣道連盟理事及び常任理事を十二年間務め、徳島県における剣道の普及発展に大きく貢献した。

○ **福　多　雅　英**（徳島県剣道連盟理事、高体連専門部長）

徳島県剣道連盟の理事のほか高体連の役員を十八年間務め、剣道部指導者として三十六年間継続して指導に当たり、徳島県の剣道の普及発展に大きく貢献した。

スポーツ特別優秀者表彰（徳島県体育協会）

○ **第四十回全国スポーツ少年団剣道交流大会**

☆ 女子個人の部 第三位入賞

岩　原　千　佳（徳島中学校）

○ **第六十六回全日本都道府県対抗剣道優勝大会**

☆ 第五位（ベスト八）入賞

片　岡　俊　人（徳島文理高等学校）
松　本　高　史（明治大学）
玉　井　　翔（徳島刑務所刑務官）
大　石　洋　史（徳島文理中学校教員）
平　野　将　司（徳島県警察本部機動隊）
敦　賀　晋　平（日本郵便株式会社）
玉　田　晋　作（徳島文理高等学校教員）

剣道有功賞

警察剣道等と歩んだ五十年

徳島支部　中尾正輝

受賞の知らせ

平成三十年十一月三日（文化の日）、徳島県剣道連盟三木毅会長から、「全剣連から剣道有功賞に決まった。」とのご連絡を受けました。

お礼

剣道有功賞の候補者としてご推薦頂きました、三木会長はじめ表彰委員の先生方そしてご指導頂きました諸先生方に心から深謝いたします。

剣道歴

【本県警察剣道特別訓練生としての時代】

私が、本格的に剣道を始めたのは、昭和三十七年四月、本県警察官を拝命してからです。警察学校を卒業して、特練生に指定され二十年間、四国管区内警察剣道大会、全国警察剣道大会、全日本剣道選手権大会、国民体育大会等に出場、また、監督として務めてまいりました。今、この頃の出来事が脳裡を過ぎ去って行きます。

【警察官の指導者としての時代】

現役引退後、本県警察の術科指導官として警察官の術科、主として剣道の指導に専念しました。

この間、四国管区内警察剣道大会優勝・全国警察剣道大会（三部）優勝など指導者として満足の七年間でした。

【警察学校生徒に対する指導時代】

警察を退職後、本県警察学校非常勤として十一年間、学生（初任科生）に対して剣道の指導に当たりました。

教え子の皆が剣道を通じて培った根性・気力で県民の為に努力している姿を観て、指導者として非常に嬉しい限りです。

【県剣道連盟の役員歴】

常任理事十年　審議委員二十二年

今後の決意

受賞に際して、全国各地の剣友諸兄等からお慶びの言葉を頂き感激しております。

今、剣道修行に明け暮れた日々が、走馬灯のようにあわただしく脳裏を駆け巡って行きます。今後も全剣連張会長のお言葉である「現在の日本は、国の内外ともに問題を抱え、前途不透明な時期に直面している。この時代であればこそ、気力をもって剣道の

普及と発展、さらに剣道界の活性化に取り組み、これらを通じて日本社会の進展を図ることが責務であると確信する。」と述べられています。私は、この言葉を肝に銘じ、受賞を機に更に気持ちを改めて精進したいと決意をしております。どうか今後共よろしくご指導ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

少年剣道教育奨励賞

少年剣道教育奨励賞を受賞して

半田剣道教室　大川　功

この度、半田剣道教室が全日本剣道連盟より「少年剣道教育奨励賞」を受賞する事につきましては、徳島県剣道連盟のご推薦と関係者各位のご協力があったものと指導者・関係者一同、感謝致しますとともに喜んでいます。

半田剣道教室は（故）大川一先生が昭和五十二年に小野公民館で数名の子供達と一緒に稽古を始めたのが当教室の開設と聞いています。その後、町や教育委員会の協力を得て「半田町少年剣道教室」と称し活動、スポーツ少年団にも加入、一時期には四十有余名の子供たちが集う剣道教室として旧美馬郡内の剣道教室（当時は郡内に七教室）と協力・協調しながら稽古の交流・試合を通じて子供たちが健やかに技や精神を鍛えつつ成長してきました。

当教室に通う子供たちは、「剣道理念」に基づき、友達を大事にするとともに礼儀作法を重んじ「継続は力なり」と基本に正しく稽古に励んでいます。

教室名につきましては、現在の「半田剣道教室」は平成の大合併により半田町・貞光町・一宇村が合併され町名変更により教室名も変更し現在に至っています。

稽古場も、小野公民館・日浦小学校体育館と場所を変えてまいりましたが現在は、つるぎ町スポーツセンター二階の剣道場で継続して稽古に励んでおります。

当教室の歴史を振り返って見ますと、日浦小体育館での活動中には他道場との交流合宿稽古、鳴門教育大学剣道部の皆さんの合宿稽古に参加させて頂き各先生方の指導・稽古生同士を交えての稽古会等々の楽しかった思い出がよみがえってきます。

そんな中でも平成十年頃には教室生が減り続け一時期には教室の閉鎖も考えたことがありました。しかし、現在の指導者の皆さんと共に稽古を続けるうちに少しずつ教室生も増え始め、スポーツセンターに稽古場を移した時には十数名の豆剣士が入部していました。

現在は幼・小学生が十八名、中学生四名・一般四名・指導者六名の体制で狭いながらも和気あいあいと稽古に励んでいます。

これからも徳島県剣道連盟及び美馬支部支部員の諸先生方のご指導とご協力を頂きながら教室運営に取り組んでまいります。

簡単ではございますがお礼の言葉に代えさせて頂きます。

篠原
松浦
藤田
坂本
田
藤永
武徳薫千載

わかあゆ会と共に！

那賀川剣道教室　わかあゆ会　山田耕司

この度奨励賞を頂き誠に有難う御座います。心より感謝の気持ちで一杯です。早いもので今年で二十四年目に入りました。「歳月は人を待たず」とは言いますが本当に早い歳月でありました。気付けば私ももう五十三歳になりました。少年剣道に対しては感謝の気持ちで一杯です。私自身子供を通じて色んな事を学ばせて頂きました。阿南支部の先生方始め徳島県剣道連盟の先生方には日頃より気に掛けて頂き本当に有難う御座います。

私が少年剣道に出会ったきっかけはまだ自分の子供が幼い頃近所の人に「私の子供に剣道を教えてもらえませんか」と頼まれたのが始まりです。その時私は一身上の都合により大阪府警を退職し、徳島に帰って来たばかりでした。男が志し半ばにし、人生を迷走している時期でもありました。剣道に対して何の目標もなく、また仕事に対しても不安な日々でありました。大阪府警を退職する際にお世話になった先生より「山田、剣道は続けなあかんぞ」と言われた事を思い出し、よし少年剣道に真剣に取り組んでみようと言う気持ちになりました。

最初は三人からスタート致しました。わからない事ばかりで日々苦労の連続でした。特に指導者と保護者そして子供の三つの関係です。少年剣道は三者が上手くいかないと成り立ちません、怒らず、焦らず、のんびりとやろうと思いました。しかし、試合には勝ちたい、でも勝てないそんな時期が何年もありました。チームとしてメンバーが揃い、試合に勝てる様になるまでに十年は掛かりました。

わかあゆ会の部旗の文字は［和］です。皆な仲良くそして楽しくがモットーであります。私が少年剣道で気付かされた事は勝つ事ばかりを意識してやればダメだと言う事です。まず剣道が楽しいのが一番です。保護者とも仲良くそして子供達とは楽しくやり、子供達が剣道を続けてくれる事です。現在に至っては四十人近くの部員になり週三回頑張って稽古しております。ＯＢ・ＯＧ達も皆な立派に育ちインターハイ・高校選抜・国体・全日本女子・全日本学生・全中に出場する先輩を輩出する様になりました。これも一重に私の周りで支えて下さりサポートして頂いた蘆田先生、谷口先生、倉橋先生、そして何より感謝の気持ちが尽きないのは子供達と保護者の方々のお陰です。今の私があるのは少年剣道のお陰げです。これからも謙虚な心と感謝の気持ちを忘れずに少年剣道に取り組む様に心掛けております。

最後に「実るほど頭を垂れる稲穂かな」この言葉の意味が五十を過ぎて分かりました。素晴らしい人と出会い人間は周りの皆んなに支えられているんだとの思いより一層謙虚に感謝の気持ちを持って少年剣道に打ち込んでいく決意です。そして次の世代に受

け継いでいきます。

全国都道府県対抗

第六十六回全日本都道府県対抗優勝剣道大会報告

徳島支部　玉田晋作

平成二十九年度四月二十九日、エディオンアリーナ大阪で行われた「第六十六回全日本都道府県対抗優勝剣道大会」においてベスト八に進出しました。また、中堅で出場した大石選手が優秀選手賞を受賞しました。徳島県がベスト八まで進出したのは初めてのことらしく、その一員でいられたことを大変光栄に思います。ここまでご指導いただいた剣道連盟の先生方に、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

○選手構成

先鋒（高校生）　片岡俊人（徳島文理高校）
次鋒（大学生）　松本高史（明治大学）
五将（18歳以上35歳未満）　玉井　翔（徳島刑務所）
中堅（教職員）　大石洋史（徳島文理中学校教員）
三将（警察職員）　平野将司（徳島県警）
副将（35歳以上）　敦賀晋平（郵便局）
大将（50歳以上教士七段以上）　玉田晋作（徳島文理高校教員）

○試合結果

2回戦

県　名	先鋒	次鋒	五将	中堅	三将	副将	大将
徳	片岡	松本	玉井	大石	平野	敦賀	玉田
島	コド		ドメ	コメ	ココ	ココ	コ
長							
野	北澤	宮本	緒方	岩崎	森角	野溝	榛葉

3回戦

県　名	先鋒	次鋒	五将	中堅	三将	副将	大将
徳	片岡	松本	玉井	大石	平野	敦賀	玉田
島	コド	コ		ド			メ
滋	コ		メ	コ	メ		
賀	山下	八木	三雲	對馬	南部	増田	渡邉

準々決勝

県　名	先鋒	次鋒	五将	中堅	三将	副将	大将
徳	片岡	松本	玉井	大石	平野	敦賀	玉田
島	ド			ド	ド		メ
茨	メメ	メメ	メ	コ	コ	メコ	メ
城	岩部	中根	山下	鈴木	海老原	矢口	山下

初戦となる二回戦は長野県との対戦でした。長野県は一回戦で優勝候補の埼玉県に逆転勝ちをしてきました。埼玉県との一戦を予想していただけに、その勢いは注意しなければと思い対戦しましたが、終わってみれば六－〇、取得本数も十一本という完勝でした。

続く三回戦は、滋賀県との対戦。滋賀県は一回戦で九州の強豪佐賀県を、二回戦で前年の国体を制した岩手県を、それぞれ接戦をものにして勝ち上がってきました。先鋒、次鋒と徳島が勝ち、有利な展開と思われましたが、滋賀県の粘りも素晴らしく、二－二、本数も同数の大将戦になりました。大将を経験するのは高校生のとき以来で、少し緊張しましたが、「引き分けで代表戦になってもいい。」というくらいの落ち着いた気持ちで試合ができました。試合時間終了間際に勝負をかけ、「面」を一本取りそのまま一本勝ちを収めました。

準々決勝は、茨城県との対戦になりました。二〇一九年に国体を控え強化も十分で、先鋒、次鋒に全国大会で活躍する選手を擁し、初戦から危なげなく勝ち上がってきていました。先鋒の片岡が一本先取し健闘しましたが、その後逆転され、その流れを止めることができず、終わってみれば四－〇のスコアで敗れました。

今回の大会を振り返ってみると、初戦の長野県との一戦では徳島県の攻撃力が十分発揮されました。次の滋賀県との一戦では、接戦をものにできる勝負強さも発揮できたと思います。しかし、全国のトップクラスの都道府県を倒すには全体的にもう少し地力が必要ということでしょう。この大会は各都道府県の総合力が試される大会です。県をあげて少年から大人までそれぞれの年代で、また、警察・教員・実業団等々のそれぞれの職域でお互いに切磋琢磨し、各層が活性化されれば、今大会以上の成績を残すことに繋がることになるのではないでしょうか。微力ではありますがそのお手伝いができるよう精進したいと思います。

全国スポーツ少年団大会

第四十回全国スポーツ少年団剣道交流大会に参加して

小松島少剣クラブ　岩原千佳

私は、平成三十年三月二十五日～二十七日までの三日間、東京武道館で開催された第四十回全国スポーツ少年団剣道交流大会に参加しました。私は、この大会には小学生の団体戦に二回出場したことはありましたが、中学生の個人戦は初めての出場でした。少し不安もありましたが、兄も一緒に出場することになったので、私にとって心強い存在でした。また、「兄妹で予選リーグを突破！」と全国大会での目標を設定し、練習に取り組むことになりました。

この大会に出場することが決まってから、毎日の部活動での練習に加え、小松島少剣クラブでの練習、県外の遠征などをおこない大会に向けて備えました。

大会初日は、開会式やレリエーションなどがあり、リラックスした雰囲気の中で始まりました。女子選手のほとんどは、二年生以上の人が多かったのですが、みんな気さくに声をかけていただき、四国をはじめ多くの人と友達になることができました。

大会二日目、いよいよ試合が始まりました。予選リーグ一試合目は、大阪の橘選手と対戦しました。私は女子の初戦だったので、少し緊張していましたが、序盤にメンを先取すると、その後はリラックスして臨め、終盤メンを決め二本勝ちを収めることができました。二試合目は、北海道の岡選手と対戦しました。最後まで自分のペースで試合をし、二本勝ちを収め、予選リーグを勝ち抜くことができました。ただ、兄は惜しくも予選リーグ突破とならず兄妹で掲げた目標は達成できませんでしたが、兄の分も明日は頑張ろうと思いました。

大会三日目、アップをしているときに、いつもより体が軽いと感じるくらい体調も良く、適度な緊張感を持って試合にのぞむことができました。決勝トーナメント一回戦は、神奈川県の勝目選手でした。序盤でメンを先取するも、中盤で旗が二対一に割れる微妙な判定でメンを取り返され、勝負となりました。今大会で初めて一本取られたのですが、焦ることなく落ち着いて試合が運べ、最後は引きメンで勝つことができました。準々決勝は、茨城県の三輪選手と対戦し、両者決め手がないまま延長に入り、相手の打ち終わりを引きドウがうまく決まり勝利することができました。いよいよ準決勝となり、相手は高知県の中原選手でした。今大会の一週間前に練習試合をとおして知っていた選手だったので少しやりにくさを感じていました。試合は中盤に面返しドウを先取され、その後取り返しにいきましたが、時間となり一本負けでした。

試合終了後、二人の兄や両親に「惜しかったな」と声をかけられましたが、最後は自分の得意なメンで勝負できたので悔いはありませんでした。

私はこの大会に向けて練習し、全国三位という当初の目標以上の結果を残すことができました。しかし来年は、もっと上を目指せるようこれからも練習し、頑張りたいと思います。今までご指導いただいた徳島中学校兼松佳史先生、小松島少剣クラブ青木博志先生はじめ諸先生方、大変お世話になりました。また応援いただいた小松島少剣クラブ長池文武会長はじめ、部員のみなさん、ありがとうございました。

試合結果（女子個人）

予選リーグ

岩原千佳（徳島）メメ　―　橘　慶（大阪）

岩原千佳（徳島）メメ　―　岡　颯希（北海道）

決勝トーナメント

1回戦

岩原千佳（徳島）メメ　―　メ　勝目好羽（神奈川）

準々決勝

岩原千佳（徳島）ド　―　三輪絢子（茨城）

準決勝

岩原千佳（徳島）　―　ド　中原菜月（高知）

全国郵政大会

第六十回記念 全国郵政武道大会における 永年功労賞を受賞して

名西支部　久保隆司

平成三十年九月二十二日、仙台市青葉武道館において第六十回記念全国郵政武道大会が開催されました。昭和三十四年に東北郵政局主管で第一回大会が仙台市で開催されていますので、六十回目の大会が奇しくもまた、仙台で行われたことになります。郵政事業も逓信省から郵政省・郵政事業庁・郵政公社さらにJP日本郵政グループと激動の中で六十年という時を重ねて参りました。

大会前日のレセプションにおいて、永年功労賞の授賞式がありました。これまで郵政武道大会を支えてこられた会長・役員経験者十名と各支社から一名の表彰であり、その中に私も選ばれておりました。また、大会当日には全国郵政武道大会の東西対抗模範試合で西軍の副将として試合をさせていただきました。身に余る栄誉であります。

私は昭和五十年四月に郵政省に入省しました。四十四年間で十三回転勤し、徳島県内の十局で勤務しました。その間、中学校・高等学校の剣道部活指導をはじめ、神山錬成会を十七年間、徳島清風館道場を二十四年間（現在も継続中）指導しております。さらに、私自身の剣道修行として、全国青年大会に名西支部連合会の大将として出場し、また、全日本都道府県対抗優勝大会にも徳島県代表の副将および大将としての経験を得ました。その後、平成二十三年に開催された第五十三回全国郵政武道徳島大会では実行委員長を務めさせていただきました。この全国郵政武道徳島大会開催が永年功労賞選考の大きな要因となっているのではないかと推察しております。

この栄えある永年功労賞をいただけたのも徳島県剣道連盟の先生方と剣友の皆様からの御指導と御支援、職場の上司・同僚、多くの弟子たちそして家族のご協力のお陰であり、心から感謝申し上げます。

この度の受賞を機に、これからも生涯剣道を目指し、努力して稽古時間を作り、徳島県内はもとより県外にも稽古・大会に出かけ、積極的に剣道修行に精進して参ります。今後とも御指導・御支援を賜りますようよろしくお願いします。

功労賞

久保 隆司殿

貴殿は郵政事業の職務に精励される傍ら全国郵政武道会の発展に寄与されました

その功労は誠に顕著でありますので全国郵政武道大会が第六十回の記念大会を迎えるにあたり表彰します

平成三十年 九月二十二日

全国郵政 武道会
会長 宮崎 良治

平成30年度　徳島県中学校剣道優秀選手

No.	男子	学校名
1	田上　力	那賀川
2	後藤浩也	那賀川
3	立石龍之介	那賀川
4	二宮嵩将	那賀川
5	小山田亮太	那賀川
6	永濵幹大	北島
7	四宮翔太	北島
8	谷口　航	北島
9	松本尊灯	徳島
10	篠原充輝	徳島
11	米田賢司	相生
12	殿谷　誠	相生
13	儀宝真弥	相生
14	佐藤廉之助	城東
15	髙岡大暉	城東
16	島口　拓	石井
17	勝間春輝	石井
18	武知樹生	鳴教大附属
19	古川真一	徳島文理
20	松田宙大	小松島
21	湯浅和眞	八万

No.	女子	学校名
1	河野菜々子	那賀川
2	岡﨑　理	那賀川
3	岩本楓華	那賀川
4	山田莉子	那賀川
5	松葉佳香	那賀川
6	倉橋美妃	那賀川
7	藤原真結	那賀川
8	福本彩乃	那賀川
9	吉田菜々穂	徳島
10	冨永春乃	徳島
11	野崎まひろ	江原
12	藤川奈々	江原
13	一楽萌衣	徳島文理
14	大森瑞葉	徳島文理
15	山室愛子	石井
16	谷　仁音	石井
17	塚田志緒	鳴教大附属
18	前山帆香	相生
19	明口湖雪	北島
20	柳田　藍	鳴門第一

平成30年度　徳島県高等学校剣道優秀選手

No.	男　　子	学校名
1	岩本隆紀	富岡西
2	服部真佑	富岡西
3	中村健人	富岡西
4	青井涼介	徳島科技
5	島田　凌	徳島科技
6	井内駿也	徳島科技
7	工藤颯馬	徳島科技
8	坂野修造	鳴門渦潮
9	前田龍志	鳴門渦潮
10	山下　隼	鳴門渦潮
11	吉本嵐丸	鳴門渦潮
12	冨田孔明	城北
13	矢野　郁	城北
14	鎌田樹季	城北
15	佐藤一磨	城北
16	森本直希	城北
17	太田健士郎	城北
18	安部　匠	徳島文理
19	富永康生	阿南工業
20	今本侑希	阿南工業
21	吉岡卓真	阿南工業
22	植田涼矢	城ノ内

No.	女　　子	学校名
1	松下愛実	川島
2	岩崎妙香	川島
3	出原柚季	川島
4	藤岡真奈	川島
5	吉岡未歩	川島
6	相原菜津美	富岡西
7	大山詩織	富岡西
8	川田実央	富岡西
9	儀宝彩乃	富岡西
10	橋本こころ	富岡西
11	井内菜々	城ノ内
12	大城明裕奈	富岡東
13	明口なぎさ	富岡東
14	堀出　瞳	富岡東
15	堺　麗美	富岡東
16	新見晃子	富岡東
17	一宮琴音	城北
18	古川こまき	城北
19	松葉そら	徳島文理
20	西渕　光	徳島文理

先生を偲ぶ

野口直之先生を偲んで

居合道部　坂本憲一

阿波居合道伝習会の母体となったのは、昭和五十六年に市場町内の有志によって始めた阿波居合道同好会である。

当時の会員は六名、師範として招聘したのが父の知人であった居合道教士七段の野口直之先生であった。

当時の野口先生の段位は五段。先生の修業歴に比しては随分と低い段位である。当然、指導者が段位が低いということで若干の波風がたった。当時、隣町の脇町には滝下勝先生の春風館道場、対岸の鴨島町には平尾勝美先生の徹心館道場があり、市場町からも数人がそれぞれの道場に通っており、阿波居合道同好会の設立が、二つの道場の狭間に割り込む形となってしまったからである。ともあれ、当地への野口師範の招聘についてはその当時の三木只雄会長・下村富夫居合道部長の推薦を頂くこととなり、これを機会に会名も阿波居合道伝習会と改称、新たな会員も加わり一年後の昭和五十七年四月、会員数十三名で正式に発足することとなった。

野口先生は指導する傍ら自己の居合道歴を良く話してくれた。

居合道を始めたのは旧制の麻植中学校時代、居合道の師匠は石井隆介先生。石井隆介先生は父の剣道の師匠でもあった。当時の居合道は剣道家の余技として行われており、今のような段位制度もなかった時代のことである。

野口先生は「私の居合道は石井先生の御蔭」とよく言われていた。先生が居合道を習うきっかけは、剣道部に籍を置きながら乞われるままに水泳部の代表選手として県下大会に出場した時のことだった。この時図らずも優勝の栄に輝いてしまった。これが剣道部の師匠である石井先生の勘気にふれた。以後、「水泳部への移籍は許すが居合道は続けよ」と厳命され、剣道部の練習が終わった道場で、石井先生から厳しい手ほどきを受けたのだそうだ。まさに恩師の愛の鞭というべきか。

古流においては、先賢が遺された古文献をよく研究されていた。内容は、第十七代宗家大江正路先生の口伝を穂岐山波雄先生が書き遺されたものに始まり、流派にかかわらず居合道修業に必要な心掛けや技法については、宮本武蔵の五輪書や幕府講武所指南の窪田清音が遺したものから引用し、それを判り易く解説、時には自説を加えた解説書を作り私に手渡してくれた。

先生の持論は、「居合は、足行き・腰行き・刀行き」である。この基本動作を会得しない限り、真の気剣体一致はあり得ないとよく言われた。振り返れば、初心のときはこれを言葉通りに実践した。動きはまさに操り人形そのものだった。修業を重ねるにしたがって人形然とした動きはなくなり、後ろ足の踏ん張りが利く

ようになった。八段を頂いた今、この先生の持論に対する思いは益々深くなるばかりである。

八段を頂き報告に上がったとき、先生は「まだまだ元気で足腰も丈夫だ」と、片足で立ち上がり靴下を履いて見せてくれた。そして、居合道の書物や自分が書き残したものを頂いた。今では私の宝物の一つとなっている。

先生は、平成三十年六月五日、享年百二歳で身罷られた。旅立ちの名は「悠遼院威剣直心居士」、頑固で侍だった先生のお人柄を彷彿とさせてくれる戒名である。先生、原士の末裔の話は聞き残しています。何時の日かゆっくり聞かせて下さい。

ありし日の野口先生

演武する野口先生

野口直之先生を悼む

中村稔裕

戦後、徳島刑務所剣道部の選手・監督として又、高松矯正管区の剣道審判員として永年活躍された野口直之先生が、平成三十年六月五日、一〇二年の人生を一期とし亡くなられた。心から御冥福をお祈り致します。

先生は大正六年六月三日に名西郡浦庄村上浦で生まれ、村でも評判の学業・運動に優れた少年でした。旧麻植中学校に進学後もますます力を発揮され、学業（特に英語が得意だった）はもとより、水泳二〇〇メートル自由形で徳島県中学校新記録を残されております。卒業後は軍隊に入りましたが、選抜され憲兵隊に配属、憲兵隊総司令部で活躍されておりました。憲兵は国民からも恐れられていましたが、武道訓練はとてつもなく厳しかったと伺っております。中国大陸からフィリピンへ転戦され、フィリピンで終戦を迎え捕虜として収容所生活を余儀なくされることになりました。軍事裁判において、憲兵は死刑と言われる程憲兵には厳しい判決が多かったことから、先生も死刑を覚悟していたそうです。裁判において通訳を介することなく自ら英語で対応し、イギリス軍将官が驚いたそうです。又、こんな笑い話もあったとか、連合軍の取調べをうけていた際、どうせ死刑になるのだから一つやってやれと大声で

〝はー　佐渡〜え、佐渡え〜と〜　草木もなび〜くよ〜〟

と、佐渡おけさを一曲歌ったところ、連合軍将兵がびっくりし、注意するどころか室内大爆笑となり拍手まで起ったそうです。これがもとで日本兵に野口という面白い奴がいると評判になったそうです。裁判の結果死刑にならず禁錮刑になり、刑を終えて無事復員することになった。しかし、先生は憲兵という立場から亡くなるまで戦争の事はあまり語ろうとしませんでした。ただ大切にしていた写真が一枚ありました。軍刀を腰に吊り左腕に憲兵の腕章をし、まっすぐ前を向いた憲兵曹長の馬上の姿でありました。この一枚だけが軍人としての姿を私に見せて頂いたものです。

さて、私と先生の出合いは昭和三十三年、私が名西高等学校の一年生の時剣道部の一員として先生から稽古をつけて頂きました。これが先生との連りの一歩です。先生の御自宅が名西高校の校庭のすぐ隣にあったことから、外部の先生方数名と週三回は稽古に来て下さり生徒達を鍛えてくれました。先生は左諸手上段をとり「はっー」と一つフェイントを入れてから撃ち落す特徴がありました。

私は、高校卒業後の九年間剣道から離れておりましたが、昭和四十五年四月刑務官を拝命し、再び先生の御指導を頂くことになりました。「そら、そらー。」と声を掛けられ上段から打ち込んでくる剣風は年齢を感じさせませんでした。ところが大事故が起り

ました。若手と稽古中に後方へ転倒し、頚椎を損傷するという大怪我をされ、職場には復帰したものの、二度と面をつけることが出来なくなりました。五十歳前半にして剣道部を引退し、かねてより練習をしていた居合道（夢想直伝英信流）に精進することになりました。剣道場の大鏡の前で一人黙々と刀を抜かれていた姿が昨日の事のように思い出されます。

退職後数ヶ月に一度先生宅にお伺いすると夫人と共に笑顔で迎えて下さり、よもやま話に花を咲かせました。

先生百歳の時、脳梗塞で倒れられ以後入院生活となりました。闘病二年ロウソクの火が消えるが如く私の呼び掛けに段々反応しなくなりすやすやと眠ったまま息を引き取られました。私生活でも、職場でも大変御世話になりました。何か大きな穴がぽっかり開いたような気がして止みません。

先生、ありがとう御座居ました。安らかにおやすみ下さい。

合掌

菱田晋先生を偲ぶ

鳴門少年剣道教室　元木　武

菱田先生は、大正十五年（一九二六）一月九日、鳴門市瀬戸町の浜屋（塩業家）に生まれておられます。撫養商業を卒業後は家業の塩業に従事されておられましたが、近代化に伴い鳴門塩業に入社し、その後、創立間もない鳴門運動公園事務所に転職、定年を迎えておられます。

剣道との出会いは撫養商業でありましたが、終戦後の武道禁止令のため中断されておられます。剣道再開は、息子さんが興味を示され、堤茂先生（故人）と三人で稽古をするようになってからだそうです。

鳴門運動公園少年剣道教室（現・鳴門少年剣道教室）では創立時より事務方として尽力されています。剣道連盟の初段以下の部中央審査で世話役をしていた事からも窺えるが、口数の少ない温厚な性格で、前面に出ることなく歴代支部長のもと、まさに縁の下の力持ちでありました。得意とする技は、長身からの外連味（けれんみ）のない面であり、県ならびに全国の高齢者大会でご活躍されました。剣道錬士五段を取得されています。

また、菱田先生は剣道以外でもいろいろな事に興味を持たれていました。二十歳から始めた尺八は「空山」の号（名取）を持ち、最高称号である「竹琳軒」も取得されておられます。陸上においても、各種大会で補助員・審判等で活躍しています。

私と菱田先生との一番の思い出は、私が入社三年後に鳴門陸上競技場（現：ポカリスエットスタジアム）で行われた社内運動会一五〇〇ｍの部に出場していた時でした。「元木、頑張れ後半周じゃ」トラック内から私に声を掛けてくれていたのは菱田晋先生でした。応援が幸いし徒競走で生まれて初めて二位でゴール、高価な副賞を頂くと同時に先生の優しさが深く記憶に残っています。

平成十年頃、佐藤勇先生（故人）の勧誘で剣道教室にかようようになり再会しました。交剣を通じ教えていただいたのは、外連味のない面であり、「揺るぎない信念」を持つことでした。自宅に訪問した際には、凛とした奥様と二人で褒め上手となり気分転換させていただいた事を思い出します。

晩年は高血圧、肝臓病を患い入退院を幾度となく来り返さていましたが、昨年十月十一日、九十二歳で逝去されました。

今頃、気の許せない剣友に尺八で空山の音色をご披露していることでしょう。

在りし日のお姿を偲びつつ、ご冥福をお祈りいたします。

鳴門運動公園少年剣道教室（現・鳴門少年剣道教室）を支えていただいた先生方（右端が菱田先生）

表彰状

継統開軒六十五年
竹琳軒
菱田空山殿

貴下は永年に亘り都山流
尺八師匠としてよくその業を
励み流の発展に多大の貢
献をせられその功績まこと
に顕著であります
依ってここに之を表彰します

平成二十九年二月十五日
都山流宗家
四代 中尾都山

N.R.R.

委嘱状

徳島陸上競技協会
菱田晋殿

貴殿は多年にわたり陸上競
技運営に尽されました
こゝに終身第一種公認審判
員を委嘱し、その功績を称
えます

昭和57年4月1日

財団法人日本陸上競技連盟
会長 青木半治

全国講習会報告

剣道中央講習会に参加して

徳島支部　佐藤佳宏

平成三十年度（第五十三回）剣道中央講習会（西日本）が平成三十年三月三十一日～四月一日の二日間、神戸市立中央体育館で開催され、本県から、生田浩章先生と私の二名が出席させていただきました。

役員として、張富士夫全剣連会長、福本修二副会長、奥島快男副会長、講師として太田忠徳範士、藤原崇郎範士、小坂達明範士という錚錚たる先生方のもと西日本から十九府県、受講者四十一名の出席により講習が行われました。

講習会の内容の要点については次のとおりです。

1　日本剣道形　太田講師

高野左三郎先生著「剣道」の中で「斯道の練習法に三様あり、第一・形の練習、第二・試合、第三・打ち込み稽古是れなり」とあるように、剣道修行のためには形の稽古が非常に重要であり、剣道形を学ぶことで剣道の「かたち」だけでなく、理合、間合、呼吸等剣道に関する全てのことが学べる。

木刀は日本刀という考え方で、立ち会いの所作及び刀の取り扱いを適切に行う。

打太刀（師の位）と仕太刀（弟子の位）の関係を理解し、打太刀が仕太刀を引き出すよう先に動くが、あまり仕太刀が遅れすぎると間が抜けてしまうため合気になることが大切。

腹式呼吸とし、構えるときに吸気し、前進するときは丹田に気迫を込め、打突時、発生と同時に一気に気を吐き出す。そうすることにより気迫のこもった形となる。

太刀七本目の胴の打ち方には二通りの方法がある。①右足を出しながら振りかぶり、左足を出しながら胴を打つ二拍子での打ち方と、②振りかぶらずに右足を少し開き、左足を出すと同時に胴を打つ一拍子での打ち方がある。これは、修練者の練度に応じて使い分けて指導する必要がある。

剣道形における足捌きはすべてすり足で行い、打突時に踏み込みの音を立てないようにする。

座り方、立ち方は左座右起の礼法に従い、踵の上に尻を置いてから立ち、また座るという跪居の姿勢をとる。

2　審判法　藤原講師

平成七年に大幅に変わって以降大きな改正はないが、「審判が良くなれば試合が良くなる。試合が良くなれば剣道が良くなる」という意識で審判技術の向上に努めてほしい。

審判を行う上で、最も大切なことは、「有効打突を正しく、

公平に判定する」ということである。そのために審判員の位置取り、有効打突を正確に見極める力が重要になってくる。その他、試合を活性化させるため、審判員の姿勢、態度、発声、表示の仕方等も大切になってくる。

実技として、二人一組で向かい合い、旗の表示を行なってお互いの改善点について確認を行った。

3　指導法　小坂講師

全剣連の平成三十年度事業計画の中で、「日本剣道形」、「木刀による剣道基本技稽古法」、「竹刀稽古法」の位置づけとつながりを踏まえたそれぞれの指導法の充実を図るという重点項目が示されている。これによって、初級者にも剣の理法、刀法、作法を学ばせようというところを目的としている。

初級者への指導方法として、剣道具を付けた上で打突部位を実際に打突しながら基本技稽古法をやらせることで竹刀剣道につなげていってほしいということで、その方法についての実技指導を受けた。二人一組になり、元立ちが「基本一、一本打ちの技、面・小手・胴・突き」というように号令を掛け、掛かり手がすり足で打ち込み、その後踏み込み足で打ち込む。そうすることで、基本稽古法の理合い等を竹刀剣道にも活かすことが可能である。また、大きな声を出して号令を掛けることで指導者自身も順番をしっかり覚えることができる。

中央講習会終了後の五月六日、鳴門ソイジョイ武道館にて生田先生と共に伝達講習会の講師を努めさせて頂きました。当日は四十一名の方が受講生として参加して頂きました。

講習を受け十分に理解してきたつもりであったのですが、いざ自分が講習をするとなれば、中央講習会での聞き漏らしや理解不足、自分の知識の少なさといったことが痛感されました。

参考書や、日本剣道形・木刀による剣道基本稽古法のＤＶＤ等を見ながら、再度勉強をやり直しました。当日は十分に伝達できたかどうかわかりませんが、役員の先生方にも協力を頂きながら無事終了することができました。

今回の講習会に参加させて頂きまして、大変勉強になったことはもちろんですが、講習を受けることは簡単でも、その内容を人に伝えるためには、うわべだけでなく、深い理解と広い知識が必要であるということが感じられました。

まだまだ未熟ではありますが、この講習会参加を機にさらに精進を重ねていきたいと思います。

今回の講習でお世話になりました講師の先生方、剣道連盟の関係者の方々に心より感謝を致しまして報告とさせていただきます。

第四十五回居合道中央講習会に参加して

居合道部　森　将夫

全日本剣道連盟主催の第四十五回居合道中央講習会が、平成三十年九月八日（土）と九月九日（日）の二日間にわたり京都市武道センターにおいて開催されました。この講習会は伝達講習会実施を条件として、各都道府県剣道連盟の中核となる指導的立場の者を対象に全剣連居合と審判実技の講習を重点に技能の向上を図ることを目的として行われました。この講習会は居合道界としての最高の講習会として位置付けされているものです。第五十三回全日本居合道大会の審判員候補者を含む各都道府県から選出された一〇二名を対象としています。この講習会には徳島県剣道連盟より居合道教士八段坂本憲一先生と私が派遣されました。

講習一日目（九月八日）は午前九時より全剣連奥島快男副会長はじめ役員・講師が参列し開講式が行われました。次に中谷行道常任理事より、テレビ・新聞等における報道についての経過報告がありました。続いて、小倉昇居合道委員長より二日間の日程説明があり、講習に移りました。全剣連居合のレベルアップを念頭に小倉講師の詳細な解説の下、草間講師の演武で範が示され終了後、各班に分かれ実技講習に入りました。受講生を四班に分け、各講師による指導が行われ、私は四班で草間講師の指導を受けました。受講生の安全と体調を考慮し、実技四十五分の後、休憩十五分の周期で全剣連居合が正しく伝達できるようにと、講師の先生から熱心な指導を受けました。受講生も真剣に稽古を繰返し行いました。最後にその成果を見るべく班ごとに全体演武を行い、小倉居合道委員長の高評価を得て一日目が終了しました。

講習二日目（九月九日）は午前中を迫野講師と三谷講師の担当で審判講習が行われました。迫野講師が審判法について講義を行い、審判の心得・審判旗の扱い方・判定のポイント・発声の仕方等を細かく説明しました。実技指導は七段以下の受講生が模擬試合を行い、その審判を第五十三回全日本居合道大会の審判員候補者が主審・副審と立場を替えながら体験をしました。その間に、迫野講師と三谷講師が入退場の作法・審判技術等の指導と共に判定の理由を個々に質問をしました。一方、他の受講生は草間講師の補助で二つの会場に分かれて全員が審判の体験をしました。緊張の中にも充実した審判実技指導になりました。

古流の研究は午後からで受講生を流派別に三つの班に分けて実施されました。一班は夢想神伝流で担当は（小倉・迫野・草間各講師）で五十四名です。二班は無双直伝英信流で担当は（三谷・東各講師）で三十九名です。三班は新陰流・田宮流・伯耆流各二名　無外流・重信流・水鴎流各一名で担当は（中村講師）です。無双直伝英信流は三谷・東各講師の指導で八段の先生と七段以下の先生が向かい合う形式で正座の部、立膝の部の交互抜きを行い

ました。「道場によって多少異なるところがあっても大差がないので教わったように稽古をして下さい」との事でした。

流派別の講習終了後は、主会場にて各流派の代表者による演武がそれぞれ二本の技を解説付きで披露されました。受講生はお互いに他流派への見識を深め、古流の大切さとその伝承の必要性を強く感じたと思いました。閉講式は午後四時にあり小倉委員長より二日間の熱心な受講生への感謝と、今回は非常に中身のある講習会であった事を述べ、京都府剣連への御礼の挨拶で終了しました。

受講内容は九月十六日（日）に松茂第二体育館において坂本憲一先生の解説で、私が実技を担当し、伝達講習会を実施いたしました。さらに、十一月十一日（日）に松茂第二体育館で行われた秋季講習会でも補足の意味で伝達講習を行いました。

平成30年度(第45回)居合道中央講習会　日程表

平成30年9月8日(土)～9日(日)

(於・京都市武道センター)

全日本剣道連盟

<table>
<tr><th></th><th>9月8日（土）</th><th>9月9日（日）</th><th></th></tr>
<tr><td>9:00</td><td>開　講　式</td><td rowspan="2">審判実技</td><td>9:00</td></tr>
<tr><td>9:30</td><td rowspan="2">全剣連居合</td><td>11：30</td></tr>
<tr><td>12：00</td><td>質疑応答</td><td>12：00</td></tr>
<tr><td>13：00</td><td>昼　　食</td><td>昼　　食</td><td>13：00</td></tr>
<tr><td>17：00</td><td rowspan="2">全剣連居合</td><td rowspan="2">古流の研究</td><td>16：00</td></tr>
<tr><td></td><td>閉　講　式</td><td></td></tr>
</table>

[役員]

全日本剣道連盟　副会長　　奥島快男

全日本剣道連盟　常任理事　　中谷行道

[役員兼講師]

全日本剣道連盟　居合道委員長　　小倉昇

[講師]

居合道範士　　迫野康雄

居合道範士　　三谷昭雄

居合道範士　　草間純市

居合道範士　　東　義信

居合道範士　　中村正人

柳生講習会に参加して

徳島支部　中尾幸雄

柳生新陰流の地として名高い「剣道聖地、柳生の里」において、平成三十年度第五十六回中堅剣士講習会が開催された。各都道府県を代表する六十三名の剣豪が奈良市中央武道場に集結し、六月十三日から十七日までの日程で行われた。

奈良県は、ご存知の通り東大寺や法隆寺など日本屈指の世界遺産や国宝建造物を有し、「剣道の心！」を養うことの出来る素晴しい土地である。奈良市中央武道場は、そんな奈良県の剣道中枢の拠点として親しまれている鴻ノ池運動公園内にある素晴しい道場であり、眼下に広がる美しい景色の鴻ノ池は厳しい稽古の合間に心を癒してくれた。

この講習会を経て、数多くの者が八段位を取得し、各都道府県の中核となり、また全剣連の中枢的な指導者を輩出している伝統ある講習会である。

初日の開講式においては、剣道界を代表する錚々たる講師陣が並ばれ、緊張感と使命感が高まった。我が国の伝統と文化に培われた剣道を正しく伝承して「剣道の理念」に基づき高い水準の剣道を間近で修練出来る。本講習会に徳島県の代表として参加出来

平成30年６月13日（水）～17日（日）　於：奈良市中央武道場

る大きな幸せと共に、徳島県剣道連盟のために、そして己の限界に挑戦する覚悟を決めた瞬間であった。

開講式直後、早速、素振の指導が始まった。構え、剣先の高さ、足幅など基本的な内容の指導を頂いた。新たに自身が出来ていない課題が発見出来、初心になる重要性を認識した。その後、刃筋、手の内、剣先を意識した竹刀の操法、一拍子で打ち切る重要性について徹底指導を受けた。初日からいきなり、千本近い素振であったので緊迫感いっぱいであった。五日間の講習で数千本の素振りを行ったが、伝統の『千本素振り!!』は色んなパターンの素振りが組み込まれており、一人でも出来ていない者がいれば、最初からスタートという厳しいものであった。

真横、真正面には講師陣の厳しい眼が光っており、一瞬足りとも気を抜くことは出来ない状況であった。その厳しい指導下の中で素直に取り組むことで正しい素振りを身に付けることが出来た。一人では絶対出来ない千本素振り!!周りの仲間や指導陣の支えがあったからこそ達成することが出来たものと思う。

『素振りこそ原点!』この経験を活かしていきたい。

日本剣道形、木刀による剣道基本技稽古においては、竹刀稽古法の原点、剣（日本刀）の観念で「刀法の原理」「攻防の理合」「作法の規範」を修得し、木刀による剣道基本技稽古法においては、「刀法の原理・理合」「作法の規範」竹刀稽古法の基本技術と対人的技能を正しく体得することが出来た。特に一つ一つの所作がしっかり土台として出来ていないと正しい形につながって行か

平成30年度（第56回）剣道中堅剣士講習会

ないことを学んだ。

審判法では、試合内容を正しく判定する、有効打突を正しく見極める能力を養うことを修得した。審判員の位置取り、旗の表示方法等を詳しく分かりやすく指導いただき、試合の勝敗を決定する審判の責任について学んだ。

また各都道府県を代表する同士と試合及び見取り稽古をすることにより、自身の勝負に対する気持ちがまだまだ甘いことに痛感した。

今後はこの経験を活かし、「一本にかける」稽古を積み重ねていきたいと思う。

指導法においては切り返し、打ち込み、追い込みと厳しい訓練が連日続いたが、左足を継がずに、一拍子で打ち切ることを課題に、必死になって取り組んだ。四十代後半になってのこの訓練は体力の限界との挑戦であった。苦しくて最後までやりとげることが出来るのか?不安との戦いもありましたが、身を捨てる覚悟と勇気を持って乗り越えることが出来た。早朝、夕方の指導稽古は剣先を通して伝わってくる先生方の気迫に圧倒されながらも必死になって喰らいついて打ち込んでいくことで充実感を得るとともに自身の向上につながっていった。福本修二、全剣連副会長の「君たちは各都道府県の代表でここに来ている!それがまだまだ伝わって来ない!」と、はっぱをかけて頂き、自身、徳島県の代表として選ばれた誇りと覚悟を持ってここに立っている!最終的にはこの郷土愛精神があったから乗り越えることが出来たのではないかと思う。指導稽古により、「指導者自ら模範を示す」ことを身を持って学ぶことが出来た。本当に感謝で一杯である。

今回の講習会参加前は、色んな先生方から非常に厳しい稽古と聞いており、緊張と不安があったのは本意である。高橋俊昭全剣連強化委員長から、この講習会は若手主体の「選抜特別訓練（骨太剣士訓練）」「世界選手権強化訓練」と並ぶ〝三本柱〟の一つになる厳しい講習会と伝えられた。参加者六十三名のうち、私と同じ一般会社員はたったの十名であった。後は剣道を本職とされている方が多く、なんとしても一般人として最後までやりとげることが最大の目標であった。その訓練の厳しさから多少、心身の限界に堪えかねる講習生も散見されたが、怪我もなく全日程を無事に終了することが出来た。これは自分自身参加するに当たり、徳島の代表としての心構えをもっていたからだと思う。

今回の講習会で先生方からご指導をいただいたことは今後の大きな宝となることは間違いない。五日間同じ釜の飯を食べ、厳しい稽古を共に乗り越えた同期の絆を大切にし、切磋琢磨しながら我々の使命を全うしたい。

最後に、このような伝統ある講習会参加の機会を与えていただきました三木会長、平野強化委員長をはじめ徳島県剣道連盟の先生方に厚く御礼申し上げます。

本講習会を通じて学んだ剣道観をしっかり認識し、今後も徳島県剣道連盟の発展に貢献出来るよう剣道修行に励んで行く所存である。

〝剣こそ我が人生〟

平成30年度（第56回）剣道中堅剣士講習会日程表

平成30年6月13日（水）～17日（日）於：奈良市中央武道場

全日本剣道連盟

	6月13日（水）	6月14日（木）	6月15日（金）	6月16日（土）	6月17日（日）
起　床　6:00					
6:30		稽　古 全講師	稽　古 全講師	稽　古 全講師	稽　古 全講師
7:30		朝　食	朝　食	朝　食	朝　食
9:00					
9:30		日本剣道形 中田講師 松田講師 他全講師	審判法 藤原講師 香田講師 他全講師	指導法 亀井講師 他全講師	スポーツ医学 佐本講師
10:30					質疑応答
10:45					閉講式
11:00					
12:00		昼　食	昼　食	昼　食	
14:00	講師打合せ会議				
14:30	集合（事務連絡）	木刀による 剣道基本技稽古 上垣講師 寺園講師 他全講師	指導法 石塚講師 他全講師	指導法 （区分稽古） 古川講師 他全講師	
15:00	開講式				
15:20					
15:30	講　話 奥島副会長	指導法 大矢講師 小坂講師 他全講師			
16:00	指導法 亀井講師 他全講師				
17:00	稽　古 全講師	稽　古 全講師	稽　古 全講師	稽　古 全講師	
17:30	入　浴 夕　食	入　浴 夕　食	入　浴 夕　食	入　浴 懇親会	
18:30					
19:30					
消　灯　22:00					

◎講師の都合により変更の場合もあります。

第二十二回長期育成強化訓練「作道正夫先生指導要録」

強化委員長　平野誠司

平成二十年から始まった長期育成強化訓練は、昨年で二十回を数え、十年越しの育成強化事業（国体ジュニア育成強化と連携）となった。

小学五年生から高校三年生までの八年間のゴールデンエイジを、「基本の大事」を注入しながら、青少年期の揺れ動く勝負観を正しく導いていくという当初の目的は、十年たった今も変わっていない。単に優れた選手を集めて強化するという範疇にとどまらず、その年代を支えてほしい数十名の男女を正しい剣道修行のレールに乗せ、将来の徳島を担う骨太剣士を育成しようとするものである。

また、近年の武道離れや少子化の影響は競技人口を減少させているものの、少ないがゆえに大切に育てたいという思いから、指定者数は毎年増加傾向となっている。

年間二回の強化訓練のうち、二月の冬季訓練には県外講師を招いて指導をお願いした。複数回お願いした先生もおられるが、東京からは石田利也先生、大阪からは石田洋二、石田真理子先生、寺本将司先生、佐藤博光先生、大石寛之先生、九州佐賀県からは稲富政博先生など、錚々たる先生方から指導を賜った。

十年、二十回目の節目には、特別講師として大阪の作道正夫先生にお願いしていたが調整不足で順延となり、この度の夏季訓練で実現することとなった。

平成三十年八月二十五日、第二十二回目の強化訓練は、近年の酷暑対策（熱中症予防）のため、冷房施設のある阿波中学校体育館をお借りしての開催となった。

参加者は指定者数一七七名のほか、指導者と合わせると二〇〇名を優に超え、会場一杯の盛況さを見せた。

作道先生には事前に本訓練の趣旨を説明し、訓練内容の指示を仰いだ。中でも、十年間続いた指導方針と年齢、職域を超えた指導者が小中高の縦割りなく、オール徳島を共有するその一体感、徳島県剣道連盟のその姿に称賛を受けた。

こちらから特にお願いしたことは、勝利至上主義に偏向する現代剣道の中で、勝ち負けだけが評価される窮屈な取り巻きから、子供たちが少しでも解き放たれ、幼いなりにも自分達が前向きに向き合う（挑戦）ことができる世界観、剣道ってこんなに広く、こんなに深いんだというご指導であった。

何とも無理難題なお願いに対し、作道先生は生い立ちから大学時代までの間に剣道とどう向き合ってきたかということについて、ご自身が経験されてきたことを引き合いに丁寧に話していただいた。半世紀という時間の隔たりはあるものの、剣道から何を学び、何を実践していくべきか、私たちの心を揺さぶった。子供たちには少し難しかったかもしれないが、子供たちを取り巻く指導者や

保護者へのメッセージと考えれば、この空間を共有できた嬉しさは非常に大きいものである。

最後に、作道先生の今回の指導を要約して締めくくりたい。

1「自分で自分を自分する（講義）」

それは身をもって実際にやること。やれば自分と一つになる。稽古（修行）そのものが精神（悟り）そのものであり、形そのもの、態度そのものが道そのものである。剣道を習うということは自己を習うということに繋がっているということに気付いてほしい。

2「姿勢と呼吸（実技）」

基本稽古で実践したが、まずは背筋を立てて肩の力を抜きしっかりと構える。この構えが剣道の原点。その構えを持ち運ぶための足さばき（足運び）を稽古する。

呼吸は吐く息とともに下腹に力を込め、更にわずかに緩めて肺の底に押し入れる。また静かに息を吸う、その如何なる瞬間でも呼気に変えられるという吸気でなければならない（いつでも打てる息遣い）。

この全身（姿勢と呼吸）の統一と調和がないと、気剣体が一致した冴えた打突は生まれない。

3「三世代共習共導」「技を高め合う」場の構築

合理主義のもと、対象者別の稽古場が主流となった今日、初心者指導から始まって、あらゆる対象者（老若男女）に対して剣道という運動の素晴らしさやその歴史、文化性を共習・共導する人間関係を構築して、その三世代が混合する場の中で技を高め合うことが生涯剣道の実践にも繋がっていく（老いて尚強し）。

第十七回女子審判法研修会（全剣連主催）受講結果について

鳴門支部　平野悦子

私は昨年に引き続き全日本剣道連盟から委嘱を受け、標記の審判研修会に参加してまいりました。

全日本剣道連盟は本年度の事業計画において、「試合・審判規則とその細則並びに運営要領を厳正に運用し、剣道の質を高めるために、指導法と連携し、審判による試合の充実と活性化を図る」ことを重点方策に取り上げています。

そして、本研修会では女子審判員の育成、審判技術の向上を図りながら、全日本女子都道府県対抗剣道優勝大会及び全日本女子剣道選手権大会の審判員選考の適切化を目的として行われています。研修内容は、下記のとおり。

記

1　期日　平成三十年七月七日（土）～八日（日）
2　会場　日本武道館研修センター（勝浦）
3　講師　剣道範士　藤原崇郎先生
　　剣道範士　大嶽將文先生
　　剣道範士　豊村東盛先生
　　剣道範士　塚本博之先生
　　剣道教士　山崎　尚先生
4　参加者　全国から三十名が参加
5　講習課目
　（1）試合・審判に関わる全剣連の動向
　（2）審判法概説（目的・任務・心得等）
　（3）審判要領の要点説明（所作・旗の表示、移動要領等）
　（4）審判法実技

試合審判規則第一条にある試合者は「公明正大に」、審判員は「適正公平に」の説明では、適正とは有効打突及び禁止行為を見極めること、公平とは絶対条件、裁くことの重要性を自覚することご指導いただきました。すなわち、しっかりとした自分の信念を持ち、自分の判断として判定ができるようになることの大切さです。

審判員として「自覚」と「意識」を持つということは、「何を求めるのか」ということをよく考え、「何を広めるのか」ということに義務と責任を持ち、そして、いつも前向きな姿勢で取り組むことで、お互いが研究心を持って、また高め合って「剣道の質」と「剣道界の質」を高めていくようにとご指導いただきました。

研修後、日本武道館で開催されました「全日本女子都道府県対抗剣道優勝大会」の審判員をさせていただきました。素晴らしい機会を与えていただいた先生方に心から感謝申し上げ、ご報告といたします。

第四十二回全国高等学校・中学校剣道（部活動）指導者研修会に参加して

岸野哲也

平成三十一年一月四日から一月六日の日程で千葉県勝浦市にある日本武道館研修センターで行われた第四十二回全国高等学校・中学校剣道（部活動）指導者研修会に参加しました。

開講式・記念撮影の後、アレキサンダー・ベネット先生（関西大学教授・日本武道学会理事）による教養講座がありました。題目が「道場の壁を越えて」という講演でした。内容は、現在指導している学生の特徴から、指導法を昔から行われていたものから工夫することが必要であるといったものでした。その指導法は、指導内容をわかりやすく説明し、小さな成長が見られると褒める。ときには叱り、具体的な改善方法を示し、少しずつハードルを上げていくというものでした。そうすることにより、学生の中に稽古に対する自主性や部員一丸となって稽古に取り組む姿勢が生まれ、剣道の技術の向上だけでなく、剣道の人間形成を通して、社会に出た際に問題に対して主体的に取り組むことのできる人材の育成につながると述べられていました。その後、実技指導法では、正座の仕方や竹刀の扱い方、素振りにおいての指導の要点を伺うことができました。引き続き、実技研修があり、夜に講師の先生方や、参加者の先生方との意見交換会があり、一日目の日程を終えました。

二日目は、朝稽古のあと、午前中に日本剣道形、木刀による剣道基本技稽古法の研修がありました。その中で、中学校、高等学校で部活動の指導を行う上で、教員が日本剣道形を熟知し、修練を重ねなければならないという指導をいただきました。午後からは審判法の研修がありました。審判員としてもつべき知識・技能や有効打突を判断する上で、勇気をもつことの大切さなどを伺いました。その後、実技研修があり、夜には高体連と中体連に分かれて研修会がありました。

三日目は、朝稽古のあと、教養講座において、佐藤義則先生（全日本学校剣道連盟常任理事・埼玉県剣道連盟理事）の「部活動　武道必修化への関わり」という講演がありました。内容は、佐藤先生が中学校の教員として、部活動に取り組んだ経験や、中学校武道必修化への関わりについて伺うことができました。その後、実技研修、閉校式となり、研修会の全日程を終えました。

最後になりましたが、本研修会の参加にあたりご支援していただいた徳島県高体連剣道専門部の先生方、また、研修に同行し、ご指導してくださった西谷肇一先生に深く御礼を申し上げます。

第42回全国高等学校・中学校剣道（部活動）指導者研修会

実施内容・日程表

期日／時間	1月4日（金）	1月5日（土）	1月6日（日）
午前 6		6:00 起床	
7		7:00 準備体操・朝稽古	
8		8:30 朝食・休憩	
9		9:00 国際武道大学へ移動・準備	9:30 教養講座【第1研修室】
10		日本剣道形・木刀による剣道基本技稽古法【国際武道大学・研修センター】	10:30 実技研修【大道場】
11			閉講式【大道場】
12		12:00 研修センターへ移動	解　散
13	12:30 受付	12:30 昼食・休憩	
14	13:30 記念撮影【大道場】 14:45 開講式【第1研修室】	14:00 審判法【大道場】	
15	15:15 教養講座【第1研修室】		
16	15:15 実技指導法【大道場】		
17	17:45 実技研修【大道場】	17:00 実技研修【大道場】	
18	18:30 入浴・休憩	18:30 入浴・夕食・休憩	
19	19:30 夕食・意見交換会【食堂】		
20		20:00 高体連・中体連別研修会【第1研修室・食堂】	
21	21:30	21:00	

徳島の剣道史

徳島出身の新選組隊士　前野五郎

居合道部　坂本憲一

司馬遼太郎の『新選組血風録燃えよ剣』に心ひかれ、新選組に興味をもったのは、大学一年の時である。住まいが武蔵野の国立だったことから、周辺の新選組ゆかりの史跡や帰省時には京都の史跡をくまなく見て回った。

郷里に帰ってからも関係書物や新聞記事に目を止め、新聞の記事はその都度切り抜きスクラップブックに納めた。そうした切り抜きの一つに「新選組隊士前野五郎は阿波藩士の二男、札幌に墓があった」で始まる北海道の研究家からの投稿記事があった。この時、初めて徳島出身の新選組隊士前野五郎の存在を知り、大いに興味をそそられた。

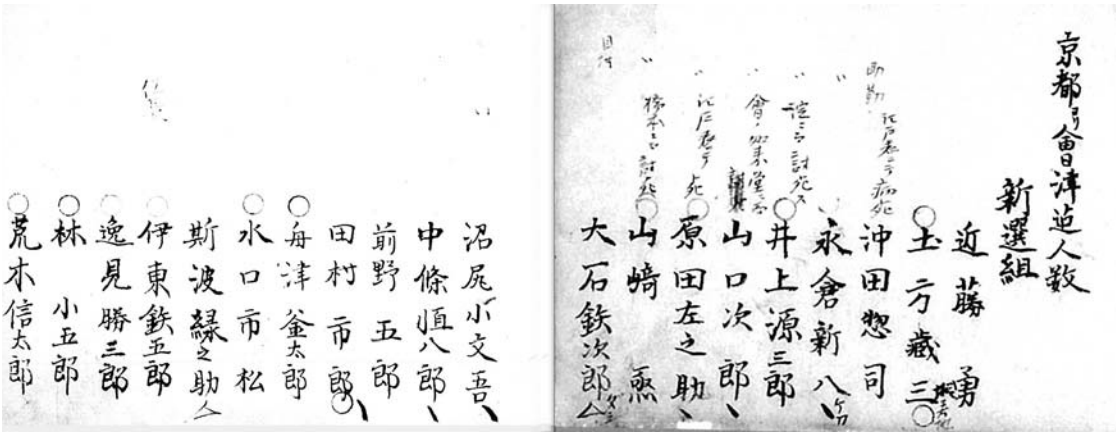
その後、新選組研究者らの発表等を通じて前野五郎の他に何人かの徳島出身者がいることもわかってきた。馬越大太郎・柳田三次郎・神崎一二三、清川八郎の片腕と言われた村上俊五郎等である。その他、地元での言い伝えに過ぎないが、板東嘉次郎（板野郡土成町）、折目　某（三好郡貞光町）等がいる。また、隊士ではないが、本県出身で前野五郎に関わりを持った人物が二人いる。藤井藍田、岡本監輔である。

藤井藍田（一八一六～六五）は徳島県麻植郡鴨島町牛島の人、勤王家、儒学を広瀬淡窓に学び、業成り南堀江で開塾、吉田松陰、桂小五郎、山城屋和助等の勤王家が繁く往来した。二度新選組に捕縛され、一度目は釈放、二度目の捕縛で、慶応元年五月非業の死を遂げるが、藍田の釈放には某隊士が関わったと伝え、尽力した隊士は同郷の前野五郎だったと推測してもおかしくはない。

岡本監輔（偉庵・一八三九～一九〇四）は、徳島県美馬郡穴吹町三谷の人、漢学者で勤王家、北方領土の先覚者として活躍した人物だが、維新後、五郎が北海道でその生を終えるまで多くの示唆を与えた人物である。

前野五郎は、弘化元年（一八四三）、阿波徳島城下福島町中ノ丁、徳島藩士前野健太郎（廃藩置後は名東県士族）の二男（前野家成立書には五郎の名が無いことから出生は妾腹か）として生まれている。文久三年（一八六三）年頃、藩を脱して新選組に加わる。脱藩の理由は定かでないが、兄安之助が家禄を継いだので部屋住みをきらってか、あるいは妾腹故の鬱積が脱藩に駆り立てたものかとも考えられる。

新選組の数々の事績の中で前野五郎の名が出るのは、慶応三年（一八六八）の天満屋騒動である。この事件は紀州藩の明光丸と


京都ニ會津迫人数
新選組
近藤勇
土方歳三
沖田惣司
永倉新八
井上源三郎
山口次郎
原田左之助
山崎烝
大石鉄次郎
沼尻小文吾
中條慎八郎
前野五郎
田村市郎
毎津釜太郎
水口市松
斯波緑之助
伊東鉄五郎
逸見勝三郎
林小五郎
荒木信太郎

新選組隊士録

坂本龍馬率いる海援隊の伊呂波丸の衝突に端を発し、その賠償問題から、龍馬暗殺の首謀者を紀州藩の三浦久太郎と盲信した海援隊士が、三浦の宿舎を襲撃、新選組の斉藤一・大石鍬次郎・梅戸勝之進・蟻通勘吾・中条常八郎・前野五郎らが、三浦の護衛役として動員されていたことから、新選組隊士と海援隊隊士が斬り結び、双方に死傷者がでた事件である。　前野五郎は、この事件を契機に手練れの剣士として、隊内で知られるようになり、伍長の重責を担う。以後、鳥羽・伏見の戦い、上野の戦いに新選組隊士として参戦するが、慶応四年三月、江戸で近藤勇らと決別。新選組副長助勤永倉新八が組織した靖共隊に属し、取締役となり、関東各地を転戦する。

さらに戊辰戦争の最激戦地・会津若松城下へと向かい、この年の十二月、ついに薩摩軍に投降するが、同軍に属していた元新選組隊士伍長加納道之助の計らいで運良く薩摩軍附属の身分を得る。もと新選組隊士だけにこの変わり身は、実に幸運という他ない。

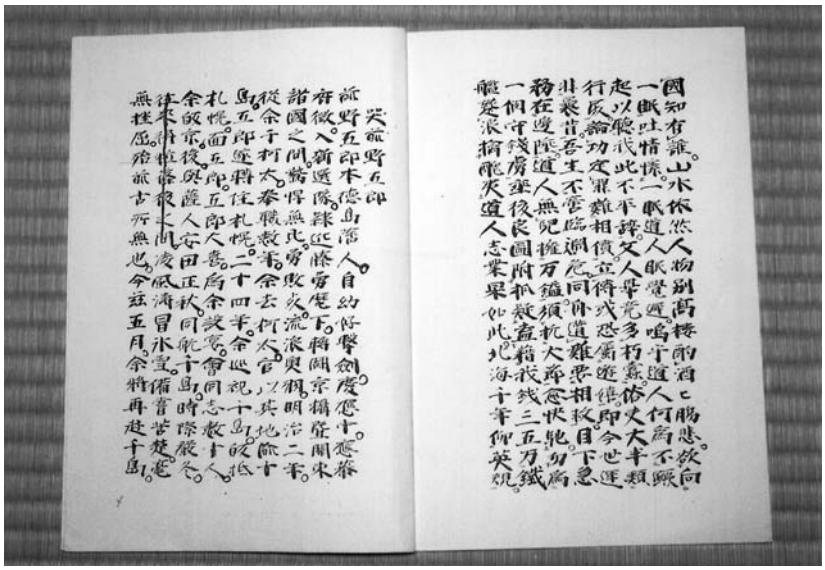
世は明治となるが、多くの敗軍の将兵が北を目ざしたように五郎もまた北海道を目指す。この時点で、先述の岡本監輔と運命的な出会いをするのである。

岡本監輔は、天保十年（一八三九）生まれ、五郎より、四歳違いだが、幼名を文平、のち監輔と改め、韋庵と号した。嘉永六年岩本贅庵に学び、讃岐（高松）の藤川三渓（一八一六～一八八九＝勤王家、当時幕命による奥州監察使）の門に入る。ここで聞いた「北蝦夷」の話が、監輔の夢を北辺の地、樺太に駆り立てること

になる。文久二年（一八六三）、監輔二十四歳のとき、私費で単身樺太に渡る。さらに慶応元年（一八六五）樺太全島の海岸を踏査し、東北のガオート岬に「大日本国領　岡本文平建之」の標柱を建てる。これが今日監輔が北方問題の先覚者と言われる所以でもある。その後も監輔は、二度同地を訪れ、明治元年（一八六八）には、北辺探索の実績が認められ、新政府の開拓官として入植者四百人とともに新天地の開拓を始める。四百人の中には、表は農業従事者としながらも旧幕関係者が多くいたといい、その中には新政府から追われるものも少なくなく、彼らは監輔を救世主として慕ったという。そのことは、五郎のその後の行動を見ても十分理解し得る。

明治三年（一八七〇）、五郎は、樺太開拓使付属として公式に判官岡本監輔に従うようになるが、同四年官を辞して札幌薄野で遊女相手の貸座敷業を営む。また、このころ、本道の基幹産業の一つ北海道製麻会社（後の帝国製麻会社）の株券を持つなど商いの道に才能を発揮、函館市内に多くの土地を所有するなどして、同六年の所得番付には上位にランクされるまでになる。

明治六年（一八七三）、ロシア進出に伴う国策変更により監輔の北辺開拓の夢は大きく挫折する。が、明治二十四年（一八九一）、監輔は夢を捨てずに一民間人として同志を集めて「千島議会」をおこし千島に向う。このとき、五郎も資財を投げ打って、「千島救済会」を設立、監輔に従い千島の択捉（えとろふ）島に向かう。そして、翌明治二十五年四月十九日、ついに五郎に運命の時が訪れる。千島探査の帰途、オホーツク海に浮かぶ択捉島（旧沙那郡磯谷山中）で丸太橋から転落、手にしていた銃が暴発、事故死する。一説には、暗殺（永倉新八遺筆「年月不詳、北海道千島殺害、前野五郎」）とも伝えられ、葬列も少なかったであろう寂しい生の終焉である。時に五郎四十八歳。岡本監輔は、その死を悼み、自ら前野の半生を綴った一文を書いた。そして追悼の漢詩文を撰した。



『哭前野五郎』（岡本韋庵草稿）

前野五郎本徳島藩人、幼きより撃剣を好む。慶応中、幕府の募に応じ新撰隊に入る。近藤勇麾下に隷ひ、転闘すること京攝より関東諸国の間に曁ぶ。悍を鷙つこと比なし。勇敗死して、奥羽を流浪し、明治二年、余に従いて柯太に干いて奉職すること数年。余于太を去りて、官其の地を以って千島に渝ゆ。五郎遂に札幌に転住す。

二十四年、余、千島を巡視し、帰りて札幌に抵り、五郎に面す。五郎大いに喜び、余の為に宴を設け、同志数十人を会す。余京に帰りし後、五郎、薩人安田正秋と与に千島に同航す。時、厳冬に際し、択捉東岸の無人の境を往来す。風濤を凌ぎ、氷雪を冒し、備に苦楚を嘗むるも、毫も挫屈せず。今茲五月、余将に再び千島を航せんとし、京を発し青森に抵り、淹留すると数日、小屋俊太郎の箱館より至るに会ひ、曰く「五郎と正秋と出でて磯谷に猟し、鳥銃を杖して一小橋を渡るに、渓流の中に転墜し、銃丸発して喉に中り頭を貫きて死す。事は四月十九日に在り」と。之を聞きて酸鼻に堪えず。

（中略）

南海に奇士ありて、小字を五郎と曰ふ。手に吹毛の刀を提えて、虎歩又た龍驤。嘗て将軍の募に応じ、遂鹿の場を転戦す。向ふ所勁敵なく、殺傷すること亦た當を過ぐ。主身を辱めて便ち退くや、我に柯太の塞に従う。感激して新知を報じ、節を立て儕輩と邁む。屯田すること幾星霜、鋭意榛薈を艾る。平に渝へんとするに天命を奈せん、転じて札幌の界に住す。

（中略）

率先して家貲を散ず。千島海を横絶すること、祝猶の一小池のごとくなるを。怒濤の天処に溜まり、凝立して憑夷を叱す。涓々たる磯谷水、君をして帰り期すること無からしむ。禍来一にして何ぞ異ならん、咄なるかな造化の児。征人前路を虞うも、関心して相見ること遅し、忽ち玉砕の報に接し、終天、追うべからず。君を想へば稟気異なり、此に到って寿福の虧るを致す。独り坐して今昔を撫し、涕涙落つること漣洏。人生皆死あるも、君の志自ら遺し難し。吁嗟千載の後、北海、豊碑を仰がん」

（「前野五郎碑文稿」）

阿波の徳島に生まれ、京都、江戸、甲府、会津、北海道、そして千島、択捉と動乱の維新を飛鳥のように駆け抜けた前野五郎。北海道時代の五郎の足跡を最もよく知るのは紛れもない岡本監輔である。監輔は、終世二度中国を訪れ、明治二十七年には旧徳島中学校（現徳島県立城南高校）の校長を務め、『岡本氏自伝』の他、『窮北日記』等、五十余冊もの著述を残した。どれもが膨大な頁に及ぶもので、未整理の著述も少なく無い。能筆で明治期の五郎に一番近い位置にいた人物だけに五郎の足跡に関かわる何かを書き残しているはずである。残された著述を丹念に調べることによって、新事実が分かるかも知れない。

常に名剣（号吹毛剣）を携え、永倉の言う暗殺によりその生を終えたとするならば前野の生涯は、まさに剣に生き剣に死した人

生であったろう。新選組隊士の大半は、己が修めた剣の流名を表看板に、誠の旗下命をかけてそれを実践した。近藤勇・土方歳三・沖田総司は天然理心流、永倉新八は神道無念流・藤堂平助は北辰一刀流である。しかしながら、前野の流名については、今だ謎のままである。

郷土に遺存する貫心流・直指流・心形刀流・関口流等のどの門人帳を見ても前野の名前はでてこない。明治二十四年二月、札幌の苗穂で直心影流の大撃剣会が催され、その番付表には、会計取締・検証役・その他出場剣士の一人としても登場するが、これにも流名は定かでない。新選組隊士と言うだけに、前野が修めた剣術の流名はぜひ究明したいところである。

剣術の達人、刀剣鑑定の名人、鉄砲の名手と伝えられる前野五郎。若き血潮を幕末維新に燃やし、そして昇華させた前野五郎。今その御霊は、札幌市校外の里塚公園の一角に富久子夫人とともに静かに眠っている。

前野五郎の墓（北海道札幌市豊平区　里塚霊園）

大会・行事所感

安全で効果的な剣道授業の展開

全剣連授業協力者養成講師
米倉　滋

平成十八年十二月戦後初めて教育基本法が改正され、二条に「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する状態を養う。」という教育目標が定められました。これを受けて平成二十年三月に学習指導要領が改訂され武道は、武技、武術などから発生した我が国固有の文化であり、相手の動きに応じて、基礎的動作や基本となる技を身につけ相手を攻撃したり、相手の技を防御したりすることによって、勝負を競い合う楽しさや喜びを味わう運動であり、武道に積極的に取り組むことを通じて武道の伝統的考え方を理解し、相手を尊重して、練習や試合ができるようにすることを重視する運動であるとのことが示されました。そして、平成二十四年四月から全国約一一、〇〇〇校の中学校においてすべての一年生及び二年生が武道の授業を必修として学ぶことになりました。

（財）全日本剣道連盟（以下、全剣連と称す）は、中学校武道必修化に対応するため、平成二十年より支援対策を検討、その中で文部科学省委託事業に参画し、「安全で効果的な剣道授業の展開」等の指導書を作成し、本指導書をもとに授業を担う保健体育科教員の支援・協力にあたる授業協力者を養成しました。さらに授業協力者に対し、指導力・資質向上を目的に研修会を開催、また、各剣道連盟の協力やコーディネーターによる学校教育への支援体制の充実を図ってきました。本県におきましても、平成二十年七月、第一回武道振興協議会を開催し、県剣道連盟と県教育委員会スポーツ健康課と連携して、中学校の武道必修化に対応するための協議がなされました。又、平成二十一年六月から県教育委員会は、中学校武道・ダンス必修化に向けた地域連携指導実践事業を展開、教員の指導力向上のための事業（研究委員会、実践校、講習会）の推進、外部指導者との連携や市町村教育委員会との連携の仕方などについて地域連携指導推進協力者会議で協議がなされ　平成二十四年四月からの中学校武道必修化に万全の体制でのぞみました。

中学校で武道が必修となり、六年目を向かえた平成三十年十一月、北島町立北島中学校において、県教育委員会主催のもと講習会を通じて、剣道授業を担当する保健体育科教員の指導力向上を図るとともに、安全な剣道授業の指導法について理解を深めることを目的として、講師に藤田弘美先生を迎え、中学校剣道実技指導者講習会を実施、公開授業、研究会及び実技講習が行われました。公開授業の対象生徒は剣道の授業を初めて履修する中学二年生男子十五名、

授業を担う教員は、野球が専門の体育教師、そして授業協力者の私で行い、その内容は、九時限授業の八時限目で有効打突の条件を理解し、「気」「剣」「体」「残心」の判定基準に基づき判定を行う判定試合を実施しました。

今回本県において初となる授業協力者を活用した、公開授業が実施され外部参観者として、全剣連視察員、県教育委員会関係者、他校中学校教員及び県剣道連盟中学校授業協力者等が見守る中授業が展開されました。

授業後の研究会では、授業協力者の協力による授業において高い評価が得られるなど授業協力者制度が高く評価され、本支援事業の継続が望まれていることが確認されました。

さて、文部科学省は、新中学校指導要領を平成三十三年（二〇二一年）からの完全実施に向けて平成二十九年三月に公示しました。今回の学習指導要領の改訂は、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を学校と社会が共有し、連携・協働しながら新しい時代に求められる資質・能力を子供たちに育む「社会に開かれた教育課程」の実現を目指しています。つまりこれからの学校教育は、地域の協力が一層求められています。また、教育課程全体を通じて育成を目指す資質・能力を

①生きて働く「知識、技能」の習得
②未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力」等の育成
③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性」の涵養

の3つの柱として示しています。

武道においては、引き続き一年生、二年生において必修とされ「技能」の内容が「基準となる技ができる」から「簡易な攻防を展開することができる」に変更され、生徒一人一人に攻防する楽しさを味わせることが強調されるようになります。

いかに時代が変わろうと学校教育の使命は「人づくり」です。教育基本法においても教育の目的は「人格の完成」を目指すことが明記されています。又、全剣連は「剣道は剣の理法の修錬による人間形成の道である」と剣道理念を定めており、この両者の目的には「人間形成」という共通点があり、中学武道必修化には日本の伝統文化である剣道を正しく継承し剣道を通じて「人間形成」を醸成するという教育的期待感がうかがえます。武道の特徴ともいえる端正な礼の指導、他人を思いやる道徳心、技術指導を通じた体力、技術の向上などは、生徒の耐性や社会的態度を身に付ける上で有効であると考えられ、学校現場でさまざまな課題を抱えている今日、武道の教育的価値が強く求められる中、学校や生徒の内情を熟知している保険体育科教員と授業協力者がそれぞれの役割を担い、剣道の何をどのように指導するかを共有し、「人づくり」を実践しつつ、安全で効果的な剣道の授業を展開しなければなりません。

心こそ心迷わす心なり
心に心心許すな

徳島県大学選手権 眉山杯大会の今昔

徳島大学医学部剣道部部長
久保 宜明

第三十七回徳島県大学選手権眉山杯大会は平成三十年十一月二十三日に徳島文理大で開催されました。僭越ながら大会会長を務めさせていただきました。眉山杯が始まったのは私が徳島大学医学科一年時ですので、まずは発足当時を振り返りたいと思います。

眉山杯のきっかけはある宴席での会話で、私も末席で聞いていました。三学年上の猛者の先輩方、医学科四年の倉都さんと常三島四年の青野、達富、赤江さんら（先輩らが二年生の時に団体で全日本学生剣道優勝大会に出場されたそうです）が徳島大で誰が一番強いのか決めようという話で盛り上がっていました。そばで聞かれていた当時徳島大学医学部剣道部部長の勝沼信彦先生が先輩方の趣旨に賛同され、眉山杯と名付けられました。

当時の部報によると、第一回大会は昭和五十七年十一月六日に徳島大常三島武道場で開催され、常三島と蔵本合わせて約四十人が参加しました。優勝は男子：達富賢二さん、女子：林久恵さんと常三島勢が占めました。第五回大会までは徳島大のみの参加でしたが、第六回大会から徳島文理大と四国女子大（現、四国大）、第七回大会から鳴門教育大が加わり、現在の形の大会（大学院生も含む）になりました。この間、男子では第二、三回は倉都滋之さん、第四～六回は私、女子では第二回富田小百合さん、第三回吉田幾美、第四回近藤由子、第五回森田美佐と蔵本勢が占め、試合後の宴席で勝沼先生がご満悦だったのをよく覚えています。

その後、鳴教大の木原先生が丁寧に残されている記録を拝見しますと、男子では第十一、十三、十四回の川上泉さん（常三島）、現在もご活躍中の第十八、二十一回の敦賀晋平さん（文理）、第二十三～二十六回四連覇の森田拓磨さん（文理）、蔵本勢では第十七、二十二回の大場博史や第三十、三十三回の藤本 稜が目にとまります。女子では第六～三十六回まで、三十一大会中二十二大会を文理勢が制しています。第九、十回の八幡美貴さん、第十八、十九回の平尾奈海さん、第二十三、二十四、二十六回の住友香織さんらが目にとまります。文理以外では、第三十二、三十三回に鳴教大大学院生の山口あずささんが二連覇しています。両回とも試合を拝見し、志學館大学で鍛えられた素晴らしい剣道が印象的でした。

平成三十年十一月二十三日に開催された第三十七回大会には、男子三十三人、女子十四人合計四十七人が参加しました。第七回では男子四十二人、女子二十四人合計六十六人の参加でしたので、以前に比べ参加人数が減少していますが、前年度第三十六回大会の男子二十五人、女子十二人合計三十七人と比べると増加傾向でした。結果は後述の通りで、男子は鳴川了介さん（常三島）が一本も取られることなく、見事に二

連覇を達成しました。長身を利してのしなやかな剣さばきが印象的でした。女子は須藤のぞみさん（文理）が一年生ながら若さ溢れる勢いのある剣道で制しました。

また平成十八年第二十五回大会から、一本勝負の抜き試合である東西対抗試合が始まりました。今回は、男子では東軍（文理・鳴教大・常三島）に対して西軍（四国・蔵本）、女子では東軍（文理）に対して西軍（四国・鳴教大・常三島・蔵本）が対戦しました。個人戦とはまた一味違った熱戦が繰り広げられ、抜き人数の多かった人たちが優秀選手に選ばれました。最も印象に残ったのは、男子・杉山拓之さんと女子・神里命さんの四国大勢でした。四国大からはお二人のみの参加でしたが、そろって四人抜きを達成したのはお見事でした。

例年十四時半ごろに閉会式を終了し、その後約一時間の稽古会を行っていますが、第三十七回大会は参加人数が例年よりも多かったこともあり、試合終了した時点で十六時を過ぎており、残念ながら稽古会を行うことができませんでした。次年度は試合コート数を増やすなどの変更が必要かもしれません。

最後になりましたが、審判をお務めいただきました徳島県剣道連盟の諸先生方には心より御礼申し上げます。

《第三十七回大会記録》

個人戦　男子

優　勝　鳴川　了介（常三島）
準優勝　阿部　有矢（蔵本）
三　位　前田崇太郎（蔵本）
　　前田　貴紀（蔵本）

個人戦　女子

優　勝　須藤のぞみ（文理）
準優勝　新谷　美和（常三島）
三　位　黒田木乃佳（文理）
　　生田　朱音（文理）

東西対抗試合優秀選手

男子　杉山　拓之（四国）
　　澤井　直樹（蔵本）
　　久保田祥史（蔵本）
　　壹貫田　稜（鳴教大）
　　中野　輝一（常三島）

女子　神里　命（四国）
　　生田　朱音（文理）
　　須藤のぞみ（文理）
　　黒田木乃佳（文理）

徳島春風館道場 設立三十年を迎えて

徳島春風館道場
館長　青木茂生

今日、急速に進む少子・高齢化や人口減少、人や地域のつながりの希薄化などを背景に、国では地域の住民や多様な主体が参画し、世代や分野を超えて、あらゆる人を支える「地域共生社会」の実現に向けた体制づくりが求められています。現在、あらゆるスポーツ・武道に関しても少子化等の影響があり各部活動等の活動・運営も大きく危ぶまれる状況になってきております。

昭和五十年代剣道は、剣道ブームで活気が漂っていました。また、バブルで世の中の景気も大変良く、人々は色々な娯楽を通して交流を深め地域のつながりは非常に硬い絆で結ばれておりました。

この時代の背景に踏まえ、青少年の健全育成のために剣道を通して子育てをやろうと言う思いがあり、昭和六十三年四月三十日に徳島春風館道場を設立いたしました。年月の経つのは、非常に早いもので早三十年を迎えることになりました。これも一重に徳島県剣道連盟及び剣道関係者並びに保護者の方々のお支えがあったからこそ、ここまで三十年の歴史を作ることができたと思います。私は、二十代の時にぜひ自分の道場を持ちたいと言う夢がありました。家族の理解を得て三十五歳の時に道場を建てることができました。

私が、夢を持つようになったきっかけは、しっかりと基本を叩き込んで指導をしていただきました研心館道場の創設者であり館長であった滝下勝先生（故人）の影響があったかと思っております。二十歳代から剣道・居合道を指導して頂きました基礎が、今私自身に大きな成長の基になっていると思います。

設立二十年には、二十周年記念と致しまして平成二十年五月十八日（日）に徳島春風館道場二十周年記念剣道大会を脇町うだつアリーナで開催させて頂き、県内は元より香川県からの参加もして頂き、総勢二七四名の剣士達が日頃の練習の成果を発揮していただきました。

設立三十年には、三十周年記念として徳島春風館道場設立三十周年記念稽古会を開催させて頂きました。平成三十年七月二十九日（日）脇町うだつアリーナにて開催するご案内を差し上げました所、大型台風十二号が四国に接近、暴風・大雨・波浪警報が発令された為、中止を余儀なくさせられ、新たに再度平成三十年九月三十日（日）に穴吹スポーツセンターにての開催のご案内を差し上げました。ところが、まさかもう台風は来ないと思っていましたが、これまた前回以上の大型台風二十四号が四国に接近すると言う事態となりました。もしこれを逃したら行事日程及び準備からしても今後出来ないだろうと思い悩んだ結果、強行的に実施する覚悟を決め稽古会を行いました。もちろん暴風・大雨・波浪警報がでている為、各小学校・中学校・高校生の皆様

方には、ご遠慮をして頂き無理をなさらずに参加をして頂ける人達でやろうと決め、この大型台風二十四号の真っただ中で春風館設立三十周年記念稽古会を開催させて頂いたところであります。開催日が二回も台風に当ったことは、心に残るイベントとなりました。

悪天候の中参加して頂きました徳島県剣道連盟会長三木毅先生を初め多くの剣道連盟の先生方並びに剣道連盟美馬支部の先生方そして準備・お手伝いを賜りました春風館道場の保護者の皆々様方に心からお礼・感謝を申し上げます。無事に事無く稽古会ができましたことに、あらためて感謝を致したいと思います。

最後になりますが、私が足腰立つ間は青少年育成の為に剣道を通して子供達を育てて参りたいと願っております。徳島県剣道連盟関係者の皆様、今後とも尚一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

徳島春風館道場設立30周年記念稽古会　平成30年9月30日

第四十七回徳島県社会人大会 選手宣誓の言葉

阿南支部　小野　勝

平成三十年十一月二十五日（日）、ソイジョイ武道館において、第四十七回徳島県社会人剣道大会が開催され、三十五チームが参加しました。

この栄えある社会人大会において、前年度優勝チームの選手代表として私は選手宣誓に指名されました。

平成三十年度
第四十七回徳島県社会人大会
選手宣誓の言葉

宣誓、私達選手一同は、徳島県社会人剣士として心と技を磨いてきました。

これまで支えてくれた、家族、職場、地域の皆さんに心から感謝し、その期待に応えるために全力を尽くし、そして、この大会が平成を締めくくるのに相応しい大会となるように正々堂々と、精一杯戦う事を此処に誓います。

平成三十年十一月二十五日

選手代表　小野　勝

私は六歳で剣道を始めました。小さな私の手に父と母が竹刀を持たせてくれた事が始まりです。父からは「剣道を通じて正しい心を学びなさい。そして強く正しく生きていきなさい」母からは「素直な気持ちを忘れないように。感謝の気持ちを忘れないように」と諭されました。

現在は週二・三回程度、近隣で行われている稽古会などに参加させて頂いております。これまで剣道を通じて素晴らしい出会いがありました。

私が参加している稽古会は毎週一回、開始時間は一九時三〇分～なので日が落ちてから始まります。その先生は稽古が始まる半時間前に道場に来られ、玄関の鍵を開け、明かりを点け、道場内の窓を開けおわると、道場の片隅に静かに座して、稽古の参加者を待って下さっています。そして稽古が終わり、稽古に参加された方々が帰宅した後、道場内の窓の施錠の閉め、忘れや更衣室に忘れ物が無いか、お一人で確認し、道場の明かりを消し、玄関を施錠し、暗闇の中を一人で帰宅の途につきます。私の知る限り

では、それを十年以上も続けて下さっています。寒い日も、暑い日も、雨の日も、風の日も、その長い年月の中には、体調が優れない日もあったでしょう。所用などと重なりお忙しい日もあったでしょう。家庭の事情などもあったでしょう。私が想像も出来ないほどの大変なご苦労があったと思います。でも、先生はいつも穏やかなご様子で私達を待っていてくれます。先生の人知れぬご苦労と私達へのお心遣いを想った時、私の胸にはいつも熱いものが込み上げてきます。

ある先生は、仕事の休日を返上して剣道の指導にあたり、自身が指導している子供達と行動を共にし子供達と一緒に泣き、笑い、そして一緒に戦っています。子供達に剣道を教えていく事を、自身の宿命とし、人生を捧げています。子供達の成長と、幸せ、そして徳島の剣道の発展を心から願っています。人は生きていると辛く悲しい事に直面する時があります。でも、その先生はその悲しみを胸にしまって今日も子供達の前に立っています。

私には「小野さんが頑張っているから、私も頑張ります」と共に歩んでくれる会社の剣道部の仲間がいます。「今日の稽古良かったぞ、これからも頑張って稽古せいよ」と心から応援してくれる先輩がいます。「打たれてもいいから、下がるな」と更なる成長を期待して下さる先生がいます。長年の激しい稽古で痛めてしまった足をひきずりながらでも稽古をつけて下さる先生がいます。「これからはこういう剣道をしなさい」と私の歩む道の一歩先を照らして下さる先生がいます。

このように私は沢山の方々の温かい気持ちに支えられています。本当にありがとうございます。大会当日の選手宣誓ではこれまでお世話になった方々の一人一人の顔を思い浮かべ、上手く口がまわらなくても、感謝の気持ちだけは伝えたい。そう思いながら、心を込めて精一杯の宣誓をしました。

剣道を通して素晴らしい人達と出会い、その出会いが私の人生を心豊かなものにしてくれています。私の人生に剣道を与えてくれた父と母に感謝しています。

四国医科学生剣道交歓試合を主管して

徳島大学医歯薬学部　剣道部
主将　阿部有矢

四国医科学生剣道交歓試合は医歯薬学部を持つ四国の四大学（徳島大学、香川大学、高知大学、愛媛大学）で毎年行われています。主管大学は一年ごとに入れ替わり、去年度は徳島大学が主幹を務めさせて頂きました。小さな大会ではありますが、この大会を期に引退される方も多く、私たちにとってはとても意義のある大会の一つとなっています。私は今までに大会の主管というものを経験したことが無く、今大会で主管をさせて頂くにあたって、どのように準備を進めていくかほとんど分からないままでした。そんな中、様々な質問に快くお答え下さり、大会運営に最後まで御協力頂いたのが鳴門教育大学の木原資裕先生です。木原先生には平素よりお世話になっており、定期的に開催される講習会では、県内の大学同士が交流する機会を与えて下さり、また徳島県大学選手権眉山杯でも各大学に指示を出すなどして大会運営に携わって頂きました。私の力不足もあって、今大会の運営にあたっていくつかの改善点も見受けられはしましたが、それでも無事に大会を終了することができました。

今大会は徳島大学にとって団体六連覇がかかった大会でもありました。午前には個人戦があり、そちらでは徳島大学からは男子個人ベスト四に三人が入賞することが出来ました。優勝・久保祥史、準優勝・前田貴紀、三位・田上将大でした。こういったこともあってか、午後の団体戦では初戦からそれぞれが緊張すること無く試合に臨むことが出来たと思います。結果は四大学のリーグ戦で三勝と文句なしの優勝を成し遂げて無事に六連覇を達成し、女子団体戦も二勝一敗と惜しくも優勝を逃しはしましたが、準優勝という輝かしい成績を残すことが出来ました。

私たちは普段週三日で稽古をしており、これは他大学の全学における稽古量と比べるとおそらく半分以下になると思いますが、だからこそ如何に短い時間の中で正しく強い剣道を身につけるかを日々考えて稽古しております。河田清実先生をはじめとして多くの先生方にお越し頂き、練習環境としては全学にも引けを取らないものであると私は思います。今回は主管に追われて忙しかった中で、自分たちの実力を十二分に発揮することが出来ました。この経験を今後に生かし、その他の大会においても好成績を残せるように頑張っていきたいと思います。

最後になりますが、この度大会運営に御協力頂いた方々には誠に感謝申し上げます。私たちも徳島県にある大学の一つとして、徳島剣道のより一層の発展に少しでも携わっていければと思いますので、今後とも宜しくお願い致します。

各種大会に参加して

勝負は応用の跡なり
「第十六回全日本選抜剣道八段優勝大会」

警察支部　平野誠司

十年位前に、ある範士の先生から「天狗芸術論」の資料を頂いたことがありました。

私はちょうど八段位に挑戦しようという時期でもあり、先人が命がけで残したその極意を少しでも追体験したいと、何度も何度も稽古の中で挑戦を続けてまいりました。特に今でも心に置いていることは、

・・・・・・・

「勝負は応用の跡なり。」

「敵もなく我もなし。我あれば敵あり。我なきが故に来る者の善悪邪正一念の微に至る迄、鑑にうつるが如し。」

勝負は隙を見て打突するのではない。機を見て（機と見て）打突するのである。一度消えた好機は千載に帰らない。心の域に随って応用が速やかでなければならない。

「手を拍てば、烏は逃げる、鯉は来る、茶屋の娘はハイと答える」

と同様である。

また、我がなければ敵もない。我あれば敵ありで、我が念が相になって敵に気付かれてしまう。すなわち、敵をつくり争うことになる。『空』になって我がないと来る者の善悪邪正一念の微まで明鏡に写ってくる。無念の念を念としている成徳の人には、よこしまな心をもって向かうことはできない。自然の妙であり、人間本来の姿である。

敵を忘れて『空』になる。あるがまま、自然に生きて本来の自己となる。この真実を悟ることが剣の道である。剣道は、無念の念を念とする修行である。

無念夢想、真剣三昧、

名人芸の極致であろう。

持田盛二範士

・・・・・・・

という持田先生の解説付きの部分であります。

剣道は真剣勝負の場、「身を捨ててこそ浮かぶ瀬もある」でやらなければなりません。審査も試合も、そして稽古も同様、事にのぞんでは我が心を如何にコントロールできるかが一番重要で、この生き死に（勝ち負け）の迷いを超えたところに道は開けていくのです。

前置きが長くなりましたが、平成三十年四月十五日、名古屋市中村スポーツセンターにおいて全日本選抜剣道八段優勝大会に出場をさせて頂きました。今年もこの大舞台で今の自分を試させていただける機会を頂けたという喜びと感謝の念で一杯でした。

試合は、一回戦から十分間の三本勝負です。相手は福島県の長谷川弘一先生。立ち合いから奇襲戦法といわんばかりの大きく振りかぶっての面、はっと後手に回ったところから試合が始まりました。

一瞬の出来事に居ついてしまった私は、竹刀でかわすこともできず、大きくのけぞっ

たままでした。有効打とはなりませんでしたが、非常に危ない場面でした。今度は反撃と言わんばかりに技を仕掛け、相手を後退させたところで担ぎ気味に放った小手が、乾いた音とともに有効打となりました。

二本目になると、ますます攻防が激しくなりますが、お互いに決め手なく時間が経過します。中盤を迎え、待中懸で攻め切ったところに面に出た私は、胴に返そうとする長谷川先生より一瞬早く面を捉えることができ有効打となりました。初戦突破です。

第二試合の相手は、東京警視庁の恩田浩二先生でした。前半は、打ち間の攻防で陣取り合戦の様相、お互いに決め手なく膠着した試合展開となりましたが、徐々に恩田先生の捨て身の技が多くなります。私は受けとは言わず懸中待で攻めていたつもりでしたが、最後は懸かり先の気持ちの差でしょうか、恩田先生が小手から面へと渡ってくるのを見てしまいました、一本。その後の反撃もそこまで、時間切れで二回戦敗退となりました。

恩田先生はその後、神奈川の宮崎正裕先生、準決勝では和歌山の宮戸伸之先生、そして決勝は東京石田利也先生に勝利し、初優勝の栄冠に輝きました。

「負けに不思議の負けなし」

試合の敗因を「空の崩壊」と分析し、引き続き天狗の教えを継続修練と心に誓い、名古屋を後にしました。

大会の出場に際し、ご支援いただきました皆様方に厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

全日本都道府県対抗女子剣道大会に参加して

監督　白木洋一

平成三十年七月十四日、東京・日本武道館で第十回となる全日本都道府県対抗女子剣道大会が開催されました。試合は一回戦シード、二回戦からの試合となりました。一回戦で沖縄県に勝利し勝ち上がった岡山県との対戦で、結果は、三―〇で敗れました。一回戦の沖縄県―岡山県の試合も接戦でしたが、徳島県―岡山県の試合も内容的には接戦だったと思います。

先鋒戦、明口選手（富岡東高校）―コ・メ根来選手（岡山商大附属）は、明口選手上段より機会良く技を繰り出すも、完全に捉えきることが出来ませんでした。試合中盤を過ぎて、相手選手が徐々に間合いをつかみ明口選手の左小手を打ち一本、その後面を打たれて二本負けになりました。二本負けになりましたが、前半戦は実力者相手に十分互角に戦えた試合だったと思います。

次鋒戦、丸岡選手（明治大学）―メ・コ岡崎選手（関西学院大学）は、丸岡選手の猛攻で試合が始まりました。相手選手も各種大会で結果を残している実力者ですが、早々に勝負が決するのではないかと思うぐらい攻防は激しいものになりました。しかし、引き胴を狙って下がった一瞬の隙をついて相手が追い込んで面、二本目開始後、取り返そうと前に出たところ小手を打たれ二本負けになりました。丸岡選手にとっては悔しい一戦だったと思います。けれども、その悔しさが、関東大学新人大会団体優勝につながったと思います。

中堅戦、木浦選手（警察支部）―横道選手（警察）この試合は引き分けに終わりましたが、終始木浦選手のペースの試合でした。大会までの遠征や練習試合では、十分な結果が出せずにいましたので、木浦選手にとっては、やりきった試合だったと言えます。本番に向けて苦悩があったと思いますが、自分の剣道に徹したことが結果につながったと思います。

副将戦、前田選手（阿波支部）―三宅選手（教員）引き分けに終わった試合でしたが、途中前田選手の小手が決まったかに思えましたが一本にならず、本当に勝ち試合だったと思います。前田選手も、遠征等で悩み迷っていました。大学の後輩ということもあり、厳しいアドバイスをして、更に追い打ちをかけてしまいました。フォローしてくれたコーチの竹内佳代子先生に感謝です。

大将戦、北村選手（阿波支部）―ド忠政選手（教員）すでに団体の勝敗は決していましたが、北村選手は、じっくりと間合いを詰めて、相手の出がしらを狙う展開でした。相手選手も狙いを察してか、うかつには出てきません。試合が膠着した後半、相手が思いきってつばぜり合いから引き胴を打つと、これが一本になりました。相手選手のそれまでと展開を変えた技の選択を褒めるべき一本でした。

岡山県はその後勝ち上がり、三位に入賞しています。残りの三県は全て九州勢で、長崎県・福岡県・熊本県でした。決勝の福岡県―熊本県は、代表決定戦にもつれ込む

大接戦でした。代表戦を制した福岡県が見事優勝しました。

私自身、今大会は初めて監督という立場で参加させていただきました。今まで、中学生の指導は長くしておりますが、女子の成年（高校・大学生を含む）の団体監督をするのは初めての経験であり、選手の力を十分に引き出せたかどうか反省しきりです。けれども、今回試合に出場して大きく学んだことがあります。それは、徳島県選手の持っている力は、全国的に見ても引けをとらないということです。一人一人の持っている力は十分に全国で通用するものがあると感じました。

最後に、今大会に向けて、ご支援をしていただいた全ての方々に感謝を申し上げ報告とさせていただきます。

矯正職員剣道大会について

刑務所支部　前田　秀一

矯正職員剣道大会について「徳島の剣道三十五回号」に執筆させていただくことに感謝申しあげます。

例年、管内矯正職員剣道大会の結果については、「徳島の剣道」にご紹介させていただいていますが、今回は、年間に開催されている矯正職員の武道大会について書きたいと思います。

刑務官は「矯正職員」とも呼ばれていますが、私たち刑務官は、各地の刑事施設で勤務しています。刑務官は、柔道もしくは剣道を正課の訓練として位置付られており、通常の勤務終了後、平日午後五時過ぎから約一時間程度稽古をし、その訓練の意識及び技術の向上を目的として年間の武道大会が設けられています。

年間の武道大会は、下記のとおりになります。まず、四国管内矯正職員武道大会施設対抗試合、各管区の代表施設が出場する全国矯正職員武道大会施設対抗試合、四国管内矯正職員武道選手権試合、各管区を勝ち抜いた個人が出場する全国矯正職員武道大会選手権試合、全国を東西に分けた七段以上の高段者が出場する全国矯正職員武道大会東西対抗試合、武道経験の浅い選手が出場する管内矯正職員武道奨励大会及び管内矯正職員武道大会女子剣道試合、団体戦及び個人戦の試合である、全国矯正職員武道大会女子剣道試合が開催されます。このように、矯正職員の武道大会には四国管内及び全国大会と武道訓練の意識向上及び技術力向上を目的とした各種大会が数多く開催されています。

さて、昨年度の徳島の武道大会の成績でありますが、近年、若く有望な職員の拝命にもかかわらず、全国矯正職員武道大会施設対抗試合の管内予選においては四位、管内矯正職員武道大会選手権試合においても上位進出者はなく、大変悔しい思いを

していています。一方、十一月、徳島県で開催された、管内矯正職員武道奨励大会においては、個人戦有段の部において優勝、また、同じ月松山で開催された管内矯正職員武道大会女子剣道試合においては、本年、富岡東高校を卒業し、徳島に拝命した山﨑選手が見事に優勝し、二月に名古屋で開催された全国矯正職員武道大会女子剣道試合に出場しました。男子の団体戦及び個人戦の全国大会出場には近年出場できていませんが、女子選手の全国大会出場など明るい話題もあり、一歩ずつ前進しています。これからも当所の剣道部員が一丸となり、管内矯正職員武道大会を優勝し、全国矯正職員武道大会施設対抗試合に出場するために精進していきたいと思います。終わりになりますが、矯正職員の剣道に御理解をいただいております徳島県剣道連盟の先生方に置かれましては感謝申し上げます。これからも、徳島刑務所の剣道部にたいしましてこれまでと変わらぬご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

「勝ちに不思議の勝ちあり、負けに不思議の負けなし」
―全日本少年少女武道錬成大会（剣道）に出場して―

佐古剣道クラブ
谷本浩志

この大会に出場するようになりそれまでより一層、基本の大切さを身にしみて感じるようになりました。初めての出場を決めるにあたっては徳島少年剣道教室の生田先生をはじめ保護者のみなさんにたくさんのご助言を頂きました。時間と費用はもちろんのこと、大会でまともに勝負するためには本当に多くの準備が必要でした。

なぜなら、試合形式が独特であるということ。（基本判定試合と一本勝負によって勝敗を決するという内容※これについては資料を別添する）このために新年度が始まって夏までの稽古内容はとにかく「切り返し」と「打ち込み稽古」に終始します。単調な内容を子ども達が目的を持って取り組めるよう、指導者として出来る限りの知恵を絞って工夫をしました。そこでボールを使った稽古や竹刀を持たずに身体を動かすような、ゲームや遊びから剣道の動きに繋げていくことを取り入れました。指導者と子ども達が楽しみながら取り組める内容を考え、苦しい稽古にメリハリをつけました。

しかし、いくら稽古を積んでも、何度目の参加でも本番がとても怖いのです。それは次のような理由によります。基本判定試合の判定基準がはっきりしていないこと。その年、審判、試合場によって判定基準が微妙に異なっているのです。とは言いながら子ども達には「勝ちに不思議の勝ちあり、負けに不思議の負けなし」と言い聞かせながら指導者としても、負けるときやピンチのときは誰か何かのせいではなく、きっと理由があるとして、絶対に基本判定試合に負けない基本に忠実な剣道を身に着けさせることを常に心にとめおき、ひたすら「切

り返し」と「打ち込み稽古」を繰り返しました。

二日間で行われる大会、一日目に四九〇チーム（二、七二一名出場）、二日目は四九六チーム（二、七二九名出場）という中から、佐古剣道クラブの子ども達はこれまでに「入賞まであと一勝」、今年度は「入賞まであと一本」というところまでになってきました。まだ道半ばですが、この結果はいち指導者と子ども達だけではとうてい成し遂げられるものではありません。毎年「愛日錬成会」に参加して下さる県内外のチームのみなさんのご支援に感謝するとともに、これまで佐古剣道クラブを巣立っていったOB・OGや保護者の方々の協力、何よりいまチームを支えていただいている連盟や関係の方々、保護者のみなさんに感謝しつつ、一層の飛躍を目指して日々精進して参ります。今後ともご指導賜りますようよろしくお願いいたします。

Aチーム（監督　谷本浩志）

一回戦（基本判定試合＋一本勝負）

多西剣友会（東京）　勝利

二回戦（基本判定試合＋一本勝負）

小川少年剣友会（茨城）　勝利

三回戦（三本勝負）

五加育成剣道クラブ（長野）　勝利

四回戦（三本勝負）試合場準決勝

鬼高剣友会（千葉）　敗退

先鋒　篠原翔騎（六年生）

有名な日本武道館という素晴らしい場所で試合すること。また、メダルにはとどきませんでしたが、「あと一人の一本で」というところまで勝ち進めたことはぼくにとって一生の思い出になりました。これからも、剣道を続けていきたいです。

次鋒　岸田奈央子（六年生）

日本武道館の大きさにとてもびっくりしました。全選手の入場行進が終わるまで五〇分もかかりました。試合では勝てばブロック三位まで進みました。私は一本を取り勝つことができました。本当にうれしかったです。結果は一本差で負けてしまいました。とてもくやしかったけれどいい経験ができました。

中堅　國見菜々（六年生）

私は日本武道館の試合に出るのは二度目でした。去年より良い試合ができるようにしようと思い、普段の稽古のことを思い出して頑張りました。その結果、四回戦までいけました。

メダルはとれなかったけど、とても良い経験ができたので、この経験を生かして中学生になっても頑張りたいと思います

副将　谷本真智子(五年生)

私は稽古で教わったことを、精一杯頑張りました。メダルにはあと一歩届きませんでした。でも、これからの反省点を知ることや目標を持つことができました。この経験を生かして何事にも一生懸命取り組んでいこうと思いました。

大将　渡邉大樹（六年生）

一番印象に残っているは、三回戦の五加

育成会（長野県）との試合です。はじめに一本とられたけど、試合が終わる五秒前に胴がきまり、僕もチームも勝つことができました。最後まであきらめず強い気持ちを持って戦う大切さを学びました。

Bチーム（監督　藤川裕季子）

一回戦（基本判定試合＋一本勝負）

南平剣友会（東京）　敗退

先鋒　板場鈴々（五年生）

基本判定の切り返しと打ち込みでは勝てました。次の一本勝負では引き分けになりました。

チームとしては負けてしまいましたが、私としては頑張れたと思います。六年生で最後の大会では、頑張って入賞したいです。

次鋒　竹田貴紀（六年生）

こんなにたくさんの剣士がいるのだな、上手な人や強い人が本当にたくさんいるのだなと思いました。小学校生活のよい思い出になりました。

中堅　市瀬晴己（四年生）

初めての全国大会。日本武道館とても大きくて、人もたくさんいました。ぼくは、きんちょうしてしまって試合では負けてしまいました。くやしかったので次はぜったいに勝ちたいです。

副将　佐藤奏志（五年生）

僕は夏に武道館で行われた大会に出場しました。会場は大きく人が多かったのでとても緊張してしまいました。試合では自分から攻めることが出来ずに負けてしまいました。来年は勝てるように日々の稽古を頑張ります。

大将　眞貝幸音（五年生）

基本判定試合では一生懸命に稽古したことを出し切ろうと頑張りましたが一－二で負けてしまいました。一本勝負で取り返そうとしましたが思うようにいかず負けてしまいました。この大会に出場して、強い気持ちを持つ大切さがわかりました。これからの稽古を頑張ろうと思いました。

全国選抜大会に出場して

城北高校　冨田孔明

私たち男子剣道部は、県大会三連覇を成し遂げ三年連続の全国選抜大会出場を果たしました。先輩たちからの伝統を受け継ぎ県大会三連覇を目標に掲げ、チーム一丸となって日々の厳しい稽古を乗り越えてきました。

今年のチームは個人の力はそれほど高くありませんが、一人一人がチームのために頑張り五人の気持ちを繋ぐことで県予選を突破しました。その後も厳しい稽古や強豪校との練習試合の中で、技だけでなく、お互いに声を掛け合うことでチームワークを高めて全国大会に臨みました。

大会当日、一回戦の対戦相手は宮城県代表小牛田農林高校でした。試合前、大観衆と会場の雰囲気に圧倒され緊張しましたが、全力を尽くしました。しかし結果は、相手の勢いに押されて負けてしまいました。全国の大舞台で自分たちの持っている力を発揮することの難しさを実感しました。試合中、苦しい状況に追い込まれ弱気になってしまうこともありましたが、辛い時も共に励まし合い支え合った仲間の存在を思い出し自分を信じて戦い抜くことができました。満足のいく結果とはいきませんでしたが、憧れの舞台で試合ができた喜びや、全国大会の雰囲気を味わうことができ、いい経験になりました。

この大会を通して、改めて仲間の存在の大切さに気づくことができました。また日頃からご指導していただいた福多先生、白木先生、仁木先生、支えてくださった保護者の方々に心から感謝しています。この経験を活かしてそれぞれ自分の夢に向かって頑張っていきたいと思います。本当にありがとうございました。

第27回全国高等学校剣道選抜大会
徳島県代表　徳島県立城北高等学校
平成30年3月27日・28日　於・愛知県春日井市総合体育館

挑んだ全国選抜

富岡東高等学校
堺　麗美

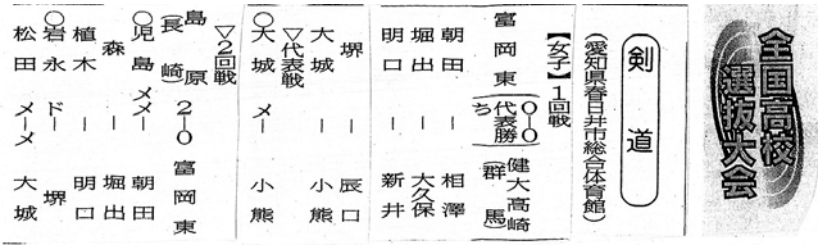
平成三十年三月二十六日から三日間、愛知県春日井市にて第二十七回全国選抜剣道大会が開催されました。このチームで挑む初めての全国大会であり、私自身も初めての全国という大舞台に少し緊張しながらも今までやってきたことを十分に発揮したいという強い気持ちで挑みました。

私は、この大きな舞台に立つまでに目標を持っていました。それは、「全国大会に出場する」ということです。私は、中学生から剣道を始め毎日強くなりたいという思いで、稽古に励んでいました。しかし、そんなすぐには上達しません。自分に足りないところや悪いところを直すためには日々の努力が必要だと感じ、基本的なことから一生けんめいしていこうと決めました。その時に「凡事徹底」という言葉を初めて知った私は、当たり前のことを当たり前にするように頑張っていきました。そして、県内の大会では団体準優勝、個人三位という結果を残せるようになっていきましたが、全国大会出場には一歩届かず悔しい思いをしました。それからずっと全国大会に出場したいという気持ちが強くあり、県内でも強豪チームである富岡東高等学校に入学しました。日々の稽古は厳しいもので、休みの日はほとんど県外遠征でした。中学生から始めた私には、驚くような一ヶ月の予定表だったことを思い出します。県外遠征から技術面だけでなく精神面も鍛えられ、とても良い経験をさせていただきました。自分が納得いくような試合ができなかったり絶対に勝たなければいけない場面で勝てなかった時もありましたが、仲間と支え合い一生懸命取り組みました。そして県大会で優勝し、「全国大会に出場する」という目標を達成することができました。

迎えた全国選抜。今まで経験したことのない独特の雰囲気の中、みんなで声をかけ合いチーム一丸となって戦いました。一回戦の相手は群馬県代表健大高崎高校。五人の中で唯一一年生の先鋒は果敢に攻めたが、引き分け。惜しい技もあり一年生ながらもチームに流れを引き寄せてくれました。しかし、なかなか一本に決めることが出来ず続く次鋒も引き分け。中堅も引き分け。そして副将戦、相手は全中優勝を経験している一年生でした。ここで一本取って大将に良い流れを繋げたいと思っていましたが副将も引き分け。そして大将戦、一本取ればチームの勝ち、勝つしかないという強い気持ちで戦ってくれました。しかし四分では決着がつかず、互いに一歩も譲らないという接戦になり、代表戦になりました。チーム全員の気持ちを背負いキャプテンである大城が一生懸命試合をしてくれ、その活躍のおかげで一本勝ち。二回戦に勝ち上がることが出来ました。二回戦目の相手は、長崎県代表島原高校。力強さがあり、全国でも名を馳せる強豪校です。しかし勝負はやってみないと分かりません。試合前にチーム

で「自分のペースで試合をする」や「相手に合わせない」「最後に一本勝っていればチームの勝ち」など円陣を組み合い、気合いを入れて挑みました。しかし、先鋒は勢いよく攻めていくも小手を打たれて二本負け。続く次鋒は、相手の流れを止めようと必死に攻めるが、引き分け。続く中堅は、ここで一本取っておきたいところだったが相手もねばり強く引き分け。そして副将の私は、ここで絶対に勝ちたいと自分のペースで流れを作ろうとするも、つばぜり合いで手元を上げたところで引き胴を打たれ、取り返すことが出来ず一本負けとなってしまいチームの勝負がついてしまいましたが、大将は最後の最後まで戦ってくれました。相手の足が止まったところを面に飛び込み一本先取。その後も惜しい技がたくさんありましたが、一本に決めることが出来ず試合の後半に引き面を打たれ引き分けとなりました。結果は負けてしまいましたが、この負けが私たちを強くし「全国ベスト八以上」という新しい目標に向けてこれからもっと頑張ろうという気持ちにさせてくれました。

高校三年間の剣道生活はあっという間でした。嬉しい時より苦しい時のほうが多かったと思いますが、剣道をしていなければこんなにも私にとって宝物になる経験は出来ていなかったと思います。厳しく指導してくださった監督の長井先生をはじめ上田先生やたくさんの先生方、保護者の方、一緒のチームとして戦ってくれた仲間には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。



全国高校選抜大会

剣道

（愛知県春日井市総合体育館）

【女子】1回戦

富岡東（群馬）○－○（代表勝ち）健大高崎

朝田 － 相澤

堀出 － 大久保

明口 － 新井

堺 － 辰口

大城 － 小熊

▽代表戦

○大城 メー 小熊

▽2回戦

島原（長崎）2－0 富岡東

○児島 メー 朝田

森 － 堀出

植木 － 明口

○岩永 ドー 堺

松田 メーメ 大城

平成三十年度 全国高等学校総合体育大会 三重インターハイに出場して

鳴門渦潮高校剣道部
主将　坂野修造

私たち鳴門渦潮高等学校は、今年の県総体団体の部で富岡西高校を下し、優勝することができました。これは鳴門渦潮高校剣道部創部以来、初めてのことで、インターハイ初出場となりました。

私は、小学校の頃に剣道を始め、小学校、中学校と続けていくうちに、高校で全国大会に出場したいと思うようになりました。入学してみると、同じ目標をもった同級生がそろい、明確な目標や研究心を持って、日々の稽古に打ち込むことができました。また、先生方の熱心なご指導に応えたいという思いもあり、より強い気持ちで稽古に取り組めました。

毎日の稽古はもちろん、土日祝日の遠征、渦潮稽古会、出稽古や学校生活を誰よりも努力して取り組んできました。思いが強すぎたのか、怪我をしたりして、長期間思うような稽古ができないこともありました。しかし、私たちは諦めることなく、今自分ができることを考え、自主的に練習を続けました。ウエイトトレーニング、体幹トレーニング、メンタルトレーニングやビジョントレーニングなど、最新のトレーニング理論を取り入れ、実践してみました。

三年生になり最後の県総体が近づくにつれ、稽古にも熱が入り、チームの意識も高まっていきました。新チームになってからは、県内の大会では優勝したことがありませんでしたが、最後の総体は必ず優勝するという強い気持ちで臨みました。

試合当日は今までにないような緊張で身体の動きも悪く、不安もありましたが、「最後の総体を楽しんでこい」の先生の言葉で緊張もほぐれ、いつも以上の力が発揮できたと思います。そして、この優勝は鳴門渦潮高校剣道部が一丸となれたからこそ勝ち取れたと思っています。

インターハイは、三重県伊勢市の三重県営サンアリーナで行われました。

チームの目標は、「ベスト八入賞」でした。しかし、全国大会の独特の緊張感に呑まれて、初戦は十分に力を発揮することができませんでした。予選リーグの相手は奈良県代表の奈良大学附属高校と青森県代表の八戸工業大学第一高校でした。結果は、初戦の奈良大附属高校に五対〇で完敗してしまいました。試合後のミーティングで、このままでは終われないと思いました。そのとき監督の山田先生が「『エンジョイ&チームワーク』自分たちの剣道をやろう、そして楽しもう。」と言ってくれて、吹っ切ることができました。二試合目の八戸工大一高戦では全員が見違えるように活躍し、三対〇で勝利することができました。残念ながら予選リーグを突破することはできませんでしたが、私は、最高の舞台で鳴門渦潮高校として最後の試合を勝利で終われたことを大変嬉しく誇りに思っています。

このように私たちがインターハイという大舞台で戦うことができたのも日々の稽古で熱心に指導してくださった山田先生、谷

本先生、石井先生をはじめ、渦潮稽古会でご指導いただいた先生方、先輩方、私たちをいろいろな面で支えてくださった保護者の皆さん、共に頑張ってきた部員のお陰だと思っています。　特に、山田先生がくださった言葉「エンジョイ&チームワーク」が自分たちをとても強くしたと思っています。また、人間的にも成長できたと思います。この鳴門渦潮高等学校で学んだ事を忘れずにこれからも頑張っていきたいと思います。

お世話になった多くの皆さん、本当にありがとうございました。

男子団体予選リーグ結果（Oリーグ）

Oリーグ	鳴門渦潮（徳島）	奈良大附属（奈良）	八戸工大一（青森）	得点	勝者数	総本数	順位
鳴門渦潮（徳島）		△ 0/0	○ 3/3	1	3	3	2
奈良大附属（奈良）	○ 8/5		○ 6/3	2	8	14	1
八戸工大一（青森）	△ 0/0	△ 3/1		0	1	3	3

第 1 試合（第四試合場 第 7 試合）

学校名	先鋒		次鋒		中堅		副将		大将		対戦結果
鳴門渦潮（徳島）	吉本		小山		前田		山下		坂野		△ 0/0
	▲	延長		延長					▲		
奈良大附属（奈良）	コ		メ▲		メメ		コメ		メツ		○ 8/5
	上田		舘井		林		山本		根本		

第 2 試合（第四試合場 第 9 試合）

学校名	先鋒		次鋒		中堅		副将		大将		対戦結果
奈良大附属（奈良）	上田		舘井		林		山本		根本		○ 6/3
	コ	引き分け		延長	コ	一本勝	▲メメ		メツ		
八戸工大一（青森）	ド		メ						コ		△ 3/1
	中村		田中		底田		向井		山本		

第 3 試合（第四試合場 第11試合）

学校名	先鋒		次鋒		中堅		副将		大将		対戦結果
鳴門渦潮（徳島）	吉本		小山		前田		山下		坂野		○ 3/3
		引き分け		引き分け	メ	一本勝	コ	延長	メ	一本勝	
八戸工大一（青森）											△ 0/0
	中村		田中		底田		向井		山本		

目的と目標
―インターハイ―

富岡東高等学校
大城　明裕奈

私が剣道を始めたのは小学校二年生の時でした。見学に行き、何気なく剣道を始めただけに、練習に行きたくないと思ったことが多々ありました。しかし、「剣道をする目的は人間形成ですが、目標は勝つことです」という先生の言葉で少しずつ勝つことに喜びを感じるようになりました。

中学校時代は、「全国大会でベスト八以上になる」という具体的な目標を掲げ、日々稽古に励みました。しかし、中学校最後の全国大会で、いよいよこれに勝てば全国ベスト八というところで惜しくも敗れ、悔しい思いをしました。そのため高校では、中学校で果たせなかった全国ベスト八以上を目指して頑張りたいと思い、伝統ある富岡東高校に入学しました。日々の稽古や数々の県外遠征の中で、長井先生を始め多くの先生方の熱心なご指導のもと、たくさんのことを学び経験することができました。多くの方々に支えていただきながら、仲間と共に一心不乱に稽古に取り組むことができたと思います。そして迎えた夏の全国大会――。

第六十五回全国高等学校剣道大会は「翔べ誰よりも高く東海の空へ」のスローガンのもと、平成三十年八月九日～十二日、三重県営サンアリーナで開催されました。私たちの目標は「ベスト八以上」、三年生にとっては今まで共に頑張ってきた仲間と一緒に戦える最後の全国大会、色々な思いがかけめぐりました。全国大会独特の雰囲気もあり緊張しましたが、チーム全員で声を掛け合い、強い気持ちで試合に臨みました。

予選リーグ初戦は埼玉県代表の淑徳与野高校との対戦でした。先鋒は一本先取したものの取り返され引き分け。続く次鋒も同じように引き分け、中堅の明口が果敢に攻め入り二本勝ち。副将・大将と相手に隙を与えず粘り強い試合で引き分け、一対〇で勝利しました。予選リーグ二回戦は宮城県代表の聖ドミニコ学園高校との対戦でした。先の試合で聖ドミニコが淑徳与野に三対一で勝っていたため、私たちが予選リーグを突破するには絶対に勝たなければなりませんでした。先鋒・次鋒と引き分け。中堅は開始早々一本を奪われ、必死に反撃したものの、取り返すことができず副将戦へ。副将福田は一年生ながら果敢に攻め続け、二本勝ちで大将へとリードした形で繋いでくれました。必死で繋いでくれた仲間の思いを胸に大将戦に挑み、予選リーグ二勝で決勝トーナメントへと進むことができました。

決勝トーナメントでは抽選の結果青森県代表の東奥義塾高校との対戦が決まりました。東奥義塾高校とは何度か対戦したことがあり、スピードや攻めの強さなど手強い相手ですが、この強敵に勝って長年の目標である、全国ベスト八以上になりたいという思いで、皆の気持ちを一つにして試合に臨みました。先鋒引き分け。次鋒は面を一

本先取したものの相手の強い攻めにおされてしまい小手と面を取られてしまいました。中堅はなんとか流れを引き寄せようと果敢に打ち込みましたが相手も隙を見せず引き分け。副将は取り返したいところでしたが、相手が一枚上で二本を取られここでチームの負けが決まってしまいました。大将の私は高校三年間のすべてを出しきろうと思いきって面に飛び込み一本を先取。しかし、一瞬の隙をつかれ引き技を奪われ、そのまま引き分けに終わりました。高校最後の全国大会はベスト十六でした。

「全国大会でベスト八以上になる」という目標を叶えることはできませんでしたが、十五人の仲間と共にインターハイという最高の舞台で精一杯戦い抜くことができたことは私の誇りです。長井先生を始め多くの先生方や先輩方、いつも応援して下さった保護者の皆さん、苦楽を共に乗り越えてきた仲間達に感謝し、私はこれからもまた新たな目標に向かって努力していきたいと思います。剣道の目的を忘れずに。

全国高校総体

東海

剣道女子 富岡東8強逃す

剣道

（三重県サンアリーナ）

【女子】団体予選リーグNブロック

富岡東 11（本数勝ち） 宮城 聖ドミニコ学院
朝田 岩井
堀出 佐藤
明口 有馬
○福田 内田
大城 相沢

富岡東 10 埼玉 淑徳与野
朝田 高原
堀出 浜野
○明口 金子
福田 佐々木
大城 鈴木

【女子】団体決勝トーナメント1回戦

青森 東奥義塾 2 0 徳島 富岡東
本間 朝田
○山村 堀出
斎藤 明口
○森永 福田
杉本 大城

富岡東は決勝トーナメント進出。

富岡東・大城明裕奈主将（2年連続の16強入り）

「8強以上を目指していたので悔しい。競り際などで甘さが出たところを相手に打たれた。一本取って満足せず、もう一本を狙って攻めていくことの大切さを学んだ」

全国中学校剣道大会に出場して

那賀川中学校　田上　力

「全中出場」は僕の小学生の頃からの「夢」でした。そして那賀川中学校に入学して、それは「目標」となりました。同じ思いを持った仲間たちと共に、チーム一丸となり長地先生の指導の下、日々稽古に励みました。技術面、精神面、体幹トレーニングなど「稽古の質と量」を意識して、努力してきました。県外遠征も積極的に参加し、強豪校との試合や錬成会など経験を積んでいくうちに、「挑戦」「諦めない」ということを学び、チームとしてある程度手応えを感じるようになりました。

そして県予選では、初戦から厳しい試合で接戦が続きました。一本の重みを全員で感じて戦いました。決勝戦は代表戦となり、長地先生や仲間のアドバイス、支えのおかげで勝利することができました。那賀川中学校男子は六年ぶりでしかも男女共に優勝することができました。表彰式では、うれしさで涙が止まりませんでした。

そして、次の日から徳島県代表として正々堂々と試合ができるようにと、決勝トーナメント進出を目標に、大会までの期間部員全員がそれぞれ課題を持って今まで以上に自分に厳しく稽古に取り組みました。

大会は、平成三十年八月二十二日～二十四日、岡山市総合文化体育館で行われました。台風直撃の悪天候でしたが、「重ねた努力　流した汗　光輝け　中国の地で」のスローガンのもとに無事開催されました。台風の影響で入場行進が中止となったのがとても残念でした。

予選リーグは新潟県代表燕中学校と埼玉県代表芝中学校でした。燕中学校とは三―〇、芝中学校とは二―二の本数負けでした。結果は残念ながら無念のリーグ敗退となりました。しかし強豪校に対し、気負けせず迷いのない思い切った剣道ができたと思います。試合が終わり、那賀川中学校の選手としての引退が決まった瞬間、悔しくてたまりませんでした。しかし、悔しさの中で学ぶことがたくさんありました。中学校での剣道に取り組んだ時間はとても充実していました。剣道を通じて色々なことを学び、色々な人と出会いました。それは僕の財産です。全国大会という夢の舞台で試合ができたのは、長地先生、齋先生、郡先生、少年剣道時代の先生方のおかげです。そしていつも応援してくださった保護者の方々、ご指導してくださったすべての先生方、いつもアドバイスをしてくださる先輩方に心から感謝しています。

そして、共に頑張ったチームメイトとの思い出は僕の一生の宝物です。中学校を卒業して別々の高校へ進学しても仲間であることに変わりはありません。今まで支えてくれてありがとう。僕はこれからも剣道を続けます。初心を忘れず今まで学んだこと、先生の教えを忘れずに頑張ります。本当にありがとうございました。

第48回全国中学校剣道大会結果（Ａリーグ）

Ａリーグ	那賀川中（徳島）	燕中（新潟）	芝中（埼玉）	得点	勝者数	総本数	順位
那賀川中（徳島）		△ 1/0	□ 3/2	0.5	2	4	3
燕中（新潟）	○ 5/3		○ 4/2	2	5	9	1
芝中（埼玉）	□ 3/2	△ 2/1		0.5	3	5	2

全国中学校剣道大会に参加して

那賀川中学校　河野　菜々子

私達、那賀川中学校女子剣道部は平成三十年八月二十二日から二十四日まで岡山県総合文化体育館で行われた第四十八回全国中学校剣道大会に出場しました。暑い夏も寒い冬も、この大会に出場することを夢に見て厳しい練習に耐えてきました。二年連続全国ベスト十六位で、今年こそは、もう一つ上を、そして目標の日本一をという気持ちでしたが、残念ながら予選リーグ敗退という結果に終わってしまいました。予選リーグでは、茨城県代表の守谷中学校と熊本県代表の尚絅中学校との対戦になりました。両校とも接戦となり、守谷中学校には本数勝ち、尚絅中学校には二－三で敗れてしまいました。

結果は、変えることができませんが、大切な仲間と一つの目標に向かい努力を重ねてきたことは、私達にとって大きな財産となりました。剣道は、一人の力で成り立つものではありません。周囲の多くの人達の協力をいただくことはもちろん、チームワークやお互いの信頼関係が大切になってきます。日々の練習から試合まで、その時々でお互いが切磋琢磨し、日々刺激し合っていかなければなりません。私達は全国大会に出場することで剣道の技はもちろんのこと、自分のモチベーションを高めることや、精神面の奥深さを再確認することができました。

今まで、私達に剣道をする素晴らしい環境を与え、毎日の練習や生活の中で多くのことを教えてくださった先生方、本当にありがとうございました。そして、いつも近くで応援してくれた家族や仲間に感謝しています。これからも、この大きな経験を生かし、新たなる目標に向かい真っ直ぐに進んでいきたいと思います。本当にありがとうございました。

結果（Dリーグ）

Dリーグ	守谷中（茨城）	那賀川中（徳島）	尚絅中（熊本）	得点	勝者数	総本数	順位
守谷中（茨城）		△ 2/2	△ 0/0	0	2	2	3
那賀川中（徳島）	○ 3/2		△ 3/2	1	4	6	2
尚絅中（熊本）	○ 2/2	○ 5/3		2	5	7	1

第六十回全国教職員剣道大会 団体戦第五位 『さらなる飛躍を目指して』

徳島県学校剣道連盟
福多雅英

平成三十年八月三日、第六十回全国教職員剣道大会が、第一回大会開催の地である大阪で開催されました。第二次世界大戦後、剣道が復活しこれからの新しい剣道は学校剣道が担うという情熱と決意を持って昭和三十五年二月に第一回大会が開催され、翌年には全日本学校剣道連盟が設立されました。

学校剣道に課されている使命は、日本の伝統文化として受け継がれてきた剣道を正しく伝えていくことにあり、剣道を通して児童・生徒の人格形成に寄与することにあります。剣道理念である「剣道は理法の修練による人間形成の道である」を肝に銘じて、『師弟同行』日々修練し、生徒への指導に責任を持ってあたることが重要であると考えられます。

剣道は「実践学である」と言われています。教職員の競技力の向上が生徒の剣道上達につながるひとつの要素であります。試合を通して自分自身の技術的課題を明らかにし、生徒との日々の稽古に活かすという教材研究の場であり、修練の場として意義があるのが全国教職員剣道大会です。

本県選手団の過去における大会戦績は、個人戦各部門（女子の部、義務教育の部、高校・大学の部）においては、優勝者四名をはじめ数名の入賞者を輩出していますが、団体戦ではベスト四以上の入賞は未だなく、優勝することが本県学校剣道連盟の悲願になっています。

その為に近年益々多忙になってきた学校現場ではありますが、限られた時間の中で如何に競技力の向上を図って行くかということを課題とし、悲願達成に向けて心を合わせて取り組んでいます。ここ数年、稽古熱心な力のある若手教員が増加してきており、ベテラン教員共々意識は高くなってきています。その成果として全国・四国大会でも他県の先生方から高い評価をいただけるようになり、一昨年の沖縄大会に次いで本大会でも五位に入賞することができました。また、玉田晋作先生が優秀選手として表彰を受けました。

このことは長年にわたる中体連・高体連での強化錬成や県剣道連盟の強化事業の成果でもあると考えられます。本年度は準々決勝で開催地である大阪代表に敗れ五位という結果に終わりましたが、悲願達成に向け、さらなる飛躍を目指して、強化に取り組んで行き、本県剣道界の発展に貢献することができれば幸いです。

試合結果につきましては次の通りです。

個人戦　女子の部

山本千尋　一回戦敗退

男子の部

竹内直生　二回戦敗退

第60回全国教職員剣道大会　団体戦

1 回戦

都道府県	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝数	本数	勝敗	代表戦
徳　島	白木	大石洋	大石真	玉田	福多	3	6	○	
	メ	メ	コ	メ	メコ				
鹿児島			メ	メ		0	2	×	
	北園	鶴田	安田	福屋	久保				

2 回戦

都道府県	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝数	本数	勝敗	代表戦
徳　島	白木	大石洋	大石真	玉田	福多	4	7	○	
	メ	メメ		メコ	メメ				
青　森			コメ			1	2	×	
	中村	柴田	前堀	鹿内	鶴谷				

3 回戦

都道府県	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝数	本数	勝敗	代表戦
徳　島	白木	大石洋	大石真	玉田	福多	1	1	○	福多
		▲		メ					メ
和歌山	ド		▲			1	1	×	
	藤岡	太田	小川	菅谷	貴志				貴志

4 回戦

都道府県	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝数	本数	勝敗	代表戦
徳　島	白木	大石洋	大石真	玉田	福多	0	1	×	
			▲	メ					
大　阪	コ		コメ	コ	ドコ	3	6	○	
	松本	吉田太	村上	今泉	吉田一				

第十三回全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会に参加して

小学生の部
監督　山本泰史

平成三十年九月十六日おおきにアリーナ舞洲において表題の大会が盛大に開催されました。この大会は郷土の名誉をかけ、相手の優れた点を学びとり、友情を深め、勝つことだけを目的にしないで代表としてふさわしい模範となる試合運びやマナーでの日本一も目指す大会です。このような素晴らしい大会に徳島県チームが毎年出場できるのも、三木会長をはじめ、少年少女の将来を見据えた諸施策を講じてくださる松村先生、遠征のたびにバスで送迎くださる寒川先生、毎月の強化錬成において講師をしてくださる臼木先生、また県内少年剣道教室の先生方、保護者の皆様のご理解、ご協力あったればこそです。また、今回、中学生の部監督の長地先生、コーチの塚原先生からは、子供達のやる気スイッチを押す温かい励ましの言葉を頂戴するとともに一段上の視座で勝負をすることの大切さについて勉強させていただきました。この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

今年も昨年同様、四月から選考会をはじめ、剣士五名が代表として選ばれました。

〔徳島県代表〕
先鋒：蔵本望海（川島剣道スポーツ少年団）
次鋒：横山　舞（石井少年剣道クラブ）
中堅：本庄創思（大野小学校剣道部）
副将：近藤真桜（石井少年剣道クラブ）
大将：片岡恭二朗（徳島少年剣道教室）

今年は、これまでおこなってきた印南遠征、岡山遠征に加え、滋賀遠征に初参加し、チームワーク強化に努めてきました。子供達は、多くの人からの声援・励ましを受け、自己のベストを尽くし、正々堂々勝負しました。結果は予選リーグ敗退。前日の練成会ではチームワーク抜群で、代表チームと対戦し二戦二勝するなど、万全の状態だっただけに、勝たせてあげられなかったのは、監督の責任です。猛省し、次回大会に向け全力で取り組む所存です。　大会後の子供達の感想文では、これからの決意の言葉があり、この大会を通して、一回りも二回りも成長していることを実感しました。「打って感謝・打たれて感謝」の精神で相手を敬う気持ちを忘れず、将来の日本を担う立派な人となることを切望します。

松村先生から『剣道を愛する少年少女を増やし、剣道界のすそ野を大きく広げなければいけない。そのためには指導者自ら手本となり、子供の成長過程に伴うように指導することが大切である。子供を知り、その子にあった指導法で教えを育む気持ちで指導者も考え、研究することが大事である』とご指導いただいております。このことを肝に銘じ、微力ではありますが、今後も徳島県剣道連盟の発展のため邁進する決意です。

先鋒　蔵本望海

ぼくは、都道府県大会を終えて、すごく良い経験や思い出ができました。ぼくは、大会での目標は予選をとっぱすることでしたが、することができなくてくやしかったです。でも他の都道府県の人と試合や練習試合ができてうれしかったです。

二ヶ月前にチームが決まったそのころは、みんながあまり一つにまとまっていなかったけど遠征で試合をしていると自然と仲良くなって一つになったと思います。その成果が大会前日の練習試合で出たのではないかと思います。大会当日の試合では、一試合目は三重県として全然かなわなかったけど、二試合目の宮城県の試合では、接戦になって勝てるのではないかと思いましたが負けてしまいました。だけど、すごく良い経験になりました。

最後に、ぼくはこのチームで試合ができてすごくうれしかったです。だけどうれしいことばかりではなく、くやしい思いもしました。そんなときにチームの人が声をかけてくれてすごくうれしかったです。なのでぼくは後かいしていません。そして、またこのチームで試合をしたいです。

チームにもどっても、練習・試合で会ったら声をかけ、応えんをしていつまでも良い仲間でいたいと思います。

次鋒　横山舞

九月十六日に、全国大会があって前日に練習試合がありました。練習試合が終わって次の日に全国大会がありました。一試合目は、声を大きくして気持ちだけは絶対に負けない。という気持ちで、試合をしました。すると負けてしまいました。二試合目をする前に、どうして負けたのかよく考えました。

私が思ったのは、相手のペースにあわせてしまっていたので負けたと思いました。もう一つは、足がつかえてなかったからだと思いました。二回目は、一試合目の悪かったところを反省してやりました。すると、見事に一本とれました。しかし、また一本とられました。試合は引き分けでした。帰りのバスで、なぜ負けたのかよく考えました。もうちょっと声を出したり、もうちょっと眺めにきめたりしたら試合でもいい結果が残せたと思いました。全国大会は終わってしまったけれど、次は県の大会があるので、それにむけて全国大会の反省点を直して、県にむかいたいと思います。

中堅　本庄創思

まいどおおきにアリーナに初めてきて、全国の舞台の大きさにおどろいた

のとともに、徳島県代表として、恥じない試合をしなければと思った。前日の練習試合では、チーム一丸となって、沖縄と岩手に勝つことができた。

試合当日は、練習のときから、絶対勝つという気持ちを胸にとり組んだ。練習が終わり試合の前に、山本かんとくのもと、円陣を組み勝利するぞという気持ちを高めた。

一回戦は、三重との試合。先鋒、次鋒とが二本負け。そこで、ぼくが試合の流れをかえなければ！という思いで試合に望んだ。相手はぼくよりせが高くやりにくそうな相手だなあと感じた。実際に戦ってみるとぼくのこんしんの引き面がきまったと感じたが、そこを相手に追いこまれて面をきめられてしまい、一本を取られた。そこで引き面をもっとアピールしておけば面をとってくれたかもしれないという悔しい思いを残しつつ結果一本負けをしてしまった。チームとしては、五勝〇敗だった。

二回戦は、宮城との試合。先鋒が一本勝ち、次鋒が引き分け、そこでぼくは、守らなければならないと思った。相手は、ぼくと同じタイプでやりにくかったけれどなんとか引き分けで次につなぐことができた。チームとしては負けてしまったが、ぼくはいい試合ができたと思う。

代表に選ばれて、精神的な強さと、チームワークの大切さを改めて感じた。中学生でもがんばって、もう一度全国に行く！

副将　近藤　真桜

昨年、兄の応えんに行った時から、私は自分も出場できるようにがんばろうと思っていました。選手を決めるための予選では十人の中で勝ちぬかなければならず、気温の高い中での戦いは、最後は気持ちの勝負でした。とても苦しかった分、自分の名前が呼ばれたときはとてもうれしかったです。

八月は岡山、兵庫県印南道場につれて行っていただきました。私にとって県外遠征は今回が初めてで不安な気持ちもありました。勝ったり負けたりしながらたくさん練習試合をしましたが、最後まで弱音をはかずにがんばれたのは、毎月たくさんの先生方に強化していただき、また石井の四〇℃近い道場で仲間とけいこをがんばってきたからだと思いました。大会一週間前の滋賀遠征では一本でも多くとれるようにがんばりましたが、一本もとることができませんでした。なかなかチームで勝つことができずこまっていましたが、いろいろみんなでがんばっているうちに五人が声をかけ合うようになり、チームワークがよくなってきたとおもいました。試合前日の練習試合では全勝することができました。団結し、むかえた当日、ドキドキしましたが声を出し

てがんばりました。残念ながら予選リーグで負けてしまいましたが本当に良い経験になりました。

日ごろから道場や強化でご指導していただいている先生方ありがとうございました。中学校でも剣道をがんばっていきます。これからもご指導よろしくお願いいたします。

大将　片岡　恭二朗

ぼくは、都道府県大会に出場して感じたことがあります。それは、全国のレベルについてです。岡山遠征や滋賀遠征では、「このぐらいか。」と思っていました。しかし、本会場に来てみると、いままで以上に強く、予想をはるかに超えるものでした。遠征の時に勝てても、全国大会本番となると、全く歯が立たないことを実感しました。

特に、打ちのするどさや足さばきのうまさのちがいを見せつけられました。しかも一番おどろいたのは、相手が打ってくるのをものともせず、飛び込んでくる面です。ぼくは、逆にビビって雑に対応し、一本をとられてしまいました。

全国大会に出場して得たもの、それは気持ちで負けないということです。ビビらずに自分から攻めて打つということを考えて、次の大会にのぞみたいです。てがんばりました。残念ながら予選リーグで負けてしまいましたが本当に良い経験になりました。

日ごろから道場や強化でご指導していただいている先生方ありがとうございました。中学校でも剣道をがんばっていきます。これからもご指導よろしくお願いいたします。

第十三回全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会に参加して

徳島県中学校選抜チーム
監督　長地千景

平成三十年九月十五～十六日と大阪府で開催された全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会に参加させていただきました。何もかもが初めての経験で、先輩方からたくさんのご指導、ご助言をいただいてから大会に臨むことになりました。

大会前日の練習試合では、「チームワーク」を合言葉に、一試合一試合を大切に取り組みました。監督の仕事は、指導はもちろんのこと、チームをまとめ、より良い方向へと導いていくものだと考えています。だから、積極的に選手に声をかけていきました。そうすることで、選手たち自身も積極的に仲間への応援、賛辞、前向きな声かけをするようになりました。その姿を見て、剣道の素晴らしさを改めて感じました。学校も学年も違う選手が集まり、同じ目標に向かって努力することによって、選手にとっても、監督にとっても素晴らしい経験となりました。ライバル意識から仲間意識へと変わり、絆が一層深まったように思いました。

迎えた大会当日。試合結果につきましては、次の通りです。

○徳島県中学校選抜チーム

選手　先鋒　岡﨑　理（那賀川中）
次鋒　松山若樹（徳島中）
中堅　永濵幹大（北島中）
副将　橋本青空（那賀川中）
大将　松本尊灯（徳島中）

○試合結果

予選リーグ一試合目
徳島　○―二　茨城

予選リーグ二試合目
徳島　一―二　長野

リーグ初戦は茨城県チーム。初戦ということもあり、なかなか流れをつかめず惜敗。リーグ二試合目の相手は長野県チーム。すでに茨城県チームが二勝を収め決勝トーナメント進出を決めていました。共に一敗をしている徳島、長野の両チームにとってはこれが最後の戦いとなります。この試合をもって三年生は現役を引退することになります。最後は、勝利を収めて選手たちにとって思い出に残るものにしたいという思いでした。しかし、惜しくも一本の差で負けてしまいました。

予選リーグ突破はなりませんでしたが、この大会を通じて学んだことがたくさんあります。あと少しで一本になる打突を確実に一本にするにはどうすればよいのか、ということです。上位入賞チームの試合から、気剣体がもたらす一本への執念、そして勝負から逃げない心の強さを勉強させていただきました。

選手たちは、学んだことを生かし、個々の次の目標に向かって進んでいこうとする凛とした強さを発揮し、今なお努力を重ねています。そのようなたくましい選手たちを、ずっと応援していきたいと思っています。

最後に、大会出場に対し、ご指導、ご支援くださった徳島県剣道連盟の先生方、保護者の皆さまに心より感謝いたします。本当に、ありがとうございました。まだまだ指導者として未熟ですが、日々精進していきたいと思っています。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

四国教職員剣道大会三連覇！

徳島県学校剣道連盟
事務局長　岩　原　靖　人

平成三十年八月二十日（月）高知県高知学芸中学・高等学校体育館において第三十八回四国教職員剣道大会が開催されました。この大会の選手編成は次のとおりです。

監督　一名
大将　五五歳以上　一名
副将～三将　五〇歳以上　二名
四将～中堅　四九歳～三六歳　四名
八将～十一将　三五～二〇歳　四名
先鋒・次鋒　女子　二名

この大会において徳島県は、平成二十八年度より二年連続優勝を果しております。本年度は六月の県予選を勝ち抜き、先に行われた全国教職員剣道大会において団体ベスト八に入賞した選手を中心に徳島県初となる三連覇を目指し編成されました。

試合は、日頃各学校において生徒の指導にあたりながら、自己研鑽を積まれた先生方の活躍で、徳島県は見事三連覇をはたすことができました。

初となる大会四連覇に向けて、各学校において先生方が更なる研鑽に努められ、六月の予選会には多くの先生方が参加され、徳島県学校剣道連盟を盛り上げていただけますようお願いいたします。

【対戦結果】

チーム名	愛　媛	香　川	徳　島	高　知	勝ち点	勝者数	本　数	順位
愛　媛		○ 15/7	△ 5/2	○ 9/6	2	15	29	2
香　川	△ 9/5		○ 11/5	2/2	1	12	22	3
徳　島	○ 13/6	△ 9/4		○ 13/7	2	17	35	1
高　知	△ 9/4	○ 8/6	△ 4/1		1	11	21	4

第38回（平成30年度）四国教職員剣道大会

平成30年 8 月20日(月)　高知学芸中学・高等学校体育館

第 1 試合

	先鋒	次鋒	11将	10将	9将	8将	中堅	6将	5将	4将	3将	副将	大将	得点
徳島	山本	前田	西田	森	大石洋	大石真	磯部	谷	長井	飯田	玉田	冨浦	福多	○
		㋝	㋞メ		㋝ツ			㋝		㋝メ	㋝ド	㋞	㋞コ	6 (13)
愛媛		メ		一本勝㋝		メ㋝		メ						2 (5)
	田中麻	武下	岡田	菅	富永	瀧本	森本	嶋家	山本	芝	田中英	水本	信尾	×

第 2 試合

	先鋒	次鋒	11将	10将	9将	8将	中堅	6将	5将	4将	3将	副将	大将	得点
徳島	山本	前田	西田	森	大石洋	大石真	磯部	谷	長井	飯田	玉田	冨浦	福多	○
		㋝コ		▲㋝メ	㋝メ	㋞	㋝一本勝	㋟一本勝			㋞ド	コ	㋝一本勝	7 (13)
高知			メ㋝			ド						㋝		1 (4)
	小松	津野	坂本	倉松	市川	中澤	森	林	山本	東野	矢野	宇賀	久保	×

第 3 試合

	先鋒	次鋒	11将	10将	9将	8将	中堅	6将	5将	4将	3将	副将	大将	得点
徳島	山本	前田	西田	森	大石洋	大石真	磯部	谷	長井	飯田	玉田	冨浦	福多	×
	○○	㋞一本勝		㋝一本勝	▲㋝		㋝一本勝				㋝	㋝	㋝	4 (9)
香川		▲	メ㋝		コメ	一本勝㋝		一本勝㋝		メ㋟	メ	メ	コ	5 (11)
	井内	橋本	小川	山崎	山下	宮田	小林孝	久保	千葉	鳥居	宮本	小林基	松原	○

第五十七回全日本女子剣道選手権大会を終えて

警察支部　木浦萌愛

今年の全日本女子剣道選手権大会は、平成三十年九月二十三日、長野市真島総合スポーツアリーナホワイトリングで行われました。

私は、今回初出場となりますが、全国の女性剣士が目標としているこの舞台で試合ができるということは、長年の目標でもあったためとても嬉しく感じました。たくさんの思いを胸に「徳島県の代表」として胸を張って出場しようと、大会までの間、剣道の技術だけでなく気持ちの部分でも成長することができたのではないかと思いました。

初めての舞台は、何もかもとても新鮮で緊張感と共に楽しさも感じました。「思い切って、悔いのない試合をしよう。」と心に決めて試合に挑みました。しかし、結果は一回戦敗退で、自分自身とても悔しい気持ちのまま大会を終えることになりました。

試合を終えて帰県し、今回の大会で自分に何が足りなかったのか振り返ってみました。全国で上位に入賞した選手は、必ず一本にする力があり、どの試合を見ても自信に満ちあふれた試合をしていました。各県の代表選手の試合を見て、自信に満ちあふれた試合ができるのは、きっと誰にも負けない「努力」を毎日してきているからだと思いました。今の私は、仕事と剣道を両立していかなければならないという現状であり、時間も限られているなか、努力をする時間は自分で確保していくことが、今後自分を強くするために必要なものだと考えました。

これまでの自分自身を振り返り、私は自分に対して弱い所がたくさんあると思いました。全国大会で上位入賞の目標を達成するためには、弱い自分と戦っていかなければなりません。今よりも強くなるため、弱い自分と戦うためにはどうするべきかと考えていたところいつも支えてくれている両親の存在が思い浮かびました。私の両親は、幼いときから出場した大会は必ず応援に来てくれて、誰よりも応援してくれていました。仕事で疲れているにもかかわらず、県外で行われた大会に出場したときも応援に来てくれて試合結果がよくなくても、「お疲れ様。よく頑張ったね。」と声をかけてくれました。そんな両親の事を思うと、自分のためにこんなに必死に応援をしてくれているのに、負けてばかりではいられないと思いました。

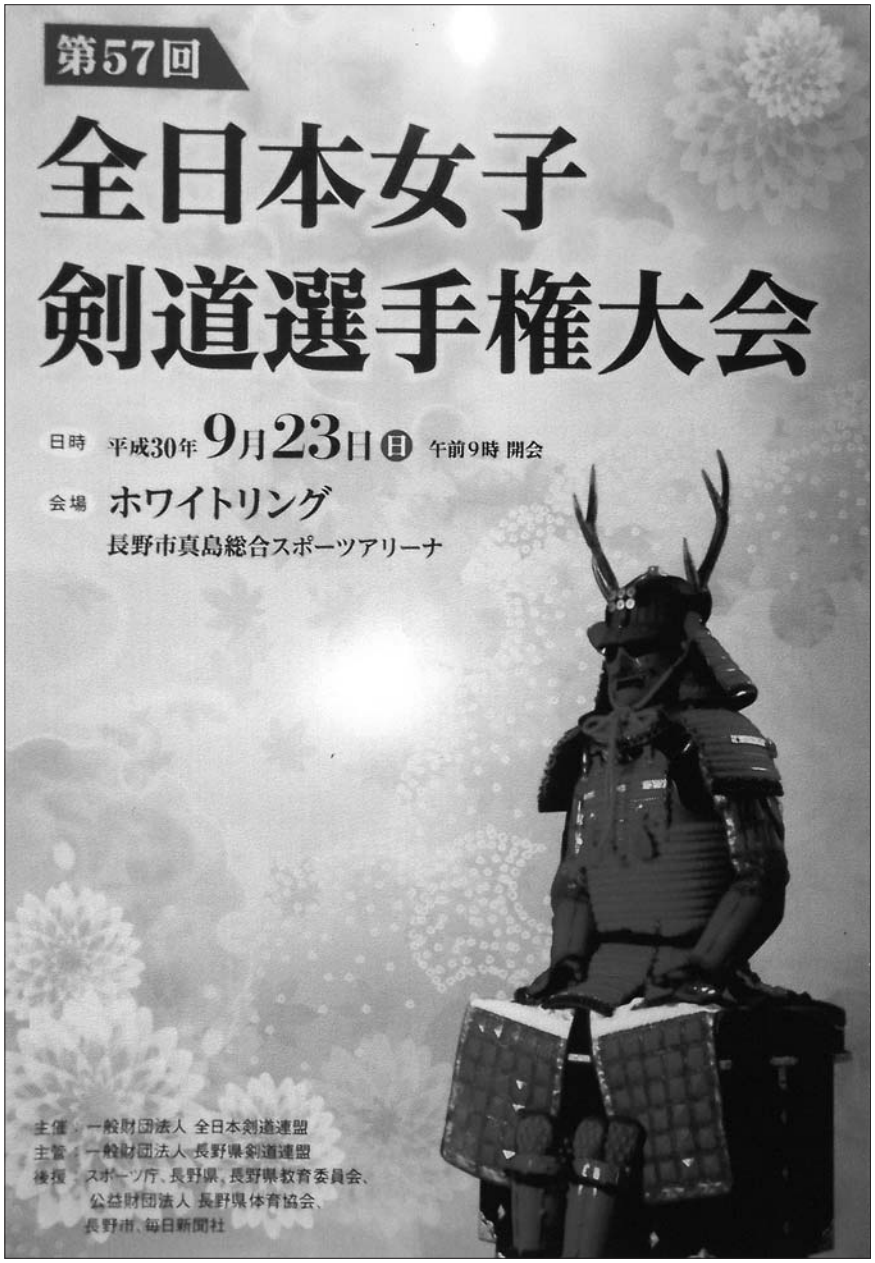
今まで、自分のためだけに戦っていればそれでよいと思っていましたが、弱い自分と戦っていくためには、いつも支えてくれている家族の存在であったり、ご指導していただいている、先生方や先輩方の存在はとても大切であると思います。

今回の大会は、初出場であったのですが、たくさんのことを学ぶことができました。

試合を通して自分に足りないものや、今後どうしていくべきかなどが明白になったこと、「また、この舞台で試合がしたい。」と強く思うことができました。この思いを

忘れることなく初心の気持ちで日々の稽古を頑張り、また一日一日を大切にし、誰にも負けない努力をしていきたいと思います。

本大会に出場できたのもご指導してくださった先生方、家族を含め多くの方に支えられてきたということを忘れることなく常に感謝の気持ちを持ち、また出場できるようしっかりと頑張っていきたいと思います。



交剣知愛
第六十四回全日本東西対抗剣道大会

警察支部　平野誠司

平成三十年九月二日、仙台市青葉体育館において、第六十四回全日本東西対抗剣道大会が開催されました。私は西軍の選手（八将）として出場いたしましたが、この大きな舞台に推薦、選考していただきました先生方には、改めまして心から感謝申し上げます。

試合に臨んでは、雑念の入らぬよう、心身を研ぎ澄ませ、来るべきその瞬間に最善を尽くす一心でした。過去を振り返ってみても、大舞台で勝ちたいという欲をコントロールできないときは、その力を発揮することは難しいものです。

人間誰しも、勝負事においては勝ちたいし、いい試合をしたいものですが、ただ、この気持ちは打たれたくないという気持ちを増幅させ、心身を固くさせてしまいます。

「負けることなし、勝つことなし、是非を言わず、己を全うして外を願わず。」

～後先のいらぬところを思うなよ、ただ中程の自由自在を～（雲弘流）

この自由自在を維持すること、今回もこの一点に集中すると自分に言い聞かせてまいりました。

試合を振り返ってみますと、

一本目、

「両者、獅子の位で立ち上がるとお互いに間詰めをし、打ち間の攻防となりました。幾度となく打突を試みますがうまくかみ合いません。数分後、懸待を駆使して機会をうかがいながら攻勢に転じた瞬間、突きに出るとこれが有効打となりました。」

二本目、

「相手の先がだんだんと強くなってきます。前後左右に間の攻防を繰り返しながら、互いに先を取り合いが続きます。一瞬、相手の小手－面と渡ってきた二段技に対処が遅れ、ヒヤッとした場面がありましたが、その後、表から正中線に体を入れながら面に出ると、相手はそのまま受けとなり、一瞬早く面を捉えることができました。」

六分四十八秒の戦いでした。お互いが求め合った真剣勝負は、勝っても負けても自分の問題として、次の機会へと活かされます。他人の問題ではなく、自分の問題としてです。

現代に伝承された剣道は、これまでの実用文化（武術）、芸道文化（武芸）を串刺しにした競技文化（武道）です。その武の文化価値を競技を通して実感しうるためには、試合に臨む試合者の思いが大切なのであります。

何をどう勝負するのか。

試合、その勝負の空間において剣道の真髄が少しでも可視化できれば、この平和主義の世の中で竹刀という剣で真剣勝負をする意味について、その目指すところに辿り着くように思います。

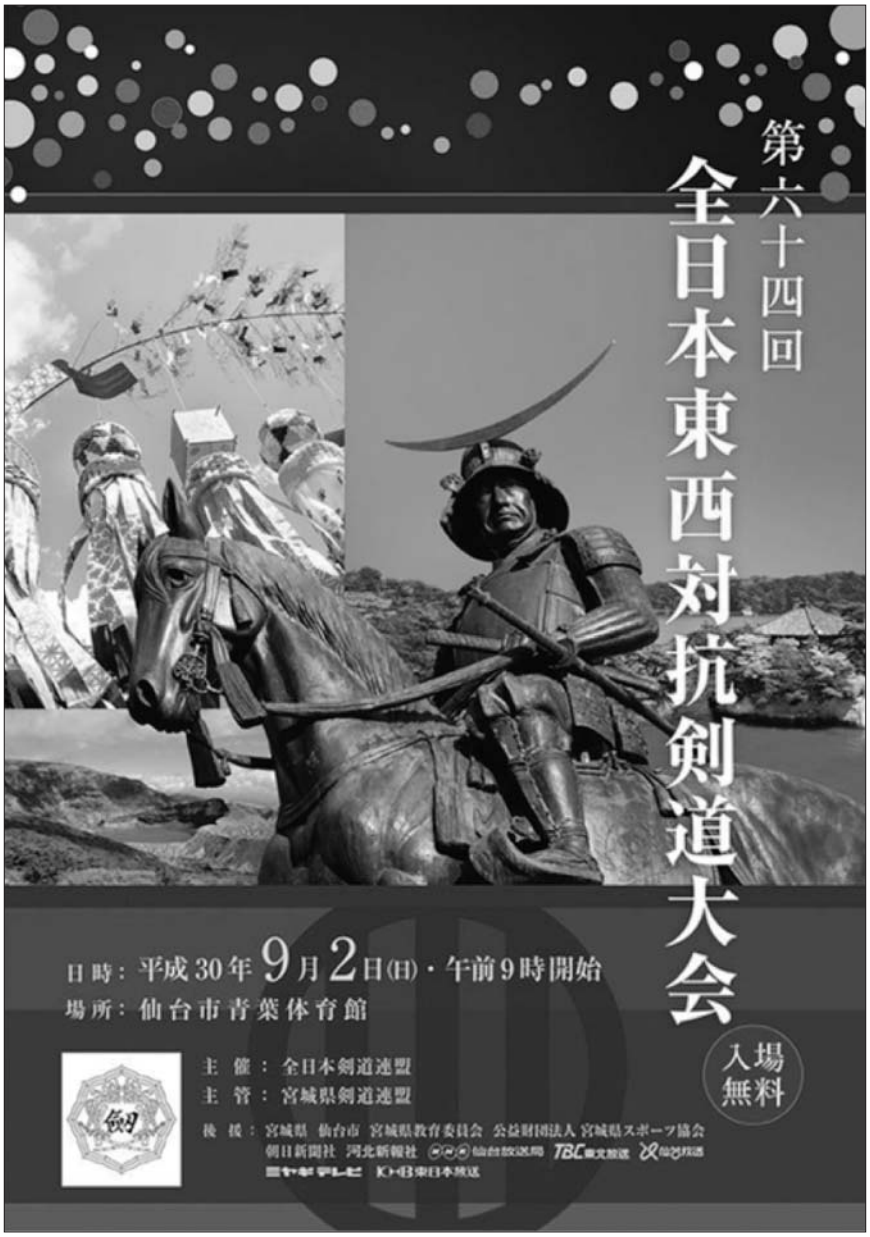
一つの真剣勝負、その中で自らの身体を通して新しい自分を発見しようとする。この営みこそが現代の剣道に与えられた使命

でもありましょう。

心の豊穣なくして剣道はありえない、また心が荒む剣道では継続は不可能です。次の世代にも伝承されることはないでしょう。

今日も心に響く爽快な一本、交剣知愛の実践は心を育み、輪を広げ、そして自他ともに人生を豊かにしてくれることでしょう。小川忠太郎先生の「剣道は正しく、楽しく、仲良く」という言葉が頭に浮かんできますが、兎にも角にも上向下向の剣行はまだまだ続いてまいります。ご指導宜しくお願いいたします。

合掌



明治百五十年記念 第七十三回国民体育大会に出場して

警察支部　浅田光貴

平成三十年九月三十日から十月二日までの間、福井県福井市（福井県立武道館）において、明治百五十年記念第七十三回国民体育（福井しあわせ元気国体）剣道競技が開催されました。

徳島県チームとして、

監督　西谷　肇一
大将　福多　雅英
副将　平野　誠司
中堅　六條　洋二
次鋒　宮本　靖之
先鋒　浅田　光貴

で臨みました。私は、先鋒として出場させていただきました。

私は、国民体育大会に参加するのは三回目になりますが、徳島県代表としては初めてのことで、この様な先生、先輩方と同じチームで大会に出場できることは大きな喜びと少し不安で大会に臨みました。

大会前日、練習会場で私の出身地である鳥取県チームと一緒になり、お世話になった先生方、高校時代の先輩、後輩と話をする機会がありました。「お互いチームは違うけど技を出し切ろう」と声をかけていただきました。現在の徳島県はもちろん県外の知り合いの方々と一緒に試合できる喜びを改めて感じました。

大会当日、一回戦の相手は山形県でした。試合では、先鋒の私が勝ってチームに勢いをつけたかったのですが、同級生の相手に「負けたくない」という気持ちが先走ってしまいなかなか技を出し切ることができませんでした。延長に入って、どこかで勝負を仕掛けなければ勝てないと思い、最近練習していた手元を少し浮かせ小手を狙わせておいて面で返す技を出しました。結果は、先に小手を打たれ負けてしまいました。次鋒の宮本選手が上段から片手面を決め勝ち。中堅の六條選手は飛び込み面や引き技等惜しい技を出すが一本負け。副将の平野選手が長時間の延長の末、面を決め切り勝ち。大将の福多選手は有効打突を取り合う展開となりましたが、惜敗し、チームとしても結果三対二の惜敗でした。

今回の試合で、先をかけていないと技を打ちきることができないと反省しました。これからは、先をかけ先に打つというよりは先に攻めることを課題に精進していきます。

最後になりましたが、今までご指導、ご支援いただきました徳島県剣道連盟の先生方に御礼を申し上げ、明治百五十年記念第七十三回国民体育大会の報告とさせていただきます。

試合結果

徳島　二（三）－三（四）　山形

先鋒	浅田	－	コ　日向
次鋒	宮本	メ	－
中堅	六條	－	メ　土門
副将	平野	メ	－
大将	福多	メ	－

第五十三回全日本居合道大会に出場して

居合道部　徳山　豊

第五十三回全日本居合道大会都道府県対抗優勝試合が平成三十年十月二十日に茨城県武道館において開催され、徳島県チームの一員として出場させていただきました。ここに大会の概要と反省を述べたいと思います。

試合方法は、各県代表（五、六、七段各一名）三選手を各段別に三試合場に分けてトーナメント方式により試合を行い、各段ごとに一位、二位の順位を決めます。勝者には、勝つごとに一点を与え、各県選手三名の得点（勝数）の合計数をもって団体成績が決定されます。試合は、紅白のコートに分かれ、古流二本（自由）と全剣連居合三本（指定技）の計五本を対戦する二人が同時に抜きます。二人の演武の優劣を三名の審判が判定し紅白の旗を揚げ、二本以上揚がった方の勝となります。空手の型演武では一人ずつが演武していますが、それを二人同時に行い判定すると想像してください。

今回の徳島県チームは監督・坂本憲一先生、副監督・吉岡修一先生で、選手は、七段の部・福井勝選手、六段の部・内海直弥選手、五段の部・徳山豊のメンバーでした。試合結果は、福井選手は一回戦シードされ、二回戦で宮崎県の佐藤選手と対戦し〇―三で敗退。内海選手は一回戦シードされ、二回戦で宮崎県の児玉選手と対戦し〇―三で敗退。徳山は一回戦で、福島県の舘川選手と対戦し〇―三で敗退という結果に終わりました。総合順位は、シードがあったことで二十位台に入りましたが、満足できる結果を出すことができませんでした。

原田先生のご指導を仰ぎながら、坂本先生の強化練習計画の下、強化を重ね、高知・香川両県と二日間の合同稽古を実施するなど精一杯取り組んできましたが、全国の壁の厚さを痛感させられました。ちなみに、高知県は総合三位、愛媛県は七段の部で準優勝、香川県は五段の部で優勝者を出すな

ど輝かしい成績を残しており、同じ四国の県として一層頑張らなくてはとの思いを強くしました。居合道人口が少なく選手層の薄い本県としては、若い層の育成が大きな課題であろうと思います。

私自身の反省は、普段どおりの演武ができなかったことが悔やまれます。自分の力を出し切って敗れたならそれなりに満足もできますが、普段の動きが全くできませんでした。ご指導いただいた先生方に申し訳ない思いで一杯です。全日本大会への出場は、三年前の福岡県での五十回大会に続いて二回目ですが、前回の雪辱を果たすべく精進してきましたが本番で力を出せませんでした。一番の敗因は、メンタル面での弱さだと思います。緊張する場面にあって、普段どおりの動きができないのは、実力がないということです。ご指導いただいてきた亀井洋祐先生（高知県）からは、「肩でも痛めているのかと思った」と言われてしまい、情けない思いでした。臥薪嘗胆を肝に銘じて、また一から出直し稽古に励みたいと思います。

最後になりましたが、ご支援いただきました徳島県剣道連盟、ご指導いただきました諸先生方、応援いただきました居合道部の皆様に心からお礼申しあげます。

徳島県チーム　左から、徳山、内海、福井、坂本

全日本剣道選手権大会に臨んで

徳島文理中学・高等学校
教諭　大石洋史

日本武道館において開催された第六十六回全日本剣道選手権大会に徳島県代表として出場してまいりました。各県の精鋭が集まる大舞台で、自分の剣道を表現しつつ結果も出すということは簡単なことではありません。三回目の挑戦となった今大会では、とにかく自分の弱い部分に打ち克ち、捨てきった一打を目指すことで自ずと結果もついてくるのではないかと考え、稽古に励みました。

全日本選手権は出場者の大半を警察官の選手が占めます。教員の立場としてどの部分で勝負すべきなのか、体力技術だけでなく剣道の極意とされる部分を求めることで勝機を見いだせるのではと考えました。日頃より一方通行の攻めではなく、中心を崩さず攻めのやりとりを意識するようにしました。またトップ選手と比べ、体力面の差が大きいと勝負になりません。早朝や夜などにその面を補うトレーニングは欠かさず行いました。

また精神的な面も重要になってきます。相手より上位に立つこと、相手の心を動かす気位、自分自身の心が崩れない、という点を求めました。どうすればこのような精神力が身につくのかは手探りの状態でしたが、日常生活から心を整える習慣を作ること、時間を作り上位の先生方に懸かる稽古をするなどの取り組みをしました。

年間を通じた稽古や大会直前の調整、対戦相手の分析等を積み重ね、心身ともに非常に良いものに仕上がり、後は本番で力を発揮するだけだと手応えを感じ当日に臨みました。

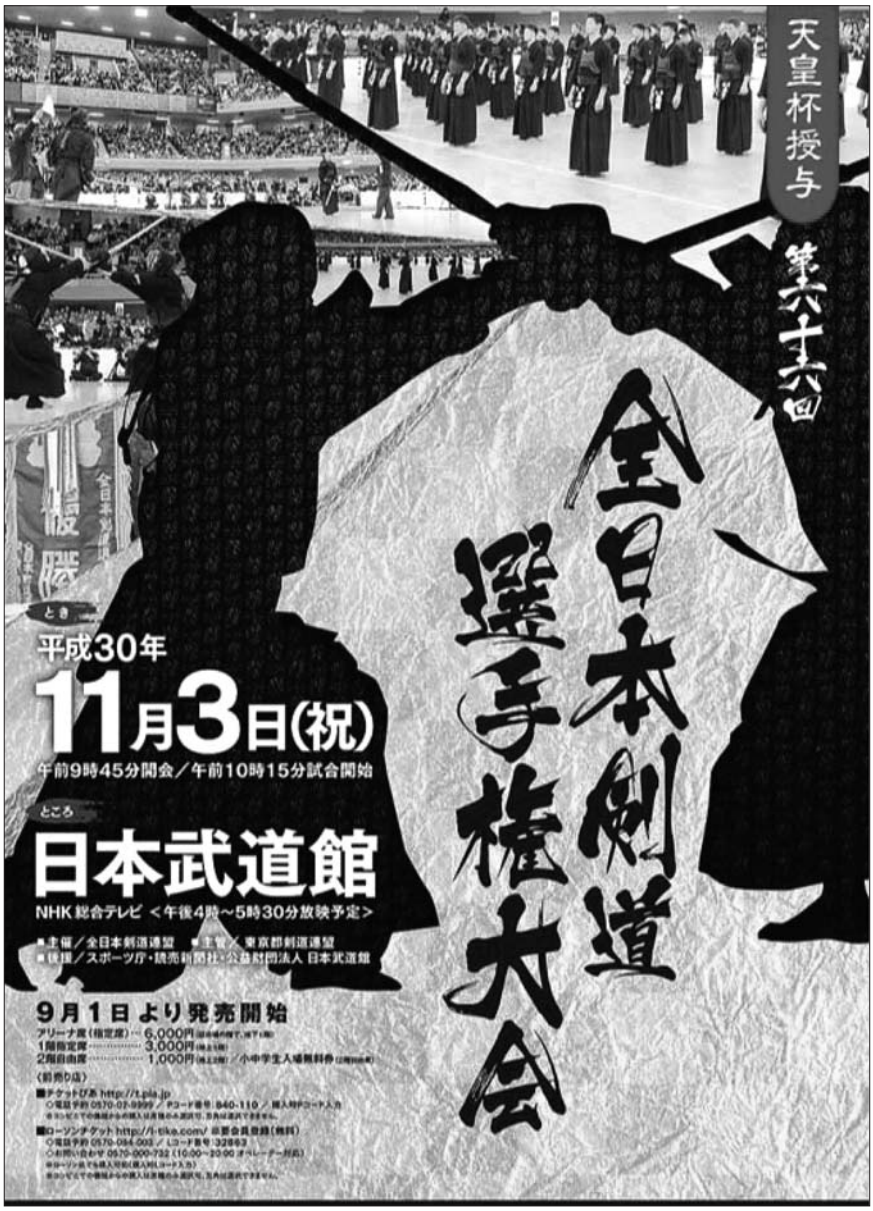
対戦相手は福岡県代表の警察官の望月選手でした。初太刀から攻め込まれてしまい、先をとることが出来ないままの展開になってしまいました。最終的に半信半疑の精神状態に陥り、中途半端な技出しにより崩れた所を打たれ一本負けという結果に終わりました。長い時間をかけ準備してきたのにもかかわらず、迷いのある剣道しか出来ず、悔いの残る内容となりました。

試合を終え、年間を通じ努力してきたつもりでしたが、自分の取り組みなど話にならないのだと反省しました。今回上位に入賞した選手はほとんどが世界大会メンバーで、彼らの試合前の打ち込みや試合内容、内から出てくる闘気を間近で感じ、自分の未熟さや勝負に対する認識の甘さを痛感しました。

「剣道は剣の理法の修練による人間形成の道である」とあるように答えのない修行はこの先もずっと続いていきます。これからも剣道を自分の真ん中に置き、諦めることなく向上心を持ち努力していきたいと思います。剣道は勝負だけが全ての世界ではありませんが来年こそは全日本という舞台で自分の剣道を思い切り表現し、納得いく成績を残せるようにしたいです。

最後になりましたが、日頃より御指導頂

いています徳島県剣道連盟の先生方、稽古相手をしてくれる県警や教員メンバーの皆様に心より感謝し御礼申し上げます。



秋期関西医歯薬大会での優勝

徳島大学医歯薬学部　剣道部
主将　阿部有矢

平成三十年十月七日に秋季関西医歯薬剣道大会が行われました。

前年度に行われた同大会では準優勝することが出来ましたが、当時のメンバーのうち今大会に参加したのは二名だけであり、もちろん優勝を目指してはいましたが、厳しい戦いになると皆が思っておりました。まず三大学でリーグ戦を行い、そのうち上位二チームが決勝トーナメントへと進むことが出来るのですが、前二人で取り切ることが出来ず、それにつられるように他の者も思うような試合運びが出来ませんでした。なんとか二位通過はしたものの、決勝トーナメントに挑むのに一抹の不安が残る結果となりました。

リーグ戦が終わった後、決勝トーナメントに移る前に女子の試合があり、少しの休憩があったため、この間を使って五人でミーティングを行いました。私は主将をやっていることもあって、このときには「勝ち気がなさ過ぎる」、「動けないなら無理矢理でもいいからまずは足を動かせ」などといったことを、とくに後輩に対してはキツく言った覚えがあります。こうすることで、先輩方にもより一層奮起していただくことも狙いでした。しかし、こうやって叱咤激励することは簡単ですが、おいそれと言われてすぐにそうできるわけもありませんので、それぞれの意見を聞き、その日の個人に合ったポジションに変更を行うことにしました。医歯薬系の剣道部ではそもそも大会数が少なく、またさらには近辺に医歯薬学部を持つ大学も少ないため、練習試合を組むこともままなりません。ですから決まったオーダーというものがなく、大会ごとにポジションが変動することが多いのが特徴です。この日は下級生の森と細田の動きがとにかく悪く、森は強い相手と試合をすると萎縮してしまい、細田は二刀流のため取られにくくはあるのですが、逆に誰とやっても一本が取れない状態でした。ですから、森は勝てる相手がいる確率が高い次鋒に、細田は引き分けであれば十分として先鋒や大将を任せることとしました。このオーダーは過去にやったことがなく、なかば博打のようなものでしたが、役割を与えられた二人はリーグ戦とはまるで別人のような動きでした。その二人の勢いに引っ張られてか、他の者の調子もどんどん良くなり、格上相手であってもとにかく回そうという意識が見て取れるようになりました。結局あれよあれよという間に勝ち上がり、徳島大学は十数年ぶりにこの大会で優勝することが出来ました。大会が終わった後、他大学の人達から「まさか徳島大学が勝つと思わなかった。本当におめでとう。」と言われたことがとても印象に残っています。

私が入学してから大きな大会で優勝したのは今回が始めてでしたが、大会中は負ける気がしませんでした。皆が自分の役割を把握し、チームとして勝利を目指したあの雰囲気は本当に忘れられません。夏には、高校生でいうインターハイと同じような位置付けである大きな大会があります。その大会でも今回経験したことを生かして、優勝を目指していきたいと思います。

男子予選リーグ成績表

学校名	徳島大	福井大	大医大	勝　数	勝者数	勝本数	順　位
徳島大		4／3	1／1	1	4	5	2
福井大	2／2		4／2	1	4	6	1
大医大	4／2	0／0		1	2	4	3

男子団体決勝トーナメント

■決勝トーナメント１回戦

学校名	先　鋒	次　鋒	中　堅	副　将	大　将	結　果
徳島大	森	中　西	前　田	阿　部	細　田	○
	㋝　メ	㋝	㋝	㋝　メ	㋝　メ	8/5
					ド	1/0
川崎医大	中　村	平　木	後　藤	山　田	野　村	△

■決勝トーナメント準々決勝

学校名	先　鋒	次　鋒	中　堅	副　将	大　将	結　果
徳島大	阿　部	森	中　西	細　田	前　田	○
		㋝			ド　メ	3/2
			㋝		㋥	2/1
近畿大	河　崎	海　邉	原　田	圓　山	西　原	△

■決勝トーナメント準決勝

学校名	先　鋒	次　鋒	中　堅	副　将	大　将	結　果
徳島大	細　田	森	中　西	阿　部	前　田	○
		メ	㋥	㋝　メ	㋝	5/3
	㋝	㋝				2/1
和医大	泉	小　畑	奥　本	岩　崎	渡　邊	△

■決勝トーナメント決勝

学校名	先　鋒	次　鋒	中　堅	副　将	大　将	結　果
徳島大	細　田	森	中　西	阿　部	前　田	○
	ド	㋝　メ	ド	㋝　ド	コ	7/2
	㋥　ド		㋝		㋝	4/1
大阪大	劉	福　島	紅　林	武　藤	関　谷	△

第七十回四国四県剣道大会に参加して

大将　富田　正

平成三十年五月二十日（日）、第七十回四国四県剣道大会が愛媛県立武道館において開催されました。

近年、徳島県チームは、全国規模の大会において好成績を残しています。これも、県剣道連盟主催の強化稽古や各地域及び教室の長期に亘る熱心な取り組みが、功を奏した結果だと思います。そんな気運の中、本県チームは若手から壮年まで、日ごろ県内外で活躍している選手を揃え、万全の布陣で臨みました。

ところが、大会当日の朝、気運を高め「いざ、出陣」という思いで、全員が気持ちを一つに頑張ろうと思っていた矢先、本県チームで最も有力視されていた新八段の玉田選手が、開会式直前にギックリ腰をおこすというアクシデントに見舞われたのです。本県チームにとって、思いがけない出来事で、チーム内にも少し動揺が走りましたが、幸い、大事にいたらず安静にしていれば大丈夫だということで、一安心しました。しかし、本日の大会出場は無理ということで、結局、本県チームは一名欠員というハンディを抱えてのチーム編成となりました。

一試合目（対愛媛戦）

愛媛県チームは、数年前国体が開催され、強化が進み、未だどの年齢層においても勢いを感じました。本県チームも気迫負けせず積極的に技を仕掛け、中盤までは互角に競り合っていましたが、中盤以降は気持ちが先行し少し硬さが見られ、逆に相手は地元の声援に押され勢いを増し、勝者数を重ねそのまま流れていきました。結果は勝者数三対六で負けてしまいました。

二試合目（対高知戦）

初戦から二敗目は避けたく、選手は気持ちを切り替え、強い気持ちで高知戦に挑みました。そして、先鋒が勢いよく攻めるも一本負けとなり、この試合も不利な状況で進んでしまうかと思われたのですが、しかし、先鋒の気迫と思いは次の次鋒戦に繋がり、そこから巻き返し、一進一退の攻防戦が後半戦まで続きました。終盤戦では少し有利になり、そのまま流れ、結果は勝者数五対四で勝利することができました。

三試合目（対香川戦）

この時点で、本県チームと香川県チームが一勝一敗となり、高知県チームと愛媛県チームの試合次第では、混戦も考えられ、順位の変動もあり得るかも知れないという状況となりました。そして、最終戦が始まり、どの選手も個々の能力を最大限に発揮すべく頑張りました。前半戦は有利に進み、このままの状態で進むと思われたが、相手チームもこれはまずいと感じたのか、本県チーム以上の気迫で巻き返してきました。そして、中盤戦ではほぼ同点となり、勝敗は後半戦にかかってきました。後半戦は、本県が有利に進めたものの、結局、大将が踏ん張れず、勝人数五対五の本数負けで最

終戦を飾ることができませんでした。

今回、愛媛県チームが地元開催ということもあり、安定した力を発揮し、結果的に圧勝という形で終わりました。しかし、試合を振り返ってみますと、内容的に四県とも力の差はあまり感じられませんでした。強いて言えば勝負へのこだわりかもしれません。本県チームも各年齢層で、素晴らしい選手が育ってきています。日頃の稽古を怠らず研究と工夫を重ねて取り組めば、立派な成績を残すことができると確信しています。今後に期待を寄せながら、報告とします。大会役員及び選手・審判員の皆さんご苦労様でした。

第70回四国四県剣道大会成績表

第二試合	県名	先鋒	次鋒	13将	12将	11将	10将	9将	8将	7将	6将	5将	4将	3将	副将	大将	得点
	徳島県	木浦	前田	金野	浅田	白木恒	大石洋	大石真	白木健	金野	磯部	山室	玉田	高木	平野	富田	6
				㊁一本勝			㊋コ		㊋					㊋	㊁一本勝		3
	愛媛県		メ㊁					一本勝㊁	メ▲	メ㊋	メ㊁		○○不戦勝	ココ			12
			馬越	松木	村上	桑原	井上	野本	白石	近藤	山本	髙宮	田中	新谷	青野	清川	6

第三試合	県名	先鋒	次鋒	13将	12将	11将	10将	9将	8将	7将	6将	5将	4将	3将	副将	大将	得点
	徳島県	木浦	前田	金野	浅田	白木恒	大石洋	大石真	白木健	金野	磯部	山室	玉田	高木	平野	富田	10
			㊋一本勝					㊋メ▲	ド			㊋一本勝		㊋メ	㊋メ	㊋	5
	高知県	一本勝㊋					コ㊋		㊋	ドツ			○○不戦勝			コ	9
		山本	芝	大﨑	川澤	中澤	三原	小川	尾﨑	中原	大﨑	小野	山﨑	宇賀	小谷	小松	4

第五試合	県名	先鋒	次鋒	13将	12将	11将	10将	9将	8将	7将	6将	5将	4将	3将	副将	大将	得点
	徳島県	木浦	前田	金野	浅田	白木恒	大石洋	大石真	白木健	金野	磯部	山室	玉田	高木	平野	富田	7/5
			㊋メ		㊋一本勝	㊋一本勝			▲	▲				㊐メ	㊋		
	香川県							㊋		コ㊋	一本勝㊅		○○不戦勝	メ		メ㊋	9/5
		森	茉島	松本	内堀	宮田	村上	竹村	岡西	片上	小野	坂口	岡本	香川	玉浦	真鍋	

リーグ戦結果

	高知	徳島	香川	愛媛	勝点	勝者数	得本数	順位
高知		9/4	4/2	8/4	0	10	21	4
徳島	10/5		7/5	6/3	1	13	23	3
香川	12/6	9/5		1/2	2	13	22	2
愛媛	15/8	12/6	17/10		3	24	34	1

平成三十年度 全国警察剣道大会を終えて

剣道特練員監督
山室雅幹

昨年の十月二十五日、日本武道館において開催されました、全国警察剣道大会第三部におきまして第三位に入賞することができました。

これも一重に諸先生方、諸先輩方が私達剣道特練員のため日頃より御尽力賜り、また応援してくださったお陰だと心より感謝申し上げます。

今大会では、一次リーグから一戦一戦、粘り強く僅差をものにしていき、本当に手に汗を握る試合を展開することができました。

一試合終わるたびに、短いミーティングを行い、六條洋二コーチ、六條勝仁主将が選手の輪の中心となり、選手全員の気を引き締めながらも笑顔で明るい雰囲気をつくり、選手達を試合場に送り出してくれました。

その結果、一次リーグを五年ぶりに突破することができ、二次リーグ、三位決定戦にあっても、選手達が個々の力を充分に発揮し、実力を出し切る試合ができたのだと思います。

今回の試合の中でも、特に三位決定戦では劇的な逆転勝利を収めることができました。

対戦相手は、昨年六月の四国管区警察剣道大会において大将戦まで縺れた末に破れた、高知県警察でした。ですので絶対に負けるわけにはいかないという気持ちで送り出しました。そしてこの対戦も管区大会と同様、先鋒戦から副将戦まで拮抗した試合展開となり勝者数、得本数とも同数の状況で、大将である山本選手にチームの全てを託すことになりました。

高知県警察の大将は、経験豊富で試合巧者の西山選手。試合開始から約一分、西山選手は素早い足さばきから竹刀を巧みに操作し、山本選手との間合いを詰めてきました。山本選手は思わず手元が上がり、コテを先取されました。

その後、西山選手は残りの時間を考えた試合を展開しますが、山本選手も最後まで諦めることなく、どうにかして一本を取り返すため必死に攻め立てました。全力で技を繰り出していきますが、西山選手の防御も固く、試合時間も残り僅かとなり、万事休すかと思ったその瞬間でした。

山本選手が先を仕掛けたところ、西山選手の手元が僅かに上がりました。このチャンスを山本選手は見逃すはずがありません。執念ともいえる、電光石火のコテを炸裂させたのです。チームの雰囲気は最高潮に達し、その数秒後試合終了のブザーが場内に鳴り響きました。

最高の舞台で最大の大一番、両チームとも緊迫した状況の中、延長戦へと突入しましたが、山本選手の勢いはもう誰も止めることはできません。積極的な攻撃を展開する中、鍔迫り合いから先を仕掛け、見事な

合い引きメンを完璧に打ち切り旗三本。文句なしの一本を決めて見せたのです。大将としての役割を充分に果たしてくれたと同時に、徳島県警察を最高のかたちで勝利に導いてくれました。

したがって、第三部リーグを突破したことにより今年度は、第二部での勝負となります。

その結果、

○第一部から降格の四チーム
（京都、兵庫、岐阜、香川）

○第二部残留の八チーム
（長崎、和歌山、奈良、福井、岡山、千葉、滋賀、富山）

○第三部から昇格の六チーム
（皇宮、茨城、徳島、高知、大分、静岡）

の合計十八チームで熱戦が、繰り広げられます。

平成最後の節目となる今大会で、結果を残せたことは自信として捉えると同時に、試合から学んだ経験や反省から、特練員自らが取り組むべき課題が明確に見えてきました。

今回の結果に満足することなく、監督としてチーム力の向上、そして、特練員個々の更なるレベルアップに努め、精進して参ります。

これからも徳島県警察剣道特練員のため、皆様方の御指導、御鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

平成30年度 全国警察剣道大会 結果

1次リーグ	（1戦目）	徳島－長野	②－2
	（1戦目）	徳島－青森	③－0
2次リーグ	（1戦目）	徳島－茨城	1－③
	（1戦目）	徳島－静岡	①－1
3位戦	（1戦目）	徳島－高知	②－1

1戦目……2勝2敗1分、得本数で勝利

県	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝敗
徳島	本田	梶原	浅田	玉田	山本	4/2
	コド			メ	メ	
長野		メ	メ		メ	3/2
	宮本	西澤	長谷川	市川	森角	

2戦目……3勝0敗2分

県	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝敗
徳島	梶原	本田	浅田	玉田	山本	5/3
		コ		メメ	メコ	
青森				メ		1/0
	宮本	西澤	長谷川	市川	森角	

4戦目……1勝1敗3分

県	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝敗
徳島	本田	平野	浅田	玉田	山本	4/1
			メ	メコ	コ	
静岡			メ		メド	3/1
	安永	中村	望月	名越	山名	

3戦目……1勝3敗1分

県	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝敗
徳島	本田	梶原	浅田	玉田	山本	2/1
			メ	コ		
茨城		コ		メメ	メ	4/3
	阿部	市毛	海老原	神部	遅野井	

全体結果

1部	優勝：大阪 第2位：神奈川　第3位：警視庁
2部	優勝：山口 第2位：鹿児島　第3位：福岡
3部	優勝：皇宮 第2位：茨城　第3位：徳島
女子	優勝：警視庁 第2位：大阪　第3位：京都

5戦目……2勝1敗2分

県	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝敗
徳島	本田	浅田	梶原	玉田	山本	4/2
	コ		メ		コメ	
高知			コ	コ	コ	3/1
	川澤	濱田	西村	中澤	西山	

平成三十年度
徳島県高齢剣友会活動状況

事務局長　乾　清孝

平成三十年度の徳島県高齢剣友会は、四月に本県で開催の四国四県剣道交流大会に向けて、事務局次長の新設及び会計二名体制の役員改選を行い後、会長高島稔之以下会員一〇三名で活動を開始しました。

◎主な行事

四月

高島会長が全国高齢剣友会の副会長に就任

第五回四国高齢者剣道交流大会（本県開催）四度目の優勝（連覇）

六月

第四十回全日本高齢者武道大会（日本武道館）ベスト八（二年連続）

七月

西部稽古会（吉野川市）

九月

第二四回徳島県健康福祉祭剣道交流大会（松茂町）

月刊誌「徳島人十月号」に開催状況の記事が掲載

十一月

第三十一回全国健康福祉祭とやま大会剣道交流　大会（富山県西部体育センター）ベスト十六（優秀賞）

徳島県知事からの感謝状贈呈を受ける

十二月

南部稽古会（阿南市）

のほか、原則、毎月第二、第四土曜日の稽古会（松茂町）を開催しました。

各大会の模様は、参加者から個別にご報告をいただいておりますので、その他の活動について事務局からご報告します。

◎定例稽古会

まず、毎月の定例稽古会には、毎回、会員二〇～二五名が参加して新鮮な心地よい汗を流しています。

◎第二十三回県健康福祉祭剣道交流大会

九月十五日（土）県下各地から徳島県高齢剣友会会員の剣士三十七名が集い、盛大に開催されました。

大会は、日本剣道形（平正明先生、松本憲二先生）、居合道（無双直伝英信流　坂本憲一先生、一村昌和先生）の演武の後、十二チームが参加する団体戦（年齢制限なし）と年齢に応じて組み分しての個人戦が行われました。

特に個人戦特組（七十五才以上）では、五名（参加最高齢七十九才）のリーグ戦を予定していたものの、一名欠場により休憩なしの連続した体力勝負の試合展開となったが、その品位と闘志あふれる戦いぶりに参加者全員が注目するなど、まさに健康福祉祭に相応しい大会となりました。

大会結果

＜団体戦＞

優　勝：芳越会（吉田昌彦、柴田宗忠、武岡勝美）

準優勝：合同B（澤井勝之、川人　護、久保隆司）

第三位：阿南支部（北條憲治、平　正明、

北條雄司）
徳島支部B（高島稔之、東　徳美、桒野　佳明）

＜個人戦＞

特組（七十五才以上）
優　勝：中村稔裕
準優勝：高島稔之

第三位：川田武志、澤井勝之

A組（七十才～七十四才）
優　勝：美馬勝行
準優勝：北條憲治
第三位：佐野博志、谷　博

B組（六十五才～六十九才）
優　勝：長崎秀信
準優勝：藤本辰夫
第三位：兵頭新平、東　徳美

C組（六十才～六十四才）
優　勝：柴田宗忠
準優勝：木下裕康
第三位：吉田昌彦、富田　正

◎西部稽古会

七月二十八日（土）午後二時から、吉野川市美郷ふるさと交流センターで開催した西部稽古会には、稽古に四十名の会員が参加し、冷房設備の恩恵を受け、酷暑の中で心地良い汗を流すことができ、引き続く第二道場（残心）のうどん亭八幡）では、一九名の会員が参加して温泉で疲れた身体を癒した後、剣道談議に盛り上がりました。

◎南部稽古会

年末の十二月八日（土）午後二時から、阿南スポーツ交流戦センターで開催した南部稽古会には、兵庫県から伊澤　章先生（徳島市ご出身）のご参加を得て、稽古に三十四名の会員に加え地元阿南支部の先生方も参加されました。

また、続く第二道場（残心）のロイヤルガーデンホテルでは、忘年会を兼ねていることもあり、稽古以上に先生方の攻めが厳しく、夜を忘れた剣道談議が続きました。

第五回四国高齢者剣道交流大会
四回目の優勝

徳島県高齢剣友会
理事長　美　馬　勝　行

一　開催日および場所

平成三十年四月二十一日（土）
徳島県立中央武道館

二　来賓

全日本高齢剣友会
名誉会長　範士八段　高崎　慶男　先生
会　　長　範士八段　岩立　三郎　先生
会長代行兼副会長
　　教士八段　岩尾　征夫　先生
理事長　教士八段　豊田　芳一　先生
常務理事　教士八段　佐藤　和義　先生

三　出場チーム

香川県（香川県高齢者剣道有志の会）
小田俊夫会長以下　十二名
愛媛県（愛媛六十路剣友会）
渡辺道徳会長以下　二十名
高知県（土佐生涯剣友会）
戸田七夫会長代理以下　十三名
徳島県（徳島県高齢剣友会）
高島稔之会長以下　五十一名
（二チーム出場）
合計　九十六名

四　演武

日本剣道形
打太刀　教士七段　吉田　昌彦
仕太刀　教士七段　武岡　勝美
居合道（無双直伝英信流古伝組太刀「太刀打之位」）
打太刀　居合道教士七段　一村　昌和
仕太刀　居合道教士八段　坂本　憲一

五　試合

団体試合のみで五チームによるリーグ戦方式
○試合結果
優　勝　徳島県高齢剣友会　Aチーム　（勝点四）
準優勝　土佐生涯剣友会　（勝点三）
第三位　香川県高齢者剣道有志の会　（勝点一、勝者数十三）
第四位　愛媛六十路剣友会　（勝点一、勝者数十）
第五位　徳島県高齢剣友会　Bチーム　（勝点一、勝者数八）
○本県チームの対戦結果
別紙対戦結果表のとおり

六　合同稽古

試合終了後、全日本高齢剣友会の先生方による指導稽古及び出場選手同士の互角稽古を行い、相互の友好を深めた。

七　次回（第六回）開催県

高知県

八　結語

以上をもって、第五回四国高齢者剣道交流大会の報告といたしますが、大会実施にあたり、審判の労を取っていただいた先生方、又は裏方として大会運営に携わっていただいた諸先生方に、心からのお礼を申し上げ、結語といたします。

第 1 試 合

団体	先鋒	次鋒	八将	七将	六将	五将	四将	三将	副将	大将	勝者数	得本数	勝敗
徳島A	鈴木	富田	吉田	藤本辰	兵頭	忠津	北條	中村	高島	川田	4	5	○
	メ		メ	メ			メ	メ					
香川					メ	コメ		メメ			3	5	×
	西山	前田	六車	松岡	伊賀	宇賀	壷井	上田	浅野	小田			

第 2 試 合

団体	先鋒	次鋒	八将	七将	六将	五将	四将	三将	副将	大将	勝者数	得本数	勝敗
香川	西山	前田	六車	松岡	宇賀	壷井	上田	浅野	小川	伊藤	4	10	○
		コ	ココ	コ	メ	メ	メメ	メメ					
徳島B	メメ	メコ	コ		ト	メ	メ				2	8	×
	野崎	木下	長崎	寒川	磯部	丸岡	佐野	日野浦	福永	東内			

第 3 試 合

団体	先鋒	次鋒	八将	七将	六将	五将	四将	三将	副将	大将	勝者数	得本数	勝敗
愛媛	後藤	大久保	川崎	末光	黒田	長井	織田	川村	西下	竹内	0	1	×
	コ												
徳島A	メメ	ト	メ	コ	コメ	メコ	メ		ドメ		8	12	○
	鈴木	富田	吉田	藤本辰	兵頭	忠津	北條	中村	高島	川田			

第 4 試 合

団体	先鋒	次鋒	八将	七将	六将	五将	四将	三将	副将	大将	勝者数	得本数	勝敗
徳島B	松本	田村	武田	寒川	磯部	六条	佐野	平	原田	東内	2	5	×
	メ		メ	メ	ド		コ			メ			
土佐	メ	メメ	ココ	メ		反則勝				メ	3	8	○
	長瀬	馬場	黒瀬	梅原	山本	中野	嶋村	門田	岡本	戸田			

第 5 試 合

団体	先鋒	次鋒	八将	七将	六将	五将	四将	三将	副将	大将	勝者数	得本数	勝敗
愛媛	渡部祐	鎌倉仁	後藤	森	中野	徳安	矢野	織田	佐伯	渡邉道	2	5	×
				ココ	ド	コ				メ			
徳島B	メト	メメ				メ		コ	メコ	メ	4	9	○
	野崎	木下	長崎	武田	桒野	丸岡	平	佐野	原田	東内			

第 6 試 合

団体	先鋒	次鋒	八将	七将	六将	五将	四将	三将	副将	大将	勝者数	得本数	勝敗
徳島A	鈴木	富田	吉田	藤川	東	忠津	北條	中村	澤井	川田	6	8	○
		メ	メ	メ		コ	メメ	メコ					
土佐	ココ										1	2	×
	長瀬	馬場	黒瀬	梅原	山本	中野	嶋村	門田	岡本	友永			

第 7 試 合

団体	先鋒	次鋒	八将	七将	六将	五将	四将	三将	副将	大将	勝者数	得本数	勝敗
徳島A	鈴木	富田	吉田	東	兵頭	忠津	北條	中村	澤井	川田	8	14	○
	メ	メド	メコ		メ	ココ	メメ	コ	メメ	メ			
徳島B	メ										0	1	×
	松本	田村	武田	六条	桒野	松浦	平	日野浦	福永	東内			

リーグ戦結果

チーム名	徳島A	徳島B	香　川	愛　媛	高　知	勝　点	勝者数	得本数	順　位
徳島A		8（14）	4（5）	8（12）	6（8）	4	26	39	1
徳島B	0（1）		2（8）	4（9）	2（6）	1	8	24	5
香　川	3（5）	4（10）		5（9）	2（4）	1	14	28	3
愛　媛	0（1）	2（5）	5（10）		3（6）	1	10	22	4
高　知	1（2）	3（8）	4（7）	5（7）		3	13	24	2

第三十一回全国健康福祉祭 とやま大会
（ねんりんピック富山大会）に参加して

丹生谷支部　富田　正

平成三十年十一月二日（金）～十一月六日（火）、四泊五日の日程で「ねんりんピック富山大会～夢つなぐ　長寿のかがやき　富山から～」に参加しました。その時の報告をさせていただきます。

〔十一月三日（土）〕

徳島を出発して二日目、富山県総合運動公園で実施される総合開会式に参加しました。この時期、日本海側では大変珍しく雲一つない晴天に恵まれ、最高の開会式日和となりました。まず、会場に到着すると、一番驚かされたのはその運動公園の敷地の広さでした。そして、そこから西の方角を眺めるとうっすらと雪化粧した立山連峰の素晴らしい景色を仰ぎ見ることができました。そして、開会式が始まり、そこで演出されたメインアトラクションもまた素晴らしく、私たち県外者への温かな歓迎の思いが強く伝わってきました。

この日は開会式のみで、開会式終了後は競技ごとに各市町村に移動していきました。ちなみに私たち剣道競技者は、砺波市へと移動していきました。

〔十一月四日（日）〕

三日目、いよいよこの日から砺波市富山県西部体育センターにおいて剣道競技（団体戦六十九チーム参加）が開始されました。本大会の参加条件は、選手は全員六十歳以上、副将は六十五歳以上、大将は七十歳以上で編成されていなければなりません。試合方法は、予選リーグを行い、そこで一位のチームのみが決勝トーナメントに進むことになります。但し、この大会は「リンク方式」という特別なルールで行い勝敗が決まります。その為、全勝（二勝）しても決勝トーナメントに上がれないという事もあります。その為、勝人数等の試合内容も大変重要になってきます。

［徳島県選手］

先鋒：富田　正、次鋒：吉田昌彦、中堅：藤本辰夫、副将：東　徳美、大将：北條　憲治

○予選リーグ一試合目

第二試合場一試合目に北海道チームとの対戦となりました。勝ち上がるためには初戦が大事と考え、全員が積極的に技を仕掛けることを心がけました。その結果、終始優位に試合を進めることができ、まず1勝することができました。気持ちが少し楽になりましたが、リンク方式を考えれば、気は抜けません。とにかく一本を大切にすることをみんなで確認し、次の試合に挑むことにしました。

○予選リーグ二試合目

第二試合場七試合目に宮崎県チームとの対戦となりました。この試合の直前まで、対戦相手や他チームの戦況の情報を得ながら、決勝トーナメント進出への条件を確認

し、試合に挑みました。本県チームが負ければ他のどのチームにもチャンスがある状況でしたが、逆に宮崎県チームに勝人数三勝以上で勝利することができれば、本県が一位になることが試合前に確認できていましたので、ここが踏ん張り所と考え、より以上に気迫を持って挑みました。その結果、中堅が勝った時点で決勝トーナメントへの進出が決定し、一安心しました。

〔十一月五日（月）〕

○決勝トーナメント一回戦

四日目、第二試合場一試合目、富山県Cチームとの対戦となりました。富山県は、A・B・Cの三チームが勝ち上がってきており、是が非でも地元チームの一角を崩したかったのですが、先鋒が流れを作れず、惜しくも敗れてしまいました。内容的には十分にチャンスがあっただけに悔やまれる一戦でした。ここで、私たちの今大会は終了しました。

試合終了後、決勝トーナメント二回戦への思いを残しながら会場を後にし、本日の宿泊地である金沢市へ移動していきました。その夜は、金沢の地酒と郷土料理で大いに盛り上がったことはいうまでもありません。

〜今大会を通じて〜

今回の大会の中で特筆すべきことは、秋田県チームの大将：今功夫氏（九十三歳）と兵庫県チームの大将：伊澤章氏（八十二歳）の本大会最高齢者と二番目最高齢者との対戦でした。（大会事務局の計らいかも？）結果はさておき、他チームのほとんどが七十歳代の大将の中、選手として参加されたことは、尊敬の言葉しかありません。このお二人の対戦は、会場の人たちからも注目を浴び、そして、試合終了と同時に賞賛の大きな拍手がわき上がりました。まさに生涯剣道の見本として、私たちに剣道の素晴らしさ改めて教えてくれた一戦でした。

今回私たちは、ベスト十六（優秀賞）で終わり、戦績面での目標達成はできませんでしたが、この大会の趣旨が主に交流大会ということを考えれば、終始多くの人たちと交流ができたことで目標は十分達成できたと思います。

ちなみに、今大会の優勝は富山県Aチーム、準優勝は富山県Bチーム、第三位は富山県Cチームと、愛媛県チームでした。

最後に、私自身初めてのねんりんピックに参加させていただき、大変勉強になりました。そして大会参加にあたり、ご尽力いただきました徳島県高齢剣友会並びに今大会関係者の皆様に心より感謝し、ご報告に代えさせていただきます。本当にありがとうございました。

ねんりんピック秋田2018　剣道交流大会　試合結果表

第２試合場　第１試合　５ブロック

団体名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝者数	総本数	勝敗
北海道	三浦	泉谷	上野	夏井	杉本	0	1	×
				メ	▲			
徳島県	メド		メメ	ド		2	5	○
	富田	吉田	藤本	東	北條			

第２試合場　第13試合　５ブロック

団体名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝者数	総本数	勝敗
徳島県	富田	吉田	藤本	東	北條	3	5	○
	メメ	▲ メ	メコ					
宮崎県					コ	1	1	×
	浜砂	中山	鞍津輪	小山田	石田			

予選リーグ戦成績表【第２試合場】

５ブロック	北海道	徳島県	宮崎県	新潟市	福岡市	勝数	負数	勝者数	総本数	順位
北海道		△ 1/0			◯ 5/2	1	1	2	6	3
徳島県	◯ 5/2		◯ 5/3			2	0	5	10	1
宮崎県		△ 1/1		□ 4/2		0	1	3	5	4
新潟市			□ 4/2		◯ 6/3	1	0	5	10	2
福岡市	△ 4/1			△ 3/1		0	2	2	7	5

決勝トーナメント　第２試合場　第１試合

団体名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝者数	総本数	勝敗
徳島県	富田	吉田	藤本	東	北條	1	2	×
		メメ	▲					
富山県C	メ		メ	メ		3	3	○
	金塚	小西	片山	長谷川	舟橋			

第四十回全日本高齢者武道大会
〝団体 愛知・北海道を降し 連続ベスト八！〟

高齢剣事務局長　乾　清孝

平成三十年六月四日（月）午前九時から日本武道館において開催された、第四十回全日本高齢者武道大会に参加した内容を報告します。

今回の大会は、全国から五十五歳以上最高齢九十三歳の剣士まで、剣道六八〇名（うち女性六十名）、銃剣道三十九名の合計七一九名が集い、十三試合場において団体戦、個人戦が行われました。

今大会は第四十回となる節目の大会となり、岩立会長挨拶では、全国各地で大会が開催されており、高齢剣士の大活躍が見られるとのあいさつの中で、「高齢剣の役割として後継者の育成（少年の指導）が規約に盛り込まれ、四月に本県で行われた四国交流大会では選手全員が挙手をして少年の指導に携わっているとの表明があり、頼もしくも感じられた。」との紹介がありました。

本県からは、

特組（七十五歳～七十九歳）
川田　武志　選手
高島　稔之　選手

A組（七十歳～七十四歳）
美馬　勝行　選手

B組（六十五歳～六十九歳）
西堀　和文　選手
兵頭　新平　選手
東　徳美　選手
藤本　辰夫　選手
大貝　美治　選手
松村　和宏　選手
乾　清孝

C組（五十五歳～六十四歳）
木下　裕康　選手

の十一名が参加し、

団体戦は、先鋒木下、次鋒松村、中堅美馬、副将高島、大将川田の必勝の態勢で臨みました。

一回戦は、アップする間もない状態であったにもかかわらず強豪愛知県相手に辛くも一勝四分と勝ち上がりました。次鋒松村選手の一本目は剣先の鎬合いから相手選手を誘い出し面返し胴が見事に決まり、二本目は一本を取られた相手が出てくるところを小手に切って落とすなど、相手選手の動きをよく見切った動きが目を引きました。

二回戦は、一回戦長野県を降した北海道との対戦で身体がぬくもり各選手絶好調の試合ぶりで、先鋒木下選手が幸先よく出頭面で一本勝ち、次鋒松村選手が小手を先取するも二本目の小手を狙ったところを外され面の引き分け、中堅美馬選手は開始早々に相手選手の竹刀を抑えながらの飛込み面を先取し、その後、上段からの小手を繰りだしたが一本勝ち、副将高島選手は果敢に小手、面の二段打ちを繰り出すも一本にならず、時間ぎりぎりで小手を許し、大将川田選手も二段打ち、引き面等を繰り出したものの引き分け、結局二勝二分一敗で昨年

と同じく準々決勝に勝ち残った。

準々決勝は、愛媛県と対戦。四月の四国交流大会では七勝一敗二分と快勝しているものの結果は惜しくも敗退し昨年に引き続きベスト八との成績となりました。

今大会への出場の意義は、

一つに、全国規模の大会に参加すること

二つに、頑張っている同年代や先輩剣士の姿を見ること

三つに、大会後の夫人同伴の夕食会

四つに、東京観光（今回は浅草見物）

という楽しい企画もあります。

また、阪急交通社のキャンペーン東京二泊三日間で約三万円（フライト代、ホテル代込み）の格安旅費を利用し、宿泊先は、東京都品川区大井の「アワーズイン阪急」でＪＲ大井町駅から徒歩約一分の宿泊所であり、駅に近く非常に便利なところでもあります。参加者からは「おかげで、安い旅費でゆったりとした中にも剣道大会という緊張した試合があり、また東京見物の時間がとれて良い旅行となりました。」との感想も聞かれますので、是非、多くの会員の皆さまの参加をお待ちしています。

徳島県剣道道場連盟だより

徳島県剣道道場連盟
事務局長　谷本浩志

今年度より、複数チームにより徳島県剣道道場連盟の活動が始まりました。予選会も一〇〇名を超える小・中学生の剣士が全国大会への切符を掴むために元気いっぱい技を競いました。

予選の結果と全国大会の内容について報告いたします。

○全国道場少年剣道大会および全国道場少年剣道選手権大会予選

場所：鳴門市光武館
日時：平成三十年六月九日

小学生団体の部
優　勝　鳴門市光武館道場
準優勝　佐古剣道クラブ
第三位　養武館

中学生団体の部
優　勝　養武館
準優勝　佐古剣道クラブ
第三位　鳴門市光武館道場
第三位　松紀和会

全国道場少年剣道選手権大会予選
小学生個人（男子）の部
優　勝　渡邉　大樹（佐古）

準優勝　西村　翔（光武館）
第三位　豊田　大晴（光武館）
第三位　多田　健人（養武館）

小学生個人（女子）の部
優　勝　谷本真智子（佐古）
準優勝　後藤　彩祢（光武館）
第三位　浅井　未来（光武館）
第三位　秋山　鈴奈（光武館）

中学生個人（男子）の部

優　勝　武知　樹生（養武館）
準優勝　湯浅　和眞（養武館）
第三位　秋山　颯汰（光武館）
第三位　谷本　英（佐古）

中学生個人（女子）の部

優　勝　森下　和奏（光武館）
準優勝　播磨　昌美（光武館）
第三位　山下　莉央（光武館）
第三位　西村　葵（光武館）

○第五十三回全国道場少年剣道大会

場所：日本武道館
日時：平成三十年七月二十四日（小学生の部）・二十五日（中学生の部）

【結果】

小学生の部

鳴門市光武館道場

一回戦＜勝ち＞　二（四）対　一（二）
秋田県　雄信館内山道場
二回戦＜負け＞　二（三）対　三（五）
大阪府　寺内剣友会

中学生の部

養武館道場

一回戦＜負け＞　一（三）対　三（六）
三重県　嬉野剣道少年団

【感想】

小学生の部

浅井　未来

あこがれの日本武道館で試合を出来たことは、私にとって一生の思い出となりました。試合は二回戦で負けてしまい悔しい思いをしましたが、チームワークの大切さを学びました。これからも全国を目指してがんばっていきます。

西村　翔

道場連盟の全国大会に出場して全国のレベルの高さにびっくりしました。どの道場も強く試合前はワクワクする気持ちと同時に緊張が止まらず、結果は二回戦で負けてしまいましたが、中学生になってもまた挑戦したいです。

後藤　彩祢

私は全国大会に出場し学んだことがあります。それは、友情が大切だということです。強いチームを見ているとチーム全体が仲良く、たとえ試合に負けてもみんなで励まし合っていました。それを見て、私もこれからは、今までよりもっと友情を深め、思いやりのある人になりたいです。

福池　謙信

全国大会に出場し、全国での力の差を思い知りました。剣道の技、スピードの違い、今まで体験したことのない経験をしました。もっともっと稽古をし、中学生になっても全国を目指したいです。

秋山　鈴奈

五人の仲間と全国大会という大舞台で、試合が出来たことは私にとっては今でも大きな力になっています。試合して全国のレベル高さを知り、良い経験をしました。この経験をバネに、いつか全国で活躍できる強い選手になれるように今後も稽古をがんばっていきたいと思います。

中学生の部

養武館道場　湯浅　和眞

僕たちは、日本武道館で行われた、全国道場少年剣道大会に出場することができました。僕は、全国大会も日本武道館も初めての経験で、出場が決まった時はすごく嬉しく、尊敬する先生や、小学校からずっと一緒に頑張ってきたみんなとともに参加できることが、とても楽しみでした。

日本武道館は日の丸が掲げられ、とても大きく、全国から集まった選手たちでいっぱいで、その気迫に圧倒されそうでしたが、先生から頂いた剣道着と袴を五人で身に着け、大きな舞台で試合ができることに改めて感動し、とても気持ちが引き締まりました。そして、「頑張ろう。」と強く思いました。

僕たちの試合は残念ながら一回戦で負けてしまい、悔しさが残りましたが、全国のレベルは高く、常にすばらしい技ばかりでとても勉強になり、いい経験をすることができました。チームのみんなも「全国の広さを知った」「また大きな舞台で輝けるようにこれからももっと真剣に稽古したい」「とても楽しかった」と感想を話していました。

僕たちがこのような大きな舞台に立てたのも、日々熱心にご指導して下さる先生方、

そしていつも応援してくれる家族、支えて下さる周りの方たちのおかげだと感じ、感謝しています。この経験を生かし、更に成長できるようにこれからも稽古に励みたいと思います。

○全国道場少年剣道選手権大会

第四十三回小・中学生男子の部
第三十六回小・中学生女子の部
場所：愛媛県武道館
日時：平成三十年九月二十三日（日）

小学生男子の部から、渡邉（佐古）は初戦優勝候補の選手と対戦、中盤にかかるところで面を一閃、最後まで落ち着いた試合運びで一本勝ちをおさめ二回戦進出しました。

女子の部で谷本（佐古）は良い攻めを見せるも相手とのリズムが合わず逆に引き出されて二本負けとなりました。

中学生男子の部、武知（養武館）は取られても取り返す粘りの攻防で二回戦進出。

女子の部の森下（光武館）は少ない一年生剣士ながら積極的に攻めるも一回戦敗退となりました。

徳島県からの出場剣士の試合内容はそれぞれに非常に良いものであったと感じる大会でした。

小学生男子
渡邉　大樹（佐古剣道クラブ：国府小六年）
メー　石原　稜晟（愛知洗心道場）　一本勝ち
小学生女子
谷本真智子（佐古剣道クラブ：国府小五年）
ーコメ　小林　心乃（愛知洗心道場）
中学生男子
武知　樹生（養武館：附属中三年）
コメーメ　佐々木桜太（松濤館）
メーメメ　昆　侑介（芳明館）
中学生女子
森下　和奏（鳴門市光武館道場：鳴門一中一年）
ーコメ　福田　舞（龍谷中学校）

【感想】

小学生男子の部
佐古剣道クラブ　渡邉　大樹

ついにこの日がやってきた。僕は朝からきんちょうでずっと心臓がバクバクなっていました。全国から予選を勝ち抜いてきた人々が集まった大会。僕はどこまで通用す

るか不安だけど、全力でがんばろうと思いました。

一回戦の相手は、有名な愛知洗心道場の選手でした。試合が始まると、今までのきんちょうがうそのように無くなり、まわりがよく見えていました。

相手は、僕が今まで対戦してきた中で一番強いと感じたけれど、試合の間中ずっと「絶対に勝つ」と強い気持ちを持ち続けて戦うことができました。僕は無我夢中で相手にくらいついていき、面を決め一本取ることができました。そのままの勢いで試合が終わり、僕は初戦を勝ち抜きました。

これほど楽しく、もっと長く試合をしていたいと思ったのは初めてでした。僕にとって、大きな一勝でした。残念ながら二回戦は負けてしまって悔しかったけれど、本当にいい経験ができたと思います。

最後に、僕がこの大会に出ることができたのは、谷本先生、お父さん、お母さん、おじいちゃんの支えがあったからだと思っています。本当にありがとうございました。僕は剣道が大好きなので、またこのような大きな大会に出られることができるように稽古をがんばりたいと思います。

小学生女子の部

佐古剣道クラブ　谷本真智子

私は、徳島県予選で優勝し、今年は愛媛県で開催される全国大会に出場できることになりました。とても嬉しかったです。

試合の前日、試合会場となる愛媛県武道館で稽古をしました。その時、会場の大きさを実感しておどろきました。

試合当日はクラブのみんなが応援に来てくれました。私は、とても緊張していました。そして、試合が始まりました。試合が始まると、いつものように焦らず落ち着いて試合にのぞめました。

結果は二本負けでしたが、私にとってとても大きな良い経験と思い出になりました。私は、いつも稽古で指導してくれている先生方や支えてくれている剣道の仲間と家族に感謝する良い機会になりました。来年も全国大会に行くと心に決めました。

中学生男子の部

養武館道場　武知　樹生

九月に愛媛県で行われた全国道場剣道選手権大会に出場することができました。この大会は全国の予選を勝ち抜いた選手が集まっていたため本当にレベルが高く、試合で相手と対戦したり、他者の試合を見たりする中で多くのことを学べたと思います。

一回戦の相手は秋田県の佐々木選手でした。僕が小手を先制しリードしていたのですが、途中で面を取り返されてしまい試合は五分の展開になりました。それでも試合終盤なんとか小手を取り、勝つことができました。

二回戦の相手は茨城県の昆選手でした。面を先制されてしまい、追いかける展開となりましたがなんとか面を取り返すことができ、試合は同点のまま進んでいきました。しかし試合終盤、相面の勝負に出たところを打たれ、負けてしまいました。

二回戦で負けてしまいましたが、自分の良い点や悪い点を確認でき学びが多い試合でした。また、一回戦で戦った佐々木選手

とは試合後自分たちの試合について二人で振り返ったり、僕が敗戦した原因を二人で考えたりでき、まさに「交剣知愛」、友情を深めることができました。

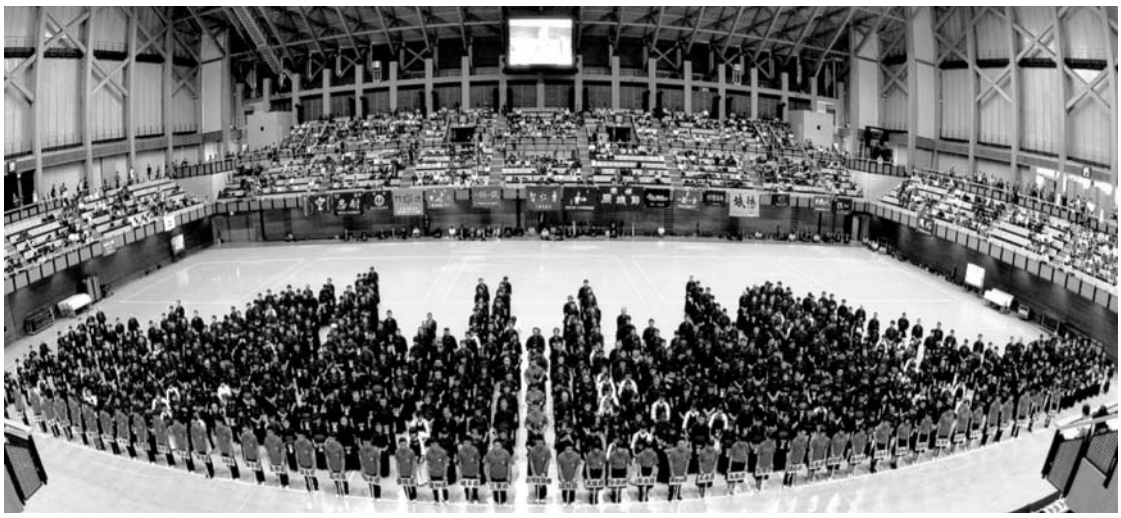
またこのような大きな大会に出場できるよう稽古に励みたいと思います。

中学生女子の部

鳴門市光武館道場　森下　和奏

私は、小学校三年生から剣道を始めました。今回初めて全国大会に出場することが出来ました。全国大会では、ウォーミングアップをしているときから驚かされました。周囲はピリッとした空気に包まれていて、ハイレベルな稽古をしている人ばかりだったからです。また、全国各地から選抜された人だけあって、技術面でも気迫でも圧倒されました。これから競い合うのかと思うと、一気に不安や緊張が高まりました。試合直前にはさらに緊張が増し、足が震えるほどでした。

いざ試合で竹刀を交えてみると、やはり対戦相手は強く、自分の技が通用しませんでした。結果、自分なりに全力を尽くしましたが、二本負けで一回戦敗退でした。悔しさはありましたが、なにより、自分よりも格上の選手と試合ができたことがとても嬉しかったです。このような貴重な機会を与えてくださった先生方に感謝し、一層これからの稽古に精進します。



随想

雑感　小学生のころ

徳島県剣道連盟
会長　三木　毅

内孫が、小学四年生と二年生になり、剣道の試合に出れるまでに成長し、凛々しさと逞しさを身に付けている姿を見て善しとしている。その一方で、私自身の小学四年生頃のことをしきりに思い出し懐かしんでいる昨今である。私が小学四年生の時とは昭和二十七年のことである。この年の四月のある日のこと学校から帰ると、親たちが台八車で引っ越ししているのである。私の家は阿波中央橋の南詰の真下にあって橋の建設のため、移転が決まっていたので、西方二百メートルの土地に家を建てていたためいずれ引っ越しはすると思っていたが、この日とは知らなかっただけのことであった。古い家は、藁葺家屋で周辺の家と変わりないものであった。家の間取りは「田の字」型であり、電燈は定額というもので、裸電球が四個取り付けてあった。電気器具は真空管式のラジオ・電熱器程度であった。

電球は裸電球の二十ワットというもので、夜は暗くて文字が読み辛く夜に文字を読むという生活習慣がなかった。電燈四個を使用し、電熱器を使うと、「ヒューズボックス」のヒューズが焼け溶けて切れてしまい全部の電燈が消え、ヒューズの取り替えを担当したものであった。真空管ラジオは、真空管が切れ、ラジオ店に買いに行った記憶がある。

意外なものとして、手回しの蓄音器があった。曲名は忘れたが浪曲や歌謡曲のレコードが分厚くあった。手回しでバネを回し、レコードを掛けるが途中で回転が落ち、歌が変調となり、思わず手回しでバネを回すが勢い余って蓄音器全体が動き針が滑ってレコード盤を横滑りし、傷をつけてしまいそれからは傷音が音楽に乗ってくるのである。

家の裏の吉野川では銭高組が橋の建設をしていたので、工事現場の機械や工事人の動きを見るのが楽しみの日課の一つであった。クレーンがすごい仕事をしていたが、今のようなキャタピラ式でなく全て組立式であり移動の作業の大変さを目にしていた。びっくりしたのは、建設省と書いた明るい緑色のダンプカーが時々やってくることであった。なにしろトラックの荷台が上にあがることにすごさと驚きを感じたのを今も覚えている。

半農であったので野良仕事の手伝いが生活リズムの中にあった。農業機械は全くなく、鎌・トンガ・かな・くわ・藁槌など手で扱う農具があった。大きな動力は「牛」であった。牛は畑を耕し、荷物を運びよく仕事をしていた。牛用の草刈りは辛かった。目籠という籠を背負い吉野川堤防で草を刈り籠に詰めて背負って帰るのが重かったからである。牛の目はすごくかわいいもので見つめながら首筋を撫でやり、首筋の暖か

さやすべすべ感がたまらなかったのが蘇ってくる。

友達から山羊をもらったことで世話を担当することになった。餌の草刈りや小屋の掃除があり、生まれきた子ヤギの世話や乳を搾ることも担当であった。餌の草刈の量を減らすための知恵は、山羊を草刈りに連れて行くことであった。家を出るときは首に紐をつけていたが道草するので紐を外して草刈りを続けると、山羊はどこまでもついてくることを発見した。山羊は思いのほか小心もので草刈中に隠れているとメーメーと泣いて私を探すのが愛しくなったのを覚えている。

小学五年生頃になって、父が中古の発動機を買ってきた。使用目的は水揚げポンプや脱穀機を回すことであった。発動機の燃料はゴマかすであった。始動の時はガソリンであるが、シリンダーが温まると灯油に切り替えるのである。発動機は燃料の変化を知らず回転を続けるのである。よく考えたものである。当時はガソリンや灯油は農協で扱っていたが多くは売ってくれず、計り売りのものを買っていたのである。

今でいう地域ブランドの農産物は、沢庵とゴボウの出荷であった。我が家にも沢庵つくりのセメントタンクがあった。沢庵は四斗樽に詰められ、徳島港までトラックで運ぶのである。近所のおじさん二人が共同で購入した立派なガス自動車があった。すなわち木炭自動車というもので、トラックの荷台の一部に木炭用の大きな筒状の釜があって、木炭を燃やして発生するガスをエンジンに繋ぎ動かすのである。私はよく見学したものである。木炭を何表も筒に入れ、手回しの風車で空気を送り炭を燃やして、頃をみてエンジンの前にある手回しのハンドルを回してエンジンを始動するのである。機械類に強い興味をもっていた私はいつもうまいこと動かせるなあと納得していたのである。

昭和三十年後半になって、電気の使用が「メーター式」となり使用量だけの電気料金を払うようになった。その頃からテレビ・洗濯機・アイロン・こたつなど電気製品が多岐にわったって出回ってくるようになった。そのほか私は、大人の仕事場で観察するのが好きであった。近所の指物大工さんや桶屋さん、そして鉄工所等に行ってはおじさんの手作業を見るのである。おじさん達は色々なことを話してくれたことで色々なことを知るようになったし、また色々な道具やその使い方も知るようになった。

遊びは、近所の先輩、後輩が一同に集まり所構わず気の向いた場所で夕方まで過ごし、家々に電燈がつくまで遊んだ。竹馬つくり、凧揚げつくり、メンコ遊び、ビー玉遊び、自転車のリム遊び、木登り、竹藪での竹のぼりをして竹が撓って地上まで曲がってくるのが楽しかった思い出である。夏には毎日吉野川に行き泳ぎ疲れるまで遊んだ。子供達の遊びは、誰ともなく知恵を絞って考え出し、改良して遊んだものだ。というのも、販売されている遊び道具は限られており、また容易に買ってもらえなかったのである。しかしその一方で各家には相当の大工道具を揃えていたので、誰ともなく知恵を絞って遊び道具を改良型にしたり、新たに遊べるものを作っていたのである。

これが昭和三十年前後の田舎の遊びや出来事であった。今懐かしく振り返っているが、子供は遊びの中でよく考え、大人は時代時代でよく考えてというかよく知恵を絞っていたものだと思うのである。

今の時代は、子供も大人も金さえあれば、欲しいものを手にすることができ、便利で楽な時代である。一方忘れてはならないことはいつの時代でも、よく考え、知恵を絞って生き抜くことではないかと思うのである。

知恵をしぼっての生活は永遠の命題なのである。子供時代に色々なことに挑戦して、失敗したり、成功したりの中で確かなものを吸収して、逞しく生き抜いて欲しい。

二〇一九年五月に新時代となる。安心、安全、平穏、快適という幸せな社会が実現できることを切に願っている。

「不動智神妙録」から学んだこと

徳島県剣道連盟
副会長　米倉　滋

打つか、打たれるかの間合、つまり、一足一刀の間合において力まず、萎縮せず又、心を動揺させず、平常心を失わないでいられたら、どんなにすばらしいことでしょうか。その答えを剣術を武道という面から説いている「不動智神妙録」から学びました。

「不動智神妙録」は、沢庵禅師が柳生宗矩のために書き示したもので、術は術として重要であるがそれにも増して根本的なものは心の問題であるとし、それらを禅の教えより説きさとしたものです。そもそも禅とは、迷いを断ち、感情をしずめ、心を明らかにして真理を思惟し、体得することを目的としています。大乗仏教では六波羅密の第五、古くからインドにあった修行法の一つで、仏教で重んじられ中国で発展し、日本に伝わったものです。

さて、その内容ですが、人間には二つの心があると説かれています。その一つは「無明住地煩悩」と呼ばれる「迷いの心」で、「無明住地煩悩」という仏語から、何事にも止まれる心を迷いといい、敵にも我れにも刀にも迷いをかけず、思案分別を残さず心を止めないようにしなければならないと書かれています。つまり、相手を打ちたいけれど打たれたくない、相手に勝ちたい又、負けると惜しい、段位がほしいなどという自己の執着心にとらわれた心や、相手と対峙したときに生ずる剣道の四戒といわれる、驚・懼・疑・惑などの心が「迷いの心」です。

そして、もう一つの心は「諸仏不動智」と呼ばれ、何ものにもとらわれない「悟りの心」です。「不動智」とは「うごかず」ということで、不動とは石か木のようなものでなく、向こうへも、右へも左へも、四方八方へ心は動きたいように動きながら少しも止まらぬ心を「不動智」といい、不動

明王の真の姿即ち物一目見てその心を止めないことを不動というのであって、不動智を明らかに把握し、不動明王程にこの心法をよく取り行えば、悪魔でもよりつけないということです。例えば一本の木に向かって、その内の赤い葉一つを見ていれば残りの葉は見えない。葉一つに目をかけないで、一本の木に何心なく向かえばすべての葉が残らず見える。葉一つに心を取られれば残りの葉は見えず、一つに心を止めなければ百千の葉すべてが見えると書かれています。

剣道の技術が上達し、昇段審査に臨んだり、試合に出場するようになり、技も高度になるにしたがい、何かと心があれこれと多く止まるようになって迷いを生じてきます。そこで、心法を錬り、迷いを取り去り、心を止めないようにすること即ち、最初の何も知らない習わない時の心になることが大切なことです。初めてと終わりが同じようになる心持ちでなければならないのであって、二つの心「無明住地煩悩」の「迷いの心」と、「不動智」の「悟りの心」が一つになる事、つまり、無心無念の心境に達することが最も大切なことです。

この無心無念の境地に至ることは極めて難しいことです。私は、現在「捨てる」ことを課題に稽古に取り組んでいます。相手と対峙すると心の動揺や相手を打とうとする心が生ずるので、これらにとらわれずその心を捨てることからはじめ、相手の兆しをとらえて捨て身で打ち込む、つまり、自分の身体すべてを相手に任せる稽古を行っています。見事に返されることも多いのですが、最高の一本を求め稽古に励み、少しでも無心無念の心境に近づきたいと思っています。

剣道が変えてくれた私の人生

小松島支部　立川信彦

一、はじめに

近年、部活動の在り方が問題となってきている。指導に対する考え方や稽古の時間、部活動の在り方などがクローズアップされてきている。そういう中学校・高等学校時代の剣道では、目標をしっかり持って目標に向かって努力することが大事である。それぞれの目標に向かって進むことが大切なのであって勝つことだけが目標ではないと思う。

私が、そのように考える理由は、中学校や高等学校で「燃え尽きて」しまう子どもたちがいるからである。剣道はその年齢、性別、自らの剣道に対する思いなどからいろいろな取り組みが考えられると思う。「生涯剣道」の精神でいまの成績にこだわるのではなく、将来を見据えた積み重ねを前提とした剣道人生を歩んでもらいたい。

二、剣道で得た素晴らしい出会い

私が剣道を始めたのは、中学生の時であった。その年に剣道部が旧高鉾中学校で創部された。野球部などからの勧誘もあったが、私は家族の薦めもあり、剣道部に入部することとなった。その時まで私の剣道に対する知識は乏しく実際に見たり体験したりしたことはなかった。入部してみると剣道の厳しさや難しさが身にしみて分かってきた。基本の動きや技術は顧問の先生に教えていただけたが、技は共に部活に勤しむ部員同士で研究し高めていったように思う。中学校では勝浦郡大会で勝利することが大きな目標であった。二年生の時に新人戦で個人優勝し、三年生でも夏の総合体育大会では県大会に出場することが出来た。

自らの剣道を語る上で高等学校時代の経験は、重要な時期であったと思う。その中でも最大の出会いは徳島農業高等学校での恩師・下村富夫先生との出会いであった。先生は私たちに剣道に対する取組に留まらず、生活態度から学業に至るまで厳しくご指導くださった。一年生の時の稽古は基本稽古、打ち込み稽古、掛かり稽古が中心で剣道に対する考え方から立ち居振る舞いまでご指導くださった。また、その当時徳島農業高等学校には山田仁先生、田村直一先生がおられ、熱心にご指導くださった。

今思えば下村先生は我々が考えていること、行動していることすべてを見通されておったように思う。稽古中に気を抜いている時には厳しく接してくださった。稽古時間は短く一時間半から二時間程度であり、今思えば集中して稽古することの大切さを教えてくださっていたと感じる。また、先生は一人ひとりをよく見てくださり学校生活全般にわたり細かな配慮もしていただいた。私は一年生の時に新人戦で団体戦のメンバーの中に同じ一年生の樫本英夫君と共に選ばれた。そのときの私はうれしさのあまり有頂天になっていたと思う。稽古は熱心に取り組んでいたのだが、同時に慢心していた気持ちを先生に見抜かれたのかレギュラーから外された。それによって稽古に身が入らなくなり、集中した稽古が出来なく

なっていた。ある時先生に一人だけの稽古をお願いしたことがあった。その中で目がかすむくらい稽古をつけてくださった。そのときの苦しさは今でも忘れられない。今思えばあのときの稽古が終わったときの先生の顔は初めの厳しい顔から優しい顔に変わっていた。その時、先生は一言「わかった」とおっしゃった。先生はどんなことがあっても粘り強く努力し続けることの大切さを教えてくれたと思う。そのときは「稽古はしっかりせなあかん」と強く思ったように思う。このように一人ひとりを大切に思ってご指導いただける我々は幸せな高等学校生活だったと思う。

三、終わりに

私の進路選択の時の先生は熱心に相談に乗ってくれ、先生と同じ教職の道を私は選んだ。先生と同じ大学に行ける喜びもあった。同じ大学に進んだ仲間は徳島農業高等学校から樫本英夫君、富岡西高等学校から富田（旧姓：紙本）正君、阿南工業高等学校から坂本信幸君、金国明彦君がおり、私は文学部教育学科であったが他の方は体育学部に在籍し剣道部で活躍していた。家庭の事情で剣道部に在籍できず、私には焦りがあった。しかし、卒業後四人は高等学校時代と同様に接してくれた。高等学校時代に培った絆のありがたさを痛感した。

また、高等学校時代の仲間で竹村英信君や戎芳郎君なども今でも付き合いを続けていただいている。このように剣道での仲間は私の人生の宝である。今の中学生や高校生に感じて欲しいのはただ勝負にこだわるのではなくお互いに人間的に高め合う仲間であると言うことを目標とした剣道もあると言うことを分かってもらいたい。

さらに、先輩や後輩のありがたさも痛感している。いま私は仕事が忙しく稽古があまり出来ていないが、剣道への熱い思いが消えないのは今までご指導くださった下村先生を始め先生方や諸先輩方の剣風や人間的な魅力に近づきたい一心で取り組んでいるためである。

警察学校の朝稽古に参加して（面打ちってそうだったんだ？）

阿波支部　安田勝裕

ひょんなことから、警察学校で近藤先生（教士八段）の教えを毎週木曜日、受けることになりました。毎年の八月に、阿波支部では暑中稽古をお盆にやっています。その講師として近藤先生が二年連続でおいでてくれました。一昨年は確か、構えと立ち方などの指導だったと思われます。昨年は面打ちです。先生が、剣道人生の中で築き上げてこられたご指導は、すべて理にかなっており、自分の腹にすとんと落ちた気がしました。

たまたま次週の木曜日、警察学校の警視専科の講義を担当（徳島大学医学部法医学教室非常勤講師のため）しており、その開始が十時頃だったので、その前に警察学校の道場でご指導を受けることとなりました。ところが、お盆期間中だったため、他の先生方が出席しておらず、なんとマンツーマンで九十分間、面打ちの指導をいただきました。私の剣道人生で、こんな密度の濃い稽古は初めてです。

そこで、メール交換をして以来、警察学校の朝稽古から抜け出せなくなってしまいました。先日、ある先生から「究極のルーティーンですね。」と言われました。まず朝五時起床です。五時半に家を出て（阿波市のため）七時前に到着。最初は、警察学校の学生に職務質問を受けました。十分怪しかったかもしれません。何度目かで、車を西の端の駐車場に置くように言われて、泣く泣く防具を担いで数百メートル歩きました。捜査一課の方に頼んで、武道場から三十mぐらいの所に置かせてもらえるようになりました。四、五回職務質問を受けましたが、上層部に届いたか、顔を覚えてくれたかで、職質は現在無くなっております。でも六時過ぎから活動されてる警察の方々に敬服です。

稽古は、七時からひたすら切り返し、それから面打ちです。この一回一回に近藤先生の指導が入ります。自分として一番ためになったのは、小手を脱いで、素手で竹刀を握っての面打ちです。剣道初心者に戻った気分です。その指一本一本の握り方、方向、力の入れ方にご指導いただきます。究極は自分の体が入れ替わって改造されてきている気分です。続いて足さばき、腰や下半身の運用。一つに注意が行くと他がおろそかになります。おほめの言葉か？「安田先生はすぐ直るが、すぐ元に戻る」そうです。

私は、右手に力が入る打ちと、足腰が出ない手打ちになっているご指摘を受け、注意してやってるのですが、矯正できてもすぐ元に戻ります。長年の癖は染みついているんですね。究極は気合です。気合いが入ると集中力が入り、観察眼ができる。でも一つに注意を集中して直していると、他ができなくなります。器用ではないですね。

最後に、立ち合いを見ていただきます。数分の立ち合いの後、いろいろな指摘を受

け、それを修正して、再び立ち合いをします。これがＰＤＣＡサイクルなんでしょうか？大変解り易く自分の修正が可能です。そして、先生に指導稽古をしていただき、最後に打ち込みか、基本打ちで終わります。あっという間の九十分です。魂が上がった気がします。

ここから形稽古に入ります。参加されている先生方にご指導していただきます。

私の形は、細部に至る配慮がなく、反省しきりの毎週です。自分の仕事の許す限り、参加したいと思います。

一緒に稽古いただいている、藤本先生、武岡先生、手塚先生に感謝です。

また、近藤先生のお人柄に、感激です。一生ついて行きます。（見放されない限り）

人生の道づれに

居合道部　福井　勝

五十九歳で三十七年務めたＮＴＴを退職し、現在徳島県牟岐漁業無線局に勤めて二年目になります。私が剣道の道に入ったのが県立水産高校に入学した十六歳、当時愛媛県の新田高校から転任されていた福井軍二先生に勧められ、初めて竹刀を握ってからになります。思い出としては、夏の木頭錬心舘の合宿、高校二年の時丸亀武道館であった四国大会に一級で参加し、高知大手前高校の同性の二段の選手と引き分けたこと、徳島県の高校で初めて福岡の玉竜旗大会に参加し、宮崎県の高校と対戦、引き分けで五人抜きを免れたこと。一級下の西川弘清君が一年後に、この大会で五人抜きしたのは快挙でした。

卒業後、外国航路の通信士を経て長崎無線局に就職し、仕事も覚えた頃、長崎新聞に剣道有段者対象で居合道の講習を受ければ居合道初段を与えるとの記事を見て、申し込みもせず、当日、木刀を持ち講習会場に行きました。外から覗いていると、ガッシリした年配の人に「何をしているのか」と問われ、「見学に来ました」と伝えると、手に持っているのは何かと問われ、困っていると、剣道何段か、との問いに二段ですと答えると、中に入りなさいと優しく誘っていただきました。

声を掛けていただいたのが大村市在住の辻田範士でした。この時講習を七名が受講。たぶん残っているのは私一人と思います。講習を修了し初段を授かった時から居合道人生が始まりました。その時辻田範士から、私が当時住んでいた諫早市の居合道範士八段、剣道教士七段の吉村健吉先生を紹介され、長崎在住の期間に剣道三段、居合道四段まで育てて頂きました。今でも他県の大会で長崎県の剣友と気軽に付き合えるのも一緒に汗をながした仲間と感謝しています。

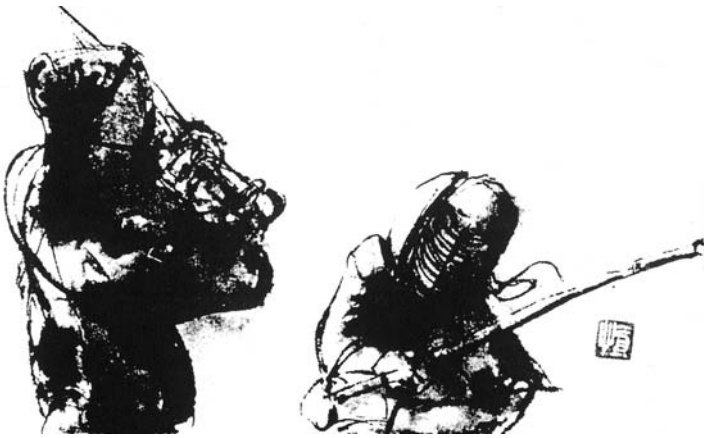
昭和六三年無線局の廃止で徳島に転勤。

日和佐の張野久晴先生に高知の「お留流」である無双直伝英信流を一通り教わりました。長崎で覚えた夢想神伝流は英信流から出来ており、すぐ覚えました。居合道も徳島で五段を授かり、張野先生から中央審査を受けるのなら木頭の原田勝先生のところへ行くように勧められ、日曜日ごとに木頭錬心館に通い、指導を受け現在に至っています。

居合を中心にするから、剣道は五段までと決めていたのですが、原田先生と同門の高知養心館の松田忠雄先生から剣道をしないと居合も上手にならない。剣道の稽古の時は居合の稽古のつもりで、居合の稽古の時は剣道の稽古のつもりでと教えられました。松田先生は徳島にも防具を持って来てくれ、手ほどきを受けました。「間合」と「気」を相互に学べとの教えを授かったと思い、感謝しています。

徳島に帰り、仕事も技術職から営業職へと、変わり、当時ストレスが溜まり、転職も考えるようになりましたが、家族の事を考えて我慢しました。そんな時、徳島中央武道館で無心に居合を抜き練習帰り体力を使い果たし、徳島駅までの道のりが遠く思えた事を思い出します。練習の間、心は無になり、明日を迎えることができました。六一歳を過ぎて思うことは修行とは周りの事に左右されず、付かず、離れず努力した者のみ寄り添うものだと思います。

最後に、居合道は三級まで木刀でも可能となっています。剣道連盟居合の立ち技は剣道の正眼の構、つまり足幅は同じです。中央審査を受ける時は真剣ですが、五段までは模擬刀でも可能です。今年の七月六日（金）徳島中央体育館で居合道六段、七段の全日本剣道連盟中央審査。七日（土）八日（日）には全日本剣道連盟の西日本居合道講習会が開催され、西日本の四段以上の居合人が徳島に来県します。剣道人に刺激になれば幸いです。



赤いリンゴ

小松島支部　高木　壽史

私は赤いリンゴを見ると中尾 誠先生を思います。先生と私は小松島中学校剣道部で出会いました。高校の剣道部では、塩田善治先生と出会いました。二人は同級生で無二の親友です。その塩田先生から近いうちに中尾先生に会いに行くように言われました。国体予選の帰り道、中尾先生宅に寄りました。奥さんに主人は出掛けて家にいませんと言われました。このままでは、家に帰れないと思い、私は塩田先生宅へと向かいました。塩田先生が「中尾先生は笠井病院に入院している。一緒に行こう。」と言われました。病室の中尾先生は「いつも来てくれてありがとう。」声には張りがなく少し痩せられていました。元気な時の先生は「おお！高木元気か？お父さんお母さん元気か？」と微笑み、話が始まったものでした。

しばらくして中尾先生に「高木、リンゴを剥いてくれないか、三人で食べよう。」と赤いリンゴを手渡されました。私は「手を洗ってきます。」と先生に伝えて部屋を出ました。この歳までこんなに綺麗に手を洗ったことがあったのかと思うぐらい、何度も何度も手を洗いました。中尾先生と塩田先生が四分の一個ずつ、私が四分の二個食べました。味は覚えていません。病院を出て帰る車の中で、中尾先生は、「高木。私は、まだまだ元気で食欲もあるぞ。」と言いたかったのか反面無理をして食べているようにも見えました。その時の光景が思い浮かび目頭が熱くなりました。

二〇一〇年五月十八日。中尾誠先生はお亡くなりになりました。私は中尾先生から剣道だけでなく人としての生き方を社会人になってからもずっと教えて頂きました。お陰様で今では素晴らしい先輩、同級生、後輩に恵まれています。中尾先生ありがとうございます。

「また　いつか、赤いリンゴを一緒に食べましょうね。私がむいて。」

左より　中尾誠先生、笠井選先生、塩田善治先生

体解（たいげ）

海部支部　冨浦廣志

「体」は自己のものとすること。「解」は理解すること。よって、「体解」とは「理解して自らのものとすること」の意である。「体得する」などの意味では無い。（日暮らしＷｉｋｉ）これは、本来は仏教用語の様で、他に深い意味があるかもしれませんが、前述の様に解釈して進みます。

試合に負けるとすごく悔しい。寝ていても打たれた瞬間を思い出して飛び起きてしまいます。剣道は、本来「斬り合い」「殺し合い」から発祥していますので、負けていい試合はないと考えています。「勝てないのならやめてしまいたい」というのが本音です。

八段審査も、八年目を迎えたあたりで、阿南工業佐々木先生にできばえを聞かれ、「相手との調和が取れない」という趣旨の話をした覚えがあります。当時は自分の立ち会いを、自己中心的だと考えていました。

作道先生に、高段位受験者講習会の折、構えを直していただき、「講習会資料」を読み直して「五秒三秒のすすめ」を見つけました。そして、それを立会のヒントとし、「セットとパターン」から脱却することができました。右足が解りました。

剣道は稽古でも試合でも、小さいサイクルとして、構え→技前（間合いの攻防含む）→技→決め（残心）→構えと循環していきます。

二十年程前に先生と稽古した折、稽古後に「切っ先の使い方はうまい。だけどやめなさい」「剣道は面」「剣道は表」と指導を受け、切っ先が相手の中心に向かっていることの大事さを説かれました。当時の私は、自らの切っ先を動かせて相手の切っ先を誘導する方法を技前として使うことが得意でしたが、そのことで封印しました。試行錯誤、手探り状態で、「下が先・上が後」をヒントに右足の移動と攻め、相手との関係が解るまでに、二十年程かかったことになります。しかし、その御陰で「体中剣」の重要性（攻防一致の諸手の剣）が解る事に繋がり、右足が解ることに繋がっていったと思います。

「五秒三秒のすすめ」を実践するためには、もう一つ解らなければいけないことがあります。左足です。大石洋史先生や山本千尋先生、先輩では北条先生が、左足を引き気味に絶妙な面技を発せられます。左足にもゆけるタイミングが有ります。

「構えから発して、構えを持ち込んで、構えに至る」

今、構えから移動、構えを持ち込む具体的方法を模索しています。右足が出て行って、左足がどうあるべきかを次の解るべき事と考えています。相手との関係と打ち出し、出し加減引き加減、イメージ的には右足が動いているときには、いつでも「ゆけてできて」、着地した右足に続いて左足が動いているときにも「ゆけてできて」。「ゆけてできる」状態で圧し迫っていきます。打ち出しは相打ちです。妄想は「位詰め」へと続いていきます。

妄想は広がりますが、手がかりは全くあ

りません。やっていることが全くバラバラになってしまいます。それ故、糸口を欲する稽古が続いています。

試合をすること自体が、自己評価や他者からの評価にさらされる事なので、課題を持って試合をしている方たちの、ご苦労や気持ちはよく分かります。

勝敗や仲間との絆、名誉やそしり。緊張した場面でこそ、解ったことを体現する「試合」を大切にしなければならないと思っています。

時々、作道先生の講習会資料の何パーセントを私は理解しているのかと思うことがあります。私の迷い彷徨っていることは、先生は解っていて、私が解っていないことなのです。簡単に書かれていることも、裏に膨大な剣振りと読書の量、瞑想の時間を感じるのです。

「守破離」は修行の過程を表します。いつも迷うと、先生の講習会資料に逃げ込む私にはなかなか破の時は訪れないのかもしれません。自分なりのペースであっても、講習会資料の体解に向かう修行者でありたいと思っています。

居合と藍に携わって

居合道部　村井恒治

私が今は亡き高橋憲司先生に教えを請い、居合を始めてから、早いもので十五年経ちました。当時、何もわからず居合の稽古に励んでいましたが、十五年経つ間に色々と状況も変化してきました。最近、仕事で藍染の原料生産の研究開発に携わる機会に恵まれました。そこで、徳島の伝統産業・文化である藍と居合という伝統的な武道についての私個人の関わり方について、思ったことを書かせていただきたいと思います。

さて、私は徳島県立農林水産総合技術支援センターという職場で野菜栽培の技術開発という仕事をしています。現在、担当しているのはサツマイモとニンジン栽培技術の研究ですが、ここ数年、それとは別に藍染染料の元となるタデ藍植物の研究をする機会に恵まれました。

タデ藍がどのようなもので、どのような歴史をたどってきたかを簡単に説明いたします。タデ藍は、タデ科の一年生草本で、葉の中に藍色色素の元をつくります。葉の中に作られた色素を利用して藍染製品ができます。徳島県は、タデ藍の主要な産地で、タデ藍から製造される天然染料「すくも」は阿波藍と呼ばれ、染色業者や染色家たちに親しまれてきました。藍染の歴史は古く、着物などに多く使われてきました。剣道の道着・袴にも藍色が使われています。この「すくも」の製造は伝統産業として位置づけられ、徳島県が代表する産地です。

かつて、日本ではタデ藍栽培が盛んで、明治三十年には、作付面積が約五万haもあり、徳島県は全国の約三十％を占めている大産地でした。しかし、明治中期以降に石油からインジゴを合成する技術が開発され、栽培面積は急速に減少していきました。平成二十六年には徳島県での作付面積は十五ha程度になり、とても希少な工芸作物となってしまいました。しかし、近年、天然染色

が見直されるとともに、県内の業種の異なる企業がタデ藍を利用し、様々な新しい商品開発を行っています。これら企業の方々から要請を受け、タデ藍栽培面積の増加を目標に藍植物を研究しています。

　このようなタデ藍の歴史的変遷知り、仕事で携わるようになってから、私の中では居合道となんとなく重なって感じられます。私の仕事の中心は野菜栽培の技術開発であり、今まで、藍染の歴史や文化にはほぼ興味がありませんでした。今も、伝統産業を発展させようとか、文化を守ろうとかいう大きなことは全く考えていません。しかし、本業プラスアルファーでタデ藍に取り組む理由は、今までタデ藍で知り合った人がいるからです。この人々の役に立ち、この人々と楽しく仕事をしていきたいと思って、前向きに取り組んでいます。

　居合道についても同じように考えています。居合の技を繋いでいくとか文化を守るという大それたことは、あまり考えていません。私にとって、仕事を離れた生活の中心は、やはり、家庭が第一です。しかし、家庭プラスアルファーで居合を続けているのは、居合で知り合い、教えを受けた先生方や、ともに稽古をした方々の楽しい顔が見たいからだと、最近、強く思うようになりました。技の上達はほんとうにまだまだで、努力も十分ではありません。しかし、みなさんと一緒に稽古をし、少しでも時間を共有でき、人生を楽しんでいければと思っています。

　居合道もタデ藍も、これからもお付き合いの程、よろしくお願いいたします。

称号・段位合格者

剣道七段に昇段して

阿波支部　兼松佳史

平成三十年四月三十日、京都での審査会において七段に合格させていただきました。

七段審査を受けるにあたり、心がけていたことは、生徒との短い稽古でいかに集中して行うか、また、剣道で一本をとるための一番の機会である、相手の出頭をどのように狙うか、この二つを課題に稽古に取り組んでいました。同世代や先輩の先生方との稽古がほとんどできていなかったので、非常に不安ではありましたが、当日はあまり緊張もせず、審査に臨むことができました。

実技審査での最初の相手は二刀流の方でした。私には二刀流の後輩がおり、何回か稽古をしたことがあったので、あせることなく、落ち着いて行うことができました。二刀流との対戦では、飛び込んでいかず、先を取った状態で相手の出頭を取り、相手の竹刀をすりあげ技、返し技で対応しよう、と私は考えていました。実際の内容もほとんどその通りにできたように思います。二人目の相手は上段でした。私は、上段の相手の気構えに負けないように、下がらないことを意識し、先を取って、相手の出頭を打つことができました。三人目は中段の方でした。普段の稽古で心がけていた、先を取って相手の出頭を狙い、打ち切る剣道をすることができました。

今回、二刀流の選手と当たり、実技を三回行うことができたのも私にとってはよかったことだと思います。

七段に昇段し、今改めて思うことは、私が中学生の時、剣道を教えてくださった中尾誠先生のことです。中尾誠先生は当時七段でした。私にとって、中尾誠先生は剣道においても人間性においても、最も尊敬している先生です。そのような偉大な師と同じ段に挑戦できるというだけで、身の引き締まる思いでした。しかも合格をいただくことができ、私自身非常に驚いています。もし中尾誠先生がご存命であったなら、どのような言葉を私にかけてくださったでしょうか。これからも中尾誠先生に褒めていただけるように、中尾誠先生に少しでも近づけるように、稽古に励まなくては、と強く思っております。

また、七段に挑戦しようと思わせてくれた同級生の剣友たちの存在が、私にとって非常に大きかったと思います。私には、小、中学生の頃から今もなお、交流が続いている同級生の剣友たちがたくさんいます。教職員の福多博史君、松永貴史君、福田美知子さん、北村環さん、河野寿仁君、岩原靖人君、刑務官の北村仁志君、鳴川善人君、警察官の富田圭介君、会社員の香川利浩君、佐藤光太郎君、中尾幸雄君たちです。その剣友たちの昇段の話を聞くたび、うれしい気持ちと悔しい気持ちが生まれていました。みんなに負けたくない、そんな気持ちを私に起こさせてくれたことに本当に感謝しています。これからも剣友たちに負けないように、剣道に取り組み、私が剣道で学んだ

ことを指導する生徒たちに返していきたいと思います。

これからも剣道の修練に励み、日々精進していきます。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

七段に合格して

刑務所支部　金野卓司

平成三十年八月二十五日、福岡審査会において、剣道七段に合格させて頂きました。

これも偏に、平野誠司先生を始め、徳島県剣道連盟、所属する徳島刑務所剣道部並びに北井上剣道教室の先生方や、共に汗を流した方々のお陰と心より感謝しております。この場をお借りしましてお礼申し上げます。

福岡審査会に向けて、平野先生に稽古をお願いしていた際、「自分勝手に打ち出した技は、評価されにくい。審査は有効打突の有無だけを見ているのではなく、相手との攻防の中で合気となり、気剣体一致の技が繰り出されているかを見ている。」との指導を受けました。

これまでの審査を見つめ直してみると、「打ちたい、打たれたくない」という心が先行し、心気を充実させないまま、すぐに交刃から打ち間に入って打突。行くに行けない、引くに引けない中途半端な間合いとなり、出遅れるといった自分勝手な立ち合いであったことを痛感しました。

「合気になる」この事は、常日頃から指導して頂いていたにも拘わらず、いざ本番になると出来ていなかったため、そこからは、攻防の中から合気になり技を繰り出すことを重点的な課題として、稽古に取り組みました。

審査当日は、気負いや緊張もなく、立ち合いに向けて集中し、これまで取り組んできた稽古に近いかたちで立ち合いが出来たように思います。

実技審査合格。そのとき自分のことのように喜んでくれている妻や、私にとって審査の女神となった長女の姿を見て、本当にほっとしました。また、合格した日の夜、恩師の作道正夫先生を始め、大学OBの方々に直接報告できたこともうれしいことでした。

この度、七段に合格させて頂きましたが、私がこうして剣道を続けられるのも、家族の支えは勿論でありますが、地元大阪から徳島に来たときに、温かく迎えて下さった大学の諸先輩方や、剣道を通じて知り合った周りの方々のお蔭です。

今後も感謝の念、謙虚な気持ちを忘れず、精進していきますので、尚一層のご指導をよろしくお願いします。

七段合格

徳島支部　金野　裕美

平成三十年十一月十七日、愛知県で行われた審査会に於きまして、剣道七段に合格できました。

六段合格から六年間、試合で相手に打ち負けないことを意識し、粘り強い剣道をしようと、稽古に取り組んできました。自分が打ちたいときに打てるように稽古をしていましたが、審査での立ち会いは、男性が相手ですので、打ちたくてたまらないのが前面に出た構えを修正、足の遣い方、発声を見直しました。自分が打ちたいときに打てるように稽古をしていたので、「機を見て」、「懸待一致」など、頭でわかっているようでも、出来ませんでした。実際、先生方がどのような機会で打突しているのか、何をどう駆け引きしているのか、順番待ちの時、じーっと見させていただき、自分との違いを見つける作業をしました。

審査一ヶ月前になっても、まだ心と身体がバラバラで、苦しみました。申し込みをした事を悔やみました。ただ、イメージ通りにいかなくても、先生からは、審査は、いつもの稽古を見てもらうのであって、何がしたいのか、何ができるのか、それでいいのか、違うのかを判断してもらう場であると言っていただいていたので、前向きに試行錯誤しました。

三週間を切った頃、突然イメージに近い身体の遣い方ができるようになり、技を打ち出すための機を自分で作り出すこと、機を逃さないように先をかけ続けることができたら、どのような相手でも大丈夫だというところまで持っていくことができました。

審査当日、長い待ち時間には、試合の時のように相手を圧倒する気位、常の稽古をみてもらう、とわかっていても、緊張で、いつも通りってどんなんだったっけ・・・と、落ち着きませんでした。立ち会いでは、審査をされているというよりは、勝負を楽しんでしまいました。結果はどうであれ、楽しかったし、次もまた、今まで通りの事をやるだけだし、受験してよかったと思えました。

合格して、少し気持ちは楽になりましたが、あの時の体の遣い方が、今また出来なくなって、緊張感を持って稽古に取り組まないと、慣れ親しんだ打ちたい人に戻ってしまいます。この文章を書く機会を与えてくださり、審査までを振り返ることで、向かうべき課題を再度確認できました。

私の剣道人生は、良き師、剣友に恵まれてきたことで続けられていて、それが唯一の自慢です。家族も同様、良き師に恵まれ、元気に一生懸命剣道に取り組んでいます。幸せなことです。大きな病気もなく、元気に稽古が出来る体に産んでくれた両親に感謝し、これからも、健康に留意し、先生方の指導を仰ぎながら、稽古を続けていきたいと思っております。ありがとうございました。

「剣道七段合格」を目標に設定して

警察支部　川　添　義　仁

平成三十年十一月、名古屋で開催された審査会において剣道七段に合格させて頂くことが出来ました。私は平成二十一年三月、徳島県警察の剣道術科特別訓練生を引退し、選手としての剣道に区切りをつけていましたが、二年前に息子たちが剣道を始めたことを機に、再び剣道着に袖を通すことになりました。

こうして剣道を再開しましたが、少剣クラブの子供たちや息子たちに剣道を指導することが主で、自分の剣道修練は全くしていませんでした。それに当時の息子たちは、小学一年生と幼稚園年中児。あまりに幼く、夜遅くまである稽古に嫌気がさし、剣道をしたくないと言い出しました。当然です。私も小学二年生から剣道を始めましたが、学校の友達と遊ぶ時間が減ることや、見たいテレビアニメを見ることができず、稽古に行くことがすごく嫌だったことを覚えています。幸い、息子たちは兄弟で剣道を始めた事と、初めから厳しく指導しなかった為、遊びに行く感覚で稽古に行く事ができ、一年が経過する頃には、友達もできて少し楽しくなり、稽古に行くことを嫌がらなくなりました。しかし息子たちは、何の目標もなく、毎回の剣道をこなしている状態で、剣道の上達もあまりありませんでした。丁度良い頃合いだと思い、息子たちに剣道の目標を設定することを勧めました。幼い息子たちに長期的な目標設定は難しいため、短期、中期の目標を設定し、

中期目標…小学六年時、県で一位になる。

短期目標…一年後、ライバルの選手に勝てるようになる。

を目標としました。これは息子たちと一緒に考えて、目標設定を行いましたが、中期目標はすぐに結果が伴うわけでないため、モチベーションの維持が難しい。息子たちに言葉で目標に向かって努力することを語っても、ピンときていないようでした。そこで、息子たちに身近な親である私が、目標に向かって努力する姿を見せ、手本になればと考えて、私自身も目標を設定しました。私の目標設定は、

中期目標…七段合格

短期目標…一日最低三十分間、ランニング又は素振りを行う。

にしました。目標に七段合格を設定した為、まずは七段審査について学ぶ事にしました。「剣道称号・段位審査規則」第十四条に「付与基準」が記載されています。そこに七段は「剣道の精義に熟達し、技倆秀逸なる者」とあります。「精義」とは、正確、また、詳しくという意味です。そこで、剣道を頭で理解する為、全日本剣道連盟発行の『剣道指導要領』を一読し、一から剣道を見直しました。『剣道指導要領』の第六章は基本動作を記載しており、姿勢、構えと目付け、足さばき、素振り、打突の仕方などが説明されています。これを基に再度、自分の剣道を点検し、その後、『剣道指導要領』の第七章の応用動作（対人的技能）に移行しました。基本動作から応用動作への移行の留意点として「気剣体一致の打突

の指導」「攻め合いの中での打突の指導」「打突の機会をとらえることの指導」「しかけ技に対応した応じ技の指導」等が説明されています。審査でこれら全ての項目を実践することが望まれますが、私はこの中でも「打突の機会をとらえる指導」の相手の起こりをとらえることと、「しかけ技に対応した応じ技の指導」のしかけ技に対応した応じ技を心掛けることにしました。

審査本番では、頭でイメージしていた二割程度しか実践できませんでしたが、運よく合格することができました。今後も継続して目標を設定し、達成に必要な鍛錬を実施して、自分の剣道を向上させ、少年指導に反映させていきたい所存です。

七段審査に合格して

阿南支部　谷　喜史

平成三十年十一月十七日、名古屋市で行われた審査会において、七段に合格することができ大変嬉しく感じております。今までご指導していただいた諸先生方、また、私を支えてくださったすべての方々に、この場を借りて御礼と感謝の言葉を申し上げます。

さて、今回の審査は二回目の挑戦でした。一昨年、同じ名古屋で審査に臨みましたが、自分でも結果が分かる程の不甲斐ない立ち会いであったことを覚えています。審査までには沢山の稽古をさせていただきました。しかし、今思えば「したつもり」になっていただけと思います。審査を終えた後、自身の弱さを省み、「一年しっかり稽古して来年、再挑戦」と強く意識したことを覚えています。

さて、今回の七段審査は自分自身を見つめ直すことを目標に置いて剣道に取り組んでみました。普段の生活、仕事、食事の管理、基礎体力の向上などを見直すことで、自身が怠けていたことに気づき反省することができ、剣道に対する取り組みも変わったと思います。

もう一つ、忘れてはならない事があります。それは生徒達です。現在、私は阿南工業高校に勤務しています。日々の稽古や合宿で生徒と共に基本技、懸かり稽古、打ち込みを一緒にさせてもらいました。生徒たちのやる気や気迫に感化され、私自身も全力で取り組むことができたように思います。また、子供たちの手前、気を抜くこともできず、大変良い稽古ができたと感謝しています。今回の合格も彼らのお陰であると言っても過言ではありません。

審査当日の早朝、名古屋駅にバスが到着し、早々に会場へと向かいました。もちろん一番乗りでした。会場前のグラウンドでは沢山の方々がラジオ体操を行っていました。昨年の審査では、緊張のあまり体が固

まっていたことを思い出し、気持ちを落ち着けようと私も一緒に体操をさせてもらいました。その後、三十分程度の散歩。清々しい気持ちで開館の時間を待ちました。

昨年は、緊張感と自分の審査直前に受験された方の面が外れ、私の心は動揺しました。しかし、今回は朝の体操や散歩で自分の心を落ち着けて臨むことができたと思います。

審査が始まり多少の緊張もありましたが、とにかく精一杯やろうと決心し立ち会いに臨みました。一回目の立ち会いでは、「練習した面を打ちたい。」そう思い、ここぞとばかり思い切って打ち込みました。しかし、案の定、見事に胴を返されてしまいました。しかし、それを打たれたことで気持ちは冷静になり、今までやってきたことを出し切ろう、そう思い構えを正し、しっかりと攻め入り、相手の起こりをすべて打ち込みました。もちろん打たれた技もありましたが、最後に打たせて頂いた面は自分自身でも、今までの経験の中で、一番納得できた面だったと思います。

実技審査後の結果発表は期待と不安で胸が押し潰されそうになりましたが、張り出された用紙に書かれた自分の受験番号を確認することができ、心は喜びに湧きました。その後の形審査も合格し、七段合格の運びとなりました。

今回の合格は今、私自身の生活の励みになっています。しかし、この合格は多くの方々の後押しがあってこそのものだと思っております。そして、そのお世話になった方々に少しでも恩返しできるよう努めて参りますので、今後ともご指導・ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。ありがとうございました。

剣道七段に合格して

麻植支部　柳谷照男

平成三十年十一月の名古屋市で行われた剣道審査会において、幸運にも昇段することができました。日頃からご指導頂いております諸先生方には、この場をお借りして、厚くお礼申し上げます。

私は、県立川島高校に入学し、同級生に誘われたことから、剣道を始めました。当時の剣道部員も、同級生が七名おり、補欠にもなれず、大会等には、出た記憶もありませんが、現在も先輩や、同級生との交流は、続いております。

卒業後は、剣道からは遠ざかっておりましたが、三十七歳の時に、長女が、山川スポーツ少年団修錬館の入部案内資料を持って帰ってきて、「剣道したい」と言い出したことから、当時の館長である、植田一夫先生に親子共々、お世話になることになり、当初は、子供の動く打ち込み台のつもりで、始めたことから、まさか自分が、六段、七段など、夢のような話と思っておりました。

「継続は力なり」、六段に挑戦する機会を得て、受審にあたり、下半身の強化のため職場まで、片道十二㎞を自転車で通勤を継続、さらに多くの先生方のご指導を頂く機会に恵まれた結果、無事合格いたしました。

しかし、その時には、何が良かったかと問われても、全く判らず、ましてや、初太刀の面は、相手の面金にかする程度であったことしか記憶しておらず、それから、何をしたかも何も覚えていない状況でしたが、平成三十年、大阪の島野泰山先生による、昇段受審者講習会にて、審査では打突部は、広範囲に及ぶとの話から、勝手な解釈で、初太刀の面は、あれで良かったのかと、もやもやしていた、目の前の霧が晴れたような感覚でした。

講習会での立ち合いの評価では、当然のことながら、評価に値しないとのお言葉を頂く結果でした。

七段審査に向けて、目標も見つからず、さらに、仕事に追われ、自分自身が納得のいく、稽古をする時間もままならず、受審することを先に伸ばそうかとも考えたのですが、自分自身を追い込むためにもと思い、審査の申し込みをしました。

当然のことながら、受審に際しての、気持ちを作ることもできない中、「ぼーっと生きてんじゃねえよ！」と「チコちゃんに叱られる」ではありませんが、「無駄なことをして」と、妻に叱られることを恐れながら、いざ試験間際になって、できることは無いかと考えたのが、徳島県剣道連盟三木会長のお言葉で、剣道の試合で、抜刀から納刀までの所作が、できていないので、指導するよう通知されたことを思い出し、これしかないと思い、相手と気を合わし、抜刀、納刀、蹲踞、これをキッチリやることだけを考え、挑みました。

立ち会いの状況は、六段審査の時と同じで、よく覚えておらず、自分自身は不合格と思っていましたが、まさかの合格。人に

聞かれても、抜刀、納刀、蹲踞の所作が、キッチリやれたことが、良かったとしか言いようがありません。

このようなことから、徳島県剣道連盟三木会長の発する言葉は、本当に奥が深いものとつくづく感じる次第であります。

これ以外にも、過去に文書で、剣道試合会場内で、帽子をかぶったままでの応援、首にタオルをかけたままでの観覧について、いかがなものかとの内容の通知がなされました。私は、その時には「えっ、何で」と思いましたが、同じように思われた方もいたと思います。これについて私は、選手にとって試合は、勝か、負けるかの真剣勝負の場です。そのような状況を理解せず、汗を拭くため、首にタオルを掛けたままの観覧は、選手に対し、剣道家として大変失礼なことであると言うことを教えて頂いていたのかと、理解しております。

全日本剣道連盟から、技術的には「七段を授与する」と頂きましたが、これから本当の七段の修行が始まったものと思っております。今後、技術的なことは基より、精神的にも七段に相応しいと言われるよう精進して参りますのでさらなるご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

妻にも感謝！

七段に合格して

阿南支部　北條雄司

今は二月中旬、審査から三か月が過ぎています。少し審査当日を振り返ってから、私の剣道の課題と稽古について述べます。

○今回の審査

竹刀を摺り込んでの面、或いはやや下段攻めからの面など攻め方を決めて臨む積りでした。審査三日前の稽古で、Sさんと立合ったとき、その構えに圧倒され、動けば打たれる、相打ちを狙えば先に乗られると抑え込まれました。稽古の少なさを悟り、前もって攻め方を用意することを止め「呼吸と脱力」のみ留意し、流れに任せて立合うことにしました。

・一人目の立合い

私との相性の良い方で、出頭面、小手払い面など4本くらい決まって、上出来でした。

・二人目

猪武者のような方でひたすら打ち掛かってきます。この野郎と頭にきて乱打戦となり、自滅するのが前回まで。今回は防戦一方の中で、いなしながら耐え、最後に相手が止まったところに会心の面が決まりました。

合格できたのは一人目の相手に恵まれたこと、相手の順番も含め幸運でした。

○課題と稽古

「呼吸と脱力」が主題です。五、六年前から取り組んでいたのですが、真剣にやりだしたのは一年前。「呼吸」は逆腹式呼吸。吸った息を下に降ろして溜め、吐く時は溜めた感覚を保ちながら吐きます。私は吸って降ろす時は背、腰骨と裏側を通して骨盤底（お股）に溜めます。止まっているときは鼻、動くときには鼻と口を適宜切り換えて吸ったり吐いたりします。

「脱力」は頭の天辺から足の爪先までの余計な「力み」を取ります。目、耳、鼻、顔、首、腕、肩、背中、腹、脚など感覚器官と筋肉の「力み」です。「呼吸」を整えながら「脱力」し、脚を股関節幅に開き、両手をダラーンと垂れた状態が私の基本の「構え」。膝を緩め重力に沿って柔らかく立っています。止まっておれば「構え」はそれなりに出来ている積りですが、動けば崩れます。そこで次の訓練をやっています。

○動いても「呼吸と脱力」で構えるための訓練

近くの神社（一km前後）までゆっくり歩く。膝を緩めて踵で押し出し、ややがに股気味に。柔らかく歌いながら歩きます。神社（土の境内）では約八十mを小走りし階段を上って参拝。動いている間は歌い、これを数回繰り返します。小走りは、時代劇で「何々殿乱心でござる、出会え召され…」と連呼しながら廊下を走る場面の走り方と、似ています。「構え」を崩さず小走りするのは難しく、気が付けば崩れています。

去年の十一月から木刀（定寸、〇・八kg）の素振りを加えました。歩み足、送り足を適宜使って、五十本前後を振りますが、崩れます。（素振り時は歌わない。）神社から

の帰りは往きと同じですが、汗の出方によってはコンビニでちょいと一杯です（ココアです）。

今回の審査で打った最後の面、相手の方は止まって固まっていました。固まらない（居付かない）ために、動きの中で「呼吸と脱力」の訓練をしているので、その成果が出始めると立合いの腕も上がり、自在な剣道、柔らかくスラーとした剣道が出来ると考えています。

それにしても防具を着ける回数が少なく、もっと攻められ、打たれなくては向上できないことも分かっている積りです。なんとか週一回、いや週二回を目指さなくては…と思っています。

六段審査に合格して

阿南支部　田上　裕之

平成三十年四月二十九日、ハンナリーズアリーナ（京都市）において行われた剣道六段審査に合格させていただきました。六段審査には、平成二十三年五月から挑戦してきました。

これまでを振り返りますと、先生方から指導していただいたこと（課題）を十分に解決しないまま、受審を繰り返していたように思います。稽古においても、打とうという意識が強く、十分に打てる間に入らないまま打っている、打てる足ができていない体勢で打っている、打ちが軽いなど様々な課題がありました。

特に、「攻め」が不十分であったことが挙げられます。その結果、相手の方との竹刀を介した対話もなく、自分本位の剣道になっていました。

これらの課題は、頭の中では理解していたつもりですが、いざ稽古になると意識はしていても、漠然としたものだったと思います。そこで課題意識を明確にし「見える化」を図るために、稽古で指導してくださったことをノートに書き留めることにしました。それらを整理すると、いくつかに分けることができました。

そうすることにより、課題がより明確になり、稽古に具体的な目標を持って臨むようになりました。不器用な私ですので、多くをこなそうとはせず、稽古には一つか二つの目標に絞り取り組みました。

先生方に稽古をお願いし、指導してくださったり、お話を伺うことにより、改善した部分やまだ課題となっている部分、新たな課題が明確になり、自分の今の状況を確認することができました。

また、日頃の実践として、職場では極力階段を使い、少しでも足を鍛えるように心掛けました。

そうして臨んだ今回の審査は、十分に気合を入れて、しっかりと「攻め」て打つことを心掛けました。一人目の方との立ち会いでは、最初は焦らずに十分に攻めて面を打ちました。初太刀を得ることができました（相手の方の状態は覚えていませんが）。続いて互いに攻め合い、今までであれば打っていたところを、我慢して半歩攻めました。相手の方が面を打とうとしたところに、小手を打ちました。今回は、思い切った技が出せたように思います。

発表の時、自分の審査番号を見つけたときは、嬉しい気持ちとともに、正直安堵しました。

これまで指導してくださり、励ましの言葉をかけてくださいました阿南支部の先生方や多くの先生方、皆様方に心よりお礼申し上げます。また、これまで応援してくれた家族にも感謝します。

剣道をとおして、多くの方々と出会うことができ、多くの大切なことを学ぶことができました。これからも修錬して参りますので御指導・御鞭撻の程よろしくお願いいたします。

六段に合格して

板野東支部　西堀和文

平成三十年四月の剣道審査会において六段に合格することができました。これまでに多くの方々からご指導を頂き、やっとたどり着いた、という感じです。と言うのもこれまで昇段審査を甘く見ていたところがあり「相手に打たれずに打てればいい」といった間違いに気づくことがなかなかできなかった、ということです。私の主な稽古場は、高齢剣友会です。高段位の先生ばかりでいつも的確なご指導を受けていたのですが、自身の本当の姿が認識できていませんでした。

昨年の審査前に講習会があり、徳島の八段の先生方に模擬審査を見て頂き、この時に言われた一言が私の姿勢を変えた、と思います。個人的な事柄ですから内容は省きますが、この時のご指導がなかったら、たぶん合格はなかったと思います。

私の剣道との出会いは、中学校の時でした。高校で二段まで取得した後少しブランクがあり三段になり、その後は野外で走り回るスポーツが主となり、剣道は時々という状態でした。しばらく剣道から離れ、剣道だけに取り組んだのは十五年くらい前から、しばらくして四段に挑戦も初回は不合格二度目の審査で四段に、三段位から三十年経過していました。

この時すでに六十歳前、二十代の剣道をしていたのを先生のご指導によりだんだん年相応の剣道に、ふつう三十年かけて到達する心境を五年くらいで駆け抜けてきたおかげか、若い人たちの苦心がなんとなくよくわかるような気がしています。

毎年の徳島県連の稽古始めでは八段の先生に稽古をお願いしています。その際に毎年同じことを指導されます。日々稽古の中で指導されたことを意識し、自分なりにできたな、と思っているのに、やっぱり毎年同じことを指導される。情けないけど悪癖は一年二年では修正できないようです。

現在川内中学校の剣道部活のお手伝いをさせて頂いています。今までたくさんの先生方から教えて頂いたものを少しでも伝えていけたら、との思いで務めています。中学の部活で生徒に「姿勢が」「足が」「振りが」…と言っていますが、私自身は出来ていない、ただ言っていることは諸先生方に教えて頂いたことと同じことなので、言っていることは間違っていないけど、自身ではまだまだ出来ていないなぁといつも自問自答、修業は続きます。

十五年前に剣道だけに集中して稽古をはじめましたが、この時に強烈な足の痛みが襲い、普通に歩けなくなりました。これまでいろいろな運動をして全身を酷使してきたつけが回った、というのが自分なりの診断です。これ以後足を前に向けて歩けない、駆け足ができない、なにより剣道の踏み込みができなくなりました。右足をドンと踏み込む、勢いよく強く打ち込むためには強く踏み込まなければ、ができなくなりました。でも剣道を続けたい、強く踏み込みが

できない足でどうしたら打ち込めるだろう。運足から見直し、どうしたら強く踏み込まずに打ち込めるか、自分の剣道を見直し稽古しました。なんとか人並み（？）に剣道ができるようになるのに、自分のなかでは五年くらいかかったような気がします。でも先生方のご指導を受ける度に、まだまだ、を実感していました。

私の剣道の至らなさを足のせいにすることはできません。過去に事故で指をなくした方や片足が不自由な方の剣道に出会ったことがありましたが、鋭さ、強さは全く遜色のないものでした。やればできる、そう信じて、というより好きだったから続けてきた、というのが本音でしょうか。

古希を過ぎ身体のあちらこちらに不具合が出てきていますが、痛ければ痛いなりに、動きが悪ければ悪いなりに、身体が動く限り次を目指して剣道を続けていきます。

これからもご指導、交剣、よろしくお願いします。

六段昇段について

徳島支部　小笠原　徹

―平成三十年福岡にて―

「（自分の受験番号が、）あった。」

審査の最初に行われる、実技を終えた直後の感想として、あまり良い感触はありませんでした。逆に、ああすれば良かったと後悔ばかりでした。言い訳になるかもしれませんが、審査直前は、お盆休みや仕事が多忙で、あまり稽古が出来ていませんでした。そんな状態での実技は、ただただ緊張でしかありませんでした。

自分の順番が近づいてくるにつれ、緊張がピークに達していきました。これでは「ダメだ」と思い、ダメで元々、次に繋がる実技が出来れば良いのではないかと、自分に言い聞かせ、冷静さを取り戻すことに努めました。

いざ、実技へ。

「始め。」の声が聞こえ、それからは、無我夢中でした。

一人目は、相手の動きを見て、冷静に対応出来たと思いますが、二人目は、こちらの様子を伺っているのか、あまり打ってくる事の無い相手で、攻めあぐねている間に、「止め。」の声がかかりました。

そして、合格者発表。

自分の受験番号を見つけた時は、頭が真っ白になりました。

そこから、他の実技合格者と共に、整列して日本剣道形の審査会場へ。ここでも冷静に、冷静にと何度も言い聞かせ、無事に形もやり終え、「六段合格」となった訳ですが、何か信じられないような気持ちでした。

着替えて、帰路に着く電車の中で、緊張もほぐれ、漸く喜びを感じる事が出来ました。ここで終わりでは無く、これから新たなステージが始まると、気持ちを切り替えて、剣道は元より、剣道を通して、人として更なるステップアップが出来るように、これからも精進していきたいと思います。

六段審査に合格して

名西支部　喜浦　理砂子

十一月十八日、名古屋審査において六段に合格することができました。受けようと決めてから合格するまで、こんなに剣道について考えたことはないというくらい濃い日々を送ることができ、今後に繋がる経験となりました。この間、お世話になったすべての方々に感謝いたします。

六段なんて受けること事態無理と思っていました。しかし、見たこともないし、まあ一度見てから受けるか決めようと京都へ行きました。すると、予想以上に女性の方が多くいて、目標を持ってしている姿に、迷っている場合ではないなと、何より会場の凛とした雰囲気が良く感じられ受けることにしました。

審査日が近づきましたが、緊張感や真剣味が足りないままでした。そこで、三月の講習会に参加しました。立ち合い後、講師先生に「入りがよかった」と言って頂き、やる気が出てきました。

順調に審査に向けて準備ができていると思っていた審査三週間前、稽古中に左膝を痛めてしまいました。審査日ぎりぎりまで受けるか迷いましたが、どうせだめなら何もしないより、受けてだめな方が次に繋がると痛み止めを飲み、サポーターで膝を固めて受審しました。立ち合い後、先生方から「動きはよかった」「もう少し」と感想を頂きました。集中して気合いが入ると自分でも思っていない力が出るものなんだと思いました。そして、しばらく稽古を休んで足を治してから次頑張ろうと意欲はなくなりませんでした。

膝の腫れもだいぶんひいた頃、稽古を再開しましたが、力を入れて跳べない、足送りもゆっくりしかできない、体あたりは受けられない状態でした。再度病院へ行きMRIを撮ると、左膝前十字靭帯損傷ということでした。ショックではありましたが、跳べない原因がわかり、ほっとしました。怪我から四カ月後に手術、そこからリハビリが一年四カ月続きました。術後しばらくは足の感覚はなく、膝は曲がらず、足は細くなり、治って剣道ができるようになっても、以前のようにはできないだろうなと不安ばかりでした。とにかく日常生活ができなければと膝の曲げ伸ばしや四kgの重りを持っての片足スクワット、体幹等リハビリに励みました。その介あって、三カ月後には補助器具なしで歩けるようになりました。簡単なトレーニングでも正しい知識を持って行うことで、こんなに筋力がつくんだとわかり、筋力維持のためにも剣道と並行してすることも大切だと感じました。

稽古を再開したのは術後七カ月頃からでした。稽古ができなかった間も部活動や剣道教室での指導はしていたので、気持ちの面では違和感なく始められました。ただ、以前と同じくらい力をかけようとすると膝が耐えられない。覚悟はしていましたが、動けないことにもどかしさが募りました。それでも続けられたのは、靭帯が切れた状

態でも審査を受け、しっかりと立ち合いができたこと。あの時のことを思えば今はくっついているんだからできるという気持ちがあったからでした。

とはいえ、思うように跳べない、痛みもあるという現実、どうすればいいのだろうか。時間だけが過ぎていきました。しかし、以前の自分を思い出すのではなく、今の自分の状態に応じた剣道をすればいいと気がつきました。まず、間合いを詰めるよう心がけました。以前なら怖いと思う間合いでしたが、跳べないから仕方ないと開き直ると入っていけ、それでいて案外打たれることはありませんでした。そして、痛いのなら打たなければいいと考えました。すると、焦る気持ちはなくなり、相手を見る余裕ができ、相手の攻めにすぐ反応してしまっていたのも我慢できるようになりました。

徐々に回復し、調子も良くなりつつあったのですが、審査一ヵ月前から全く打てなくなりました。逆に打たれてばかりで、私はいったい何をしているのだろうと焦っていました。先生方に相談すると「考えすぎ、打ち間に入ったら無心で」とお話頂きました。確かに構えは、攻めは、のるにはと考え、固くなっていたと思います。あれこれ考えるのをやめると肩の力も抜け、打てるようになりました。そのまま調子のいい状態で審査日を迎え、落ちついて立ち合いをすることができました。

なにがチャンスになるかわかりません。怪我をきっかけに間合や攻めをよく考えるようになったし、足の筋力は怪我前よりつきました。また、怪我をしたのに自分はこれだけやってきたというのが自信にもなり、審査に臨むことができました。要は心次第と実感しました。

今後も、剣道ができなかった日々のことを忘れず精進して参りたいと思います。

六段審査に合格して

阿波支部　安丸孝生

平成三十年十一月十八日　名古屋市枇杷島スポーツセンターで行われた剣道六段審査を受審し、合格をいただきました。

阿波支部の先生方をはじめ阿波吉野川警察署の先生方、月に一回開催している「名もなき稽古会」の仲間や川島高校剣道部の生徒たち、そして土成剣道スポーツ少年団の先生方や子供たち、土成中剣道部の生徒たちに深く感謝申し上げます。

私は、約二十年程前に五段審査で不合格になり、その当時指導していただいた先生方に審査を見ていただき、教えを仰いでも「何故」と言われるほど、納得のできないことで、馬鹿らしくなり「もう二度と審査は受けない」と誓い、ふてくされていました。その後、所属する支部が板野西支部から阿波支部になり、先生方から受審するように勧められても、どうしてもその気になれずに言い訳ばかりしていました。ろくに稽古もせず、軽い気持ちで受けたものの、結果は当然不合格でした。周りの人たちが昇段していく中、少しずつ悔しさが出てきた頃、当時入院されていた中尾誠先生から「お前は何をしよんな?」と喝を入れられ、このままではと思い、もう一度、素振りと面打ちを主に稽古した結果、五段に昇段することができました。

その経験から六段を受審する時はそんな思いをしたくないと、とにかく稽古を積みました。毎日、土成中剣道部で生徒達と同じ基本メニューを一緒にし、月曜日は支部稽古会で塩田善治先生をはじめ沢山の先生方、水曜日は阿波吉野川署で吉田茂生先生をはじめ署員の先生方、火・金曜日は少年剣道で子供たちの指導稽古後、前田秀一先生に指導稽古をしていただきました。

審査当日、私は初めての審査なので緊張すると思いきや、緊張感よりも楽しみの方が勝っていました。なぜなら私は県外で試合等をしたことがなかったのです。とにかく見るもの全てが新鮮でワクワクしていました。先輩や友人からアップをする間もなく呼ばれて、手続きや実技審査が始まると聞いていたのですが、まさにその通りで、実技の審査内容は何をしたかどう立会ったか覚えていません。審査会場で自分の順番を待っている時に、頭の中に残っていたのは、塩田先生からの「攻めと初太刀」、吉田先生からの「常に先を取る」、前田先生からの「出頭」、先輩からの「絶対いける」という言葉と沢山の先生方や教え子との稽古でした。実技審査を終え、やるだけやったからこれで駄目ならまた一からやり直そうと思い、面を片付け、胴、垂を外し発表を待ちました。私の番号があった時、喜ぶ間もなく「形会場に移動します」と言われ慌てて垂を着け移動しました。形審査を終えて合格をいただき、最初にこの審査に対してとても心配をかけた母に電話で合格の報告をしました。

帰りのタクシーで沢山の方からのお祝いメールや電話をいただき、少しずつ喜びが湧いてきて合格を実感しました。

後日、支部稽古会で立会の動画を見ていただいた時、指導と共にこれからは六段らし

い稽古を心掛けるように教わりました。
六段の扉が開いただけであり、これからは、それに見合う剣道ができるように精進して参ります。引き続き、ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い致します。

六段取得までに

徳島支部　清水英典

この度、平成三十年十一月名古屋審査会にて六段昇段することができました。ご指導して頂きました馴染みであります中央武道館・渭東剣友会の先生方、出稽古では月曜会・木曜会の先生方、仕事の帰りにお世話になっています松茂少年剣道教室の先生方、審査会場でお会いしたのが切っ掛けで稽古会を開いて頂いた東内道場の先生方、大変感謝をしております。

さて、私の六段取得は平坦な道のりではありませんでした。振り返って見ますと六年前の秋、審査二週間前に大病を患って緊急手術となり、それからは稽古ができず、審査が受けれない、次に繋がらない葛藤の日々を送っていました。そんな時に、師であり中学生の時からお世話になっています磯部洋一先生に助言を頂きました。

「自分に無い物を足すこと」を機に、百練自得を意識した稽古に取り組みました。私に足りないのは「健康」であり、無理をしない事をテーマに置いて、書き留めてあった日誌・動画を見直して原因追求をして行きました。昇段を求めた稽古は今までに無く必死になれたことを憶えています。

しかし、一昨年の夏から体調が悪くなり、昨年の冬に二度目の手術を受けることになりました。入院中は、これからの身の振り方を考える良い時期になったと思います。

退院をしたその年、秋の審査まで八カ月間は試行錯誤する日が続き、瞬く間に時が過ぎて審査を迎えることになりました。

審査当日、日頃の成果を出せる様に不器用ながらも、技術を大切に・技中を「大胆かつ繊細」に・技後（残心）を強調した自分の剣道が出来たと思います。合格を頂きましたが、嬉しいと言うよりも「肩の荷が下りた」と言うのが本音です。

私の六段取得までは、病との戦いでもあり「廻り道も意味のある修行（おしえ）」とも思える日々でした。

体調の具合を気に掛けて頂きました、磯部先生をはじめ、掛かり付けの病院でお会

いした時には審査内容のご指導をして頂いた吉田昌彦先生、稽古をお願いしますと笑顔でご指導して頂いた東徳美先生、二度目の手術でお世話になりました兵庫医科大学病院の先生方、ありがたく思っております。

これからも精通しながら、何かの形で貢献できればと思っておりますので、今後とも、ご指導のほど宜しくお願いします。

六段合格を振り返って

徳島支部　美馬敦子

平成三十年十一月十八日、平成最後の愛知県での剣道六段審査において、合格することができました。

結婚・出産を経て、三人の子どもたちと北井上剣道教室へ通い、十一年振りの剣道人生をスタートさせました。私の中での昇段は、県内での審査（五段まで取得）が目標でしたので、五段取得で満足していました。

一年前、連盟主催の土用稽古に参加した時のことです。たくさんの剣友の方が参加しており、会う人から「六段受けれるんちゃう？」「そろそろ行かな？」と声を掛けられたものの、他人事のように思っていました。

自分の気持ちに変化が見られるようになったのは、稽古会に参加する剣友からの勧めがきっかけでした。その頃から意識するようになり、六段への挑戦が始まりました。

女子部の先輩からは、「歳を取っても目標に向かって頑張れるのが剣道のいいところじょ」と稽古の度にたくさんのアドバイスをいただきました。

改めて昇段を意識して稽古を始めると、気・剣・体がバラバラで、投げやりになる事が度々ありました。それでも稽古だけはと思い、週三回は欠かす事なく続けました。

審査一週間前に「徳島の剣道」を引っ張り出し、合格者の執筆を熟読しました。合格した方の体験記録はとても参考になり、やる気をもらいました。

審査当日は、

「大きな声を出して自分を奮い立たせる」

「平常心」

「一本一本を初太刀のつもりで」

「攻めて相手の出を打つ」

「バタつかないこと（主人からのアドバイス）」

この五つでやり切ろうと決めました。

会場は二回目ということもあり、思いの外、緊張せず、リラックスして審査に臨めました。午前十一時半過ぎ、竹刀と面を並

べて座り、一息ついた時でした。右隣の男性から、「すみません、ご迷惑をお掛けしますが、よろしくお願いします。」と声を掛けられました。よく見ると、なんと竹刀が二本。「まさかの二刀流。えーっ。」と審査数分前のことで驚きましたが、三回の立会い、やるしかない！

立ち合いが始まると、初太刀で相手の出ばなを面で抑えることができ、その後も返し胴や面返し面など、普段の私では考えられない技も自然に出す事ができました。

そして合格発表の時。会場の壁に貼り出された白い紙を見た瞬間、自分の目を疑い、信じられない気持ちで何度も番号を確認しました。そんな時、ある女性剣士の方から、「あなた、大きな声が出てて良かったわよ、ずっと見ていたのよ。」と、有り難い言葉をかけていただいた事を今でも鮮明に覚えています。

最後に、六段合格という壁を乗り越えた達成感と周囲への感謝の気持ちが湧いて出て、剣道連盟の先生方、女子部の剣道仲間、北井上剣道教室の先生方や子ども達、市高剣道部ＯＢ会の皆様、多くの方に感謝の気持ちで一杯です。

今では、この六段を武器に、主人に「六段受けな。」「打ち込みだけやったらいける。」とハッパをかけています。これから先も「健康で楽しく」　をモットーに稽古に励みたいと思っています。

六段審査への挑戦

警察支部　田村和之

多くの先生や先輩、そして剣道を通じて知り合った皆様から数々の御指導をいただき、二回目の受験で六段に合格することができました。合格後は祝福の言葉や記念品もいただき、しみじみと「挑戦して良かった。」と感じているところです。本当にありがとうございました。

さて、私が初めて六段に挑戦したのは二年前の五十一歳、二回目の今回は五十三歳、審査も午後の部ということで受験者の中では高齢（自分では自覚なし。）の方ですが、五段に合格したのは二十七歳の時でした。

そのころ、警察官とはいっても毎日稽古ができる職場環境ではありませんでしたが、部内の大会に向けた稽古が終わった時期だったので、「県内で受験できる五段は取っておきたい。」と思い、受験してみたところ合格することができました。

その後は、部内の大会前に職場で稽古する程度だったので、六段など到底無理だとわかっていましたし、休日出勤や呼び出しが多い勤務になったこともあって、昇段審査からは完全に遠ざかってしまったのです。

一方で、仕事柄「いざという時の気力・体力」は維持しなければと思い、また「いつかは六段を受けたい。」という気持ちは持っていたので、ジョギングや筋トレを継続して人並みに動ける体は維持していました。

そして、五十歳台になって私生活では子供等が就職し、仕事では年相応に時間の余裕ができてきましたので「挑戦するなら今しかない。」・・・と五十一歳の誕生日に挑戦を決断しました。

初挑戦も、今回と同じ十一月の愛知（枇杷島スポーツセンター）審査でした。

三月生まれの私ですので、春に受験を決断し、かつて指導してくださった県警ＯＢの先生方を訪ねると、快く御指導くださり、審査直前には、わざわざ時間を割いて立ち合いや剣道形の稽古までしていただきました。

ただ、長年努力を怠っていた私を、たった半年の稽古で合格させてくれるほど審査は甘くなく、当日、妻に撮影してもらったビデオを見直してみると、

・1人目は女性（審査は何と十六回目とか。私の組で唯一の合格者）、初太刀は形だけの不十分な攻めからスピード任せに面を打って出小手を狙われやや不十分。その後、焦りと迷いが見え隠れするやりとりがあって、終了間際、我慢できずに面を打って胴を返される。

・2人目は男性、初太刀で面返し胴に出るも、相手の起こりに早く反応し過ぎ、相手の躊躇した面に胴も返せず不十分。中盤、出鼻を捉えた完璧な面もあったが、やはり終盤に不用意に打った面を胴に返される。

といった感じで、初挑戦は撃沈したのです。

初挑戦で悔しい思いをしたので、翌春の審査も続けて受けようと思ったのですが、

春（平成二十九年）の異動で単身赴任となり、職場を離れられない立場になってしまったので一旦審査はあきらめることにしました。そして、昨年（平成三十年）の春に、自宅通勤できる今の部署へ異動できたので。2回目の挑戦を決めました。

ですから、二回目も審査に向けた稽古は半年間でしたが、今回は一回目の失敗を自分なりに分析したり、普段の稽古で先生方から受けた指導や助言をしっかり聞き、「欠点」と「課題」を明確にして臨んだことが好結果につながったように思います。

まず、「欠点」については、

・上半身から突っ込むようになる打ち方を、左足に乗せた体重を腰から前に出てタメのある打ちにする。

・手首だけで刺すような打突になってしまうのを、両手を交互に連動させて剣先に体重の乗った打突にする。

ということを心掛けました。

また、「課題」としては、

・スピードで当てようとせず、しっかり相手を誘い、見極めて打つこと。

を意識し、これは小学校高学年、中学生の子供たちとの稽古の際に反復練習し、大人との地稽古で「出鼻の面、小手」、「返し胴」を決められるように取り組みました。

これらを克服したとは言えないまでも、一回目よりは何となく手ごたえを感じ始めたころ、すでに十一月となって審査を迎えました。

審査の前日は、今回もビデオ撮影を頼んだ妻と仲良く（眠気覚ましの口喧嘩もしながら）名古屋へ向けて愛車で出発し、まずは織田信長が「桶狭間の戦」の前に必勝祈願をしたと言われている熱田神宮へ真っすぐ向かい、合格祈願をしました。

肝心の審査はというと、今回も一人目は女性でしたが、一緒に稽古している女性の先生方（今回六段と七段合格されてます。）の鋭い打ちに比べれば、はるかに余裕を持って対応でき、課題の「誘って打つ」を心掛けて、面返し胴（面が待ちきれずに抜き胴でしたが。）、得意の出小手、終盤には相手が不用意に出てくるところ面を決めました。

二人目は、さらに気力が充実し、相手よりゆっくりと蹲踞し、初太刀はやはり面を誘って返し胴、攻めて小手・面の二段技、中盤と最後に相手の手元が上がった瞬間の出小手も決まりました。

また、二回とも相手から有効打突は一発も受けませんでした。

以上が私の六段に挑戦した経緯です。ダラダラと書いてしまいましたが、こうして原稿を書くことで、審査を振り返る機会をいただき、大変感謝しております。

私が二回目の審査で合格することができたのは、確かに幸運に恵まれた（熱田神宮で御祈祷も受けましたし。）とは思いますが、「たまたま」とか「相手に恵まれた。」と言ってしまうと、合格を認めてくれた審査員の先生方や対戦相手に失礼になると思います。

今回の審査で六段の実力が発揮できたからこそ、合格させてくれたものと自信を持ち、さらに上を目指して稽古を続けたいと思います。

称号と芋焼酎

徳島支部　長崎秀信

剣道を始めたからには、せめて辿り着きたい教士まで。

もっと早くに受審できていたが、仕事の都合で私の段位は五段で停滞し三十五年。この間も稽古は続けていたもののなかなか審査を受ける機会に恵まれず、五十代半ばになってようやくその機会に恵まれ、六段・錬士・七段と受有し、今回教士を受審した。

それに当り改めて「称号とは、教士とは何ぞや」かを調べてみた。称号とは広辞苑には「一定の身分・資格を示すもの」とある。また、教士は「剣理に熟達し識見優秀なる者」に与えられると、称号・段級位審査規則の第十条・付与基準に記されている。

稽古をすることは、晩酌の芋焼酎よりも好む私だが、剣理に熟達しているわけでもなければ、識見が優秀なわけでもない。更に「教士を受審しようとする者の備えるべき要件」の第二項には「錬士以下を指導する立場にある者として、社会的識見に富み健全な社会生活を営む者」という文言もあり、こよなく芋焼酎を好み日々不健全な生活を過ごす私には、いずれも似合わない文言であると言える。この似合わない文言を並べ立てた教士という称号を得るために避けて通れないのが称号の筆記試験だ。

この筆記試験は、全剣連に教士受審申請書を提出し、定められた日時に実技試験を受け、事前に公表される筆記試験実施要領の問題に即し、全剣連発行の参考資料を熟読し、キーワードとなる文言とそれに関連することがらについて理解すればいいだけのことだったが、それが私にとっては苦難の連日連夜だった。

試験の回答は、選択式穴埋めと○×式などによる問題がほとんどであることから、実施要領の問題に即し参考資料を読み、書いて覚えるという方法をとった。

一時限目〈剣道の理念〉〈剣道修練の心構え〉と淡々と覚え、「どうせ受審するならば満点取ろう」と必死になるも、そうこうしているうちに喉が鳴ってくる。堪えきれず、我慢できず、ついつい芋焼酎に手が伸びてしまった。お湯を入れて薄めにしたらだいじょうぶだろう。その方が頭の回転もよくなる。と勝手に決めつけ、湯飲み茶わんに芋焼酎を注ぎ込む。芋の香りが何ともいえない。お湯で薄めてあるといえども、晩めし前の空きっ腹にキリキリ染み渡る芋焼酎。五臓六腑に染み渡るとはこのことを言うのだろうか。ん〜、何ともいえない気分、解放感である。良し・良し・これで良し、かなり気が大きくなっていく感じがする。さて次は、〈剣道指導の心構え〉だ!!

《竹刀の本意》

剣道の正しい伝承と発展のために、剣の理法に基づく竹刀の扱い方の指導に努める。

《礼法》

相手の人格を尊重し心豊かな人間の育成のために礼法を重んずる指導に努める。

《生涯剣道》

ともに剣道を学び安全健康に留意しつつ生涯にわたる人間形成の道を見出す

指導に努める。

すらすらと読み書きが進む。やはり少し酒が入ったほうがいい。芋焼酎のちからは偉大だ。

一時限目の問題を始めてからかれこれ三時間、もとにもどり〈剣道修業の心構え〉をそらんじてみる。

剣道を正しく真剣に学び、心身を錬磨して□なる□を養い……この後がでてこない。順調に覚えていると思いきや、何も覚えていない。覚えたような錯覚に陥っていた。

ふと気がつくと、芋焼酎の入った湯飲み茶わんにはお湯など入れてない。いつの間にか冷やで芋焼酎を飲んでしまっていた。こうした覚え方が何日か続き、一時限目の問題からいっこうに前に進むことができない。〈剣道修錬の心構え〉を覚えるよりも、〈酒飲み修錬の心構え〉を覚える方が先のようだ……。「芋焼酎よ、おまえがここにいなければ、俺はちゃんと覚えられるのに。」と箱パックに嘆く意志の弱さを芋焼酎のせいにする自分の姿がそこにあった。しかし芋焼酎には何の罪もない。かわいそうな芋焼酎よ、と思いながら覗き込む湯飲み茶わんはすでに空、その底には渦模様が巻いてあり、その渦の底から「おまえが俺のそばにいるからであり、俺がおまえのそばにいるわけではない。」と、ぐるぐる渦巻きながら、芋焼酎の声が聞こえてくるようだった。

その翌日から稽古日以外私は徳島駅前のアミコビル内にある市の図書館に通い覚えることにした。休日には朝から図書館に行った。一日中図書館にいるのも苦痛だったが、図書館は気晴らしにデパートの中を散策するのに好都合の場所にあり、覚える事が捗(はかど)ったことは間違いなかった。だが、夕方頃になると芋焼酎が恋しくなり、散策中もデパ地下の酒売り場のあたりをうろうろし芋焼酎を手に取り、こんどはこれにしようと決め、図書館にもどった。一通り盛り沢山の選択穴埋め式・○×式の問題を把握し覚えた。

二時限目の問題〈剣道用具の安全管理〉については、剣道用具の安全管理の重要性やその意義について解れた上で、全剣連の行っている様々な安全対策「竹刀や剣道具などの安全規格の遵守事項」などについてまとめあげた。

三時限目の小論文〈剣道指導者としてのあり方〉については、剣道指導要領を参考に、

指導者自身が自己の修養に努める
確固たる信念をもって指導にあたる
愛情をもって、誠心誠意、指導にあたる
教えることに喜びを持つ
指導を受ける者とともに修錬する
自己の技能の向上に努力する

この六項目についてまとめあげた。

芋焼酎との葛藤に苦しみ、図書館に通い、どうせ受審するなら満点を取る意気込みで四月七日神戸での試験に臨んだ。受けてみると案外すんなり回答することができ、迷うことなく満点だったろうと思っているが、その点数を知ることができないのが残念だ。

今回教士という称号を受有したものの、剣理・識見共に熟達・優秀とまでは達していないのは明らかであるが、多くを学び得

ることができたと思っている。特に小論文〈剣道指導者としてのあり方〉を自分なりにまとめあげることができた。そのことを通して指導者として、自分の剣道修業に明確な目標をもち、日本の伝統文化である剣道を正しく伝承し、更なる剣道修業に励み、日々研鑽を重ねて剣道の普及と発展のために微力ではあるが尽力しなければと感じた。

剣道を始めたからには、せめて辿り着きたい教士まで。それぞれの年齢に応じて、それなりに稽古をしていれば、誰でもそれなりの段位、称号に辿り着けると思っているが、段位も称号も受審できるならば若いうちの方がいい。

老と共に体力と記憶力の衰えを感じる昨今、芋焼酎との付き合いも、ほどほどにと思っている。

平成三十年度 称号・段位合格者一覧

―剣道―

【教士】

五月六日
長崎秀信

十一月二十七日
篠原永光

【錬士】

五月六日
杉浦佳夫
六條洋二
敦賀晋平
鈴木啓三

十一月二十七日
大石真也
下川修一

【七段】

四月三十日
兼松佳史
小坂治

八月二十五日
金野卓司

十一月十七日
川添義仁
谷喜史
柳谷照男
北條雄司
金野裕美

【六段】

四月二十九日
小池丈夫
湯村義喬
長井薫
田上裕之
西堀和文

八月二十六日
小笠原徹

十一月十八日
安丸孝生
清水英典
香川利浩
田村和之
喜浦理砂子
美馬敦子

【五段】

五月二十七日
西山拓志

九月九日
小柏祐三

十一月四日
白木恒二郎
舛田浩一
湯村潔喬
倉橋孝輔

平成三十一年
二月十七日
浅田光貴
鈴木健太郎
熊橋史

【四段】

五月二十七日
笠井栄一
網師本誠司

九月九日
古川秀也
小川虎太郎
村上晋亮
桝本陽介
村上哲之
田中伸
小野勝

十一月四日
久保田祥史
藤田奨平
片山聖也
多川大智
喜多登志郎
津田実穂

平成三十一年
二月十七日
中原祥希
野田雅史
坂本昌典
柏木勇斗
玉田真子
山本悠

【三段】

吉田晴哉　阿部有矢

桶川純聖　矢野一輝

細川大介　北林葵

米倉裕之　和田津凜紅

西岡卓馬　峰慶乃

玉置樹里　藤原優

村本歩美佳　田村眞尋

高瀬桃　馬見恵理子

貴島美鈴　蔭山夢

朝田萌香

五月二十七日

林正隆

鳴滝悠希

植村友飛

井内菜々

堺麗美

新見晃子

盛嘉恵

平成三十一年

二月十七日

眞貝晴樹

北條智士

北條琢己

谷尚貴

末光春樹

近藤稔晃

田上歩夢

原健太郎

後藤高志

松山知樹

嶋田翔吾

九月九日

上原憂晟

片岡俊人

上田昌也

十一月四日

小山田慎介

前山拓光

炭元裕

岩原憂汰

井原拓巳

前田和志

【二段】

森岡壱誠

中山知華

香川小桜

谷仁音

末光真子

佐藤ちひろ

山口祐二

西條尚輝

米崎朋香

福本彩乃

山田莉子

今倉菜月

岩本楓華

松葉佳香

福田真結海

岡崎理

藤原真結

倉橋美妃

野崎まひろ

福田詩音

五月二十七日

松田宙大

勝間春輝

高岡大暉

青山英司

久米川勇気

工藤誠那

花川裕基

大前誠也

西村天良

高田迅人

三宅明伸

島口拓

小澤太陽

小澤日向

藤岡蓮

四宮翔太

岡山大介

明野凌雅

野崎元哉

雑賀勇太

山室愛子

仲井智菜

瀧本響

垣内菜々香

古本明里

桑村有妃

九月九日

庄嶋蓮

秋山颯汰

撫養祈叶

谷口航

松本尊灯

白草慶大

永濵幹大

瀬戸敦

鶴羽祐弥

中東天雅

青木優衣

十一月四日

三宅油衣斗

藤本豪太

久米伊織

笠原希良利

根ヶ山彩登

二宮嵩将

小山田亮太

後藤浩也

立石龍之介

尾形直紀

田上力

眞貝俊輔

阿部蒼生

橘本光樹

谷本英

平成三十一年

二月十七日

津山裕也

赤野太一

斉藤佳亮

富田将太郎

七條守

小西智也

河野菜々子

原拓海
岩谷愛夢
谷口星矢
沖野友哉
近藤邑樹
佐藤大祐
播摩渉
岡﨑壮徹
正木光
古賀元大
竹内大輔
鳥澤明未
金野結月
山尾心那
野地結奈
西村葵
中山はるな
藤井千風
北村凜
三好優果利
中海花栞
片山芽美
鷹野晴美

【初段】

四月二十九日

関本崇司
吉田悠真
尾畑翔
水野公太
前場太貴
井堀裕太
佐藤伸之介
花野楓月
山本千時
白倉基成
中谷篤人
亀井達貴
岸本真幸
笹田将輝
加美憲章
谷口正芳
井上陽介
藤原弘文
香川正行
西岡紀乃

四宮海緒
古川ちひろ
西沢日和
岩佐真夏花
岩原千佳
兼松優那
羽坂愛彩
森川風花
小畠理奈
岩崎心奈
高瀬遥菜
澁谷奈々
松山若樹
明石蒼良
畑田萌
藤崎綾乃
亀岡志帆梨
米田朱里
吉田菜々穂
上野優芽
宮田空
金川直央
山下莉央

大森千紗季
五島菜摘奈
藤川奈々
三笠初月
藤川愛叶
小松原綾乃
冨永春乃
石川まほ
岩本侑姫
伊川由華
岡田恵里
宮北知里
明石彩佳

六月二十四日

山﨑鼎
豊田雄大
三宅澄
澤近晏矢
蔭山大成
田中慶樹
大岩郁斗

楠本康了
福井智大
髙根大河
藤川尚也
髙橋祐樹
藪内一樹
寺野仁美
中尾匂香
播磨昌美
八尾心音
清水うらら
國金美咲
三谷真帆

十月十四日

松下朔
紅露和輝
細川賢真
谷口真
住友晴帆
仁尾徳孝
八木優也
栗田星舞

渡辺沢巳
大鋸由朋
次原渉
佐藤享祐
網本光之介
向井一騎
大久保碧都
藪内颯大
渡邊和希
林聖
本浄巧実
池谷宇司
久米優大
大寺慎之輔
栗田輝未
池田透真
原龍世
栗田空舞
高木俊宗
山田嶺矢
中田蒼
柳澤優
田伏壮登

井口雅貴　徳永唯吹　長田和樹
高木悠　前場勇作　柾田光輝
上田凜　榎本翔　松浦泰雅
山﨑光月　米田安里　矢野雄大
松田深睦　岡本耕太朗　山本直也
八木亜美　吉岡健心　滝上和弥
四宮彩乃　篠辺智輝　森本陸
坂野陽菜　富永晃汰　松並大樹
相原優理菜　永濵聡良　龍田祐貴
三谷優芽　川口寛太　坂野正浩
藤岡玲奈　萬木琥太郎　矢代南
田村凜乃　辻村優人　高田穂花
和田鈴々　前野稜介　佐藤愛結花
東内萌々　鹿島稜　長尾沙弥
村橋朱華　佐川申乃輔　青山大空
山形ほのか　藤野敦士　吉田瑞希
梶本吏玖　浦上紗笑
上原慧　西﨑彩乃
中本光　長野悠来
廣瀬陽　葉田珠利亜
伊沢直留　山﨑結姫乃
表原愛真　二宮未由
笠井勇輔　前川佳代

安床優

平成三十一年

一月二十日

撫養思唯
近藤正獅
香川柊吾
西林篤志

―居合道―

【錬士】

十一月二十七日

内海直弥

【三段】

十一月十一日

井上伸英

【二段】

五月十三日

西岡利治
坂東暁子

十一月十一日

満壽利毅
中島賢
岡山博之

【初段】

十一月十一日

白倉基成
友永大智

がんばろう徳島

事務局取材レポート

頑張ってます！ 大麻錬成館

取材者 事務局長 藤川和秋

今回は、平成三十一年二月九日（土）、鳴門市大麻町の大麻中学校剣道場「洗心館」で稽古している大麻錬成館の剣道教室を訪問しました。

大麻錬成館は、昭和五十三年に創設され、今年で四十一年目を迎えるという歴史ある剣道教室です。現在は近藤敏晴先生が代表指導者をしています。

それでは大麻錬成館の現在の状況をお知らせします。事務局が訪問した際は

○小学生、幼年　十九人（内初心者二人）
○中学生　二人

の合計二十一人の子供が稽古をしていました。

指導者は

○**代表指導者**
近藤　敏晴　先生（錬士六段）
○**指導補佐**
藤本　雅史　先生（教士七段）
松本日出夫　先生（錬士七段）
森下　昭彦　先生（剣道四段）
受川　東　先生（剣道四段）
矢野　真一　先生（剣道二段）

の六人です。代表指導者の近藤敏晴先生は

○試合に勝つことが目標でなく基本を忠実に指導する
○中学校、高校にいっても剣道を続けてほしい

との思いで指導をしています。

今回事務局が訪問した際、近藤敏晴先生は所用のため不在でしたが、受川東先生が厳しく目を光らせ指導に当っていました。子供達の稽古は、機敏で無駄がなく、大きな声が出て道場は活気に溢れていました。受川東先生の熱心で厳しい指導を子供達は素直に受け止め頑張っている姿は、少年剣道教室はこうあるべきだという原点を見たような気がします。

初心者の二人は中学生が面倒をみており、大きな声で自転車のタイヤに面打ちを行っていました。「うまく打ててるよ！」と励ますと、写真のとおりニッコリとうれしそうな笑顔になりました。この初心者二人は写真左側が

○**三橋朋弥**（ともや）君　八歳
板東小学校二年生

○**中村隼翔**（はやと）君　六歳　年長さんです。二人とも頑張って早く強くなって下さい。期待しています。

それでは全員のインタビューはできませんでしたので代表して「花の三人娘」をご紹介したいと思います。

今回の稽古に参加していた三人娘は、写真の左側が

○**樫原心花**（ここな）ちゃん
板東小学校三年生

好きな男の子は今のところいません。これからも剣道を続けて行きたいです。

写真中央が

○**天満百華**（ももか）ちゃん

板東小学校二年生

剣道は嫌いです。でもなぜか妹の椛（もみじ）と一緒に剣道の練習に来ています。将来は学校の先生になりたいです。

写真右側が

○**天満　椛**（もみじ）ちゃん

板東小学校二年生

平成二十二年十一月十九日生まれの血液B型です。朝六時五十七分に起きてお母さんに学校に送ってもらっています。剣道は大好きです。将来は剣道の道場を開いて子供に剣道を教えたいです。最後に「好きな男の子が同級生にいます。名前は絶対言えません。」とこっそり事務局に教えてくれました。乙女心ですね～！ちなみに百華ちゃんと椛ちゃんは双子の姉妹で百華ちゃんがお姉さんです。

稽古も終わり、最後に子供達みんなが大きな声で「頑張るぞ！オ～」と事務局に向かってポーズをとってくれました大麻錬成館のみなさん、事務局の取材を快く受けて頂き本当に有り難うございました。これからの活躍を期待しています。～頑張れ！～

初心者の二人

花の三人娘

受川先生の厳しい指導

頑張るぞ！オ～

専門部報告

事業部より

事業部長代行　切中克樹

事業部長佐賀博史先生に代わりまして平成三十年度の事業部の報告をさせて頂きます。

事業部では剣道連盟主催の大会及び講習会などの開催、運営を主な業務としており、各大会が有意義かつ安全に開催されることを目的として活動しています。

平成三十年度の活動状況と致しまして、一般男子、女子、少年の各大会を合計七大会、講習会を二回、開催準備・運営を行いました。（各大会の結果は後記「大会記録」のとおりです。）

また「徳島県少年錬成大会」を「徳島県少年剣道優勝大会」と大会名を変更し、個人戦の出場枠を広げ、小学四年生から六年生までが各学年にわかれ熱戦を繰り広げ、沢山の少年剣士が出場し活気溢れる大会となりました。

講習会については五月に佐藤佳宏先生、生田浩章先生を講師として剣道伝達講習会を開催し、十月には範士八段中田琇士先生を講師にお招きし、秋季講習会を開催致しました。この年二回の講習会は指導法や日本剣道形の習得の向上などに大変役立つ講習でありますので、是非ともこれまで以上の先生方の積極的なご参加をお願い致します。

これらの大会や講習会などにつきましては事業部員だけでは開催をできるわけもなく、徳島県剣道連盟の役員の先生方はもちろんのこと、審判員としてお手伝い頂きました先生方や女子部の先生方のサポートがあり、素晴らしい大会が開催できたと思います。皆様方のご協力に感謝するとともに本誌面をお借りして厚く御礼を申し上げます。

今年度も事業部員一同、各種大会、講習会等が盛大かつ有意義な大会になるよう一丸となって取り組んで参りますので、今後ともご指導、ご協力の程宜しくお願い致します。

審査部より

審査部長　佐藤佳宏

平成三十年度の行事につきましては、剣道の部では、初段以下審査会（四回）、二段以上審査会（四回）、四・五段講習会（一回）、日本剣道形講習会（二日間）、居合道の部では、五段以下審査会（四回）等全て無事終えることができました。

地元役員、審査員、剣道連盟関係者の方々には多大なるご協力を頂きまして心よりお礼を申し上げます。

審査会の結果につきましては、居合道の部、受審者一八名、合格者一八名、合格率一〇〇％、剣道初段以下の部、受審者一一六〇名、合格者一一三八名、合格率九七％、剣道二～五段・称号の部、受審者二三二名、合格者一九〇名、合格率八二％となりました。

六段以上の高段位合格者につきましては、居合道錬士一名、剣道六段一二名、剣道七段八名、剣道錬士六名、剣道教士二名という結果でありました。合格の先生方は下記のとおりです。

〈居合道錬士〉

内海　直弥

〈剣道六段〉

湯村　義喬（徳島支部）
長井　　薫（阿波支部）
田上　裕之（阿南支部）
西堀　和文（板野東支部）
小池　丈夫（阿南支部）
小笠原　徹（徳島支部）
安丸　孝生（阿波支部）
清水　英典（徳島支部）
香川　利浩（徳島支部）
田村　和之（警察支部）
喜浦理砂子（名西支部）
美馬　敦子（徳島支部）

〈剣道七段〉

兼松　佳史（阿波支部）
小坂　　治（警察支部）
金野　卓司（刑務所支部）
川添　義仁（警察支部）
谷　　喜史（阿南支部）
柳谷　照男（麻植支部）
北條　雄司（阿南支部）
金野　裕美（徳島支部）

〈剣道錬士〉

杉浦　佳夫（徳島支部）
六條　洋二（警察支部）
敦賀　晋平（阿南支部）
鈴木　啓三（阿南支部）
大石　真也（阿南支部）
下川　修一（三好支部）

〈剣道教士〉

長崎　秀信（徳島支部）
篠原　永光（小松島支部）

三十一年度行事につきましては、八月に開催しておりました日本剣道形講習会が、会場の都合と、参加人数が少ないことなどから中止となりましたのでご了承頂けますようお願い致します。

強化部より

強化部長　平野誠司

一　平成三十年度実施結果

㈠剣道連盟稽古会「強化稽古」
毎週木曜日一九：〇〇～二一：〇〇
中央武道館

㈡地区交流稽古会
〇南部交流稽古会
四月二十九日　阿南市武道館
〇西部交流稽古会
四月十三日　川島中学校
十一月九日　脇町中学校

㈢長期育成強化訓練
〇第二十二回
平成三十年八月二十六日実施
阿波中学校体育館
講師　剣道範士　作道正夫先生
〇第二十三回
平成三十一年一月二十七日実施
那賀川スポーツセンター

㈣強化遠征
〇都道府県選手強化
男子京都遠征
四月六日～四月七日
女子京都遠征
六月十日
女子広島遠征
六月三十日～七月一日
〇国体選手強化
女子広島遠征
六月三十日～七月一日
男子・女子京都遠征
八月三日～八月四日

二　大会結果

㈠四月二十九日
全日本都道府県対抗剣道優勝大会
三回戦敗退（ベスト八）

㈡五月二十日
四国四県剣道大会　第三位

㈢七月十四日
全日本女子都道府県対抗剣道優勝大会
二回戦敗退

㈣八月十九日
国民体育大会四国ブロック大会
成年女子第二位

㈤九月三十日～十月二日
国民体育大会　一回戦敗退

三　平成三十一年度強化計画

㈠基本方針「競技力向上と文化的伝承の共存」
〇全国大会入賞を目標に競技力向上を図る。
〇審判と指導、審査と指導の連携により、本県剣道の総合力向上を図るとともに、伝承されるべき剣道を見据えた取り組みを展開する。
〇心豊かな剣心を育み、生涯剣道を通して剣道理念の高揚に努める。
～三世代共導、共習の稽古場の創造～
～武に向かう心の醸成（魅力ある剣道）～

㈡徳島県剣道連盟強化稽古会
毎週木曜日　中央武道館
一九：〇〇～二一：〇〇
（第一木曜日
日本剣道形一九：〇〇～二〇：〇〇
合同稽古二〇：〇〇～二一：〇〇）

㈢地区交流稽古会

「交剣知愛」の場作りとして継続実施する。

㈣長期育成強化訓練

小中高を一貫するジュニア強化・育成プロジェクト。基本錬成を中心に骨太剣士を育成する。（国体強化と連動）

少年部より

少年部長　松村和宏

毎年四月から月一回強化錬成を行っております。四月より七月までは四グループに分けてA～Cで勝ち抜き戦を行い、Aグループの中から最終十名選考し、上位五名を全日本少年剣道優勝大会の選手として決めました。

その後八月に岡山県剣道連盟主催の中四国錬成に参加、翌日兵庫県印南道場にて強化合宿し練習試合をお願いしてきましたが、試合結果はもう一歩であり、九月にも滋賀遠征に参加しました。残念ながら結果を出すことが出来ませんでした。大阪で全日本小中学生優勝大会におきましても、三チームのリーグで今回は最下位と情けない結果に終わりました。

今回の選手選考方法は上位五名のみ決めましたが、前回までは上位十名を選考し、その日の練習試合内容を見て五名を決めていました。徳島県の代表を上位五名のみで大会に臨むのは少し無理かと課題が残りました。今後少しでもリーグを勝ち上がり良い成績を残せる為に少年部一同話し合いながら頑張りますのでご指導ご協力を宜しくお願い申し上げます。

強化錬成に参加した子供達一〇三名、その内　皆勤賞　男子二十三名　女子六名です。

会長より賞状・副賞として竹刀を授与しました。

女子部より

女子部長　竹内　佳代子

〈女子大会の結果〉

県内行事

①徳島県女子剣道大会（九月二日）　ソイジョイ武道館

団体戦　参加　七チーム

優　勝　徳島剣夢会（松本・木浦・平野）

準優勝　教員剣美会A（山本悠・長谷川・山本千）

第三位　大塚製薬

第三位　教員剣美会B

個人戦　区分一（二十九歳未満）　参加者十二名

優　勝　山本　千尋（教員剣美会）

準優勝　長谷川愛実（教員剣美会）

第三位　吉田　歩生（大塚製薬）

森本　夢（川島高校剣友会）

個人戦　区分二（三十歳以上）　参加者四名

優　勝　前田奈々枝（川島高校剣友会）

準優勝　塚原　裕美（教員剣美会）

県外行事

①全国都道府県女子剣道大会（七月十四日）　日本武道館

二回戦　徳島　〇－三　岡山

②国体四国ブロック予選（八月十九日）　高知県

徳島　一－二　愛媛

徳島　二－一　香川

徳島　一－二　高知　一勝二敗

勝者数、取得本数により二位

③全日本女子剣道選手権大会（九月二十三日）長野県

一回戦　木浦選手　－メド　西選手（茨城県）

〈女子部稽古会について〉

毎月一回の実施を目標として、基本を中心とした女子の稽古会を行っている。今年度は、四月当初に一年間の予定表を作成し、その計画に基づいて実施を行った。予定表については、三月に行われた剣道連盟総会で各支部長の先生方にお渡しし、女性の方への連絡をお願いした。

①参加状況

〇四月七日（土）松茂第二体育館

富田先生、白木先生のご指導の下、十一名が参加

〇五月十九日（土）松茂第二体育館

いろいろな行事と重なり、三名だけと少ない参加となったが、参加者からはじっくりと基本ができたので、少なかったけど参加して良かったとの感想がもらえた。

〇六月十六日（土）松茂第二体育館

白木先生のご指導の下（九名参加）

〇九月二日（日）ソイジョイ武道館

女子剣道大会終了後、審判・役員の先生方と自由稽古

〇十月六日（土）ソイジョイ武道館

一年生大会終了後実施（十名参加）

〇十一月十七日（土）中止

〇十二月一日（土）～二日（日）

高知県主催、近県女子剣道錬成会（六名参加）

○一月六日（日）北島北公園総合体育館
剣道連盟の稽古始めに参加。
○二月二日（土）松茂第二体育館
（八名参加）

②成果と課題

年間の計画に基づいて実施することができた。次年度も計画に基づいて行う予定である。連盟のホームページにも掲載してくれているので、連絡が徹底でき、ありがたい。

土曜日の開催がほとんどで、仕事の関係で参加できない人もいる。各行事と照らし合わせながら日曜日の開催も検討していきたい。

第一回目の稽古会には、お子さんと一緒に剣道を始めたばかりの方二名の参加があった。多くの女性が気軽に参加でき、わずか一時間ではあるが、参加してよかったと思ってもらえるような充実した稽古会にできたらと思う。

今年度は、七段に金野裕美さん、六段に美馬敦子さん、喜浦理砂子さんが昇段された。今後も、昇段を目指されている女性の方が一人でも多く、その目標を実現できる力になれればと願う。

今年度は「お通杯」に参加することができなかったので、次年度はぜひ参加をしたい。

〈終わりに〉

女子部の皆様、今年度も仕事や家庭との両立で忙しい中、練習会や各種大会への参加、社会人大会のお手伝いなど、ご協力いただきありがとうございました。また、ご指導をいただいた先生方、大変お世話になりました。これからも、「女子部の稽古会に参加してよかった」「大会、錬成会に参加してよかった」と言ってもらえるようにしていきたいと思っています。そして、一人でも多くの女性の皆さまと剣を交える機会がもてること、また各種大会などに多くの方が参加し、活躍できることを目標に活動していきたいと思います。今後ともご指導、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

また、お気づきの点やご要望がありましたら、お気軽に声をかけてください。どうぞよろしくお願いいたします。

居合道部より

居合道部長　福井　勝

大会等

☆四月十四日（土）、十五日（日）
第五十六回高知居合道大会・錬成会
於：南国市立スポーツセンター
参加者　十六名

☆五月二日（水）
第一一四回全日本剣道演武大会
於：京都武徳殿
参加者　五名

☆五月二十七日（日）
第四十三回東北日本居合道大会
於：新潟県燕市総合体育館
参加者　三名

☆九月二十九日（土）
第四十七回香川居合道大会
於：高松市総合体育館
参加者　十四名

☆十月二十日（土）
第五十三回全日本居合道大会
於：茨城県武道館
監督　坂本憲一　七段　福井　勝
六段　内海直弥　五段　徳山　豊

☆一月十三日（日）
第六十回大阪居合道大会
於：エディオン・アリーナ大阪
参加者　四名
五段の部敢闘賞　徳山　豊
（旧大阪府立体育館）

☆二月十七日（日）
居合道県下大会
於：松茂町第二体育館
参加者　二十三名

【段別優秀賞】
少年の部　森本　理希

【敢闘賞】
大岸美心　西岡悠天　大岸娃心
二段の部　岡山　博之
三段の部　井上　伸英
四段の部　多田　照夫
五段の部　徳山　豊
村井　恒治
六段の部　満壽　良史

☆三月二十一日（木・祝）
第四十五回北九州居合道大会
於：北九州市立体育館
参加者　三名

審査会・講習会等

☆五月十三日（日）
春季講習会・審査会
於：松茂町第二体育館
講師　原田　勝
参加者　二十九名
受審者　四名

☆六月三十日（土）
四国四県居合道合同稽古会
於：三好市池田総合体育館
参加者　八十九名

☆七月九、十日（土、日）
全剣連主催　西日本地区講習会
於：和歌山市ビッグホエール
参加者　十名

☆九月一、二日（土、日）
全剣連主催　中央講習会
於：京都市武道センター
参加者　坂本憲一　森　将夫

☆九月十六日（日）
伝達講習会・審査会
於：松茂町第二体育館
講師　坂本憲一　　森　将夫
参加者　二十三名
受審者　三名（錬士称号予備審査一名）

☆十一月十一日（日）
秋季講習会・審査会
於：松茂町第二体育館
講師　原田　勝
参加者　三十名
受審者　九名

☆二月十七日（日）
県下大会・審査会
受審者四名
於：松茂町第二体育館

全日本居合道大会選手強化練習

☆六月～十月に計八回、吉野川市鴨島第一中学校武道館・阿波市伊沢公民館において強化練習を実施。

中央審査

☆七月六日（金）六・七段審査会
於：和歌山市　　合格者　なし

☆十一月二十七日（月）
称号審査会
於：東京都
錬士合格　内海直弥

審判部より

審判部部長　冨浦　廣志

本年度の活動

○審判講習会の実施

平成三十年三月二十五日

於　松茂町総合体育館

参加人数　五十一名

担当　冨浦　廣志　白木　洋一

㈠講義

㋐中学校教諭の年齢構成の提示により

・高年齢層が多いことで、審判員不足が心配される事から、一般の方々へ学校関連の各種大会への審判員としての参加を依頼した。

㋑大会のアンケート結果から

・年齢が若く段位が六段以下の審判に、自分の判定に不安を感じている人が多い。

（練度にあった有効打突の判定、鍔迫り合いの反則などの迷い）

・高段位の先生方からは、全体への意見として多く書かれた。

（審判員の位置取り、切り込みの動作不足、審判講習の必要性、

・有効打突の判定（最後まで目を離さない）

㋒アンケート結果総括

・アンケートは審判技能向上意識付けに一定の効果があった。

・アンケートに慣れてきているので、内容等の検討が必要。

・自己の審判技能を向上しようと思ってもらえる取り組みが必要。

・若手審判研修態勢の確立。

・大会ごとに自己の審判の振り返りは必要。

㋓有効打突について

・要素・要件、練度にあった有効打突の判定。

㋔剣道家の立ち位置について

㋕中体連、大会の役員の方々の試合を見てのご意見

㈡実技

㋐発声、所作事確認、反復練習

㋑位置取り

・二等辺三角形の体感（紐を使っての位置取り）

・試合者との距離感の確認

○各大会での審判研修の実施

㋐審判技能に不安のある先生、若い先生を中心に、五十代熟練者が指導者としてついて研修を行った。

㋑昼食時や団体戦第一試合終了後、審判研修を実施

㋒アンケートの実施

㋓役員の先生方へのアンケートの実施

・運営、生徒の所作作法の指導不足の点、着装、審判員の位置どりなどを指摘いただいた。

○審判依頼

剣道連盟主催大会において審判依頼を行っている

○来年度の活動について

「審判が良くなれば、剣道が良くなる」

審判講習会や、各種大会を通して、審判技能の向上や、審判員としての資質向上を図っていきたい。

中体連より

中体連部長　佐藤　浩

○平成三十年度県内各種大会団体戦成績表

性別	男子				女子			
大会名	選手権	県総体	新人戦	強化錬成	選手権	県総体	新人戦	強化錬成
期日	30.5.26	30.7.21	30.11.4	31.1.19	30.5.26	30.7.21	30.11.4	31.1.19
会場	ソイジョイ武道館	ソイジョイ武道館	ソイジョイ武道館	ソイジョイ武道館	ソイジョイ武道館	ソイジョイ武道館	ソイジョイ武道館	ソイジョイ武道館
参加校	37校	25校	30校	36校	25校	21校	21校	27校
優勝	北島	那賀川	徳島	那賀川	那賀川	那賀川	徳島	徳島
準優勝	徳島文理	北島	那賀川	徳島文理	徳島	徳島	那賀川	那賀川
第３位	阿南一	徳島	小松島	北島	徳島文理	江原	鳴門一	海陽
第３位	那賀川	相生	徳島文理	徳島	江原	海陽	海陽	鳴門一

○県総体個人

平成三十年七月二十二日（日）
ソイジョイ武道館

男子
優　勝　松本　尊灯（徳島）
準優勝　橋本　青空（那賀川）
第三位　永濵　幹大（北島）
　　安井　大晟（石井）

女子
優　勝　岡﨑　理（那賀川）
準優勝　松山　若樹（徳島）
第三位　岩原　千佳（徳島）
　　塚田　志緒（鳴教大附属）

○四国総体

平成三十年八月五日（日）
南国市スポーツセンター

〈団体戦　男子〉
那賀川中学校　第三位
（準決勝　高知　三―〇　那賀川）
北島中学校　予選リーグ四位
（予選敗退）

〈団体戦　女子〉
那賀川中学校　準優勝
（決勝　高知　一―〇　那賀川）
徳島中学校　予選リーグ四位
（予選敗退）

〈個人戦　男子〉
橋本　青空（那賀川）　準優勝
松本　尊灯（徳　島）　三回戦
武知　樹生（鳴教大附属）　三回戦
佐藤廉之助（城　東）　二回戦
四宮　翔太（北　島）　二回戦
永濵　幹大（北　島）　一回戦
谷川　俊輔（北　島）　一回戦
安井　大晟（石　井）　一回戦

〈個人戦　女子〉
河野菜々子（那賀川）　優　勝
岡﨑　理（那賀川）　準優勝
岩原　千佳（徳　島）　三回戦
岩本　楓華（那賀川）　二回戦
古川ちひろ（徳島文理）　二回戦
塚田　志緒（鳴教大附属）　一回戦
松山　若樹（徳　島）　一回戦
佐藤ちひろ（徳島文理）　一回戦

○全国中学校大会

平成三十年八月二十二(水)～二十四日
(金)
岡山市総合文化体育館

〈団体戦　男子〉
那賀川中学校
　予選リーグ敗退（一分一敗）

〈団体戦　女子〉
那賀川中学校
　予選リーグ敗退（一勝一敗）

〈個人戦〉
松本　尊灯（徳　島）二回戦敗退
岡﨑　　理（那賀川）四回戦敗退
橋本　青空（徳　島）二回戦敗退
松山　若樹（徳　島）三回戦敗退

○全国都道府県対抗少年剣道大会

平成三十年九月十六日
おおきにアリーナ舞洲
監　督　長地　千景（那賀川）
コーチ　塚原　裕美（北　島）
先　鋒　岡﨑　　理（那賀川）
次　鋒　松山　若樹（徳　島）
中　堅　永濵　幹大（北　島）
副　将　橋本　青空（那賀川）
大　将　松本　尊灯（徳　島）
予選リーグ
　徳島　○－二　茨城
　徳島　一－二　長野

○県内行事

・県下三地域（中部・西部・南部）で指導者講習会実施
・八月二十五日　第十八回県中夏季錬成会　県内中学校三十九校、延べ人数二九二名参加
・徳島県中学校剣道一年生大会
　十月六日（土）実施
　男子　団体　優勝　高浦中学校
　　個人　優勝　倉橋秀汰（那賀川）
　女子　団体　優勝　那賀川中学校Ａ
　　個人　優勝　長尾紗弥（川内）
・剣道連盟稽古始め参加
・第十四回四国中学校新人剣道大会
　平成三十一年三月三日（日）
　阿波中体育館

○優秀選手

男子二十一名、女子二十名（新聞発表済み）

○平成三十年度中学校剣道部員数

（　）は昨年度

	1年生	2年生	3年生	合　計
男　子	105人 (127人)	123人 (116人)	113人 (116人)	341人 (359人)
女　子	66人 (74人)	67人 (67人)	62人 (65人)	195人 (206人)
合　計	171人 (201人)	190人 (183人)	175人 (181人)	536人 (565人)

高体連より

高体連剣道専門部委員長
玉田晋作

一、大会報告

県内大会（高体連主催、剣道連盟後援）

○第四十三回徳島県剣道連盟会長杯争奪剣道大会

平成三十年四月二十二日
於：ソイジョイ武道館
〈男子〉参加校数　十九校
①徳島文理　②鳴門渦潮
③阿南工・阿南光　川島
〈女子〉参加校数　八校
①富岡東　②富岡西
③川島　鳴門

○第五十八回徳島県高校総合体育大会

平成三十年六月二日・三日
於：阿南市那賀川スポーツセンター
〈男子団体〉参加校数二十校
①鳴門渦潮　②富岡西
③富岡東　徳島文理
〈女子団体〉参加校数　十校
①富岡東　②富岡西
③川島　徳島文理
〈男子個人〉参加人数一六〇名
①大城（富岡西）②服部（富岡西）
③坂野（渦潮）　片岡（文理）
〈女子個人〉参加人数　七十七名
①明口（富岡東）②堺（富岡東）
③田村（富岡東）橋本（富岡西）
※右線全国大会出場

○第五十二回徳島県高等学校剣道選手権大会

平成三十年十一月十八日
於：阿南市那賀川スポーツセンター
〈男子〉参加人数　一一六名
①片岡（文理）②大空（城北）
③熊橋（川島）　後藤（富岡東）
〈女子〉参加人数　四十七名
①馬見（富岡東）②福田（富岡東）
③田邉（富岡東）　篠原（川島）
※右線全国大会出場

○第六十三回徳島県高等学校新人大会兼全国選抜大会予選

平成三十一年一月十三日
於：ソイジョイ武道館
〈男子〉参加校数　十六校
①阿南工・阿南光　②徳島文理
③富岡西　徳島科技
〈女子〉参考校数　六校
①富岡東　②川島
③富岡西　城北
※右線全国大会出場

県内大会

（高体連主催以外で高校生が参加した大会）

○第四十三回山家旗争奪県下剣道大会

平成三十年四月三十日
於：那賀町B&G海洋センター体育館

○阿北地区剣道大会

平成三十年九月十七日
於：高浦中学校体育館

○清原杯争奪第六十三回県下剣道大会

平成三十年十一月三日
於：阿南工・阿南光高校体育館

※建国記念の日奉祝県下高校剣道大会は平成二十九年度大会（第三十九回）をもちまして終了しました。

全国大会

○平成二十九年度全国高校選抜大会

平成三十年三月二十七日・二十八日

於：愛知県春日井市総合体育館

〈男子〉城北高校　一回戦敗退

〈女子〉富岡東高校　二回戦敗退

富岡西高校　一回戦敗退

○平成三十年度インターハイ

平成三十年八月九日～十二日

於：三重県サンアリーナ

〈男子団体〉鳴門渦潮高校

予選リーグ二戦一勝一敗で

予選リーグ敗退

〈女子団体〉富岡東高校

予選リーグ二戦二勝で

決勝トーナメント進出

トーナメント1回戦で敗退

〈男子個人〉大城（富岡西）二回戦敗退

服部（富岡西）一回戦敗退

〈女子個人〉明口（富岡東）三回戦敗退

堺（富岡東）一回戦敗退

四国大会

○平成三十年度四国高等学校剣道選手権大会

平成三十年六月十六日・十七日

於：高松市香川総合体育館

〈男子団体〉

鳴門渦潮、富岡西、富岡東、徳島文理が出場　鳴門渦潮が第三位入賞

〈女子団体〉

富岡東、富岡西、川島、徳島文理が出場

富岡東が第三位入賞

〈男子個人〉

県高校総体個人ベスト八進出選手が出場

入賞者はなし

〈女子個人〉

県高校総体個人ベスト八進出選手が出場

入賞者はなし

○平成三十年度四国高等学校剣道新人大会

平成三十一年二月二日・三日

於：高知県立武道館

〈男子団体〉

阿南工・阿南光、徳島文理、富岡西、徳島科学技術が出場　入賞なし

〈女子団体〉

富岡東、川島、富岡西、城北が出場

富岡東が第三位入賞

〈男子個人〉

県高校剣道選手権大会ベスト八進出選手が出場　熊橋（川島）が優勝、片岡（文理）が第三位入賞

〈女子個人〉

県高校剣道選手権大会ベスト八進出選手が出場　入賞者なし

◎国体四国ブロック予選大会

平成三十年八月十九日

於：南国市立スポーツセンター

〈少年男子〉

監　督　玉田　晋作

コーチ　山田　浩史

選　手　大城　穂高（富岡西）

熊橋　知晃（川島）

服部　真佑（富岡西）

坂野　修造（鳴門渦潮）

片岡　俊人（徳島文理）

冨田　孔明（城北）

前田　龍志（鳴門渦潮）

結　果　三戦一勝二敗で三位、国体出場ならず。

〈少年女子〉

監　督　長井　薫
コーチ　岩原　靖人
選　手　田村　眞尋
　　朝田　萌香
　　明口なぎさ
　　堺　麗美
　　大城明裕奈
　　福田　優那
　　堀出　瞳（以上富岡東）

結　果　三戦一勝二敗で三位、国体出場ならず。

二、強化事業

○平成二十九年度徳島県高体連春季強化錬成会

平成三十年三月十七日・十八日
於：阿南市総合スポーツセンター
参加校
招待校（男子）育英高校
　　桜丘高校
　　浜名高校
（女子）筑紫台高校
　　菊池女子高校
県外参加校数（招待校除く）
　男子　二十四校　女子　二十四校
県内参加校
　男子　十六校　女子　十一校
参加人数
　県外　男子　三三三名　女子　二一四名
　県内　男子　九十五名　女子　五十四名
　計　六九六名

◎平成三十年度徳島県国体少年の部強化錬成会

平成三十年十二月二十八日・二十九日
於：アミノバリューホール・鳴門渦潮高校体育館・徳島北高校体育館
参加校
招待校（男子）島原高校
　　東海大浦安高校
　　三養基高校
（女子）島原高校
　　東奥義塾高校
　　須磨学園高校
県外参加校数（招待校除く）
　男子　十二校　女子　十三校
県内参加校数
　男子　十六校　女子　九校
参加人数
　県外　男子　一五七名　女子　一三六名
　県内　男子　九十九名　女子　四十四名
　計　四三六名

三、人口調査

平成三十年度高体連加盟校数・人数
男子　二十二校　一六三名
女子　十九校　八十名
計　二四三名

大学連より

大学連部長　木原資裕

一　第六十五回中四国学生剣道選手権大会（平成三十年五月二十日）への出場（松山）

○一回戦敗退

・金城　暎（徳大）
・服部　良介（鳴教大）
・野間　栄輔（徳大）
・生城　暢大（鳴教大）
・中谷　篤人（徳大）
・嶋田　翔吾（鳴教大）
・高千穂泰介（文理大）
・鳴川　了介（徳大）

二　第四十九回中四国女子学生剣道選手権大会（平成三十年五月二十日）への出場（松山）

○一回戦敗退

・上田　真維（鳴教大）

○二回戦敗退

・黒田木乃佳（文理大）

三　第六十五回中四国学生剣道優勝大会（平成三十年九月二日）への出場（岡山）

○予選リーグ

・徳島大　二敗　予選リーグ敗退

四　第四十五回中四国女子学生剣道優勝大会（平成三十年九月二日）への出場（岡山）

○予選リーグ

・徳島文理大　一勝一敗
　予選リーグ敗退
・徳島大　一敗一分　予選リーグ敗退

五　第三十七回眉山杯剣道大会（徳島県学生剣道選手権大会）ならびに第十三回徳島県学生剣道東西対抗試合の実施

日時：平成三十年十一月二十三日（木・祝）
場所：徳島文理大学体育館
参加者数　六十一名
（選手五十一名・役員審判十名）

○選手権大会成績

男子　優　勝　鳴川　了介（常三島）
　　二　位　阿部　有矢（蔵本）
　　三　位　前田崇太郎（蔵本）
　　前田　貴紀（蔵本）
女子　優　勝　須藤のぞみ（文理）
　　二　位　新谷　美和（常三島）
　　三　位　黒田木乃佳（文理）
　　生田　朱音（文理）

○東西対抗優秀選手

男子　杉山　拓之（四国）四人抜き
　　澤井　直樹（蔵本）三人抜き
　　久保田祥史（蔵本）三人抜き
　　壹貫田　稜（鳴教大）二人抜き
　　中野　輝一（常三島）二人抜き
女子　神里　命（四国）四人抜き
　　生田　朱音（文理）二人抜き
　　須藤のぞみ（文理）二人抜き
　　黒田木乃佳（文理）一人抜き・
　　大将

五　第三十七回中四国学生剣道新人大会（平成三十年十二月九日）への出場（広島）

○男子

一回戦
　徳島大　二―〇　岡山理科大B
二回戦

東亜大B　二－〇　徳島大

○女子

一回戦

愛媛大　一（二）－一（一）　徳島大

六　大学連講習会

平成三十年度は河田清実先生を講師に三回実施した。

①平成三十年五月十三日（日）

場所：鳴門市光武館

参加者：三十名

②平成三十年六月十六日（土）

場所：鳴門市光武館

参加者：二十九名

③平成三十年九月二十九日（土）

場所：鳴門市光武館

参加者：二十一名

七　総括

全日本学生大会への予選を兼ねる中四国学生大会における徳島県関連大学の成績は上記に見るごとく、ほとんど一回戦および予選リーグで敗退している。中四国学生大会での上位大学では、ほとんどスポーツ推薦枠や特待生枠を有しており、大学入学時点での大学間の戦力格差は明らかである。また、スポーツ推薦枠を有している多くの大学では、専任の教員あるいは職員のポストがあり、指導陣・施設も充実しており、徳島県内の大学とその実力差がさらに大きくなっている現状である。

上記の眉山杯大会で優勝している男子・鳴川了介（常三島）や女子・須藤のぞみ（文理）は、今後の稽古次第で、全日本学生への出場が目指せる可能性を有しており、彼らの活躍をきっかけに大学連の底上げにつなげたいと考えている。

徳島県剣道稽古場所一覧（平成31年度版）

支部名	教室および道場名	代表者・連絡先	稽古場所	日時 （少年・一般の区別明記のこと）
徳島支部	徳島少年剣道教室	生田浩章 088-664-1971	徳島県立中央武道館	少年（水・木・土）17:00－19:00
	蔵本少年剣道クラブ	福永　徳 088-631-0207	加茂名中学校武道場	少年（火・金）19:00－21:00 少年（日）　18:00－21:00
	加茂名少年剣道教室	鈴江俊和 088-631-4753	加茂名小（木） 加茂名中（土） 加茂名南小（日）	少年（木・土）18:00－19:45 少年（日）　17:20－19:30
	東内道場	東内　勉 088-631-3971	研修道場 東内会館	少年（木・土）18:00－20:00
	上八万剣道倶楽部	川人　護 088-668-1384	上八万小学校体育館	少年（水・土）17:00－19:00 一般（水・土）19:00－21:00
	宅宮（えのみや） 剣道倶楽部	河野通宣 088-668-0167	えのみや睦会武道場	少年（土）19:00－21:00
	入田錬成会	佐藤佳宏 088-644-3124	入田中学校体育館	少年（火・土）19:30－21:30 一般（火・土）21:30－22:30
	北井上剣道教室	美馬勝行 088-642-3898	北井上中学校体育館	少年（火・金）19:00－21:00
	徳島清風館道場	久保隆司 088-633-0727	国府小学校体育館	少年（土・日）17:00－19:00
	養武館	米倉　滋 088-668-6650	八万中剣道場（火） 養武館道場（木・土）	少年（火）　19:00－21:00 少年（木・土）19:30－21:00
	徳島親道館剣道場	矢武秀生 088-644-5171	親道館道場	少年（火・金）19:00－20:30
	佐古剣道クラブ	谷本浩志 088-637-2204	佐古小学校体育館	少年（火・木）17:00－19:00 少年（日）　9:00－12:00
	渭東少年剣道教室	吉田昌彦 088-664-2153	城東中学校黎明館	少年（火・木・金）19:00－21:00
	徳島錬心館	大澤孝彰 088-654-6325	錬心館道場	一般（火・木・土）19:00－20:00
鳴門支部	鳴門市光武館	寺西明弘 088-685-0703	光武館剣道場	少年（火・木）18:30－20:30 少年（土）　17:30－19:30
	鳴門市少年剣道教室	元木　武 088-685-3705	鳴門ソイジョイ武道館	少年（月・水）18:00－20:00 少年（土）　9:00－11:00 一般（月）　20:00－21:00
	大麻錬成館	近藤敏晴 088-689-0857	大麻中学校剣道場	少年（火・土）18:30－20:00
板野東支部	北島少年剣道教室	伊賀雅人 088-698-4528	北島北小学校体育館	少年（月・木）19:00－20:30 一般（月）　20:45－22:00
	誠武館道場	井川理之 090-4976-4477	北島町立武道館	少年（木・土）19:00－20:30 一般（木・土）20:30－21:00
	松茂少年剣道教室	米田利彦 088-699-6176	松茂町第二体育館 （武道館）	少年・一般（火・金） 19:00－22:00

板野西支部	板野西稽古場	久次米繁興 088-692-7198	藍住町武道館	一般（火・木・土）21:00－22:00
	藍住剣道スポーツ少年団	原　多三夫 088-692-5780	藍住町武道館	少年（火・木・土）19:00－20:30
	剣道板野道場	米崎信弥 090-4972-4177	板野町体育センター	少年（火・水）19:30－21:00 少年（日）　　9:00－11:00
	上板少年剣道教室	藤本辰夫 088-694-5031	神宅小学校体育館	少年・一般（月・木） 19:00－21:00
阿波支部	阿波少年剣道教室	桑原啓治 090-2789-1801	林小学校体育館（火） 阿波中学校体育館（木）	少年（火・木）19:00－21:00
	土成町剣道スポーツ少年団	出口正春 088-695-3606	土成農業者 トレーニングセンター	少年（火・金）19:30－21:00
	市場剣道教室	井内勝則 0883-36-2686	市場武道館	少年（火・木・土）19:30－21:00
	阿波支部稽古会	塩田善治 0883-35-2894	市場武道館	少年・一般（月）20:00－21:00
美馬支部	脇町少年剣道教室	柴田宗忠 0883-53-2629	脇町小学校体育館	少年（火・金）19:00－21:00 一般は8:30－22:00
	徳島春風館道場	青木茂生 0883-53-7118	徳島春風館道場	少年・一般（月・木・土） 19:30－21:00
	半田剣道教室	大川　功 0883-64-2181	半田スポーツセンター	少年・一般（月・木） 19:00－21:00
	美馬市体協剣道部	中川　正 0883-53-0116	脇町中学校武道館	一般（月・水・土）19:00－22:00
三好支部	東みよし淳志館	増田和広 0883-79-3704	三好中学校体育館	少年・一般（月・木） 19:00－21:00
	佐馬地少年剣道クラブ	笠井憲次郎 0883-74-0036	馬路小学校体育館	少年・一般（水）19:30－21:30
	三野少年剣道クラブ	久保和雄 0883-77-3899	三野中学校体育館	少年（土）18:00－20:00
	山城町剣道修錬クラブ	島尾眞且 0883-86-1398	山城中学校武道館	少年・一般（水・土） 19:30－21:30
	奥祖谷剣道クラブ	中石　昭 0883-88-5802	旧 栃之瀬小学校 体育館	少年（火・金）19:30－21:00
	井川武道会	中川勝弘 0883-78-2115	三好市柔剣道場	少年（水）20:00－21:00
麻植支部	麻植支部稽古会	柳谷照男 0883-42-6936	川島中学校体育館	少年・一般（金）（20:00－21:30）
	上浦剣道教室	柳谷照男 0883-42-6936	上浦小学校体育館	少年（水・土）18:30－20:00
	鴨島少年剣道教室	三木　毅 0883-24-1934	鴨島第一中学校武道館	少年（火・木・土）19:15－21:00
	川島剣道スポーツ少年団	猪野和男 0883-25-6004	農村環境改善センター 市立川島中学校体育館	少年（火・木・土）19:00－21:00
	山川スポーツ少年団 修錬館	柳谷照男 0883-42-6936	山川中学校武道館	少年（水・土）19:00－21:00
	吉野川少年剣道教室	片山尊史 0883-25-6014	牛島小学校体育館 西麻植小学校体育館	少年（火・水・金・土） 20:00－22:00
	寶　壽　館	日和田慈海 0883-42-3605	醫　光　寺	随時利用可 ただし、事前確認のこと

阿南支部	阿南少年剣道教室	須藤恭宏 0884-22-6402	阿南市武道館（火・金） 阿南第一中武道館（木）	少年（火・木・金）19:00－21:00 一般（火・金）　21:00－22:00
	新野少年剣道教室	馬見和秀 0884-36-2428	新野小学校体育館	少年（火・木・土）18:30－20:30
	大野小学校剣道部	西岡直彦 0884-22-6535	大野小学校体育館	少年（月・水・木）18:30－20:30 一般（水）　21:00－22:00
	徳島至誠館	中山繁輝 090-1002-8976	徳島至誠館道場	少年（火・木・土）19:00－21:00
	那賀川少年剣道クラブ	二反田和則 0884-21-2207	今津小学校体育館（火） 那賀川Ｂ＆Ｇ体育館（水・金）	少年（火・水・金）19:00－21:00
	那賀川剣道教室 わかあゆ会	山田耕司 0884-42-3381	平島小学校体育館	少年（月・水・金）19:00－21:00
	羽ノ浦少年剣道教室	森　眞一 0884-44-5415	羽ノ浦中学校武道館	少年（火・金）19:00－21:00 一般（水）　19:30－21:00
丹生谷支部	振　武　館	奥田博志 0884－62－1134	那賀町B&G 海洋センター武道場	少年（水・金）19:00－21:00 一般（水・金）21:00－22:00
	相生龍虎館	山下勝也 0884－62－0834	相生小体育館	少年（火・木・土）16:00－18:00
	木頭錬心館	小川大造 0884－68－2242	木頭中柔剣道場	少年・一般（月・水・金） 18:00－20:00
	北川小学校剣道クラブ	谷　次郎 0884－69－2430	那賀町北川体育館	少年（月・水）18:00－19:30 （金）　18:00－20:00
小松島支部	小松島支部稽古会	梅山寧史 0885-33-1251	小松島中学校武道場	一般（木）19:30－21:00
	小松島小剣クラブ	青木博志 0885-33-1251（梅山）	北小松島小学校体育館（月金） 小松島小学校体育館（水）	少年（月・水・金）19:00－21:30
	和田島少年剣道クラブ	篠原誠一 0885-37-2030	和田島小学校体育館	少年（火・金）19:00－21:00
	坂野少年剣道クラブ	櫻木鉄也 0885-38-2302	坂野小学校体育館	少年（月・木）19:00－21:00
	立江剣道教室	原　知永 0885-38-2121	立江小学校体育館	少年（火・土・日）18:30－20:00
	芝田剣道クラブ直心館	岩田善則 0885-32-3319	芝田小学校体育館	少年（月・金）19:00－21:00
海部支部	海部川剣道教室	丸岡偉人 0884-73-3175	海部小学校体育館	少年・一般（月・木） 19:00－20:45
	牟岐剣道クラブ	谷口順二 0884-72-0490	牟岐町民センター	少年・一般（月・水）19:00－21:00 少年・一般（土）　18:30－20:00
	一心館道場	影山美雄 0884-79-3125	一心館剣道場	少年（月・木）16:30－18:00 一般（水・第２金・第４金） 18:00－20:00
名西支部	石井少年剣道クラブ	近藤正章 088-674-5288	石井町立高浦中学校武道場	水・土　19:30－21:30
	久　武　館	瀬部克好	久武館道場	水・土　19:30－21:30
県剣道連盟	徳島県剣道連盟稽古会		中央武道館	一般　木　19:00－20:30
	女子部稽古会		中央武道館	一般　第１日曜　18:00－19:00
	高齢剣稽古会	乾　清孝 090-4974-0107	ソイジョイ武道館	一般　14:00～ 開催日は毎月変更（要確認）

居合道　道場案内

日本古来の伝統武道である居合道。時代を超えて受け継がれてきた居合道をより多くの人に体験していただきたいと願っております。是非お問い合わせ下さい。

道場名	代表者・連絡先	稽古場所	日時
大和錬心館	錬士六段・西本 忠司 自宅　0884-69-2120 携帯　090-7143-0160	木頭中学校柔剣道場 那賀町木頭和無田	火曜日 19:00～21:00 木曜日 19:00～21:00
徹心道場	代表者 教士七段・吉岡 修一 0883-24-5341	鴨島第一中学校武道場	月曜日 19:30～21:30 水曜日 19:30～21:30 金曜日 19:30～21:30（少年）
大和養心館	範士八段・原田　勝 自宅　0885-33-0222 携帯　090-7141-8996	大和養心館 小松島市金磯町11番78号	月曜日　18:00～21:00 水曜日　18:00～21:00 金曜日　18:00～21:00
阿波洗心館	代表 五段・村井 恒治 090-3789-7846	松茂町第二体育館	火曜日　20:00～22:00 （月曜祝日の週は休み）
		セント歯科体育館	土曜日　19:00～21:00
居合道錬成会	四段・鎌田 貴 携帯　080-5661-7133	徳島県立中央武道館	月曜日　19:00～21:00 金曜日　19:00～21:00
阿波居合道伝習会	教士八段・坂本 憲一 自宅　0883-36-3008 携帯　090-1576-4773	阿波市立八幡小学校体育館	火曜日　19:00～22:00
		徳島市農業環境改善センター	水曜日　19:00～21:00
		徳島県立中央武道館	月曜日　19:00～21:00 金曜日　19:00～21:00
大潟道場 （全日本剣道連盟）	教士七段・福井　勝 携帯　090-5143-3596	阿南市武道館	日曜日　10:00～12:00 （行事日を除く）
鳴門道場	錬士六段・満壽 良史 自宅　088-686-7115 携帯　090-9778-2350	鳴門市健康福祉交流センター 軽運動場	土曜日　9:30～12:00 （第１・３土曜を除く） 日曜日　9:30～12:00
徳島春風館道場	錬士六段・青木 茂生 自宅　0883-53-7118 携帯　090-8693-4935	徳島春風館道場 （穴吹町三島）	水曜日　19:30～21:00
剣道・板野道場	五段・川人 政利 自宅　088-698-2970	南公民館	水曜日　19:30～21:30
		板野町体育センター	日曜日　11:00～12:00

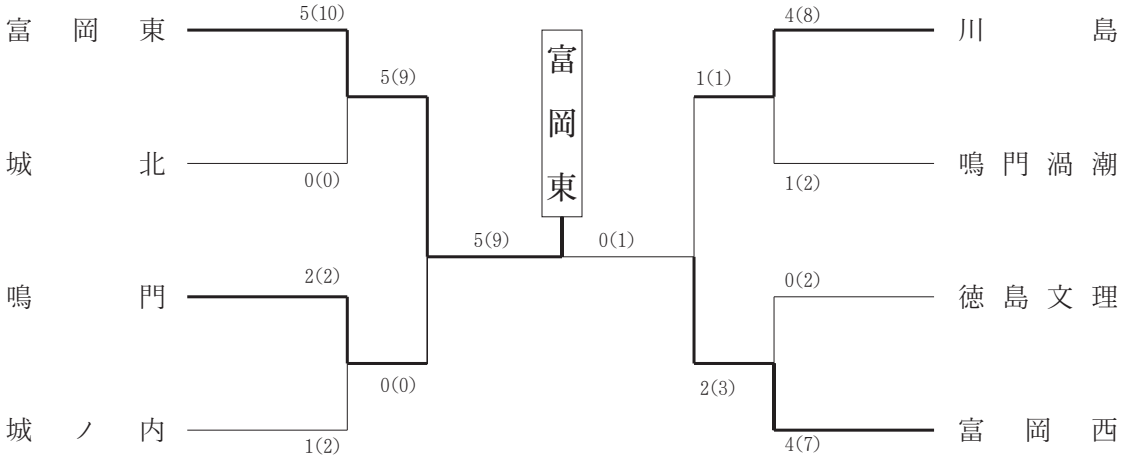
徳島県剣道連盟　居合道部

平成30年度　大　会　記　録

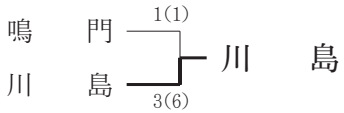
第43回徳島県剣道連盟会長杯争奪高等学校剣道大会

日　時　平成30年4月22日
会　場　鳴門ソイジョイ武道館

〈女子の部〉



順位決定戦



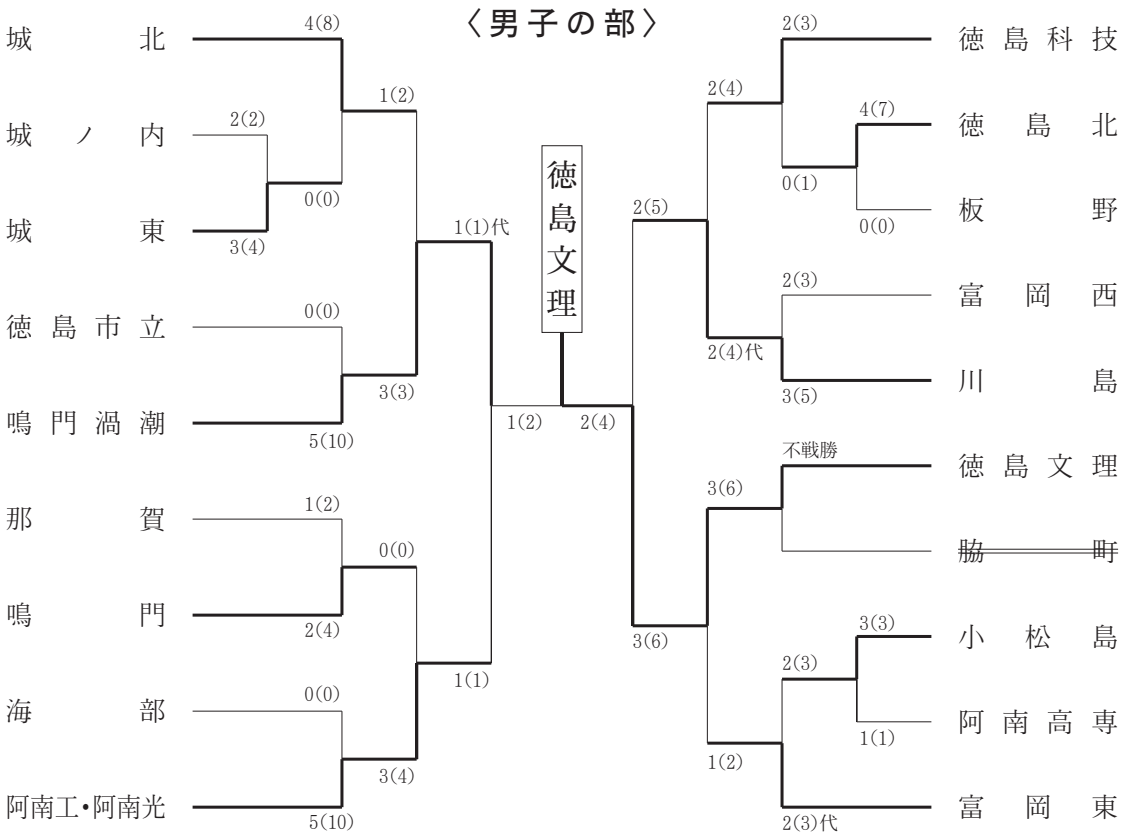
〈女子の部〉

決　勝

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
富岡東	朝田	福田	明口	堺	大城	5	9	
	㊐㊍	㊦一本勝	㊍㊍	㊍㊍	㊍㊍			
富岡西			㊍▲			0	1	
	川田	儀宝	大山	藤原	橋本			

順位決定戦

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
鳴門	東條		近藤		杉山	1	1	
	延長				㊐一本勝			
川島		○○	㊍㊍	○○		3	6	
	岩崎	堀井	篠原	藤岡	松下			



〈男子の部〉

決　勝

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
鳴門渦潮	吉本	小山	前田	山下	坂野	1	2	
	㊐一本勝	延長			㊐			
徳島文理			一本勝 ㊋	㊋ ㊋	㊐	2	4	
	原田	安部	一楽	細井	片岡			

順位決定戦

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
阿南工・阿南光	河野	富田	上田	今本	富永	2	2	河野
	㊋ 延長	㊋ 延長	延長	延長	延長			㊋
川島	山添	江口	長 ㊋ 榎丸	吉岡	長 ㊋ 熊橋	2	2	熊橋

第47回 徳島県中学校剣道選手権大会

日　時　平成30年５月26日㈯　午前９時30分開会
場　所　鳴門ソイジョイ武道館

［団 体 戦］

順　位	男　　子	女　　子
優　　勝	北　島　中　学　校	那　賀　川　中　学　校
準 優 勝	徳　島　文　理　中　学　校	徳　島　中　学　校
第 3 位	那　賀　川　中　学　校	徳　島　文　理　中　学　校
第 3 位	阿　南　第　一　中　学　校	江　原　中　学　校

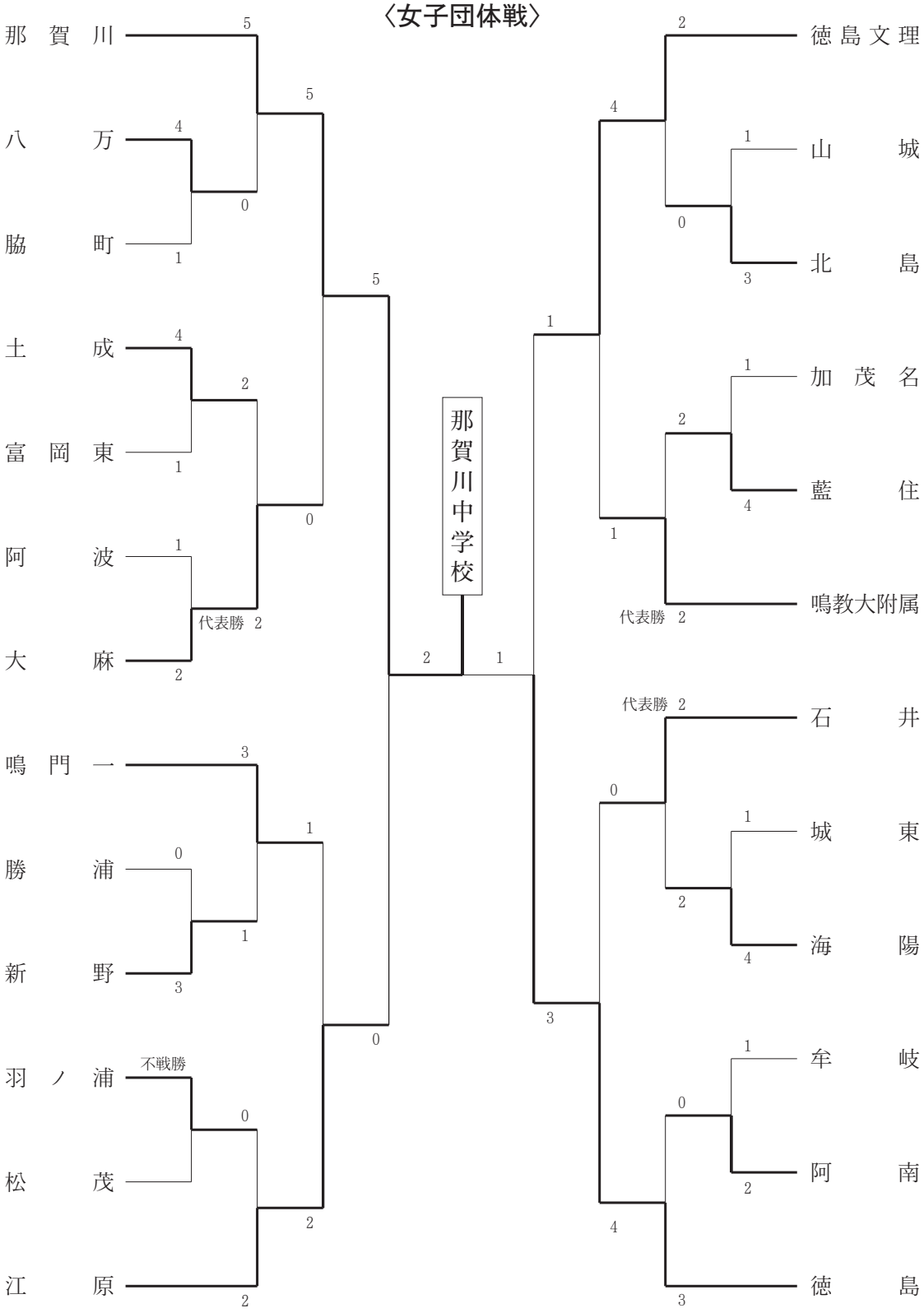
［男子決勝］

学校名	先　鋒	次　鋒	中　堅	副　将	大　将	代表戦	勝　敗
北　島	谷　川	撫　養	永濵 聡	四　宮	永濵 幹		6/4
	コ	ド	メメ	メコ			
徳島文理					ドメ		2/1
	秋　山	内　海	森	森　脇	古　川		

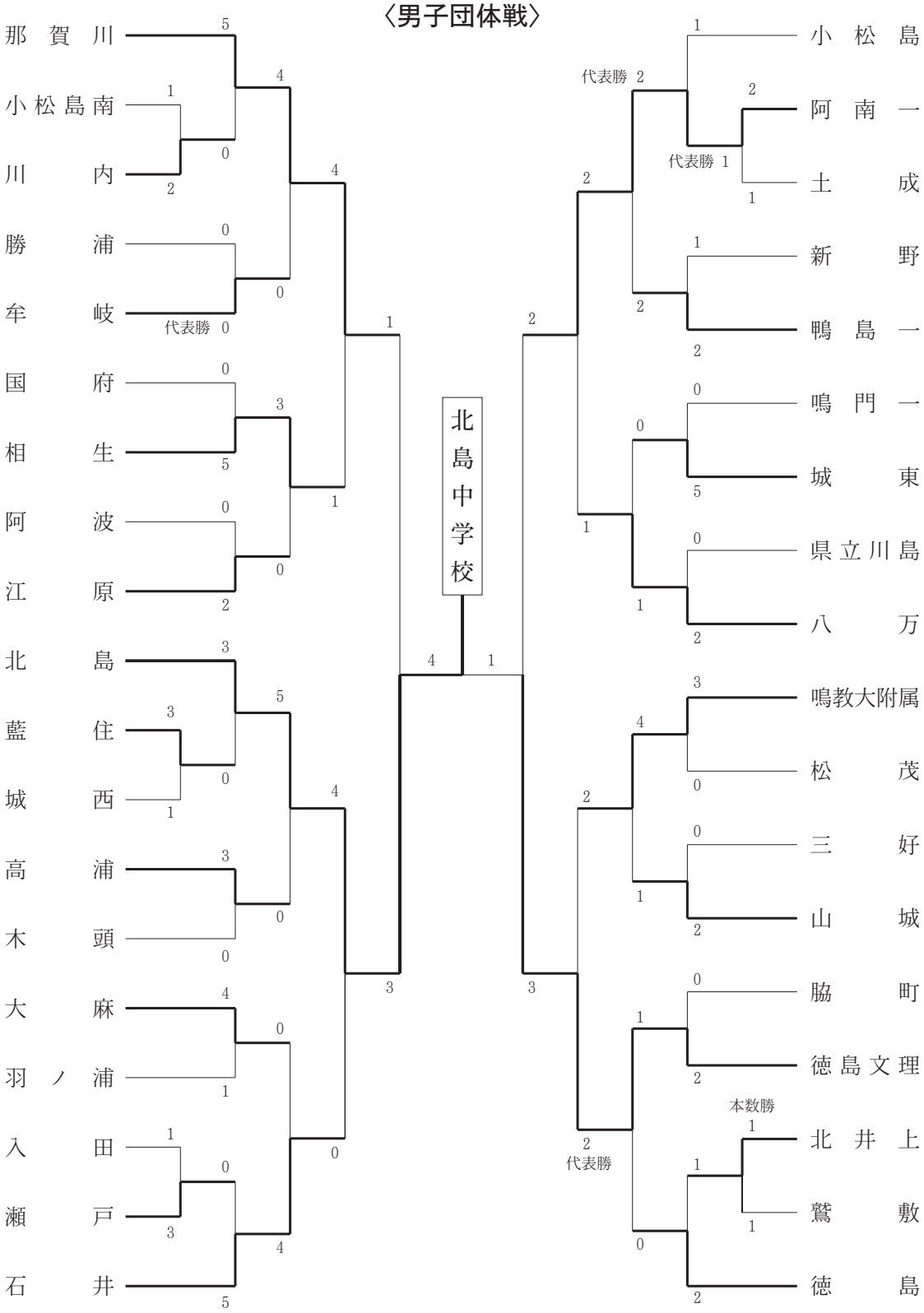
［女子決勝］

学校名	先　鋒	次　鋒	中　堅	副　将	大　将	代表戦	勝　敗
那賀川	岩　本	松　葉	岡　﨑	山　田	河　野		3/2
	ド		メ	メ			
徳　島	メ	メ					2/1
	松　山	赤　川	吉　田	篠　原	岩　原		

〈女子団体戦〉


那賀川
八万
脇町
土成
富岡東
阿波
大麻
鳴門一
勝浦
新野
羽ノ浦
松茂
江原
不戦勝
代表勝 2
那賀川中学校
徳島文理
山城
北島
加茂名
藍住
鳴教大附属
代表勝 2
石井
代表勝 2
城東
海陽
牟岐
阿南
徳島

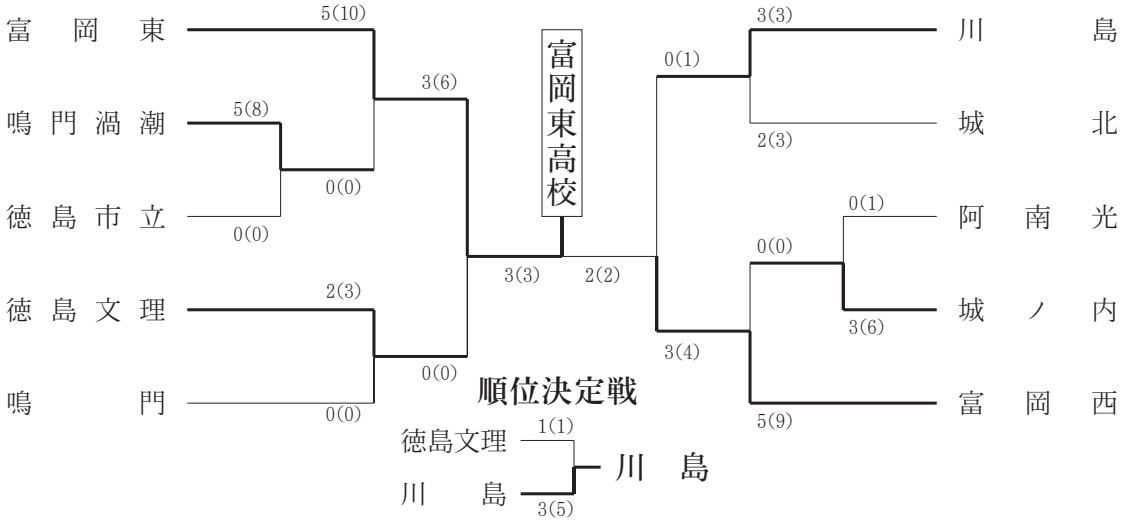
〈男子団体戦〉


那賀川
小松島南
川内
勝浦
牟岐
国府
相生
阿波
江原
北島
藍住
城西
高浦
木頭
大麻
羽ノ浦
入田
瀬戸
石井
代表勝
北島中学校
小松島
阿南一
土成
新野
鴨島一
鳴門一
城東
県立川島
八万
鳴教大附属
松茂
三好
山城
脇町
徳島文理
北井上
鷲敷
徳島
代表勝
本数勝

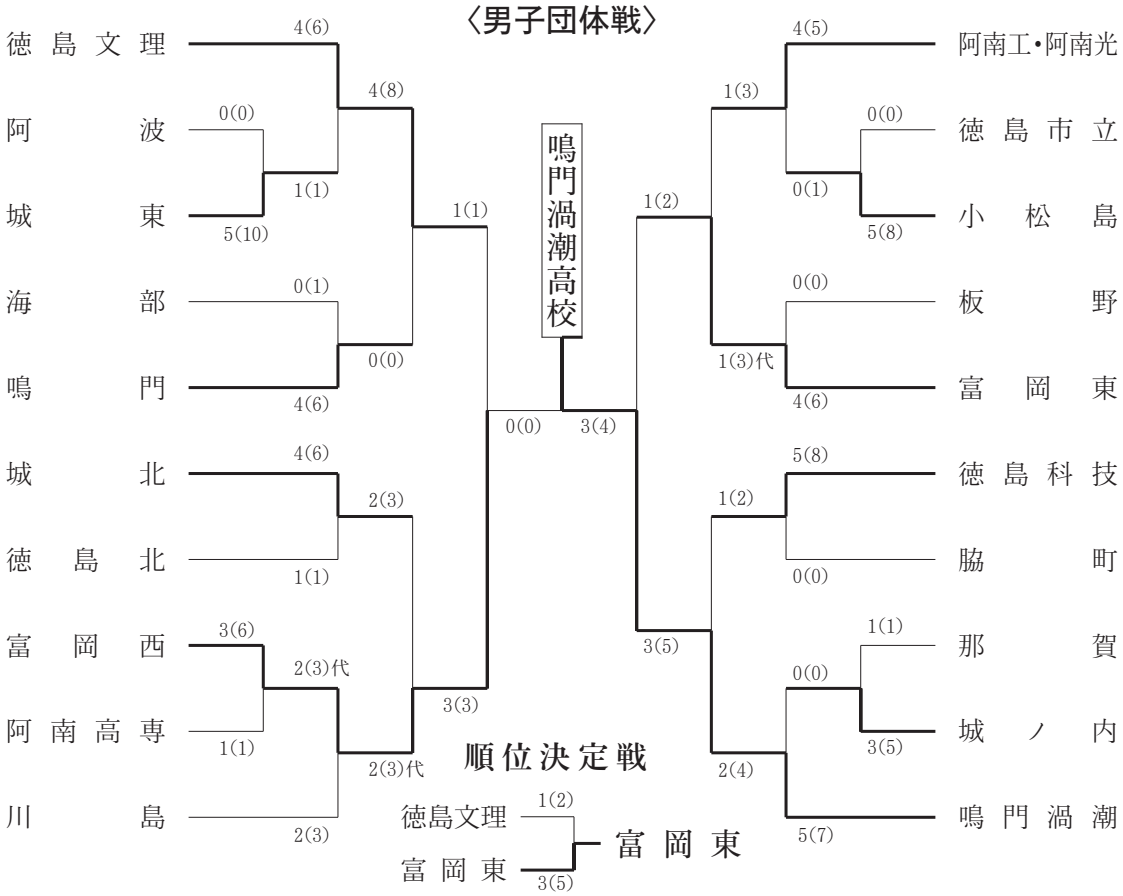
徳島県高等学校総合体育大会　剣道競技

日　時　平成30年6月2日～3日
会　場　那賀川スポーツセンター

〈女子団体戦〉



〈男子団体戦〉



〈女子団体戦〉

準　決　勝

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
富岡東	朝田	堀出	明口	堺	大城	3	6	
	㋥㋥	○○	㋙㋥					
徳島文理						0	0	
	東内		西渕	山形	松葉			

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
川島	岩崎	堀井	篠原	出原	松下	0	1	
	㋥	延長	延長					
富岡西	㋙㋙	▲		一本㋝勝	一本㋥勝	3	4	
	川田	儀宝	大山	相原	橋本			

3 位決定戦

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
徳島文理	東内		西渕	山形	松葉	1	1	
	延長		㋙一本勝					
川島		○○		一本㋥勝	㋥㋥	3	5	
	岩崎	堀井	藤岡	出原	松下			

決　　勝

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
富岡東	朝田	堀出	明口	堺	大城	3	3	
			㋥一本勝	㋥延長	㋥延長			
富岡西	一本㋝勝	一本㋙勝	▲	▲		2	2	
	川田	藤原	大山	相原	橋本			

〈男子団体戦〉

準　決　勝

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
徳島文理	原田	安部	一楽	細井	片岡	1	1	
		▲延長	㋝一本勝					
富岡西	一本㋥勝	㋥	▲	一本㋥勝		3	3	
	岩本	福本	大城	住友	服部			

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
富岡東	松山	川口	齋	朝田	後藤	1	2	
		延長	㋙	㋥一本勝				
鳴門渦潮	㋙㋙	㋥	㋥㋥			3	5	
	吉本	小山	前田	山下	坂野			

3 位決定戦

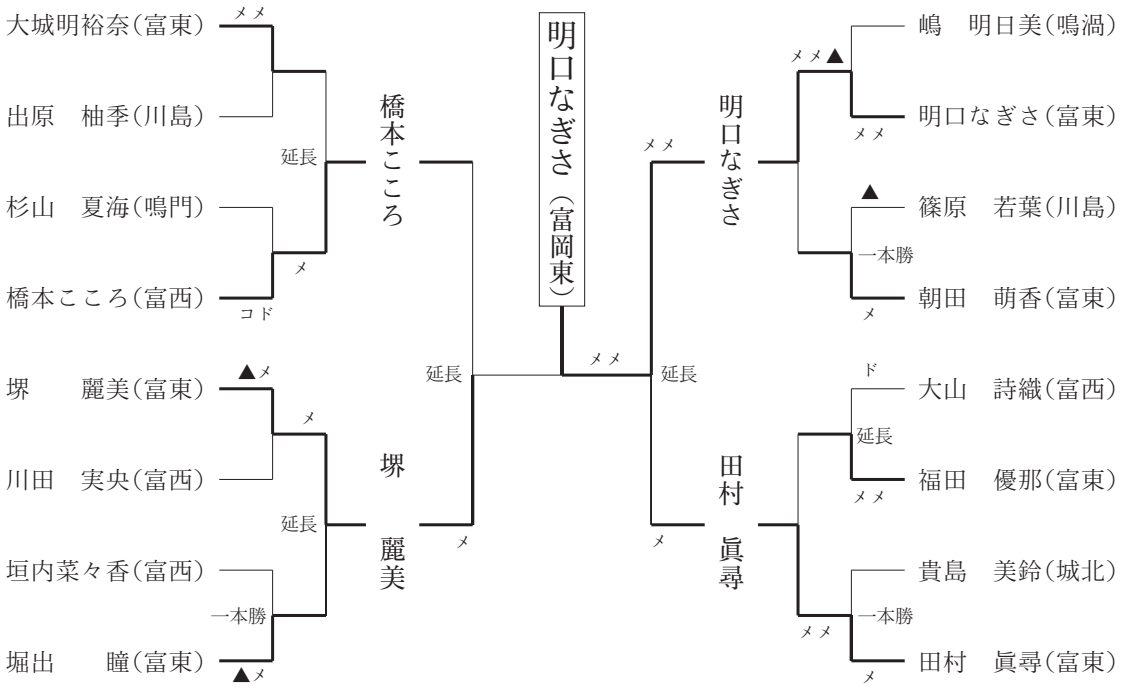
校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
徳島文理	原田	安部	一楽	細井	片岡	1	2	
		㋥㋝		延長				
富岡東	一本㋙勝		㋙㋥	▲	㋥㋥	3	5	
	松山	小畠	齋	朝田	後藤			

決　　勝

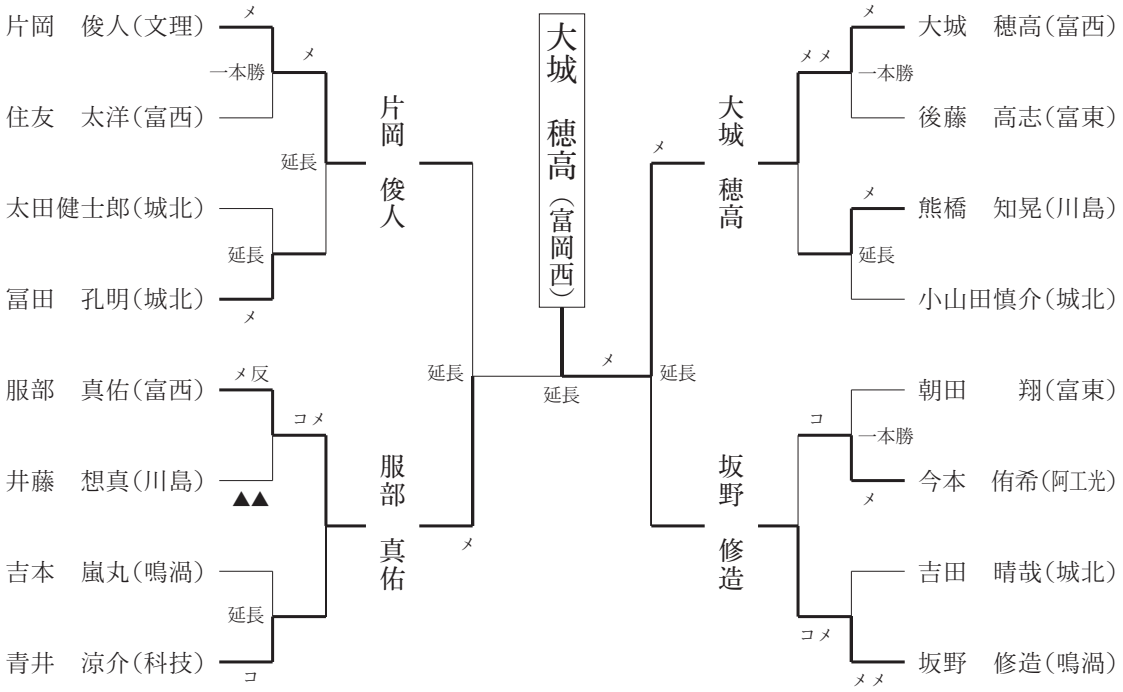
校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
富岡西	岩本	福本	大城	住友	服部	0	0	
			延長	延長				
鳴門渦潮	一本㋥勝	一本㋥勝	▲		㋝㋥	3	4	
	吉本	小山	前田	山下	坂野			

ベ　ス　ト　16

〈女子個人戦〉



〈男子個人戦〉



第30回 徳島県剣道選手権大会並びに
第66回 全日本剣道選手権大会県予選会

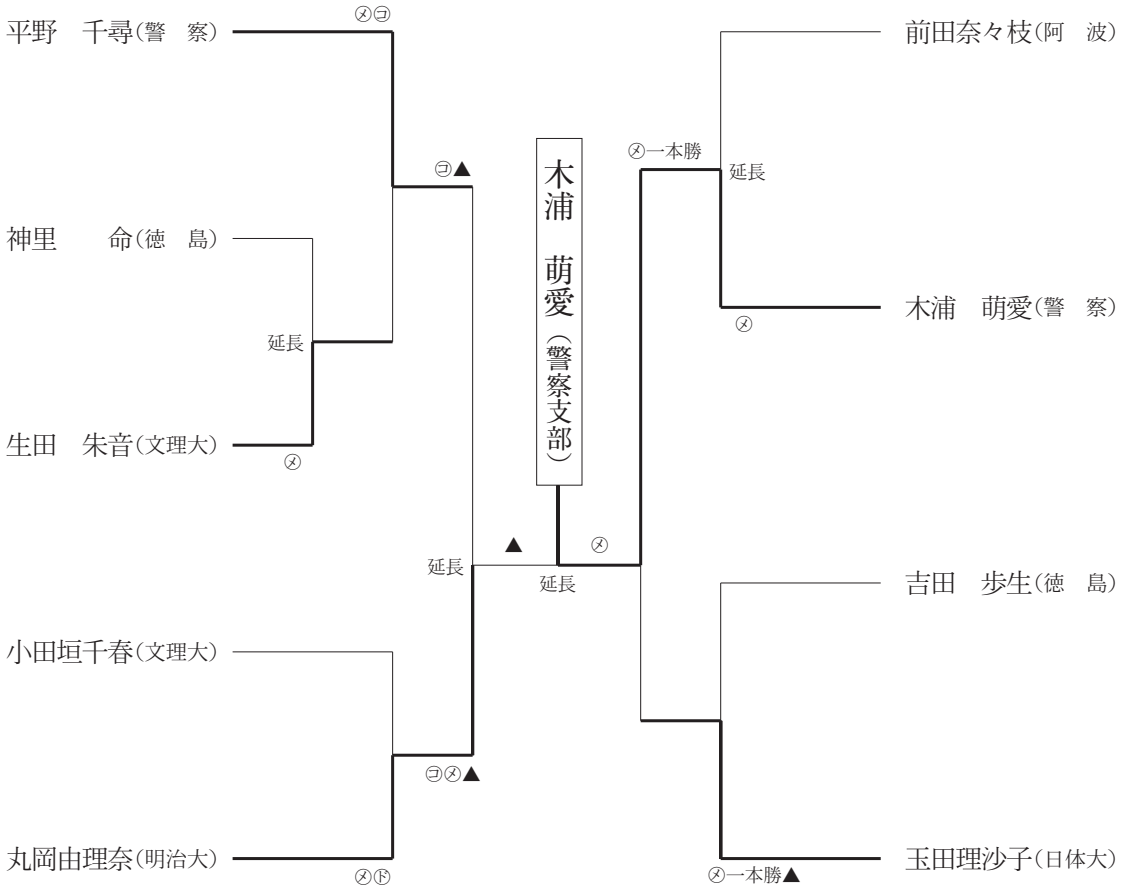
優　　勝　大石洋史（阿南支部）
準優勝　玉田赳大（警察支部）
第三位　白木恒二郎（名西支部）
第三位　村井　　僚（警察支部）

日　時　平成30年7月16日(月) 午前9時30分開会
場　所　鳴門ソイジョイ武道館

第21回 徳島県女子剣道選手権大会並びに 第57回 全日本女子選手権大会県予選会

日　時　平成30年７月16日(月) 午前９時30分開会
場　所　鳴門ソイジョイ武道館

優　　勝　木　浦　萌　愛　（警察支部）
準 優 勝　丸　岡　由理奈　（明治大学）
第 三 位　玉　田　理沙子　（日本体育大学大学院）
第 三 位　平　野　千　尋　（警察支部）



第72回 徳島県中学校総合体育大会 剣道競技

【 団 体 戦 】

日　時　平成30年７月21日(土)　午前９時30分開会
場　所　鳴門ソイジョイ武道館

順位	男子	女子
優勝	那賀川中学校	那賀川中学校
準優勝	北島中学校	徳島中学校
第３位	徳島中学校	江原中学校
第３位	相生中学校	海陽中学校

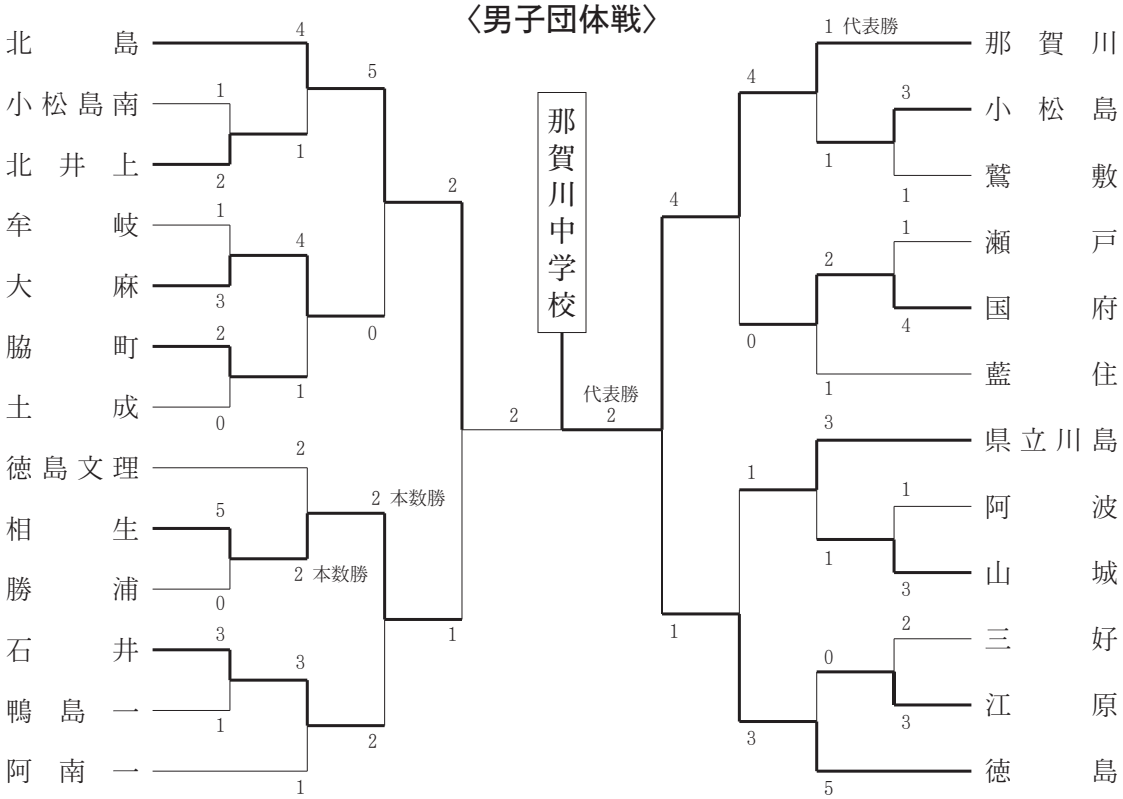
［男子決勝］

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝敗	代表戦
北島	谷川	撫養	永濵聡	四宮	永濵幹	3/2	永濵幹
	メ		コ		ド		
那賀川	メド	メ				3/2	コ
	後藤	立石	二宮	小山田	田上		田上

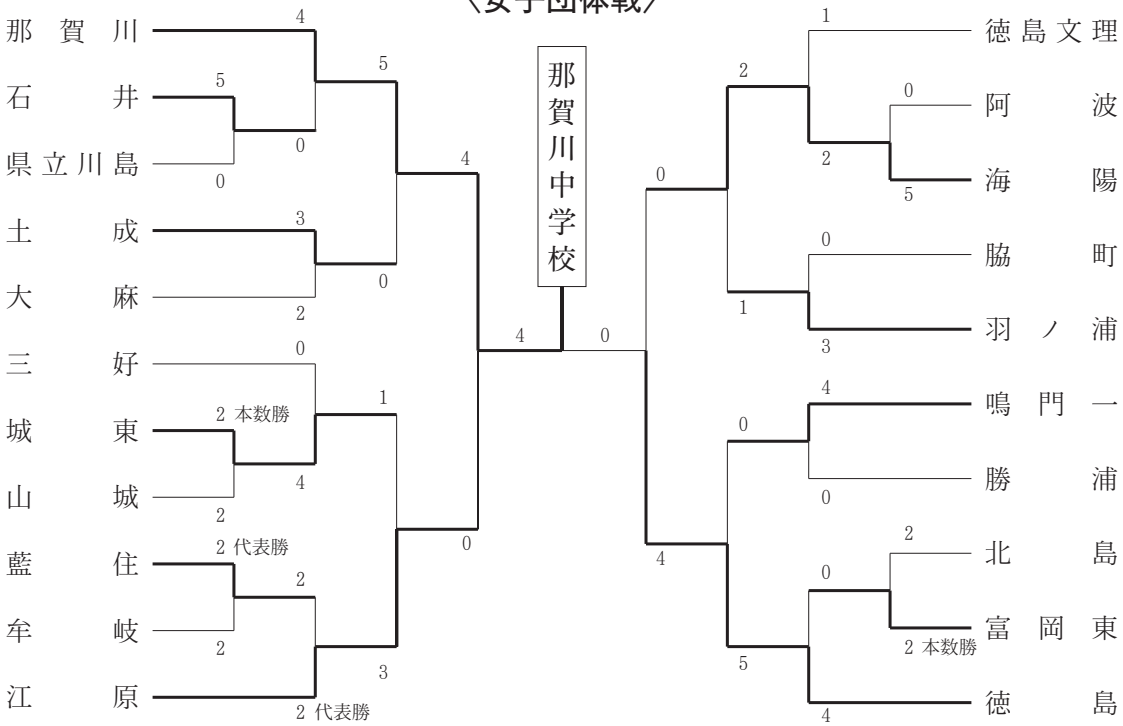
［女子決勝］

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝敗	代表戦
那賀川	岩本	松葉	岡﨑	山田	河野	6/4	
		コ	ドメ	ド	ドコ		
徳島						0/0	
	松山	赤川	吉田	篠原	岩原		

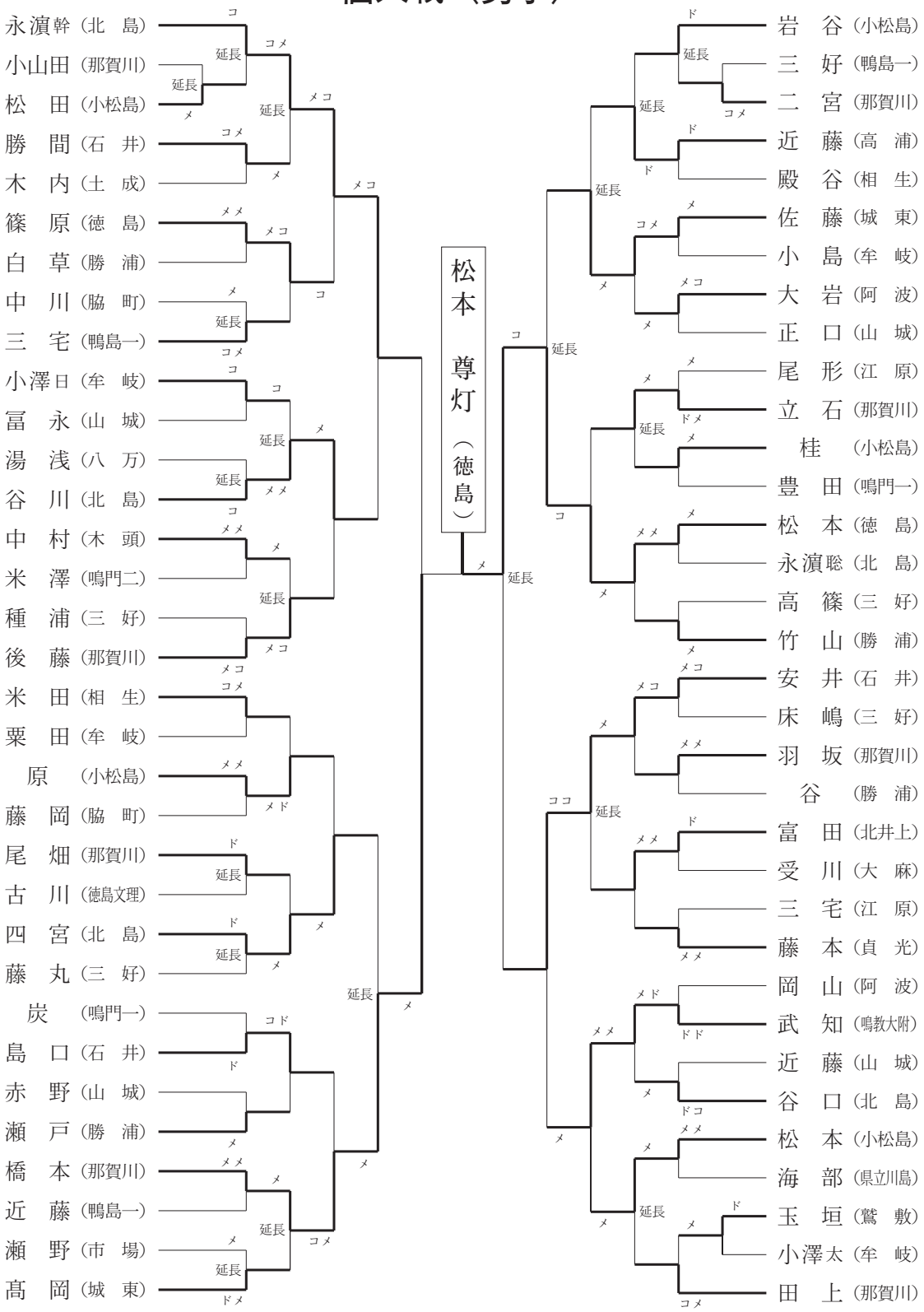
〈男子団体戦〉


北島
小松島南
北井上
牟岐
大麻
脇町
土成
徳島文理
相生
勝浦
石井
鴨島一
阿南一
那賀川中学校
代表勝 2
2 本数勝
2 本数勝
1 代表勝
那賀川
小松島
鷲敷
瀬戸
国府
藍住
県立川島
阿波
山城
三好
江原
徳島

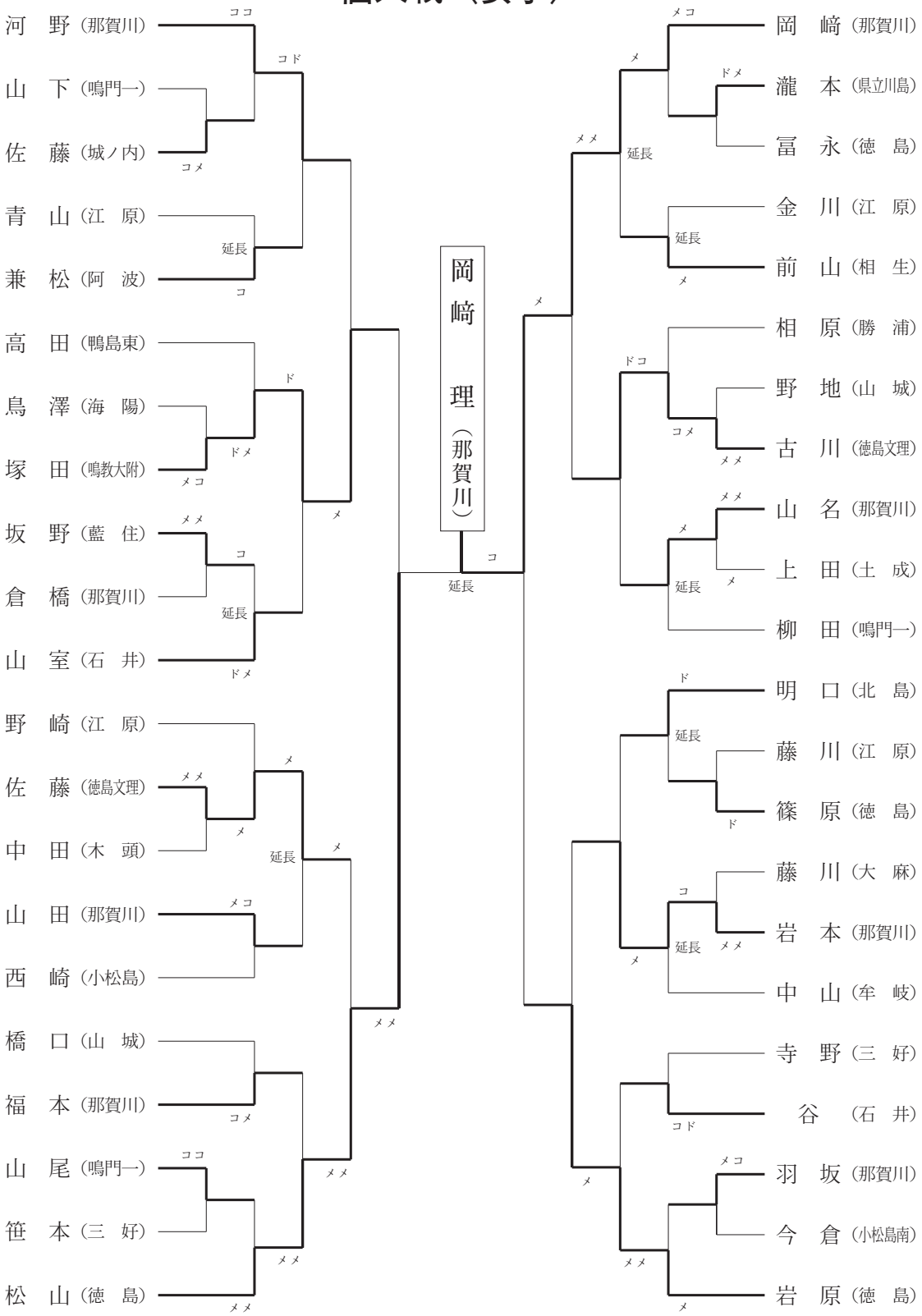
〈女子団体戦〉


那賀川
石井
県立川島
土成
大麻
三好
城東
山城
藍住
牟岐
江原
2 本数勝
2 代表勝
2 代表勝
那賀川中学校
徳島文理
阿波
海陽
脇町
羽ノ浦
鳴門一
勝浦
北島
富岡東
徳島
2 本数勝

個人戦〈男子〉


松本尊灯（徳島）
永濵幹（北島）
小山田（那賀川）
松田（小松島）
勝間（石井）
木内（土成）
篠原（徳島）
白草（勝浦）
中川（脇町）
三宅（鴨島一）
小澤日（牟岐）
冨永（山城）
湯浅（八万）
谷川（北島）
中村（木頭）
米澤（鳴門二）
種浦（三好）
後藤（那賀川）
米田（相生）
粟田（牟岐）
原（小松島）
藤岡（脇町）
尾畑（那賀川）
古川（徳島文理）
四宮（北島）
藤丸（三好）
炭（鳴門一）
島口（石井）
赤野（山城）
瀬戸（勝浦）
橋本（那賀川）
近藤（鴨島一）
瀬野（市場）
髙岡（城東）
岩谷（小松島）
三好（鴨島一）
二宮（那賀川）
近藤（高浦）
殿谷（相生）
佐藤（城東）
小島（牟岐）
大岩（阿波）
正口（山城）
尾形（江原）
立石（那賀川）
桂（小松島）
豊田（鳴門一）
松本（徳島）
永濵聡（北島）
高篠（三好）
竹山（勝浦）
安井（石井）
床嶋（三好）
羽坂（那賀川）
谷（勝浦）
富田（北井上）
受川（大麻）
三宅（江原）
藤本（貞光）
岡山（阿波）
武知（鳴教大附）
近藤（山城）
谷口（北島）
松本（小松島）
海部（県立川島）
玉垣（鷲敷）
小澤太（牟岐）
田上（那賀川）

個人戦〈女子〉


河　野（那賀川）
山　下（鳴門一）
佐　藤（城ノ内）
青　山（江　原）
兼　松（阿　波）
高　田（鴨島東）
鳥　澤（海　陽）
塚　田（鳴教大附）
坂　野（藍　住）
倉　橋（那賀川）
山　室（石　井）
野　崎（江　原）
佐　藤（徳島文理）
中　田（木　頭）
山　田（那賀川）
西　崎（小松島）
橋　口（山　城）
福　本（那賀川）
山　尾（鳴門一）
笹　本（三　好）
松　山（徳　島）
岡　崎（那賀川）
瀧　本（県立川島）
冨　永（徳　島）
金　川（江　原）
前　山（相　生）
相　原（勝　浦）
野　地（山　城）
古　川（徳島文理）
山　名（那賀川）
上　田（土　成）
柳　田（鳴門一）
明　口（北　島）
藤　川（江　原）
篠　原（徳　島）
藤　川（大　麻）
岩　本（那賀川）
中　山（牟　岐）
寺　野（三　好）
谷　（石　井）
羽　坂（那賀川）
今　倉（小松島南）
岩　原（徳　島）
岡　崎　理（那賀川）

第39回 国民体育大会四国ブロック大会

日　時　平成30年8月19日
場　所　高知県立武道館

〈少年女子〉

第1試合

県名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝数	本数
愛媛	前田	奥田	上杉	友近	渡邊	4	4
	▲㋝一本勝	㋝一本勝	㊦延	㊅一本勝			
徳島			長▲		一本勝㋝	1	1
	田村	朝田	明口	堺	大城		

第2試合

県名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝数	本数
徳島	堀出	朝田	明口	堺	大城	2	2
		㋝延	延		㋝延		
高知	一本勝㊦	長	長㊦	メ㋝	長	3	4
	寺村	塩見	永野	木下	佐竹		

第3試合

県名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝数	本数
徳島	堀出	朝田	明口	堺	大城	3	4
	㋝延	㊦ド	延	延	㋝延		
香川	長		長㊅	長㊦	長	2	2
	田渕	松尾	坂口	日浦	佐藤		

〈少年男子〉

第1試合

県名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝数	本数
愛媛	片岡	藤田	二宮	岡田	片山	3	3
	㊦延	㋝一本勝	延		㋝一本勝		
徳島	長		長㊦	一本勝㋝		2	2
	大城	熊橋	服部	坂野	片岡		

第2試合

県名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝数	本数
徳島	前田	冨田	服部	坂野	片岡	3	4
	㋝メ	㊅延	延	㋝一本勝	延		
香川		長	長㊦		長㋝	2	2
	江戸	松原	谷本	長尾	井口		

第3試合

県名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝数	本数
徳島	前田	冨田	服部	坂野	片岡	1	1
		㊅一本勝		延	延		
高知	一本勝㋝		一本勝㋝	長㊦	長㊅	4	4
	東野	藤田	福家	今田	木下		

〈少年男子〉

	愛媛	香川	徳島	高知	勝数	勝者数	取得本数	順位
愛　媛		4/3	3/3	5/2	2	8	12	2
香　川	2/2		2/2	2/2	0	6	6	4
徳　島	2/2	4/3		1/1	1	6	7	3
高　知	5/3	4/3	4/4		3	10	13	1

〈少年女子〉

	愛媛	香川	徳島	高知	勝数	勝者数	取得本数	順位
愛　媛		5/5	4/4	5/4	3	13	14	1
香　川	0/0		2/2	2/2	0	4	4	4
徳　島	1/1	4/3		2/2	1	6	7	3
高　知	2/1	3/3	4/3		2	7	9	2

〈成年女子〉

	愛媛	香川	徳島	高知	勝数	勝者数	取得本数	順位
愛　媛		4/3	2/2	2/2	3	7	8	1
香　川	0/0		2/1	2/2	1	3	4	4
徳　島	1/1	4/2		2/1	1	4	7	2
高　知	1/1	1/1	2/2		1	4	4	3

〈成年女子〉

第 1 試合

県名	先鋒	中堅	大将	勝数	本数
高知	森	平	大	2	2
		㊝ 一本勝	㊝ 延長		
徳島	コ ㊝			1	2
	丸	前	金		
	岡	田	野		

第 2 試合

県名	先鋒	中堅	大将	勝数	本数
香川	森	桒	松	1	2
		島	本		
		メメ			
徳島	メ ㊝	㊝	一本勝 ㊝	2	4
	丸	前	金		
	岡	田	野		

第 3 試合

県名	先鋒	中堅	大将	勝数	本数
愛媛	近	馬	松	2	2
	藤	越	木		
	㊝ 延長	㊐ 延長	▲ 延長		
徳島			㊝	1	1
	丸	前	金		
	岡	田	野		

第39回 徳島県女子剣道大会

団　体　戦

日　時　平成30年9月2日(日) 午前9時30分
場　所　ソイジョイ武道館

優　勝　徳　島　剣　夢　会
準優勝　教　員　剣　美　会　A
第三位　大　塚　製　薬
第三位　教　員　剣　美　会　B

〈Aリーグ〉

A	川島剣友会	徳島剣夢会	教員剣美会A	勝数	勝者数	取得本数	順位
川島剣友会		△ 1/0	△ 0/0	0	0	1	3
徳島剣夢会	○ 3/1		△ 0/0	1	1	3	2
教員剣美会A	○ 3/2	○ 1/1		2	3	4	1

〈Bリーグ〉

B	日亜化学工業	大塚製薬	小松島支部	教員剣美会B	勝数	勝者数	取得本数	順位
日亜化学工業		△ 0/0	△ 0/0	△ 1/1	0	1	1	4
大塚製薬	○ 4/2		○ 2/1	□ 2/1	2	4	8	1
小松島支部	○ 4/2	△ 0/0		□ 1/1	1	3	5	3
教員剣美会B	○ 3/2	□ 2/1	□ 1/1		1	4	6	2

準　決　勝

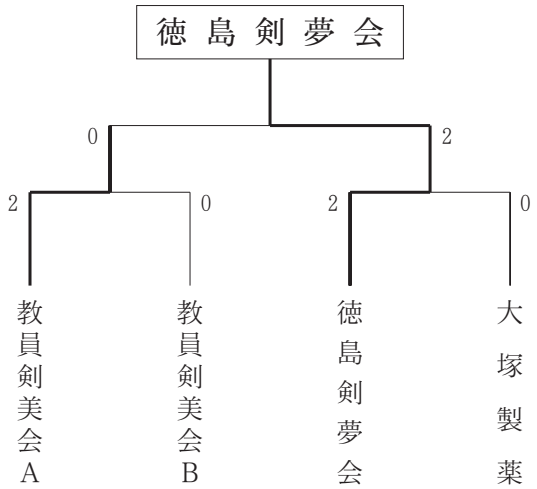
	先鋒	中堅	大将	
教員剣美会A	山本悠	長谷川	山本千	○ 3/2
	㊋ 一本勝		㊐ ㊋	
教員剣美会B				△ 0/0
	栗野	長地	塚原	

	先鋒	中堅	大将	
徳島剣夢会	松本	木浦	平野	○ 4/2
	㊋ ▲	㊋ 一本勝	㊋ ㊋	
大塚製薬				△ 1/0
	㊋			
	吉田	内田	舛田	

決　　勝

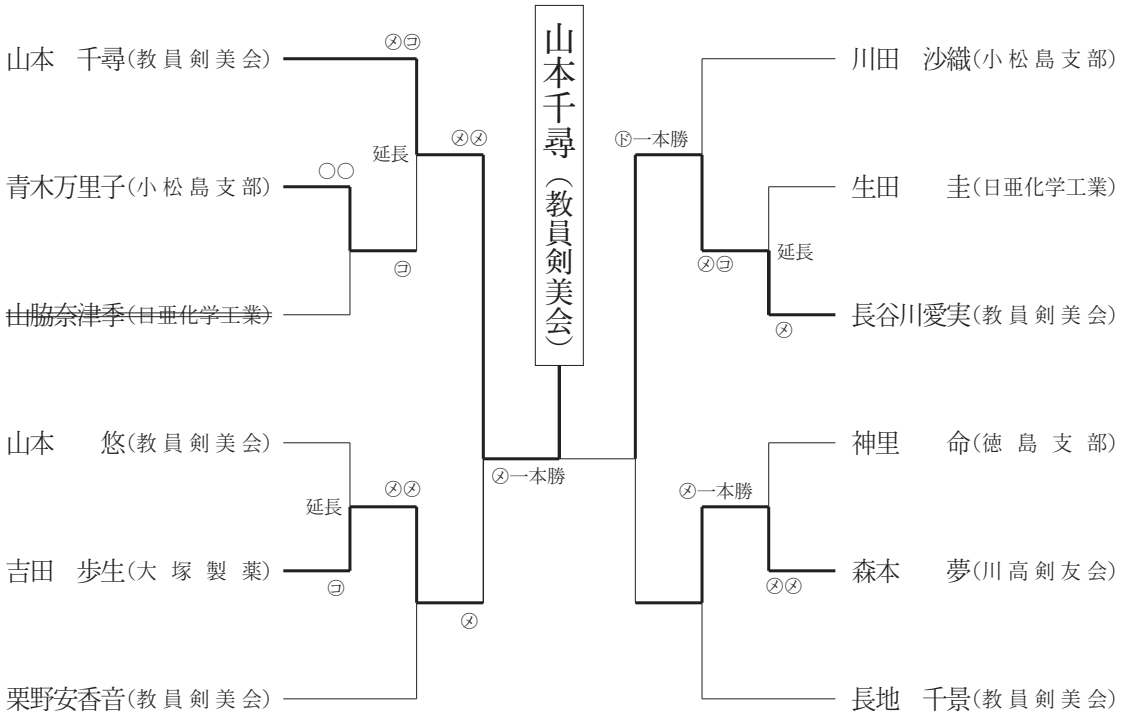
	先鋒	中堅	大将	
教員剣美会A	山本悠	長谷川	山本千	△ 0/0
徳島剣夢会		一本勝 ㊋	一本勝 ㊍	○ 2/2
	松本	木浦	平野	

決勝トーナメント



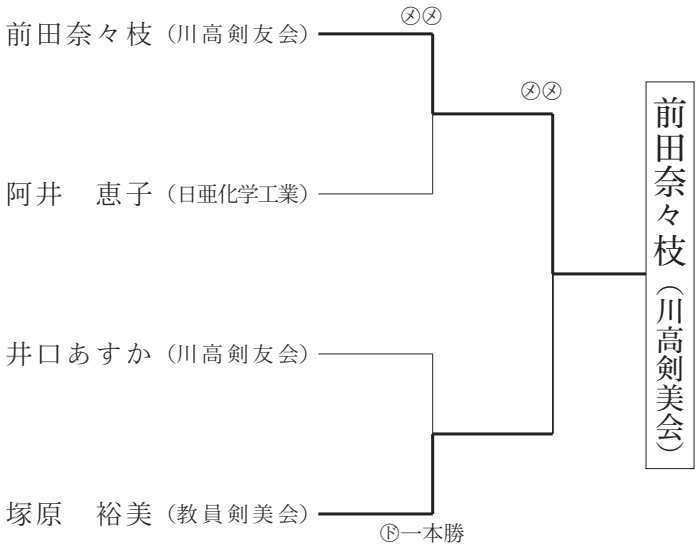
個人戦 〈区分1〉

優　　勝　山本千尋（教員剣美会）
準優勝　長谷川愛実（教員剣美会）
第三位　吉田歩生（大塚製薬）
第三位　森本夢（川高剣友会）



個人戦 〈区分2〉

優　　勝　前田奈々枝（川高剣美会）
準優勝　塚原裕美（教員剣美会）



第９回 徳島県三者対抗剣道大会

日　時　平成30年10月27日(土)　午後１時開会
場　所　鳴門ソイジョイ武道館

第１試合

	先鋒	次鋒	十三将	十二将	十一将	十将	九将	八将	七将	六将	五将	四将	三将	副将	大将	勝者数	勝本数
実業団	山﨑	青木	板東	猪野	古賀	玉井	原	金野	小野	鳴川	井村	生田	佐藤	高木	北條	6	12
		(ド)一本勝			(メ)		(ド)(メ)			(メ)(メ)			(コ)(ド)	(メ)(コ)	(反)(コ)		
警察	一本勝(コ)		(メ)(メ)		(メ)(ド)							(ド)(コ)	(ド)	(メ)	▲▲	4	9
	木浦	高橋	笠井	梶原	村井	宮本	松本	佐野	山室	富田	小坂	岩木	吉田	木下	日野		

第２試合

	先鋒	次鋒	十三将	十二将	十一将	十将	九将	八将	七将	六将	五将	四将	三将	副将	大将	勝者数	勝本数
教員	山本悠	山本千	西田	竹内	白木恒	大石	松本	佐藤	磯部	兼松	白木洋	冨浦	福多	木原	西谷	5	10
		(メ)(メ)	(メ)(コ)				(メ)一本勝						(コ)(メ)	(メ)	(コ)(メ)		
警察	一本勝(メ)	(メ)							一本勝(メ)	(メ)(メ)	一本勝(メ)	(メ)(コ)		(メ)(メ)		6	10
	木浦	高橋	笠井	梶原	村井	宮本	松本	佐野	山室	富田	小坂	岩木	吉田	木下	日野		

第３試合

	先鋒	次鋒	十三将	十二将	十一将	十将	九将	八将	七将	六将	五将	四将	三将	副将	大将	勝者数	勝本数
教員	山本悠	山本千	西田	竹内	白木恒	大石	松本	佐藤	磯部	兼松	白木洋	冨浦	福多	木原	西谷	7	13
		(メ)一本勝	(コ)(メ)		▲	(メ)一本勝			(コ)(メ)			(メ)(コ)	(コ)(メ)	(メ)	(ド)(メ)		
実業団									(コ)			(メ)		(コ)(メ)	(メ)	1	5
	山﨑	青木	板東	猪野	古賀	玉井	原	金野	小野	鳴川	井村	生田	佐藤	高木	北條		

試　合　結　果

チーム名	実業団	警　察	教　員	勝数	勝者数	総本数	順位
実業団		12/6	5/1	1	6	7	3
警　察	9/4		10/6	1	10	10	2
教　員	13/7	10/5		1	12	12	1

優　勝　教　　員

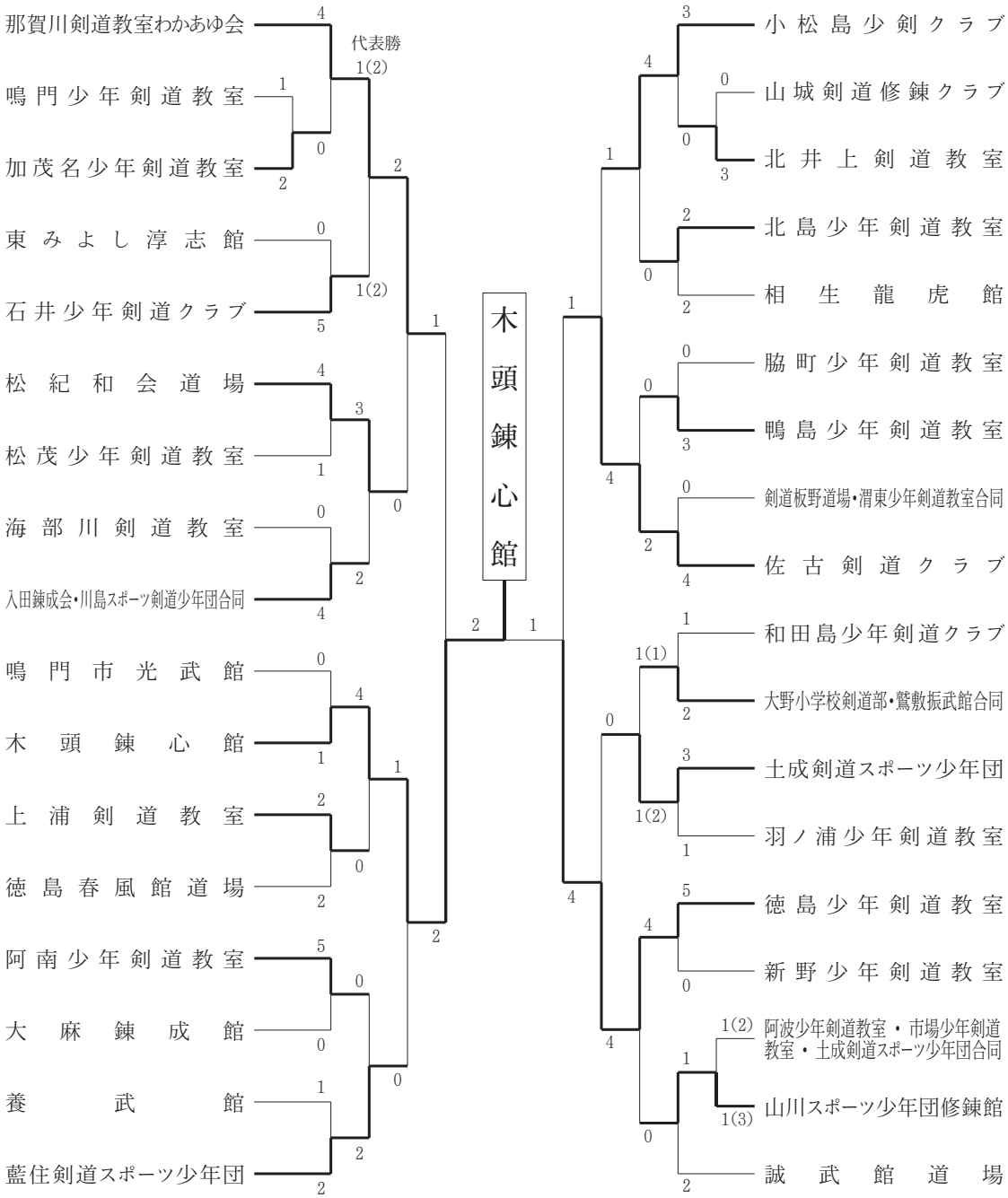
準優勝　警　　察

第三位　実　業　団

第49回　徳島県少年剣道優勝大会

団　体　戦

日　時　平成30年11月11日(日) 午前10時00分
場　所　松　茂　町　総　合　体　育　館



準決勝戦（団体戦）

チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表	
那賀川剣道教室わかあゆ会	仁尾	平松	青木	和泉	桑原		1/1
					㋝一本勝		
木頭錬心館	一本勝㋝		一本勝㋝				2/2
	福岡	松本	西岡	平川	山下		

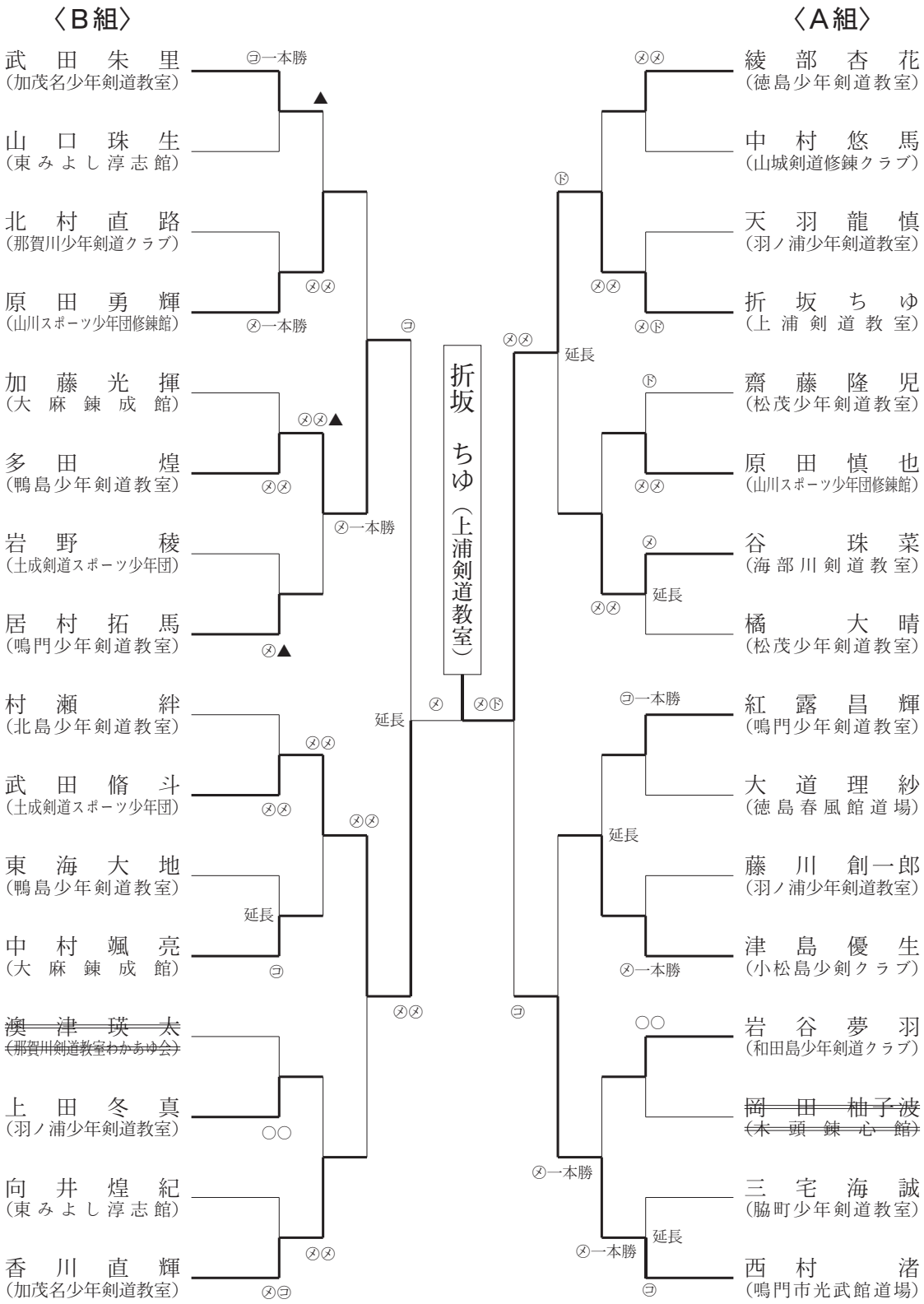
チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表	
佐古剣道クラブ	篠原	岸田	國見	谷本	渡邉		2/1
			㋝㋝				
徳島少年剣道教室	一本勝㋝	一本勝㋝		㋝㋝	㋝㋝		6/4
	佐藤	岡本	古川	冨増	片岡		

決勝戦（団体戦）

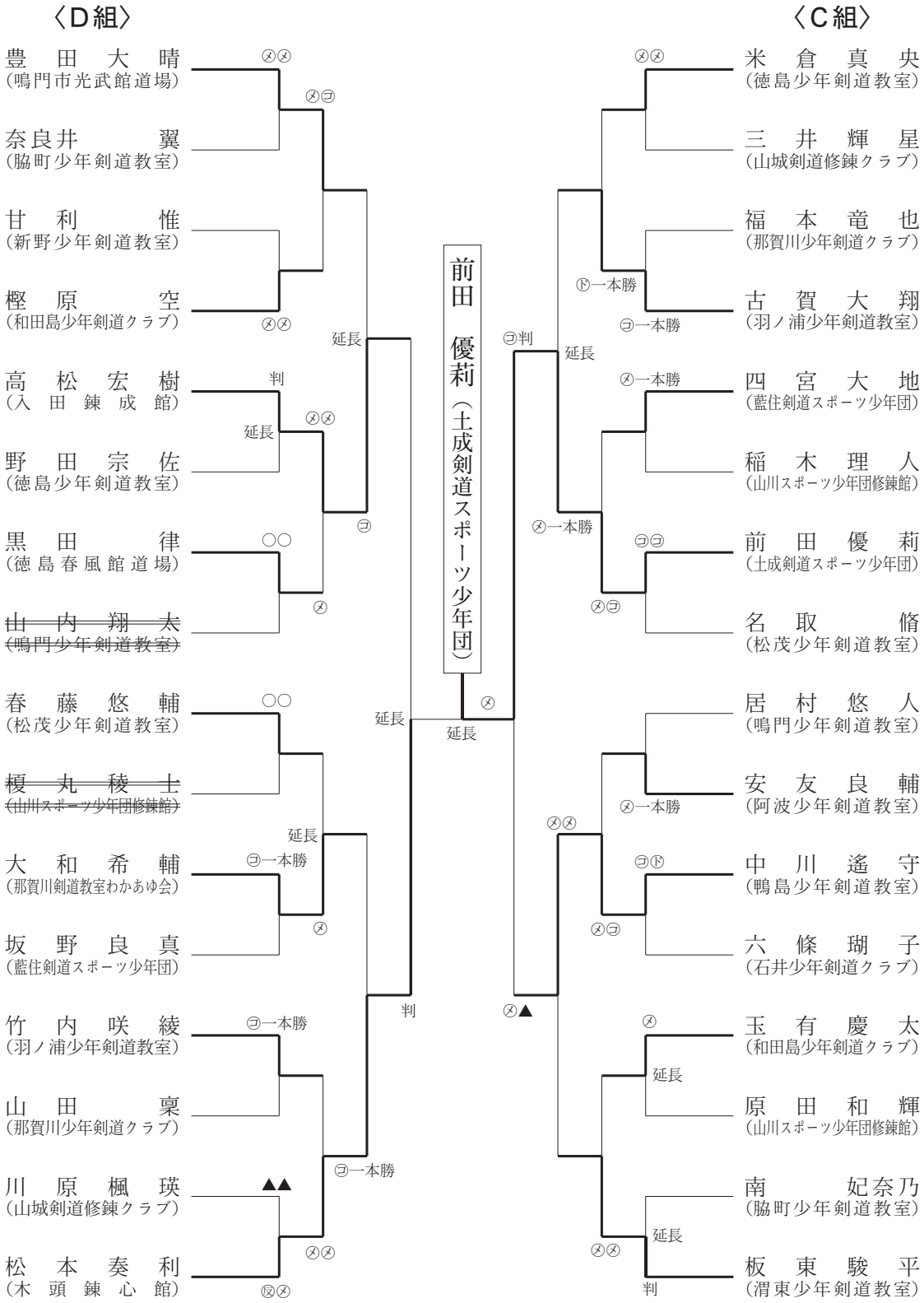
チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表	得点
木頭錬心館	福岡	松本	西岡	平川	山下		3/2
	㊦㋝		㋝一本勝				
徳島少年剣道教室					一本勝㋝		1/1
	佐藤	岡本	古川	冨増	片岡		

優勝　木頭錬心館
準優勝　徳島少年剣道教室
第三位　那賀川剣道教室わかあゆ会
第三位　佐古剣道クラブ

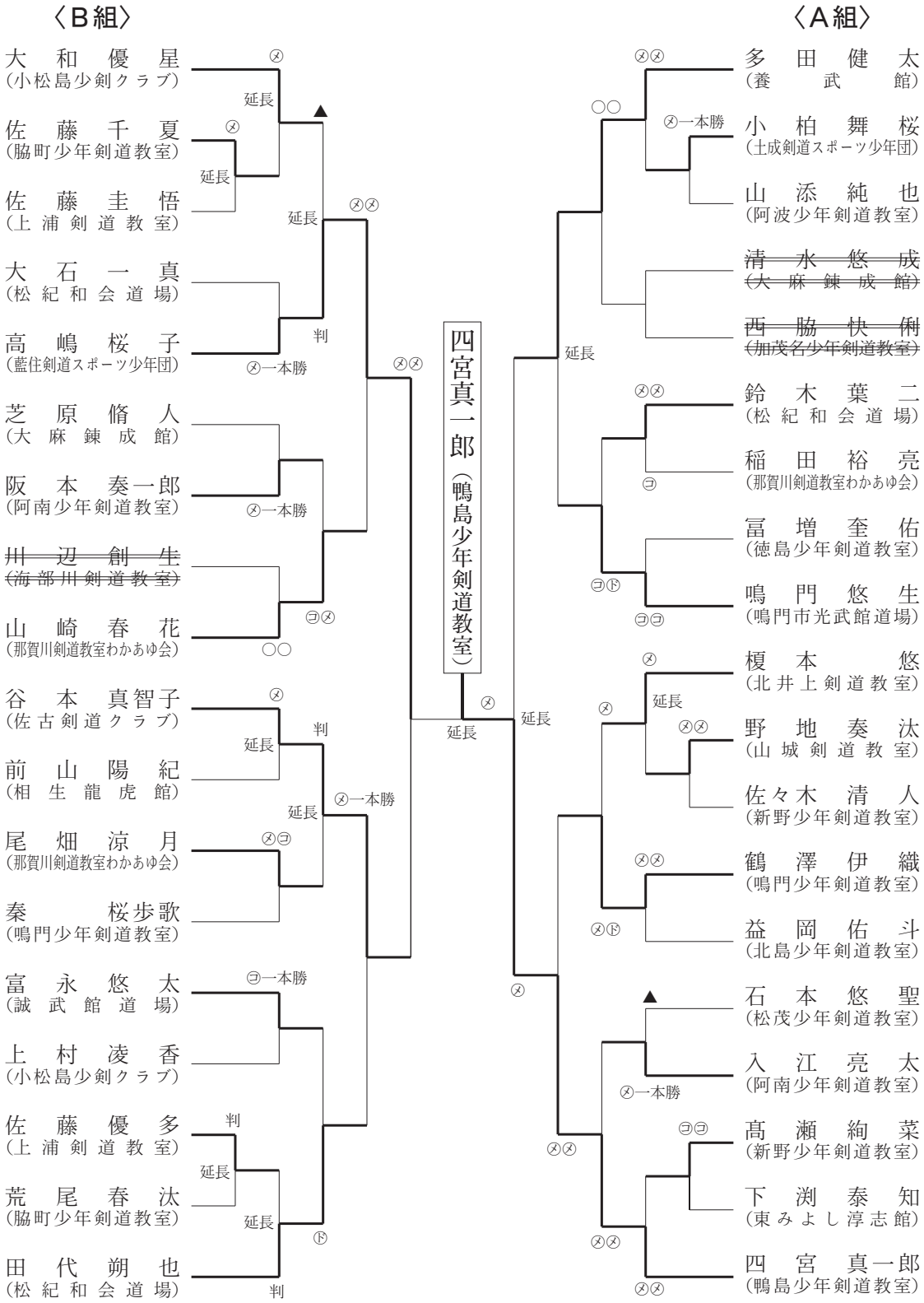
個 人 戦 （4年生）


〈B組〉
〈A組〉
武田朱里（加茂名少年剣道教室）
山口珠生（東みよし淳志館）
北村直路（那賀川少年剣道クラブ）
原田勇輝（山川スポーツ少年団修錬館）
加藤光揮（大麻錬成館）
多田煌（鴨島少年剣道教室）
岩野稜（土成剣道スポーツ少年団）
居村拓馬（鳴門少年剣道教室）
村瀬絆（北島少年剣道教室）
武田脩斗（土成剣道スポーツ少年団）
東海大地（鴨島少年剣道教室）
中村颯亮（大麻錬成館）
澳津瑛太（那賀川剣道教室わかあゆ会）
上田冬真（羽ノ浦少年剣道教室）
向井煌紀（東みよし淳志館）
香川直輝（加茂名少年剣道教室）
綾部杏花（徳島少年剣道教室）
中村悠馬（山城剣道修錬クラブ）
天羽龍慎（羽ノ浦少年剣道教室）
折坂ちゆ（上浦剣道教室）
齋藤隆児（松茂少年剣道教室）
原田慎也（山川スポーツ少年団修錬館）
谷珠菜（海部川剣道教室）
橘大晴（松茂少年剣道教室）
紅露昌輝（鳴門少年剣道教室）
大道理紗（徳島春風館道場）
藤川創一郎（羽ノ浦少年剣道教室）
津島優生（小松島少剣クラブ）
岩谷夢羽（和田島少年剣道クラブ）
岡田柚子波（木頭錬心館）
三宅海誠（脇町少年剣道教室）
西村渚（鳴門市光武館道場）
折坂ちゆ（上浦剣道教室）

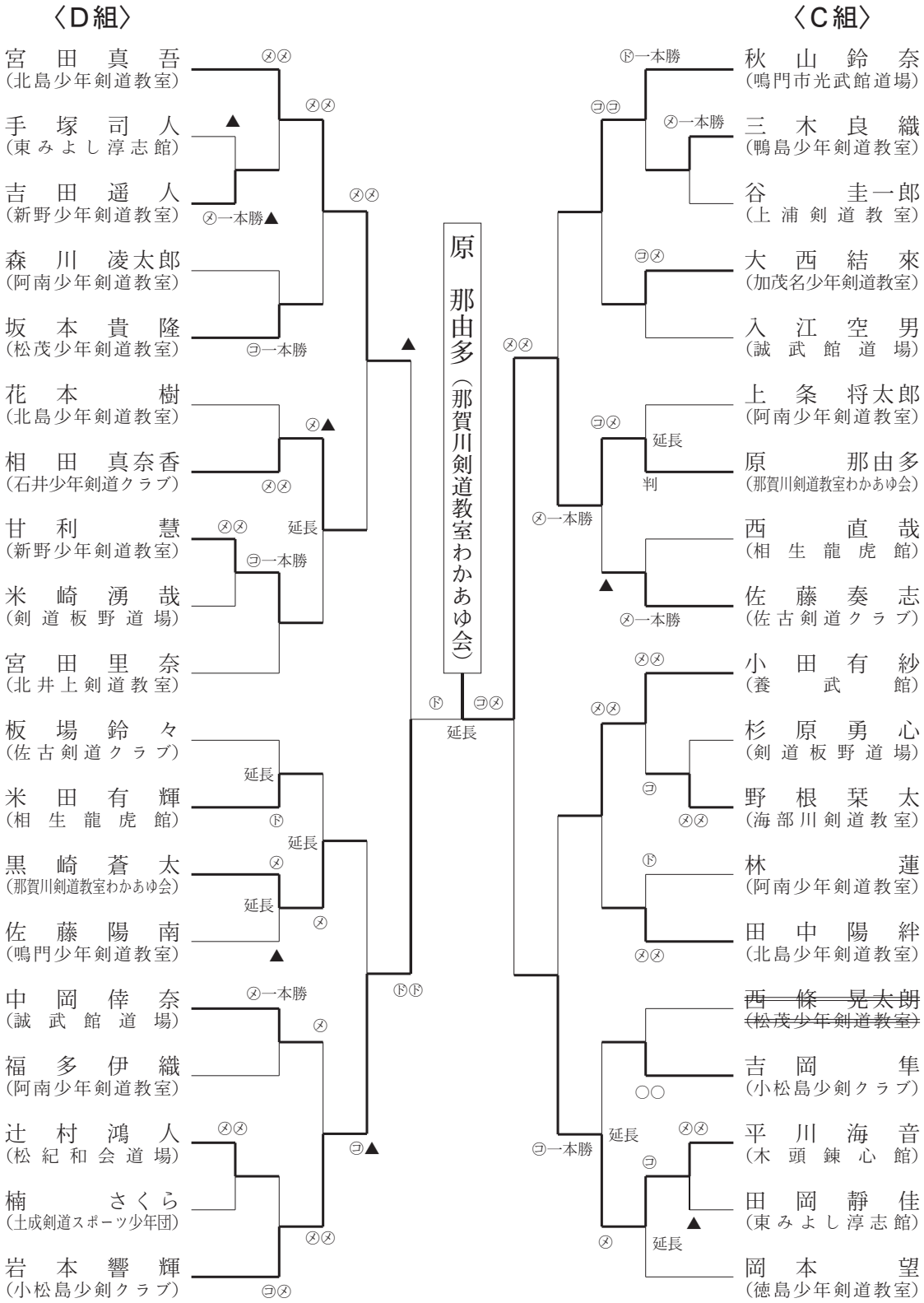
個人戦（4年生）


〈D組〉
〈C組〉
豊田大晴（鳴門市光武館道場）
奈良井翼（脇町少年剣道教室）
甘利惟（新野少年剣道教室）
樫原空（和田島少年剣道クラブ）
高松宏樹（入田錬成館）
野田宗佐（徳島少年剣道教室）
黒田律（徳島春風館道場）
~~山内翔太（鳴門少年剣道教室）~~
春藤悠輔（松茂少年剣道教室）
~~榎丸稜士（山川スポーツ少年団修錬館）~~
大和希輔（那賀川剣道教室わかあゆ会）
坂野良真（藍住剣道スポーツ少年団）
竹内咲綾（羽ノ浦少年剣道教室）
山田稟（那賀川少年剣道クラブ）
川原楓瑛（山城剣道修錬クラブ）
松本奏利（木頭錬心館）
米倉真央（徳島少年剣道教室）
三井輝星（山城剣道修錬クラブ）
福本竜也（那賀川少年剣道クラブ）
古賀大翔（羽ノ浦少年剣道教室）
四宮大地（藍住剣道スポーツ少年団）
稲木理人（山川スポーツ少年団修錬館）
前田優莉（土成剣道スポーツ少年団）
名取脩（松茂少年剣道教室）
居村悠人（鳴門少年剣道教室）
安友良輔（阿波少年剣道教室）
中川遙守（鴨島少年剣道教室）
六條瑚子（石井少年剣道クラブ）
玉有慶太（和田島少年剣道クラブ）
原田和輝（山川スポーツ少年団修錬館）
南妃奈乃（脇町少年剣道教室）
板東駿平（渭東少年剣道教室）
前田優莉（土成剣道スポーツ少年団）

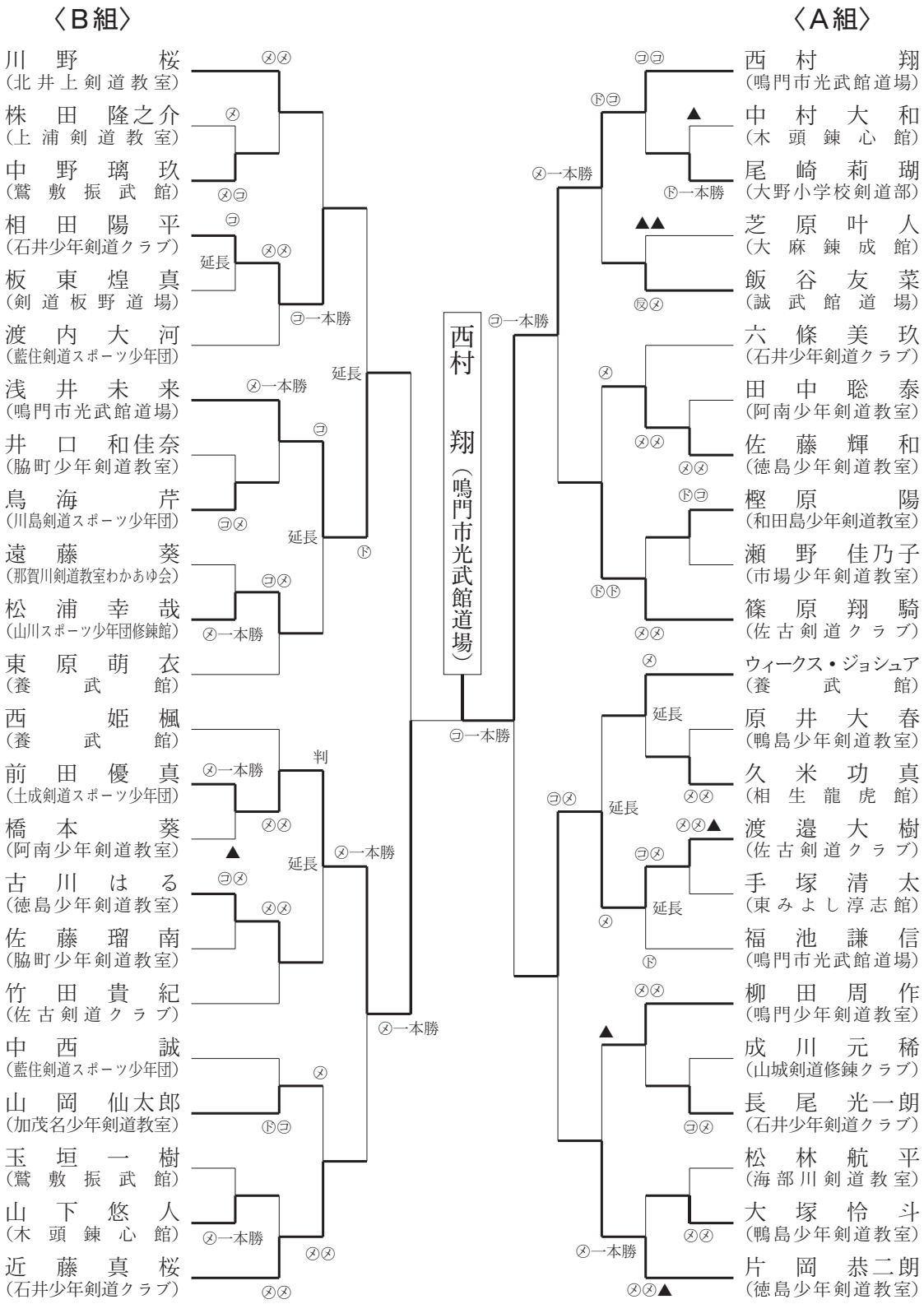
個人戦（5年生）


〈B組〉
〈A組〉
大和優星（小松島少剣クラブ）
佐藤千夏（脇町少年剣道教室）
佐藤圭悟（上浦剣道教室）
大石一真（松紀和会道場）
高嶋桜子（藍住剣道スポーツ少年団）
芝原脩人（大麻錬成館）
阪本奏一郎（阿南少年剣道教室）
~~川辺創生（海部川剣道教室）~~
山崎春花（那賀川剣道教室わかあゆ会）
谷本真智子（佐古剣道クラブ）
前山陽紀（相生龍虎館）
尾畑涼月（那賀川剣道教室わかあゆ会）
秦桜歩歌（鳴門少年剣道教室）
富永悠太（誠武館道場）
上村凌香（小松島少剣クラブ）
佐藤優多（上浦剣道教室）
荒尾春汰（脇町少年剣道教室）
田代朔也（松紀和会道場）
四宮真一郎（鴨島少年剣道教室）
多田健太（養武館）
小柏舞桜（土成剣道スポーツ少年団）
山添純也（阿波少年剣道教室）
~~清水悠成（大麻錬成館）~~
~~西脇快俐（加茂名少年剣道教室）~~
鈴木葉二（松紀和会道場）
稲田裕亮（那賀川剣道教室わかあゆ会）
冨増奎佑（徳島少年剣道教室）
鳴門悠生（鳴門市光武館道場）
榎本悠（北井上剣道教室）
野地奏汰（山城剣道教室）
佐々木清人（新野少年剣道教室）
鶴澤伊織（鳴門少年剣道教室）
益岡佑斗（北島少年剣道教室）
石本悠聖（松茂少年剣道教室）
入江亮太（阿南少年剣道教室）
髙瀬絢菜（新野少年剣道教室）
下渕泰知（東みよし淳志館）
四宮真一郎（鴨島少年剣道教室）
延長
判
一本勝

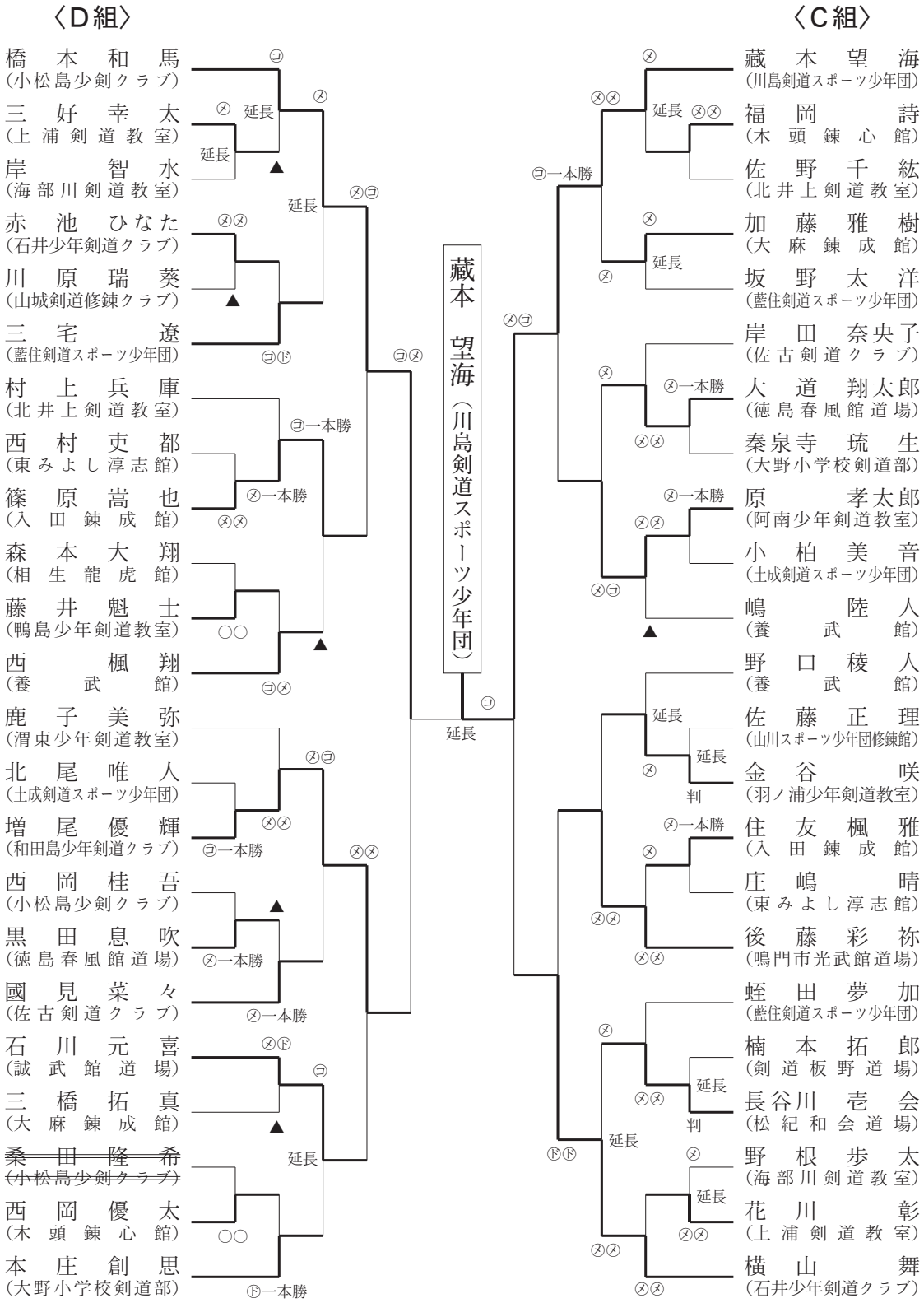
個人戦（5年生）


〈D組〉
〈C組〉
宮田真吾（北島少年剣道教室）
手塚司人（東みよし淳志館）
吉田遥人（新野少年剣道教室）
森川凌太郎（阿南少年剣道教室）
坂本貴隆（松茂少年剣道教室）
花本樹（北島少年剣道教室）
相田真奈香（石井少年剣道クラブ）
甘利慧（新野少年剣道教室）
米崎湧哉（剣道板野道場）
宮田里奈（北井上剣道教室）
板場鈴々（佐古剣道クラブ）
米田有輝（相生龍虎館）
黒崎蒼太（那賀川剣道教室わかあゆ会）
佐藤陽南（鳴門少年剣道教室）
中岡倖奈（誠武館道場）
福多伊織（阿南少年剣道教室）
辻村鴻人（松紀和会道場）
楠さくら（土成剣道スポーツ少年団）
岩本響輝（小松島少剣クラブ）
原那由多（那賀川剣道教室わかあゆ会）
秋山鈴奈（鳴門市光武館道場）
三木良織（鴨島少年剣道教室）
谷圭一郎（上浦剣道教室）
大西結來（加茂名少年剣道教室）
入江空男（誠武館道場）
上条将太郎（阿南少年剣道教室）
原那由多（那賀川剣道教室わかあゆ会）
西直哉（相生龍虎館）
佐藤奏志（佐古剣道クラブ）
小田有紗（養武館）
杉原勇心（剣道板野道場）
野根栞太（海部川剣道教室）
林蓮（阿南少年剣道教室）
田中陽絆（北島少年剣道教室）
西條晃太朗（松茂少年剣道教室）
吉岡隼（小松島少剣クラブ）
平川海音（木頭錬心館）
田岡静佳（東みよし淳志館）
岡本望（徳島少年剣道教室）

個人戦（6年生）


〈B組〉
〈A組〉
川野　桜（北井上剣道教室）
株田　隆之介（上浦剣道教室）
中野　璃玖（鷺敷振武館）
相田　陽平（石井少年剣道クラブ）
板東　煌真（剣道板野道場）
渡内　大河（藍住剣道スポーツ少年団）
浅井　未来（鳴門市光武館道場）
井口　和佳奈（脇町少年剣道教室）
鳥海　芹（川島剣道スポーツ少年団）
遠藤　葵（那賀川剣道教室わかあゆ会）
松浦　幸哉（山川スポーツ少年団修錬館）
東原　萌衣（養武館）
西姫　楓（養武館）
前田　優真（土成剣道スポーツ少年団）
橋本　葵（阿南少年剣道教室）
古川　はる（徳島少年剣道教室）
佐藤　瑠南（脇町少年剣道教室）
竹田　貴紀（佐古剣道クラブ）
中西　誠（藍住剣道スポーツ少年団）
山岡　仙太郎（加茂名少年剣道教室）
玉垣　一樹（鷺敷振武館）
山下　悠人（木頭錬心館）
近藤　真桜（石井少年剣道クラブ）
西村　翔（鳴門市光武館道場）
西村　翔（鳴門市光武館道場）
西村　翔（鳴門市光武館道場）
中村　大和（木頭錬心館）
尾崎　莉瑚（大野小学校剣道部）
芝原　叶人（大麻錬成館）
飯谷　友菜（誠武館道場）
六條　美玖（石井少年剣道クラブ）
田中　聡泰（阿南少年剣道教室）
佐藤　輝和（徳島少年剣道教室）
樫原　陽（和田島少年剣道教室）
瀬野　佳乃子（市場少年剣道教室）
篠原　翔騎（佐古剣道クラブ）
ウィークス・ジョシュア（養武館）
原井　大春（鴨島少年剣道教室）
久米　功真（相生龍虎館）
渡邉　大樹（佐古剣道クラブ）
手塚　清太（東みよし淳志館）
福池　謙信（鳴門市光武館道場）
柳田　周作（鳴門少年剣道教室）
成川　元稀（山城剣道修錬クラブ）
長尾　光一朗（石井少年剣道クラブ）
松林　航平（海部川剣道教室）
大塚　怜斗（鴨島少年剣道教室）
片岡　恭二朗（徳島少年剣道教室）
㋡一本勝
㋺一本勝
㋻一本勝
㋼一本勝
㋽一本勝
㋾一本勝
㋿一本勝
㋺㋺
㋺㋻
㋺㋼
㋺㋽
㋺㋾
㋺㋿
㋻㋺
㋻㋻
㋻㋼
㋻㋽
㋻㋾
㋻㋿
㋼㋺
㋼㋻
㋼㋼
㋼㋽
㋼㋾
㋼㋿
㋽㋺
㋽㋻
㋽㋼
㋽㋽
㋽㋾
㋽㋿
㋾㋺
㋾㋻
㋾㋼
㋾㋽
㋾㋾
㋾㋿
㋿㋺
㋿㋻
㋿㋼
㋿㋽
㋿㋾
㋿㋿
延長
判
▲

個人戦（6年生）


〈D組〉
〈C組〉
橋本和馬（小松島少剣クラブ）
三好幸太（上浦剣道教室）
岸智水（海部川剣道教室）
赤池ひなた（石井少年剣道クラブ）
川原瑞葵（山城剣道修錬クラブ）
三宅遼（藍住剣道スポーツ少年団）
村上兵庫（北井上剣道教室）
西村吏都（東みよし淳志館）
篠原嵩也（入田錬成館）
森本大翔（相生龍虎館）
藤井魁士（鴨島少年剣道教室）
西楓翔（養武館）
鹿子美弥（渭東少年剣道教室）
北尾唯人（土成剣道スポーツ少年団）
増尾優輝（和田島少年剣道クラブ）
西岡桂吾（小松島少剣クラブ）
黒田息吹（徳島春風館道場）
國見菜々（佐古剣道クラブ）
石川元喜（誠武館道場）
三橋拓真（大麻錬成館）
~~桑田隆希（小松島少剣クラブ）~~
西岡優太（木頭錬心館）
本庄創思（大野小学校剣道部）
藏本望海（川島剣道スポーツ少年団）
福岡詩（木頭錬心館）
佐野千紘（北井上剣道教室）
加藤雅樹（大麻錬成館）
坂野太洋（藍住剣道スポーツ少年団）
岸田奈央子（佐古剣道クラブ）
大道翔太郎（徳島春風館道場）
秦泉寺琉生（大野小学校剣道部）
原孝太郎（阿南少年剣道教室）
小柏美音（土成剣道スポーツ少年団）
嶋陸人（養武館）
野口稜人（養武館）
佐藤正理（山川スポーツ少年団修錬館）
金谷咲（羽ノ浦少年剣道教室）
住友楓雅（入田錬成館）
庄嶋晴（東みよし淳志館）
後藤彩祢（鳴門市光武館道場）
蛭田夢加（藍住剣道スポーツ少年団）
楠本拓郎（剣道板野道場）
長谷川壱会（松紀和会道場）
野根歩太（海部川剣道教室）
花川彰（上浦剣道教室）
横山舞（石井少年剣道クラブ）
藏本望海（川島剣道スポーツ少年団）
延長
一本勝
判

決　勝　戦（個 人 戦）

〈4年生〉

折　坂　ち　ゆ
（上 浦 剣 道 教 室）

前　田　優　莉
（土成剣道スポーツ少年団）

㋐一本勝

前田　優莉（土成剣道スポーツ少年団）

〈5年生〉

四　宮　真一郎
（鴨島少年剣道教室）

㋝㋝

延長

原　　那由多
（那賀川剣道教室わかあゆ会）

㋝

四宮 真一郎（鴨島少年剣道教室）

〈6年生〉

西　村　　翔
（鳴門市光武館道場）

延長

藏　本　望　海
（川島剣道スポーツ少年団）

㋝

藏本　望海（川島剣道スポーツ少年団）

個　人　戦　試　合　結　果

〈4年生〉

優　勝	前　田　優　莉	土成剣道スポーツ少年団
準優勝	折　坂　ち　ゆ	上 浦 剣 道 教 室
第三位	松　本　奏　利	木　頭　錬　心　館
第三位	武　田　脩　人	土成剣道スポーツ少年団

〈5年生〉

優　勝	四宮真一郎	鴨島少年剣道教室
準優勝	原　　那由多	那賀川剣道教室わかあゆ会
第三位	高　嶋　桜　子	藍住剣道スポーツ少年団
第三位	岩　本　響　輝	小 松 島 少 剣 ク ラ ブ

〈6年生〉

優　勝	藏　本　望　海	川島剣道スポーツ少年団
準優勝	西　村　　翔	鳴門市光武館道場
第三位	橋　本　和　馬	小 松 島 少 剣 ク ラ ブ
第三位	前　田　優　真	土成剣道スポーツ少年団

第47回 徳島県社会人剣道大会

予選リーグ

日　時　平成30年11月25日(日) 午前10時00分
場　所　鳴門ソイジョイ武道館

A	北井上剣道教室	美馬支部B	東内道場	勝数	勝者数	得本数	点数	順位
北井上剣道教室		3/2	8/4	2	6	11	2	1
美馬支部B	1/1		4/3	1	4	5	1	2
東内道場	1/0	1/2		0	2	5	0	3

B	小松島C	阿波支部A	月曜会B	勝数	勝者数	得本数	点数	順位
小松島C		3/1	7/4	1	5	10	1	2
阿波支部A	6/3		5/2	2	5	11	2	1
月曜会B	1/0	1/0		0	0	2	0	3

C	麻植支部A	鳴門支部	大塚製薬	勝数	勝者数	得本数	点数	順位
麻植支部A		1/1	6/3	1	4	7	1	2
鳴門支部	4/3		4/2	2	5	8	2	1
大塚製薬	4/1	2/0		0	1	6	0	3

D	徳島支部A	海部支部	阿南支部	勝数	勝者数	得本数	点数	順位
徳島支部A		3/1	5/2	1	3	8	1	2
海部支部	2/1		2/1	0	2	4	0	3
阿南支部	6/2	4/2		2	4	10	2	1

E	名西B	小松島A	三好支部A	徳大医学部OB	勝数	勝者数	得本数	点数	順位
名西B		1/0	6/3	7/3	2	6	14	2	2
小松島A	4/2		4/1	7/3	3	6	15	3	1
三好支部A	3/1	3/0		2/1	0	2	8	0	4
徳大医学部OB	4/1	2/1	4/3		1	5	10	1	3

F	美馬支部A	徳島支部B	阿波支部C	徳島刑務所	勝数	勝者数	得本数	点数	順位
美馬支部A		2/1	3/1	0/0	0	2	5	0	4
徳島支部B	6/3		7/3	0/0	2	6	13	2	2
阿波支部C	4/1	3/1		0/0	1	2	7	1	3
徳島刑務所	10/5	4/2	5/3		3	10	19	3	1

予選リーグ

G	藍住SS－1	徳島県庁剣道部	板野東支部	勝数	勝者数	得本数	点数	順位
藍住SS－1		6/3	8/4	2	7	14	2	1
徳島県庁剣道部	0/0		4/2	1	2	4	1	2
板野東支部	2/0	0/0		0	0	2	0	3

H	養武館	小松島B	月曜会A	勝数	勝者数	得本数	点数	順位
養武館		2/1	4/1	0	2	6	0	3
小松島B	5/3		4/2	2	5	9	2	1
月曜会A	5/2	3/2		1	4	8	1	2

I	徳島支部C	藍住SS－2	美馬支部C	勝数	勝者数	得本数	点数	順位
徳島支部C		0/0	2/1	0	1	2	0	3
藍住SS－2	7/4		4/2	2	6	11	2	1
美馬支部C	5/2	3/1		1	3	8	1	2

J	三好支部B	阿波支部B	鷲敷振武館	勝数	勝者数	得本数	点数	順位
三好支部B		1/1	0/0	0	1	1	0	3
阿波支部B	5/3		0/0	1	3	5	1	2
鷲敷振武館	8/4	6/4		2	8	14	2	1

K	小松島D	名西A	麻植支部B	勝数	勝者数	得本数	点数	順位
小松島D		5/2	10/5	1	7	15	1.5	1
名西A	5/2		8/4	1	6	13	1.5	2
麻植支部B	1/0	1/1		0	1	2	0	3

準決勝戦

チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表	得点
北井上剣道教室	富田	金野	佐野	富田	美馬	美馬	代 2/1
	▲			ツ(ド)		メ	
鳴門支部	メ メ						2/1
	竹内	平野	古賀	上田	木原	木原	

チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表	得点
徳島刑務所	玉井	片山	前田	井口	森		1/1
			一本勝 コ				
小松島D	一本勝 メ				コ ド		3/2
	松本	堀田	江口	鳴川	高木		

決勝戦

チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表	得点
北井上剣道教室	富田	金野	佐野	富田	美馬	美馬	3/1
	メ メ	メ					
小松島D		メ			メ メ	メ	代 3/1
	松本	堀田	江口	鳴川	高木	高木	

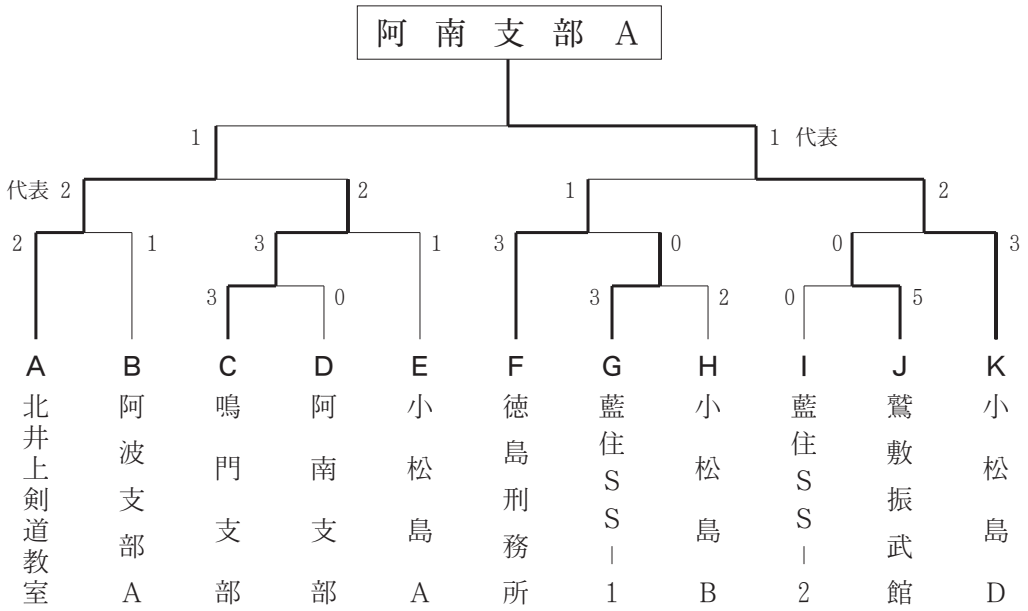
優　勝　小松島D

準優勝　北井上剣道教室

第3位　徳島刑務所

第3位　鳴門支部

決勝トーナメント



第63回徳島県高校新人大会兼全国高校選抜大会県予選会

女子の部

日　時　平成31年１月13日(日) 午前９時30分
場　所　鳴門ソイジョイ武道館

予選Ａリーグ

	富岡東	城　北	阿南光	勝点	勝者数	取得本数	順位
富岡東		3/2	9/5	1.0	7	12	1
城　北	1/1		5/3	0.5	4	6	2
阿南光	0/0	0/0		0.0	0	0	3

予選Ｂリーグ

	富岡西	川　島	鳴門渦潮	勝点	勝者数	取得本数	順位
富岡西		1/0	8/4	0.5	4	9	2
川　島	2/1		7/5	1.0	6	9	1
鳴門渦潮	0/0	0/0		0.0	0	0	3

決　勝　戦

富岡東 2(4)
川　島 0(1)
→ 富岡東

順位決定戦

城　北 1(1)
富岡西 2(2)
→ 富岡西

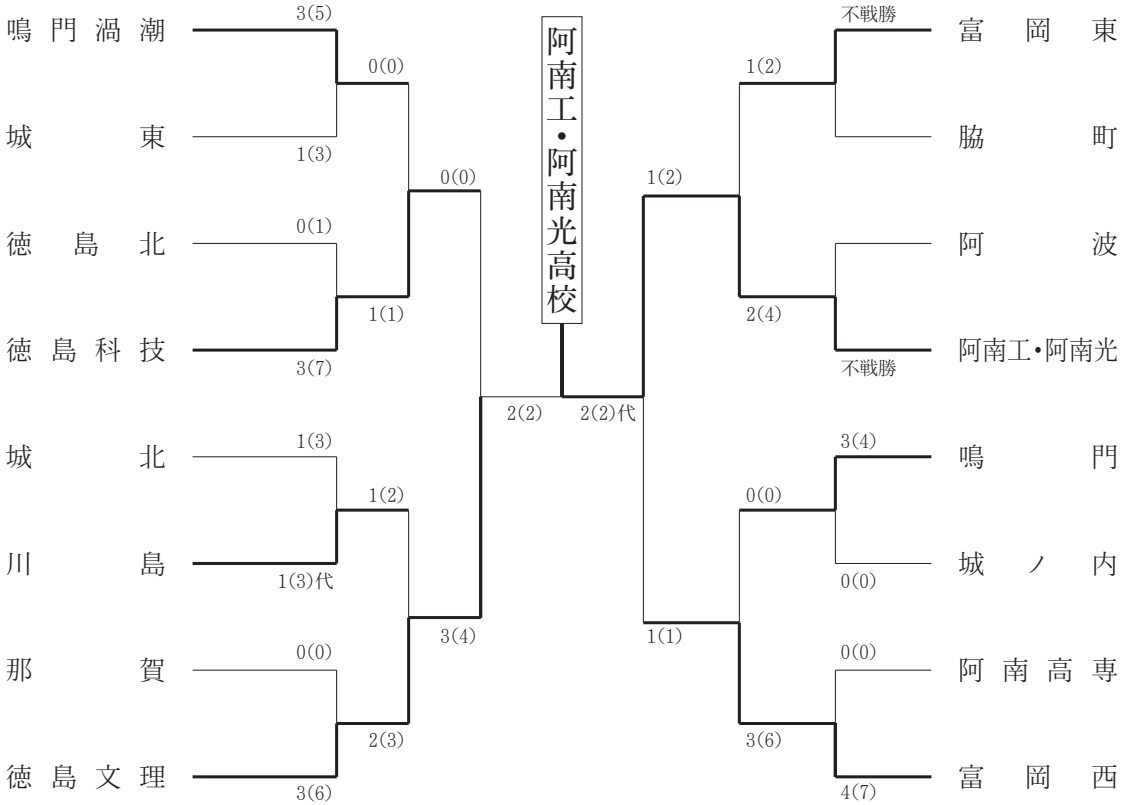
決　勝

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
富岡東	田村	和田津	福田	馬見	朝田	2	4	
	㊧㊧	㊧㊧						
川島		㊐				0	1	
	笠井	土井	三笠	堀井	篠原			

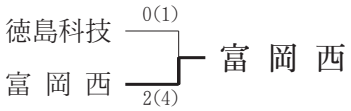
順位決定戦

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
城北	山本	佐藤	貴島	大西	村本	1	1	
		一㊦本勝						
富岡西				一本勝㊧	一本勝㊧	2	2	
	垣内	古本	増井	桑村	藤原			

男子の部



順位決定戦



〈男子の部〉

決　勝

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
徳島文理	一楽	板東	原田	細井	片岡	2	2	片岡
	▲一㊋本勝				一㊋本勝			
阿南工・阿南光	▲	一本勝㊋	一本勝㊐			2	2	㊋
	上条	津山	上田	吉岡	河野			河野

順位決定戦

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
徳島科技	住友	池森	山下	河野	披田	0	1	
					㊐			
富岡西		㊐㊋	一本勝㊋			2	4	
	住友	朝桐	宮田	松田	大城			

第29回 徳島県中学校剣道強化錬成大会

日　時　平成31年１月19日㈯　午前９時30分開会
場　所　鳴門ソイジョイ武道館

［団 体 戦］

順　位	男　　子	女　　子
優　　勝	那賀川中学校	徳島中学校
準優勝	徳島文理中学校	那賀川中学校
第３位	北島中学校	海陽中学校
第３位	徳島中学校	鳴門第一中学校

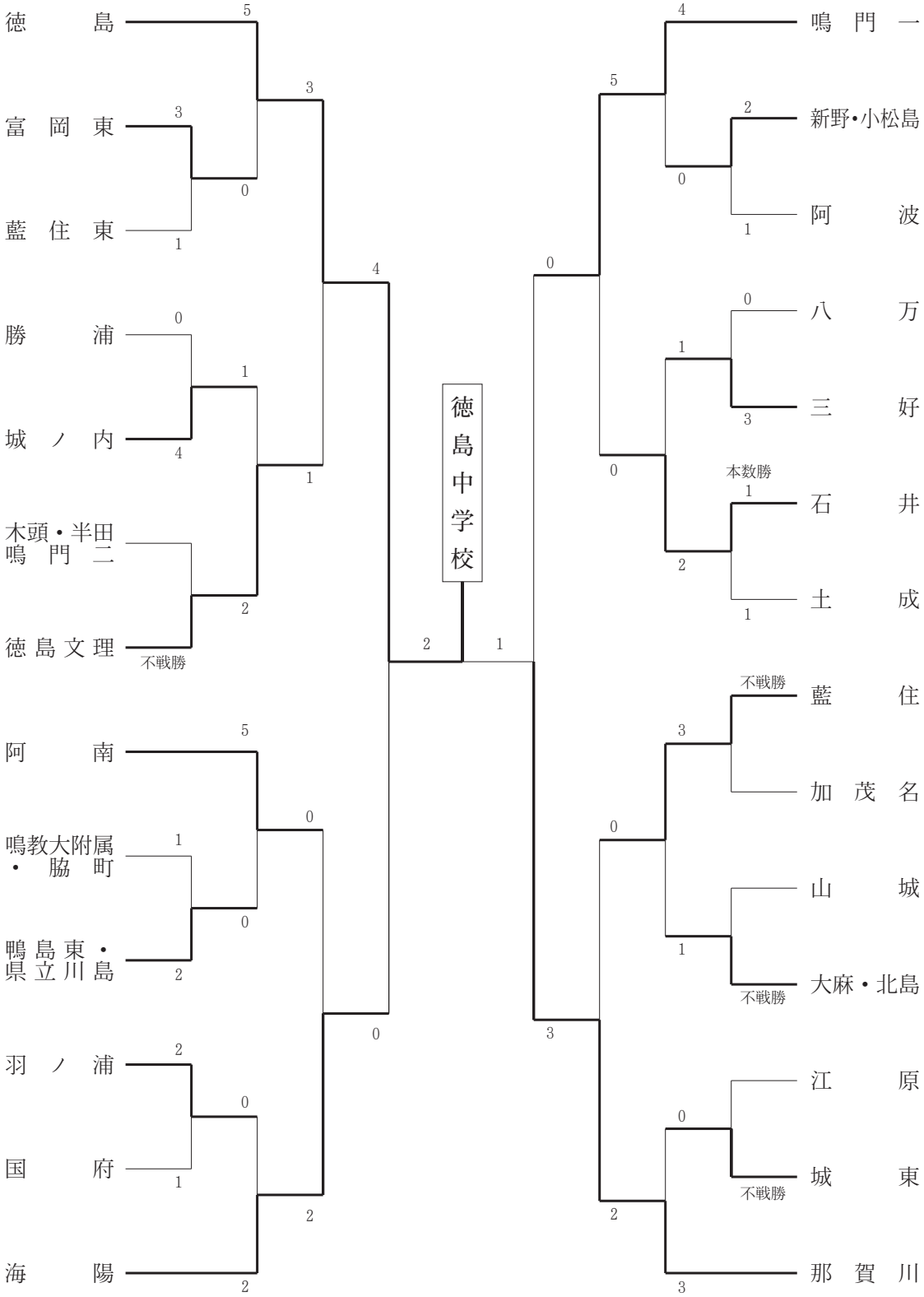
［男子決勝］

学校名	先　鋒	次　鋒	中　堅	副　将	大　将	代表戦	勝　敗
徳島文理	内　海	佐　藤	岩　田	森　脇	秋　山		1 / 0
			メ				
那賀川		ド	メ		メ		3 / 2
	倉　橋	岡　﨑	尾　畑	羽　坂	橋　本		

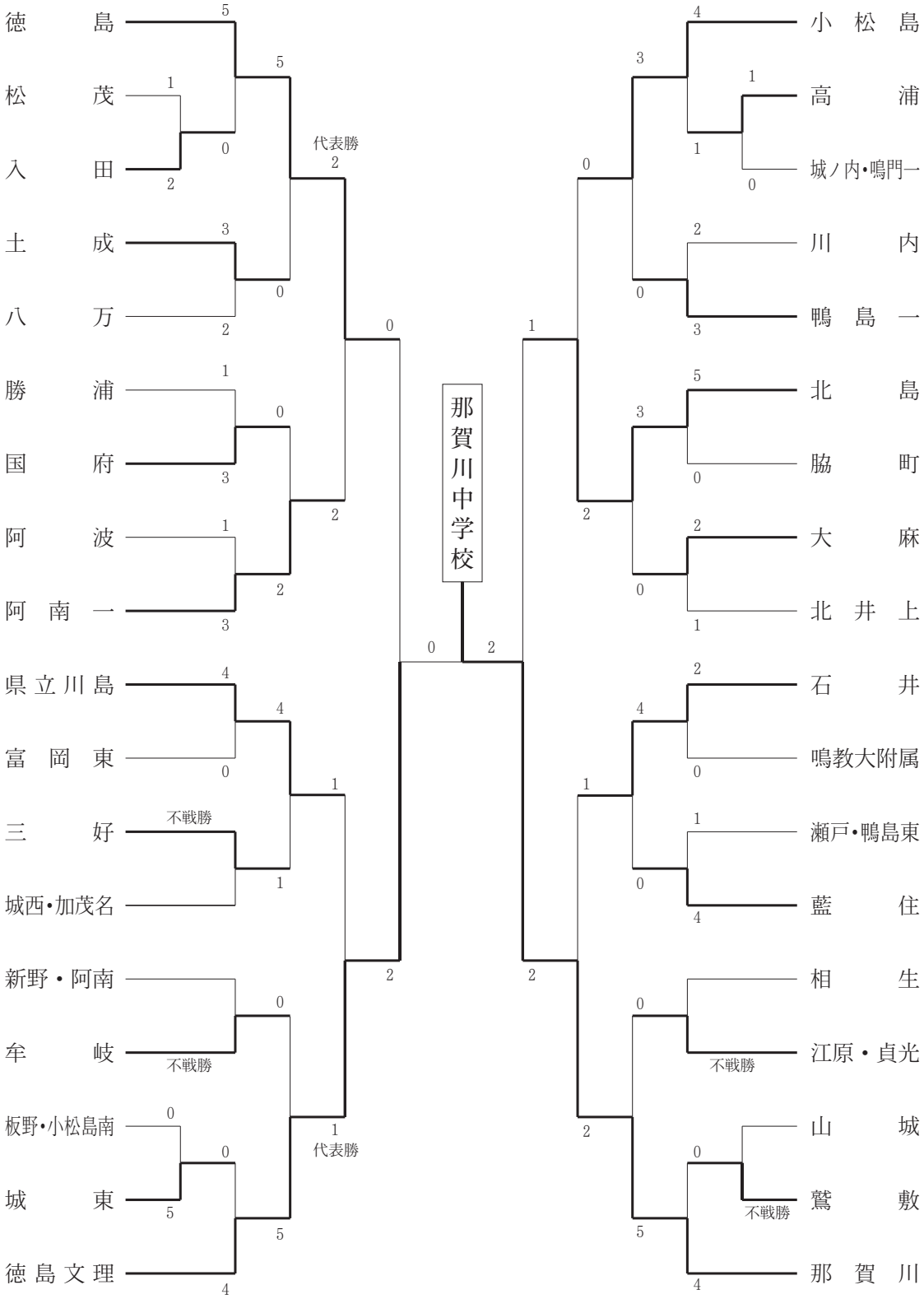
［女子決勝］

学校名	先　鋒	次　鋒	中　堅	副　将	大　将	代表戦	勝　敗
徳　島	松　山	西　岡	篠　原	赤　川	岩　原		3 / 2
	コメ				メ		
那賀川				コ			1 / 1
	武　藏	小山田	山　名	羽　坂	小　畠		

〈女子団体戦〉


徳島中学校
徳島
富岡東
藍住東
勝浦
城ノ内
木頭・半田
鳴門二
徳島文理
阿南
鳴教大附属・脇町
鴨島東・県立川島
羽ノ浦
国府
海陽
鳴門一
新野・小松島
阿波
八万
三好
石井
土成
藍住
加茂名
山城
大麻・北島
江原
城東
那賀川
不戦勝
本数勝

〈男子団体戦〉


徳島
松茂
入田
土成
八万
勝浦
国府
阿波
阿南一
県立川島
富岡東
三好
城西・加茂名
新野・阿南
牟岐
板野・小松島南
城東
徳島文理
小松島
高浦
城ノ内・鳴門一
川内
鴨島一
北島
脇町
大麻
北井上
石井
鳴教大附属
瀬戸・鴨島東
藍住
相生
江原・貞光
山城
鷲敷
那賀川
那賀川中学校
代表勝
不戦勝

第14回 四国中学校新人剣道大会

日　時　平成31年3月3日(日)
場　所　阿波中学校体育館

順位	男子	女子
優勝	満濃中学校（香川県）	松山市立北中学校（愛媛県）
準優勝	那賀川中学校（徳島県）	徳島中学校（徳島県）
第3位	徳島中学校（徳島県）	満濃中学校（香川県）
第3位	高知中学校（高知県）	海陽中学校（徳島県）

女子団体　予選リーグ戦

A	徳島	介良	大島	綾南	得点	勝者数	総本数	順位
徳島		9/5	3/2	9/5	3	12	21	1
介良	0/0		1/0	0/0	0	0	1	4
大島	1/1	7/4		3/2	2	7	11	2
綾南	0/0	2/1	2/1		1	2	4	3

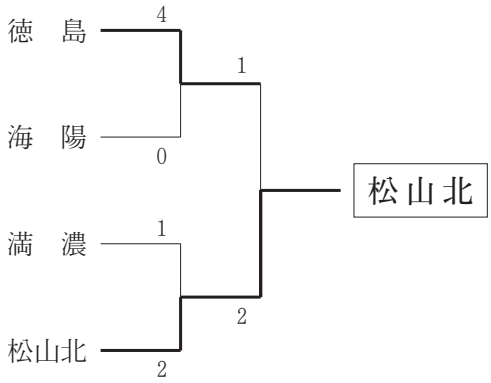
B	桜町	久万	高岡	海陽	得点	勝者数	総本数	順位
桜町		5/3	7/4	2/2	2.5	9	14	2
久万	3/2		4/3	1/1	1	6	8	3
高岡	0/0	2/1		0/0	0	1	2	4
海陽	2/2	4/2	9/5		2.5	9	15	1

C	中村	満濃	鳴門一	椿	得点	勝者数	総本数	順位
中村		1/1	1/1	2/1	2	3	4	2
満濃	2/2		1/1	1/1	2.5	4	4	1
鳴門一	0/0	0/0		0/0	0	0	0	4
椿	1/0	1/1	1/1		1.5	2	3	3

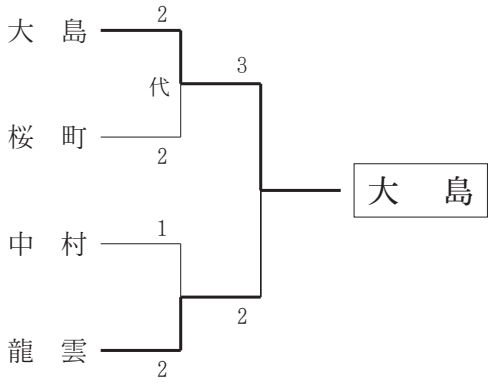
D	松山北	那賀川	龍雲	西部	得点	勝者数	総本数	順位
松山北		4/2	4/2	6/4	3	8	14	1
那賀川	3/1		2/1	8/4	1	6	13	3
龍雲	1/0	2/2		5/3	2	5	8	2
西部	2/1	0/0	1/1		0	2	3	4

女子団体　決勝トーナメント戦

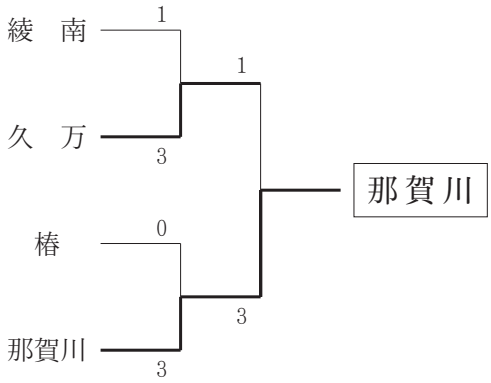
女子１位トーナメント戦（第２試合場）



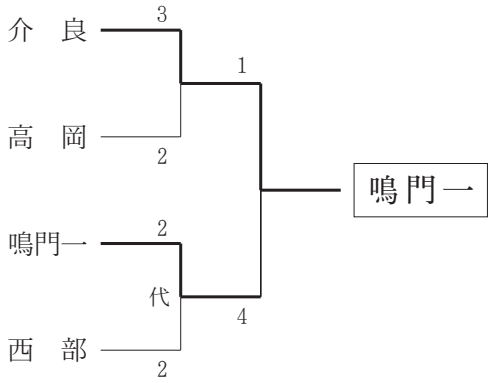
女子２位トーナメント戦（第２試合場）



女子３位トーナメント戦（第４試合場）



女子４位トーナメント戦（第４試合場）



［女子決勝］

学校名	先　鋒	次　鋒	中　堅	副　将	大　将	代表戦	勝　敗
徳　島（徳島）	松　山	曽　我	篠　原	赤　川	岩　原		2 / 1
			コ		メ		
松山北（愛媛）		メメ	メ	メ			4 / 2
	後　藤	林	髙　橋	須　賀	白　石		

男子団体　予選リーグ戦

A	高知	白峰	小松島	久万	得点	勝者数	総本数	順位
高知		3/1	2/1	3/2	3	4	8	1
白峰	2/1		5/5	4/2	2	8	11	2
小松島	1/0	0/0		1/0	0	0	2	4
久万	2/2	2/0	3/1		1	3	7	3

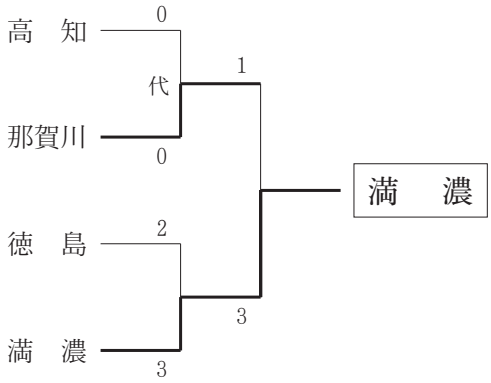
B	城辺	那賀川	龍雲	椿原	得点	勝者数	総本数	順位
城辺		2/0	2/1	7/4	1	5	11	3
那賀川	4/1		3/2	6/4	3	7	13	1
龍雲	5/3	1/1		9/5	2	9	15	2
椿原	2/1	0/0	1/0		0	1	3	4

C	徳島	一宮	三間	木太	得点	勝者数	総本数	順位
徳島		2/2	2/1	2/1	3	4	6	1
一宮	0/0		0/0	0/0	0	0	0	4
三間	1/0	3/2		3/2	2	4	7	2
木太	1/0	5/4	0/0		1	4	6	3

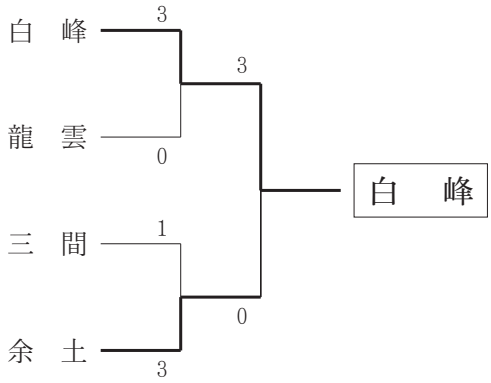
D	満濃	余土	野市	徳島文理	得点	勝者数	総本数	順位
満濃		6/3	8/5	2/2	3	10	16	1
余土	1/0		4/3	3/2	2	5	8	2
野市	0/0	0/0		1/0	0	0	1	4
徳島文理	0/0	0/0	7/3		1	3	7	3

男子団体　決勝トーナメント戦

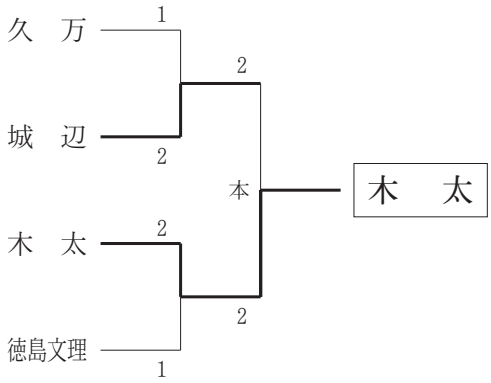
男子１位トーナメント戦（第１試合場）



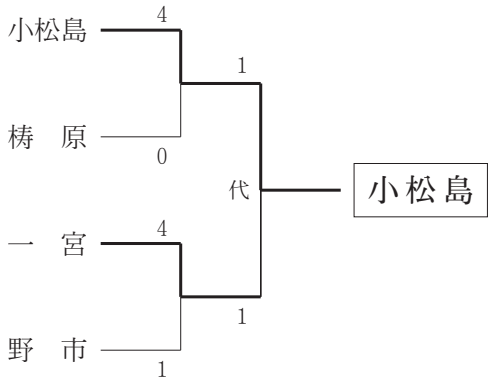
男子２位トーナメント戦（第１試合場）



男子３位トーナメント戦（第３試合場）



男子４位トーナメント戦（第３試合場）



［男子決勝］

学校名	先　鋒	次　鋒	中　堅	副　将	大　将	代表戦	勝　敗
那賀川（徳島）	倉　橋	岡　﨑	尾　畑	羽　坂	橋　本		1 / 1
					メ		
満　濃（香川）	メ	メ		メ			3 / 3
	牛　田	高　木	稲　木	黒　川	冨　田		

徳島新聞に見る戦いの跡

徳島新聞
2018年(平成30年)4月30日 月曜日

徳島 初の8強入り

剣道

全日本都道府県対抗剣道の第66回全日本都道府県対抗優勝大会は29日、エディオンアリーナ大阪で行われ、徳島が初の8強入りを果たした。2回戦から登場した徳島は長野、滋賀を下し、4回戦で茨城に敗れた。北海道が21年ぶり4度目の優勝。

徳島の大石洋史（徳島文理中教）が優秀選手（10人）に選ばれた。

▽2回戦
徳島 6－0 長野
○片岡コドー 北澤
松本 － 宮本
○玉井ドメー 緒方
○大石コメー 岩崎
○平野ココー 森角
○敦賀ココーメ 野溝
○玉田コー 榛葉

▽3回戦
徳島 3－2 滋賀
○片岡コドーコ 山下
○松本コー 八木
玉井 －メ 三雲○
大石 ドーコ 對馬
平野 －メ 南部○
敦賀 － 増田
○玉田メー 渡邊

▽4回戦
茨城 4－0 徳島
○岩部メメード 片岡
○中根メメー 松本
○山下メー 玉井
鈴木コード 大石
海老原コード 平野
○矢口コメー 敦賀
山下メーメ 玉田

岩原 全国3位 個人女子

剣道

第40回全国スポーツ少年団交流大会（3月25～27日・東京武道館）は団体戦に48チーム、個人戦に男女各48人が参加して行われた。徳島県勢は個人女子で岩原千佳（徳島中、小松島少剣）が予選から順調に勝ち上がり準決勝で中原菜月（高知）に敗れたが3位入賞を果たした。

◇徳島県関係

【団体】予選リーグ 阿南市A（先鋒＝尾畑涼月、次鋒＝山﨑光月、中堅＝倉橋秀汰、副将＝岩佐ほのか、大将＝栗田星舞）2敗＝予選敗退

【個人】男子予選リーグ 岩原潤哉（徳島中、小松島少剣）2敗＝予選敗退

▽女子予選リーグ 岩原千佳（徳島中、小松島少剣）2勝＝決勝トーナメント進出▽決勝トーナメント1回戦 ○岩原－勝目好羽（神奈川）▽準々決勝 ○岩原－三輪紗子（茨城）▽準決勝 ○中原菜月（高知）－岩原▽順位③岩原

全国スポーツ少年団交流大会個人女子で3位の岩原千佳

徳島新聞
2018年(平成30年)5月14日 月曜日

剣道

◆第43回山家旗争奪県下大会（4月30日・鷲敷B&G海洋センター体育館）

【中学】男子①那賀川（立石龍之介、後藤浩也、田上力、小山田亮太、二宮雅将、尾畑翔）②石井③徳島▽女子①那賀川（倉橋美妃、岩佐真夏花、羽坂愛彩、小畠理奈、松葉佳香、藤原真結）②徳島③石井・加茂名

【高校】男子①川島（榎丸翔太、仁木聡一郎、熊橋知晃、山添龍也、吉岡凌太朗、樫葉龍空、江口弘純）②阿南工・阿南光A③鳴門渦潮A▽女子①富岡東A（大城明裕奈、明口なぎさ、堀田瞳、新見晃子、堺麗美、田邊望恵瑠、武藏千咲）②富岡東B③富岡西A▽5人以上勝ち抜き賞 松本喜起（城北）、熊橋知晃（川島）＝以上8人、鳴滝悠希（城ノ内）、上条亮太郎（阿南工・阿南光）、川田実央（富岡西）＝以上6人、太田健士郎（城北）、披田好誠（徳島科技）、河野寛之（阿南工・阿南光）、藤川稜介（鳴門）、松葉そら（徳島文理）、井内菜々（城ノ内）、朝田萌香（富岡東）、篠原若葉（川島）、富永康生（阿南工・阿南光）、橋本こころ（富岡西）＝以上5人▽10人以上勝ち抜き賞 明口なぎさ（富岡東）13人、後藤高志（富岡東）、前田龍志（鳴門渦潮）以上10人

山家旗争奪県下大会団体中学男子を制した那賀川㊨、同女子優勝の那賀川

あわースポーツ
記録・情報は本社運動部まで早めにお届けください。
電話 088(655)7231
FAX (0120)333414
メール awaspo@topics.or.jp

小中学生剣士が熱戦 阿波

日頃の鍛錬の成果を披露する出場者＝阿波市市場町大野島の八幡小体育館

阿波市市場町大野島の八幡小学校体育館で13日、剣道の奉納演武大会が開かれ、小中学生剣士が熱戦を繰り広げた。

徳島、鳴門、吉野川、阿波、美馬の5市から男女139人が出場。学年別など5部門に分かれ、トーナメント戦に臨んだ。面や胴などの技が決まるたびに、保護者らから大きな歓声が上がった。

中学生女子の部で優勝した篠原紗也さん(14)＝徳島中2年＝は「相手の動きをよく見て打てた。優勝できてよかった」と笑顔で話していた。

地元有志の「八幡神社剣道同志会」が2003年から開いている。毎年、同町八幡の八幡神社境内で「野試合」を行っているが、雨のため会場を変更した。（棚野将弐）

2018年5月14日

2018年5月21日

相生が中学団体制す

剣道

第56回那賀町防犯少年大会（5月12日・鷲敷中）は那賀警察署管内の小、中学生の団体と個人戦が行われ、白熱した攻防を展開した。団体小学生は木頭錬心館が優勝、中学生は相生中が制した。小学5・6年の上位4人と中学1・2年の上位3人は県防犯少年大会（8月3日・鳴門ゾイジョイ武道館）に那賀署チームとして出場する。

【団体】小学①木頭錬心館②鷲敷武館③相生龍虎館

▽中学①相生②木頭③鷲敷

【個人】小学1・2年①岡田真璃海（木頭錬心館）②松本羽太（鷲敷振武館）③中山丈太郎（鷲敷振武館）▽3・4年①松本奏利（木頭錬心館）②福岡鈴（木頭錬心館）③中野漣（鷲敷振武館）▽5・6年①山下悠人（木頭錬心館）②福岡詩（木頭錬心館）③西岡優太（木頭錬心館）

▽中学1・2年①吉岡健心（鷲敷中）②玉垣柊芽（鷲敷中）③米田安重（相生中）▽3年①米田賢司（相生中）②殿谷誠（相生中）③儀宝真弥（相生中）

那賀町防犯少年大会中学団体を制した相生

激しく打ち合う選手

2018年5月31日

第3種郵便物認可　徳　島　新

42校8992人挑む

本番を間近に控え、練習にも熱がこもる川島の剣道部員＝同校

城北・徳島文理が中心

女子は富岡東 優位動かず

剣道

徳島文理を中心に、新人大会2位の富岡東、4強の徳島科技、阿南工・阿南光が（那賀川スポーツセンター）

南光が追う展開。鳴門渦潮や川島も力がある。

20チームが出場する男子団体は近年にない混戦模様。県新人大会を制した城北と県会長杯優勝の片岡（徳島文理）、準優勝の坂野（鳴門渦潮）のほか、矢野（城北）、河野（阿南工・阿南光）が有力だ。

10校で争う女子は県、四国の両新人大会を制した富岡東の優位は動かない。富岡西と川島がどこまで食い下がれるか。

富岡東勢の争いが予想される個人戦は、県選手権を制した大城が頭一つリード。他校では松下（川島）、橋本（富岡西）の奮起が期待される。

【日程】2日＝男女団体、3日＝男女個人

【男子】
- 徳島文理
- 阿波
- 城東
- 海部
- 鳴門
- 城北
- 徳島北
- 富岡西
- 阿南高専
- 川島
- 阿南工・阿南光
- 徳島市立
- 小松島
- 板野
- 富岡東
- 徳島科技
- 脇町
- 那賀
- 城ノ内
- 鳴門渦潮

【女子】
- 富岡東
- 鳴門渦潮
- 徳島市立
- 徳島文理
- 鳴門
- 川島
- 城北
- 阿南光
- 城ノ内
- 富岡西

徳島新聞　2018年(平成30年)6月3日　日曜日

鳴門渦潮が初優勝

女子は富岡東 5年連続

剣道

【男子】団体1回戦 城東(不戦勝)阿波、富岡西3－1阿南高専、小松島5－0徳島市立、城ノ内3－1那賀▽2回戦 徳島文理(勝ち)2川島、阿南工・阿南光4－0小松島、富岡東4－0板野、北4－1徳島北、富岡西2(代表勝ち)2城北、富岡東1(代表勝ち)1阿南工・阿南光、鳴門渦潮2－1徳島科技▽準決勝 富岡西3－1徳島文理、鳴門渦潮3－1富岡東▽3位決定戦 富岡東3－1徳島文理

▽決勝

○鳴門渦潮 3－0 富岡西
○吉本 メー 岩本
○山 メー 福本
○小山 メー 前田
○山下 ー 住友
○坂野 メー 服部

【女子】団体1回戦 鳴門渦潮5－0徳島市立、城ノ内3－0阿南光▽準々決勝 富岡東5－0鳴門渦潮、徳島文理2－0鳴門、川島3－2城北、富岡西5－0城ノ内▽準決勝 富岡東3－0徳島文理、富岡西3－0川島▽3位決定戦 川島3－1徳島文理

▽決勝

富岡東 3－2 富岡西
○朝田 ード 川田
堀出 ーコ 藤原
○明口 メー 大山
○堺 メー 相原
○大城 メー 橋本

男子決勝・鳴門渦潮対富岡西　大将戦を制した鳴門渦潮の坂野(左)
＝那賀川スポーツセンター

心身鍛え チーム一丸

鳴門渦潮

混戦の男子を制したのは、新チームになってから県大会でなかなか頂点に立てなかった鳴門渦潮だった。大舞台で悲願の初優勝を手にし、山田監督は「5人全員が勝利の立役者。チームワークのたまもの」と選手をたたえた。

先鋒(せんぽう)の吉本は「勝って流れをつくる」と果敢に攻め、相手がコテを狙ったところを打ち払ってメンを決めた。続く1年の次鋒小山も「力を出し切る」とメンで一本。中堅、副将がコテを狙ったところを粘って引き分けて勝負を決めると大将の坂野主将も勝利で締めくくった。

1月の県新人戦は8強、4月の県会長杯は準優勝。「技術はあるのに何かが足りない」。山田監督が出した答えは、気持ちの持ち方だった。上級生が雑用をして下級生の練習を助けるなど、人のために何をするべきかを考えさせた。

その積み重ねによって、チームに良い変化が表れた。坂野主将は「厳しい練習の中でも声を掛けて励まし合う雰囲気が生まれた。気持ちの面で負けなくなった」。培ったチームワークで全国総体に挑む。(石崎義典)

阿南勢対決制す

○…富岡東と富岡西の阿南勢のライバル対決となった女子決勝。副将戦が終わって2－2の接戦は、富岡東の大城主将＝写真＝が延長1分半すぎ、相手より一瞬早く飛び込み、鮮やかなメンを決めて女王の座を守った。

長井監督は常々「スターはいないので最後に相手より一本多く取る」と総力戦を口にする。先鋒、次鋒が黒星の苦しい展開を強いられたが、中堅の明口が悪い流れを断ち切ると、副将の堺、大将の大城がともに一本勝ち。重圧をはね返しての5連覇達成に大城主将は「正直、ほっとしている」と笑顔で本音を漏らした。

徳島新聞　2018年(平成30年)6月12日　火曜日

あわースポーツ
記録・情報は本社運動部まで早めにお届けください。
電話　088(655)7231
FAX　(0120)333414
メール　awaspo@topics.or.jp

剣道

女子V 徳島中 男子3位

文部科学大臣賞争奪第53回宮本武蔵顕彰小中学生大会（5月20日・岡山県美作市宮本武蔵顕彰武蔵武道館）は中四国、近畿などから281の道場、中学が参加して団体戦（男子75人、女子3人戦）が行われた。徳島県勢は徳島中女子が優勝、同男子は3位入賞を果たした。

◇徳島勢

【男子】準決勝　青柳スポーツ少年団A（岡山）2－1徳島中（先鋒＝千葉隆蓉、次鋒＝奈木一翔、中堅＝千葉木陽仁、副将＝千葉翔大、大将＝松本尊紘）

【女子】準決勝　徳島中（先鋒＝松山若槻、中堅＝篠原紗也、大将＝岩原千佳）1本勝ち1　五徳剣志塾（岡山）▽決勝　徳島中2－1赤穂東中（兵庫）

宮本武蔵顕彰小中学生大会で中学団体女子優勝、同男子3位の徳島中

◆第28回北島ライオンズクラブ少年大会（5月20日・サンフラワードーム北島）

【団体】小学生の部　成スポーツ少年団②徐武館②北島A③北島B▽中学男子①北島A②北島B▽中学女子①北島②蔵武館▽決勝　岡女子①北島②蔵武館

【個人】小学3年以下①近藤健文（蔵武館）②中岡晃仁（蔵武館）③前野英大（蔵武館）③水主こころ（北島少）▽4年①上田優（土成剣少）②武田勝斗（土成剣少）③前田優莉（土成剣少）③村瀬絆（北島少剣）▽5年①吉田真吾（北島少剣）②森朱悠大（蔵武館）③高橋彩子（鳴門少剣）③佐藤陽南（鳴門少剣）▽6年①前田優真（土成剣少）②石川元喜（蔵武館）③三浦（鳴門少剣）③山岡仙太郎（北島少剣）▽中学男子①四宮翔大（北島中）②水藤蓉大（北島中）③井垣裕大（鳴門中）③米津稔司（鳴門中）▽岡女子①末光真子（北島中）②山名美咲（鳴門剣道）③溜山ちゆり（北島中）③米崎明香（板野中）

剣道

小学生の部 井上 中学生の部 香川が優勝

第5回阿波吉野川警察署管内防犯少年大会（6月3日・川島体育館）は阿波、吉野川両市の小学生28人、中学生33人が参加して個人戦が行われた。小学生の部は井上裕貴（吉野川教室）、中学生の部は香川柊吾（上浦教室）がそれぞれ優勝した。小学生の上位4人と中学生の上位3人は県防犯少年大会（8月3日・鳴門ソイジョイ武道館）に阿波吉野川警察署チームとして出場する。

【小学生】①井上裕貴（吉野川教室）②前田優真（土成スポーツ少年団）③藏本望海（川島スポーツ少年団）③花川彰（上浦教室）

【中学生】①香川柊吾（上浦教室）②川村典士（鴨島一中）③海部樹（県立川島中）

熱戦を繰り広げる中学生

阿波吉野川警察署管内防犯少年大会の入賞者

鳴門市光武館が制す

団体 小学生 中学生は養武館

剣道

第1回徳島県道場連盟少年大会兼第53回全国道場少年大会徳島県予選兼全国道場少年選手権徳島県予選（6月9日・鳴門市剣道場）は小・中学生剣士が白熱した攻防を繰り広げた。団体小学生は鳴門市光武館が優勝、同中学生は養武館が制した。

鳴門市光武館と養武館は全国少年大会（7月24、25日・日本武道館）、個人各クラスの優勝者は全国少年選手権（9月23日・愛媛県武道館）に県代表としてそれぞれ出場する。

【団体】小学◐鳴門市光武館（先鋒＝西村翔、次鋒＝秋山鈴奈、中堅＝後藤彩祐、副将＝池謙信、大将＝浅井未来）②佐古クラブ③養武館

▽中学◐養武館（先鋒＝神田幸一郎、次鋒＝山崎剛、中堅＝湯浅和真、副将＝東原伊吹、大将＝武知樹生）②佐古クラブ③松紀和会③鳴門市光武館

【個人】小学男子◐渡邊大樹（佐古クラブ）②西村翔（鳴門市光武館）③多田健人（養武館）③豊田大晴（鳴門市光武館）▽同女子◐谷本真智子（佐古クラブ）②後藤彩祐（鳴門市光武館）③浅井未来（鳴門市光武館）③秋山鈴奈（鳴門市光武館）

▽中学男子◐武知樹生（養武館）②湯浅和真（養武館）③秋山颯汰（鳴門市光武館）③谷本英奈（佐古クラブ）▽同女子◐桑下和謙信（鳴門市光武館）②藤原昌美（鳴門市光武館）③山下莉央（鳴門市光武館）

◆第18回堀金旗争奪少年大会（小松島少剣クラブ創立44周年記念）（5月27日・小松島市立体育館）

【団体】小学低学年◐小松島少剣クラブA（先鋒＝山本琉太、次鋒＝上村優亜、中堅＝賀賀龍平、副将＝橋本愛生、大将＝津島優生）②阿南教室A③徳島教室③海部川教室▽高学年◐小松島少剣クラブ（先鋒＝大和優星、次鋒＝岩本蔵輝、中堅＝桑田隆希、副将＝西岡桂吾、大将＝橋本和馬）②那賀川教室わかゆめ会A③木頭錬心館③吉野川教室

堀金旗争奪少年大会団体小学低学年、高学年を制した小松島少剣クラブ

【個人】小学1、2年◐白和田碧（山川修錬館）②河田蒼生（那賀川教室わかゆめ会）③佐竹倫太朗（徳島教室）③川口瑛太（小松島少剣クラブ）▽3年◐阿井輝（阿南教室）、②柏原健（潍東教室）③上村優亜（小松島少剣クラブ）③福岡鈴（木頭錬心館）▽4年◐濱野銀次郎（徳島教室）②野田宗佐（徳島教室）③山本英太（小松島少剣クラブ）③林巧（阿南教室）▽5年◐岩本蔵輝（小松島少剣クラブ）②大和優星（小松島少剣クラブ）③渡辺日期（和田島クラブ）③平川海音（木頭錬心館）▽6年◐古岡恭二朗（徳島教室）②福岡詩（木頭錬心館）③桑田隆希（小松島少剣クラブ）③藏本望海（川島スポーツ少年団）

◆第15回鳴門防犯少年大会（6月3日・鳴門市光武館剣道場）

【小学】◐浅井未来（鳴門市光武館）②西村翔（鳴門市光武館）③秋山鈴奈（鳴門市光武館）③柳田周作（鳴門教室）

鳴門防犯少年大会の入賞者

【中学】◐秋山颯汰（鳴門市光武館）②農田雄大（鳴門一中）③受川諒（大麻中）③岡崎進平（鳴門市光武館）

◆阿南警察署管内防犯少年大会（6月9日・阿南市武道館）

【小学】◐本庄創思（大野小剣道部）②原孝太郎（阿南教室、富岡小）③西宮瑠彩（阿南教室、見能林小）③甘利慧（新野教室、山口小）

【中学】◐橋本青空（那賀川）②倉橋秀汰（那賀川）③尾畑翔（那賀川）

小学生上位4人と中学生上位3人は県防犯少年大会（8月31日・鳴門ソイジョイ武道館）に阿南市チームとして出場。

阿南警察署管内防犯少年大会の入賞者

◆2018年度小松島警察署管内防犯少年大会（6月9日・小松島警察署武道場）

【小学】◐折上悠斗（立江教室）②橋本和馬（小松島少剣クラブ）③椋原陽（和田島クラブ）③吉岡隼（小松島少剣クラブ）

小学生上位4人と中学生上位3人は県防犯少年大会（8月31日・鳴門ソイジョイ武道館）に鳴門警察署チームとして出場。

【中学】◐岩谷蒼夢（和田島クラブ）②原拓海（小松島中）③程大一郎（小松島中）③小山田奈央（小松島少剣クラブ）

小学生の上位4人と中学生の上位2人は県防犯少年大会（8月31日・鳴門ソイジョイ武道館）に小松島警察署チームとして出場。

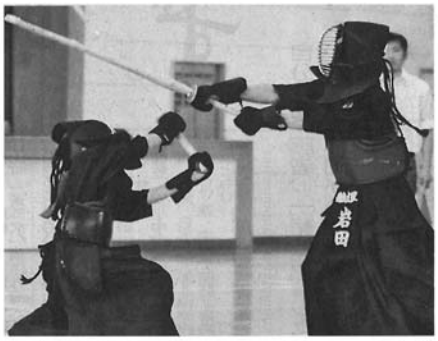
小松島警察署管内防犯少年大会の入賞者ら

【紙面編集】佐藤雅之

【上】県連盟少年大会兼全国少年大会県予選小学団体を制した鳴門市光武館【下】中学団体優勝の養武館

2018年7月2日

2018年7月9日



【上】徳島中央防犯少年大会の入賞者
【下】熱戦を繰り広げる選手

小学生 片岡 中学生 添木 V

剣道

第21回徳島中央防犯少年大会（6月23日・県警察学校）は徳島中央署管内の小学生12人、中学生24人の計36人が日頃の稽古の成果を競った。小学生は片岡恭二朗、中学生は添木陽仁の徳島少年剣道教室勢がそれぞれ制した。

小学生の上位4人と中学生の上位3人は県防犯少年大会（8月3日・鳴門ソイジョイ武道館）に徳島中央署チームとして出場する。

【小学生】①片岡恭二朗（徳島教室）②ウィークス ジョシュア（養武館）③佐藤輝和（徳島教室）③西楓翔（養武館）

【中学生】①添木陽仁（徳島教室）②千葉陸登（徳島中）③千葉翔太（徳島中）

◆第9回三好支部少年大会兼徳島県防犯少年大会予選（6月16日・山城中）

▽小学4年以下①三井輝星②北村昂世③山口珠生▽5・6年①西村史都②田岡静佳③庄嶋晴

▽中学1・2年男子①庄嶋蓮②近藤邑樹③向井一騎▽3年①藤丸孝介②正口大記③高篠七海▽女子①橋口萌菜②野地結奈③中山はるな

▽県防犯大会出場者決定戦小学生①西村史都②田岡静佳③庄嶋晴④川原瑞葵▽中学生①近藤邑樹②庄嶋蓮③中山はるな

小学生上位4人と中学生上位3人は県防犯少年大会（8月3日・鳴門ソイジョイ武道館）に三好警察署チームとして出場。

◆名西警察署防犯大会（6月23日・加茂名中武道場）

【小学】①近藤真桜（石井クラブ）②國見菜々（佐古クラブ）③篠原嵩也（入田錬成会）③相田陽平（石井クラブ）

【中学】①富田将太郎（北井上中）②近藤正獅（高浦中）③安井大晟（石井クラブ）

入賞者7人は県防犯少年大会（8月3日・鳴門ソイジョイ武道館）に名西警察署チームとして出場。

名西警察署防犯大会の入賞者

2018年7月22日

那賀川、男女ともV

剣道

（鳴門ソイジョイ武道館）

【男子】団体1回戦 北井上2―1小松島南、大麻3―1牟岐、脇町2―0上成、相生5―0勝浦、石井3―1鴨島一、小松島3―1蔵敷、国府4―1瀬戸、山城3―1阿波、江原3―2三好▽2回戦 北島4―1北井上、大麻4―1脇町、相生2（本数勝ち）2徳島文理、石井3―1阿南一、那賀川1（代表勝ち）1小松島、国府2―1藍住、県立川島3―1山城、徳島5―0江原▽準々決勝 北島5―0大麻、相生2（本数勝ち）2石井、那賀川4―0国府、徳島3―1県立川島▽準決勝 北島2―1相生、那賀川4―1徳島▽決勝

那賀川	2―2（代表勝ち）	北島
○後藤 メドーメ		谷川
○立石 メー		撫養
二宮 ―コ		永濱聡○
小山田 ―		四宮
田上 ―ド		永濱幹○

▽代表戦
○田上 コー 永濱幹

【女子】団体1回戦 石井5―0県立川島、城東2（本数勝ち）2山城、藍住2（代表勝ち）2牟岐、海陽5―0阿波、富岡東2（本数勝ち）2北島▽2回戦 那賀川4―0石井、土成3―2大麻、城東4―0三好、江原2（代表勝ち）2藍住、海陽2―1徳島文理、羽ノ浦3―0脇町、鳴門一4―0勝浦、徳島4―0富岡東▽準々決勝 那賀川5―0土成、江原3―1城東、海陽2―1羽ノ浦、徳島5―0鳴門一▽準決勝 那賀川4―0江原、徳島4―0海陽▽決勝

那賀川	4―0	徳島
○松葉 コー		岩本 ―
○岡崎 ドメー		赤川
○山田 ドー		吉田
○河野 ドコー		篠原
		岩原

男子決勝・那賀川対北島　代表戦を制した那賀川の田上㊨＝鳴門ソイジョイ武道館

月刊　2018年(平成30年)8月2日　木曜日

スポーツ少年団 減員続く

05年度1万57人→17年度7653人

県内のスポーツ少年団に所属する小学生の減少が続いている。統計が残る2000年度以降、団員数は05年度の1万57人をピークに減少の一途で、17年度は7653人にまで落ち込んだ。競技別では、軟式野球とサッカーの減少が目立つ。少子化に加え、スポーツ活動の多様化や、送迎などの負担を嫌がる保護者の増加が背景にあるという。

スポーツ少年団は小学校区を基本単位とし、地域住民が支える社会体育活動。日本スポーツ少年団がまとめた競技別団員数（02～17年度）によると、同期間の団員減少率は22・9％で、県内の児童の減少率（22・2％）とほぼ同程度だった。05年度以降は年間50～470人のペースで減少が続いている。17年度の競技別団員数は、軟式野球が1640人。ピークだった02年度の2366人から30・6％減った。サッカーは軟式野球とほぼ同じ1660人。12年度の2058人から急降下している。

バレーボールは05年度の1039人から899人に減少。ただ減少のペースは野球、サッカーと比べて緩やかだ。一方、ミニバスケットボールは団員数を増やしている。男女とも安定した人気があり、02年度の509人から657人と伸びている。

団員数の減少には、スポーツの選択肢が広がったことも背景にあるとされる。競泳をはじめ、民間スポーツクラブが設立され、ドッジボールやサーフィンなどの人気も上昇。スポーツ少年団以外の受け皿が増えつつある。

保護者が試合時の送迎や審判を務めるのを敬遠するのも、団員減の要因といわれる。

これに対し、今年から参加大会数を22から10前後に絞った野球の三庄クラブ（東みよし町）には13人が加入し総勢26人になった。

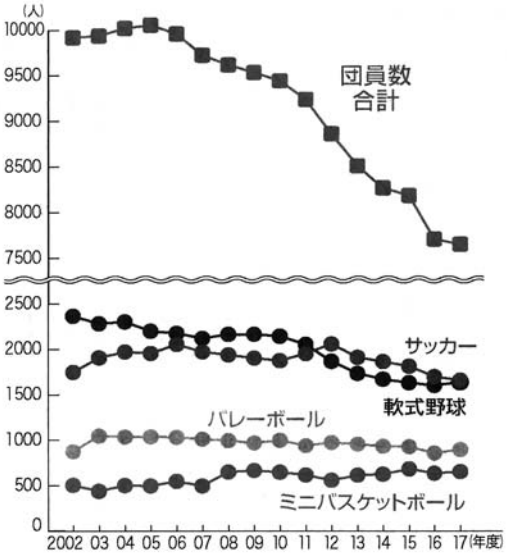
峯本和樹監督(40)＝同町西庄、会社員＝によると、共働きで多忙だったり、複数の習い事があったりして、週末を束縛されることに抵抗を感じる保護者は少なくないという。峯本監督は「保護者の負担を和らげ、参加しやすい雰囲気をつくった」と話している。

（谷利彦）

過剰な練習一因

徳島大大学院の佐藤充宏教授（スポーツ社会学）の話　過剰な練習を課しているスポーツ少年団もあり、保護者の負担感も相まって少年団活動から子どもの足が遠のく原因になっている。

県内スポーツ少年団の団員数



保護者、負担に抵抗感か

県内 活動制限で増員の例も

2018年7月31日

県総体の剣道女子団体で優勝した那賀川㊨。四国総体で上位を目指す

剣道

【男子1位＝那賀川】監督 長地千景▽選手 田上力、後藤浩也、小山田亮太、立石龍之介、二宮翔将、尾畑翔、橋本青空

【同2位＝北島】監督 塚原裕美▽選手 永濱幹大、谷口航、四宮翔太、谷川俊輔、撫養祈叶、永濱隆貴、紅露和輝

【同個人】監督 武市一樹（城東）▽選手 松本務灯（徳島）橋本青空（那賀川）永濱幹大、四宮翔太、谷川俊輔（以上北島）安井大晟（石井）佐藤廉之助（城東）

【女子1位＝那賀川】監督 斎武知樹生（鳴教大付）▽選手 岩本楓華、松葉佳浩市、岡崎理、山田莉子、河野菜々香

【同2位＝徳島】監督 兼松佳子、倉橋美宛、福本彩乃▽選手 冨永育乃、吉田菜々穂、岩原千佳、松山若樹、篠原紗史、赤川真唯、曽我柚月

【同個人】監督 大石史（徳島文理）▽選手 岡崎理、岩本楓華、河野菜々香（以上那賀川）松田志緒（鳴教大付）古川ちひろ、佐藤ちひろ（以上徳島文理）

真、坂本新立、井上颯太

【個人】監督 本田隆史（高浦）▽選手 相田和哉（高浦）久積陽斗（阿南一）西原大智、勝浦太喜、佐藤時紀（以上鳴門一）田浦昇真、陰西倫太朗、坂本新立（以上板野）

2018年（平成30年）8月13日 月曜日

阿南教室 低学年制す

阿南中央ロータリークラブ杯争奪夏祭り少年大会団体小学低学年を制した阿南教室

剣道

◆2018年度阿南中央ロータリークラブ杯争奪夏祭り少年大会兼徳島県スポーツ少年団大会阿南市選考会（7月22日・阿南市武道館）

高学年で優勝した那賀川教室わかあゆ会

【団体】小学低学年①阿南教室（先鋒＝阿井輝、中堅＝西岡葵士、大将＝中村瑠琉）②新野教室③那賀川教室わかあゆ会▽高学年①那賀川教室わかあゆ会（先鋒＝青木謙真、中堅＝和泉皓大、大将＝桑原康輔）②阿南教室③大野小剣道部

【個人】小学新人生①高田原紀（徳島剣清塾）②廣瀬芽生（新野教室）③岩浅花（徳島剣清塾）③水口乾花（羽ノ浦教室）▽3年以下①阿井輝（阿南教室）②高瀬智菜（新野教室）③西岡葵士（阿南教室）③神崎創至（阿南教室）▽4年①大和希輔（那賀川教室わかあゆ会）②古賀大翔（羽ノ浦教室）③中村瑠琉（阿南教室）③澳津英太（那賀川教室わかあゆ会）▽5・6年男子①桑原康輔（那賀川教室わかあゆ会）②青木謙真（那賀川教室わかあゆ会）③尾畑涼月（那賀川教室わかあゆ会）③原孝太郎（阿南教室）▽同女子①四宮聖花（阿南教室）②甘利慧（新野教室）③西田心愛（那賀川教室わかあゆ会）③尾崎莉瑚（大野小剣道部）

2018年(平成30年)9月17日　月曜日

あわースポーツ

剣道

◆第25回徳島市少年錬成大会（9月2日・徳島文理中高校剣道場）

【団体】①徳島教室（先鋒＝茨木聖音、次鋒＝清野銀次郎、中堅＝岡本章、副将＝佐藤輝和、大将＝片岡恭一朗）②佐古クラブ③北井上教室〉敢闘賞　葬武館

【個人】小学1、2年①篠原瑛騎（佐古クラブ）②佐藤奏仁（徳島教室）③湯川千暉（徳島教室）▽敢闘賞　佐竹倫太朗（徳島教室）▽3、4年①高松宏樹（入田錬成会）②米倉真央（徳島教室）③野田三佐（徳島教室）▽敢闘賞　市川織（徳島教室）▽5、6年①篠原幕也（入田錬成会）②若村湧人（松紀和会道場）③田代朔也（松紀和会道場）▽敢闘賞　市川はる（徳島教室）

徳島市少年錬成大会団体優勝の徳島教室

2018年(平成30年)9月24日　月曜日

あわースポーツ

徳島中が優勝

女子の部

剣道

第2回井尻杯争奪中学校大会（9月9日・岡山商科大付高）は中・四国、近畿などから男子28、女子25チームが参加、白熱した攻防を展開した。徳島県勢は女子の部で徳島中（先鋒＝松山若樹、次鋒＝曽我柚月、中堅＝篠原紗也、副将＝赤川真唯、大将＝岩原千佳）が優勝、那賀川中は決勝トーナメント初戦で岐阜選抜に敗れベスト8となった。男子は徳島中、那賀川中ともに予選敗退した。

〈徳島県関係の上位

【女子】決勝トーナメント準々決勝　徳島中2（代表勝ち）2岡山選抜〈準決勝　徳島中2（本数勝ち）2久御山中（京都）〈決勝　徳島中2（本数勝ち）2岐阜選抜

井尻杯争奪中学校大会女子の部を制した徳島中

あわースポーツ

2018年(平成30年)10月8日 月曜日

県立川島中が優勝

小学2部門 小松島少剣クV

剣道

第13回平尾杯争奪県下少年鴨島大会（9月16日・吉野川市鴨島体育館）は小中学生361人が団体戦と個人戦（小学生）で白熱した攻防を繰り広げた。団体中学は県立川島中が優勝、小学低学年と高学年は小松島少剣クラブがそれぞれ制した。

【団体】中学①県立川島中②藍住中③北井上教室③徳島教室▽小学低学年①小松島少剣クラブ②徳島教室③鬼無体協少年団③川島修錬館▽高学年①小松島少剣クラブ②養武館③入田川島合同③鬼無体協少年団

【個人】1・2年①三木健剛（鬼無体協少年団）②森澤颯介（鬼無体協少年団）③佐藤奏仁（徳島教室）▽3年①茨木里善（徳島教室）②三琉真（鴨島教室）③川野渓治（北井上教室）③原瑛大（小松島少剣クラブ）▽4年①藤野銀次郎（徳島教室）②三木己徹（鬼無体協少年団）③中川遥守（鴨島教室）③前田優莉（土成少年団）▽5年①多田健人（養武館）②西宮真一郎（鴨島教室）③高嶋桜子（藍住少年団）③秋山鈴奈（鳴門市光武館）▽6年①前田優真（土成少年団）②大塚怜斗（鴨島教室）③川野桜（北井上教室）③浅井未来（鴨門市光武館）

平尾杯争奪県下少年鴨島大会の団体戦で優勝した各チーム

小学男子・渡邉

2回戦で敗退

中学男子・武知

全国道場少年選手権第43回小中学生男子の部・第36回小中学生女子の部（9月23日・愛媛県武道館）は小学男女128人、中学男女128人が参加、熱戦を繰り広げた。徳島県勢は、小学男子の渡邉大樹（佐古クラブ、国府）、中学男子の武知樹生（養武館、鳴教大付）がそれぞれ善戦したが2回戦で敗退した。

◇徳島県関係

【男子】小学1回戦 渡邉大樹（佐古クラブ、国府）メー 石原穂晟（愛知）▽2回戦 根岸嗣英（千葉）メメー 渡邉▽中学1回戦 武知樹生（養武館、鳴教大付）コメーメ 佐々木桜太（秋田）▽2回戦 星術介（茨城）メメーメ 武知

【女子】小学1回戦 小林心乃（愛知）コメー 谷本真智子（佐古クラブ、国府）▽中学1回戦 福田舞（佐賀）コメー 森下和奏（鳴門市光武館、鳴門一）

全国道場少年選手権に出場した（左から）渡邉、谷本、森下、武知

◆徳島県防犯少年大会（8月3日・鳴門ソイジョイ武道館）

▽決勝リーグ①小松島署（折上悠斗＝立江教室、橋本和馬＝小松島少剣クラブ、吉岡隼＝小松島少剣クラブ、樫原陽＝和田島クラブ、岩谷優夢＝和田島クラブ、原拓海＝小松島中、桂大一郎＝小松島中）1勝1敗、総勝ち数4、総本数7②徳島名西署1勝1敗、3、6③徳島中央署1勝1敗、3、5

県防犯少年大会を制した小松島署チーム

剣道

◆第46回阿北地区大会（9月17日・高浦中）

【中学】男子①北島A（先鋒＝楠本康一、次鋒＝撫養見唯、中堅＝水薗聡良、副将＝撫養祈叶、大将＝谷川俊輔）②徳島文理③徳島文理・城ノ内③徳島

▽女子①徳島A（先鋒＝松山若樹、次鋒＝曽我柚月、中堅＝橋原紗也、副将＝赤川唯、大将＝岩厚千佳）②阿波・北島③徳島文理③土成

【高校】男子①城北A（先鋒＝大空航己、次鋒＝小山田慎介、中堅＝松本鑑起、副将＝井原拓己、大将＝吉田晴哉）②川島③徳島北③徳島文理

▽女子①川島A（先鋒＝堀井乃々花、次鋒＝正木彩加、中堅＝篠原春菜、副将＝笠井知捺、大将＝三笠志織）②川島B③城北

【上】阿北地区大会中学男子優勝の北島中A㊨、女子優勝の徳島中A【下】高校男子優勝の城北高A㊨、女子優勝の川島高A

2018年10月15日

2018年(平成30年)11月13日　火曜日

あわースポーツ

剣道

小松島少剣クに栄冠

団体小学低学年

徳島眉山ライオンズクラブ第48回徳島県小学生・中学生大会（9月24日・とくぎんトモニアリーナ）は団体戦に小学生58チーム、中学男女40チーム、個人戦に小学生120人、中学男女53人が参加、白熱した攻防を展開した。

団体小学低学年は小松島少剣クラブ、同高学年は入田・川島合同が優勝。中学男子は那賀川中、同女子は徳島中がそれぞれ制した。

【団体】小学低学年①小松島少剣（先鋒＝山本瑛太、次鋒＝上村優亜、中堅＝敦賀龍平、副将＝橋本愛生、大将＝津島優生）②鴨島教室③徳島教室③鳴門市光武館▽同高学年①入田・川島合同（先鋒＝高松宏樹、次鋒＝島海芹、中堅＝篠原嵩也、副将＝住友楓雅、大将＝藏本望海）②鳴門市光武館③小松島少剣③松紀和会▽中学男子①那賀川中（先鋒＝尾畑翔、次鋒＝岡﨑進平、中堅＝倉橋秀汰、副将＝羽坂颯真、大将＝橋本青空）②徳島中③松紀和会③北島中▽同女子①徳島中（先鋒＝篠原紗也、次鋒＝赤川真唯、中堅＝岩原千佳、副将＝西岡紀万、大将＝松山若樹）②那賀川中③海陽中③藍住中

【個人】小学低学年男子①濱野銀次郎（徳島教室）②松本奏和（木頭錬心館）③大和希輔（那賀川教室わかあゆ会）③春藤悠輔（松茂教室）▽同女子①前田優莉（土成少年団）②殿川瀬里（小松島少剣）③西村渚（鳴門市光武館）③茨木里音（徳島教室）▽高学年男子①田代朔也（松紀和会）②柳田周作（鳴門教室）③三宅遼（藍住少年団）③辻村鴻人（松紀和会）▽同女子①福岡詩（木頭錬心館）②浅井未来（鳴門市光武館）③東原萌衣（養武館）③川野桜（北井上教室）

▽中学男子①岩谷愛夢（小松島中）②千葉陸登（徳島中）③添木陽仁（徳島中）③津山裕也（阿南一中）▽同女子①岩原千佳（徳島中）②松山若樹（徳島中）③長尾紗弥（川内中）③羽坂愛彩（那賀川中）

剣道

◆鳴門市市民体育祭競技（10月20日・鳴門市剣道場）

【小学】1・2年①川端日和（鳴門教室）②丹羽壮祐（鳴門市光武館）③後藤雫（鳴門市光武館）▽敢闘賞　紅露尚輝（鳴門教室）▽3・4年①西村渚（鳴門市光武館）②豊田大晴（鳴門市光武館）③大塚仁葉（鳴門市光武館）▽敢闘賞　山内翔太（鳴門教室）▽5・6年①浅井未来（鳴門市光武館）②柳田周作（鳴門教室）③福池謙信（鳴門市光武館）▽敢闘賞　西村翔（鳴門市光武館）

【中学】男子①受川諒（大麻）②豊田雄大（鳴門一）③井藤輝（大麻）▽敢闘賞　亀井智成（大麻）

▽女子①山尾心那（鳴門一）②西村葵（鳴門一）③播磨昌美（鳴門一）▽敢闘賞　吉本陽香（大麻）

鳴門市市民体育祭競技の入賞者

2018年11月19日

2018年11月26日

剣道

◆清原杯争奪第63回県下大会

（11月3日・阿南工高、阿南光高）

【小学】①養武館（先鋒＝多田健人、次鋒＝西楓翔、中堅＝東原萌衣、副将＝小田有紗、大将＝ウィークス ジョシュア）②那賀川教室わかあゆ会B③阿南教室B③石井クラブ

【中学】男子①那賀川（先鋒＝倉橋秀汰、次鋒＝岡崎進平、中堅＝尾畑翔、副将＝羽坂颯真、大将＝橋本青空、補員＝中西皇斗、岡輝晟）②徳島③北島③小松島▽女子①徳島（先鋒＝松山若樹、次鋒＝西岡紀乃、中堅＝篠原紗也、副将＝赤川真唯、大将＝岩原千佳、補員＝曽我柚月、和田敦子）②那賀川③藍住③海陽

【高校】男子①阿南工・阿南光（先鋒＝富田哲平、次鋒＝上条亮太郎、中堅＝上田広輝、副将＝吉岡有朔、大将＝河野寛之、補員＝津山幸也、中東大雅）②川島③富岡西③富岡東▽女子①富岡東A（先鋒＝田村眞尋、次鋒＝馬見恵理子、中堅＝福田優那、副将＝和田津凛紅、大将＝朝田萌香）②城北③川島A③富岡西

【一般】男子①鳴門支部（先鋒＝井形優、次鋒＝黒木景太、中堅＝矢野真一、副将＝平野智将、大将＝竹内直生、補員＝山本義裕）②丹生谷支部③大塚製薬徳島③阿南支部B▽女子①酔剣 阿南支部（先鋒＝田中理弥、中堅＝山本彩美、大将＝湯浅絵里加）②教員剣美会A③教員剣美会B③川島高校剣友会C

清原杯争奪県下大会小学校団体で（上から）優勝した養武館、準優勝の那賀川教室わかあゆ会B、3位の阿南教室B、石井クラブ

2018年12月17日

男女10部門代表決まる

剣道

都道府県対抗県予選

剣道の全日本都道府県対抗優勝大会県予選は16日、鳴門ソイジョイ武道館に男女61人が参加して個人戦が行われ、男子6部門、女子4部門の代表が決まった。

男子は次鋒・松本高史（明大）、5将・玉井翔（刑務所支部）、中堅・大石洋史（阿南支部）、3将・六條洋二（警察支部）、副将・敦賀晋平（阿南支部）、大将・玉田晋作（徳島支部）となった。先鋒は1月の県高校選手権を制した片岡俊人（徳島文理）が務める。

女子は次鋒・丸岡由理奈（明大）、中堅・平野千尋（警察支部）、大将・北村環（阿波支部）。副将は出場が1人で前田奈々枝（阿波支部）に決まった。先鋒は来年の県高校総体個人戦の優勝者となる。

男子の全日本大会は来年4月29日に大阪市、女子は7月13日に東京都で行われる。（石崎義典）

【男子】次鋒（大学生）決勝

▽5将（18歳以上35歳未満）準々決勝　玉井（刑務所支部）メー　浅（阿南支部）、西田（徳島支部）コー　中村（丹生谷支部）、近藤（刑務所支部）ツー　臼木（名西支部）、片山（刑務所支部）メー　堀田（小松島支部）

▽準決勝　玉井メー　西田、近藤メー　片山

▽決勝　玉井コメー　近藤

▽中堅（教職員）決勝　大石洋メコー　大石真（阿南支部）

▽3将（警察職員）準決勝　梶原（警察支部）ドメーコ　山本（警察支部）、六條（警察支部）メー　玉田（警察支部）

▽決勝　六條コー　梶原

▽副将（35歳以上）準決勝　敦賀（阿南支部）メーコ　善家（刑務所支部）、北村（阿波支部）ドー　小野（阿南支部）

▽決勝　敦賀ドー　北村

▽大将（50歳以上、教士7段以上）決勝　玉田メー　冨浦（徳島支部）

【女子】次鋒（大学生）決勝

▽中堅（18歳以上）準決勝　丸岡メー　玉田　明大　早稲田大

▽決勝　丸岡メー　玉田

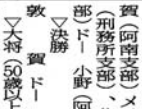
▽3将（45歳以上）リーグ戦①　浦（警察支部）メー　松本（阿南支部）、平野（警察支部）ツー　玉田（徳島支部）

▽決勝　平野メー　木浦

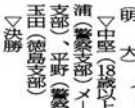
▽大将（45歳以上）リーグ戦①　北村（阿波支部）2勝②玉田（徳島支部）1勝1敗③安藤（板野東支部）2敗

男子3将・六條洋二（開始5秒でコテを奪い逃げ切る）「もう1本取ろうと思ったが、守りに入ってしまった。心と体を鍛え直し、積極的な攻撃ができるようにする」

女子次鋒・丸岡由理奈（2年連続で代表入り）「攻めあぐねて、守りに入ってしまった点は反省材料。悪いながらでも勝ちきることができたのは良かった」



女子中堅・平野千尋（43分の戦いを制し2年ぶりの出場）「普段稽古している相手なので膠着（こうちゃく）した試合になった。勝つ難しさはあったが、優勝が一番」



積極的攻め実る

○…20人が出場した男子5将は玉井（刑務所支部）が2年連続2度目の代表権を勝ち取った。決勝の相手は同じ所属の近藤。「負けても仲間が全国大会に行くので気が楽だった」と積極的に攻め、開始10秒でコテを奪い優位に立った。

1本を返されてタイとなったが落ち着いて攻め、試合中ばに相手が下がった隙を見逃さずメンを決めた。8強入りした前回の全国大会では5将として3試合で1勝2敗と負け越したため「勝ち越せるよう頑張り、一つ上の4強入りを目指したい」と前向きだった。

男子5将決勝で果敢に攻め込む玉井㊨＝鳴門ソイジョイ武道館

剣道

全国高校選抜県予選

男子

阿南工・阿南光 優勝 富岡東

女子

剣道の全国高校選抜大会徳島県予選を兼ねた第63回男子、第53回女子県高校新人大会は13日、男子16チーム、女子6校が参加して鳴門ソイジョイ武道館で団体戦が行われ、男子は阿南工・阿南光が6年ぶり12度目、女子は富岡東が5年連続30度目の栄冠に輝いた。男女の優勝チームと女子準優勝の川島が全国大会（3月27、28日・愛知県春日井市総合体育館）に出場する。女子は昨年の全国総体で県勢がベスト16入りしたため出場枠が1増となった。男女とも上位4校が四国新人大会（2月2、3日・高知県立武道館）に進む。

【男子】団体1回戦　鳴門潮3－0徳島北、川島1（代表勝ち）1城北、徳島文理3－0那賀、富岡東不戦勝　脇町、阿南工・阿南光不戦勝　阿波、鳴門3－0城ノ内、富岡西4－0阿南高専、準々決勝　徳島科技1－0鳴門潮、徳島文理2－1川島、阿南工・阿南光2－1富岡東、富岡西3－0鳴門、準決勝　徳島文理3－0徳島科技、阿南工・阿南光1（本数勝ち）1富岡西▽3位決定戦　富岡西2－0徳島科技

▽決勝　阿南工・阿南光　2－2　徳島文理

代表勝ち

○津山　一メ　上条
○上田　メコー　板東
吉岡　一メ　原田
河野　一メ　細井
▽代表戦
○河野　メー　片岡

【女子】団体予選リーグA組①富岡東2勝②城北1勝1敗③阿南光2敗＝富岡東が決勝へ、城北が3位決定戦へ▽B組①川島2勝②富岡西1勝1敗③鳴門潮2敗＝川島が決勝へ、富岡西が3位決定戦へ

▽3位決定戦　富岡西2－1城北

▽決勝

富岡東　2－0　川島

○田村　メー　笠井
○和田津　メーコ　土井
福田　一　三笠
馬見　一　堀井
朝田　一　篠原

川島女子・三笠志織主将（4年）

ぶりの決勝進出で全国大会出場を決める）「うれしい。優勝はできなかったが練習の成果は出せた。決勝で駄目だったところを稽古で直し、全国では一つでも上を目指す」

値千金 無心の一本

阿南工・阿南光

男子決勝　徳島文理対阿南工・阿南光　代表戦で果敢に攻め込む阿南工・阿南光の河野㊨＝鳴門ソイジョイ武道館（山田旬撮影）

男子決勝は代表戦となり、開始1分すぎ、阿南工・阿南光の河野主将が「無心で打った」というメンが決まった。チームを6年ぶりの優勝に導いた値千金の一本を振り返り「自分の得意な形に持ち込めた」と喜んだ。

「恐れずに、やってきたことを出し切ろう」。試合前に全員で確認し合い、攻める気持ちを高めて臨んだ。先鋒（せんぽう）の上条が一本を取られて苦しいスタートとなったが、次鋒の津山が「必ず取る」と奮起。積極的に前に出てメンを奪いタイに持ち込んだ。

続く上田は得意のコテで一本。「うまく決まった。練習通り」と、1日3時間の猛稽古で磨いた技で逆転に成功した。その後は相手の粘りに押される場面もあったが、集中力を切らさず乗り切った。副将の吉岡が引き分けで踏ん張り、大将の河野主将は逆転を許さず最後は自ら勝負を決めた。

阿南工の校名で出場できる大会は残りわずか。河野主将は「支えてくれた先輩や先生、仲間の思いを感じながら、もう一回り成長して全国大会では上位を目指す」と意気込んだ。（佐々木基善）

危なげない戦い

○…富岡東女子は、27年ぶりの頂点を狙う川島を決勝で危なげなく退け5連覇。技と技のつなぎを意識した隙のない守りから積極的に攻めて栄冠をつかんだ。朝田主将は「前年のチームより力がないと言われていたけど、勝てて安心した」と笑顔を見せた。

先鋒の田村は「相手が出てきたところをうまく合わせられた」。得意のメンを2本連続で奪い流れを呼び込んだ。次鋒の和田津はコテを取られながらも粘り強く攻めて2勝目。優勝に王手が懸かった中堅以降の3人は引き分けでしのいだ。大将の朝田主将は「全国では2回戦で負けた前回を上回る結果を残す」と力強く話した。

女子決勝・富岡東対川島　先鋒戦を制し優勝に向けて弾みをつけた富岡東の田村㊧（野々村真吾撮影）

月刊　2019年(平成31年)1月17日　木曜日　社　会　(22)

県内剣道教室の小学生以下対象

全県規模で初の大会

来月11日 武具店経営・目﨑さん(徳島市)企画

初心者にも経験の場を

徳島県内の剣道教室に通う全ての小学生と園児を対象にした大会が2月11日、鳴門市の鳴門ソイジョイ武道館で初めて開かれる。初心者にも門戸を広げたのが特徴。高い意識で稽古に励むきっかけにしてもらおうと、徳島市昭和町6の武道具店経営目﨑明宏さん(53)が企画し、準備を進めている。

剣道大会の準備を進める目﨑さん＝徳島市昭和町6のリスペクト武道具店

「第1回リスペクト武道具店　徳島県少年剣道個人選手権大会」と銘打ち、小学校の学年別と幼年の計7種目でトーナメント戦を行う。39チームから450人程度が参加する見通しで、20日まで参加者を募っている。

県剣道連盟によると、連盟が主催する小学生以下の県大会は年1回で、対象は小学4年生以上で各教室から選ばれた選手。全県規模の大会を経験しないままやめてしまう子も少なくない。教室関係者の間には、年齢や実力に関係なく参加できる大会を望む声があった。

開催にかかる経費約120万円は目﨑さんが自腹で賄う。目﨑さんは「多くの子どもに剣道の楽しさを知ってもらい、できるだけ長く続けてほしいとの思いがあった。目標があれば取り組む姿勢も変わるはずだ」と話している。

参加費は500円。16位までに賞状、トロフィーまたはメダル、竹刀や防具などの剣道用品が贈られる。参加賞もある。問い合わせは同武道具店〈電088(666)0008〉。

(阿部研一)

2019年(平成31年)2月11日　月曜日

剣道

◆第2回有賀杯争奪大会（1月12日・那賀川スポーツセンター）

【団体】小学1・2年①新野教室（先鋒＝吉田晃人、中堅＝尺長紗和子、大将＝髙瀬智菜）②徳島教室A（佐竹倫太郎、綾部良太、佐藤奏仁）③那賀川教室わかあゆ会A（伊藤利空、大西華、桑原健造）③小松島少剣クラブ（山本珠々、津島和生、殿川鉄心）▽3・4年①誠武館（先鋒＝河野晃大、中堅＝中岡亮仁、大将＝近藤偲文）②鴨島教室（多田煌、三木琉真、中川遥寿）③小松島少剣クラブA（山本瑛太、敦賀龍平、津島福岡詩、中堅＝西岡優大、大将＝山下悠人）②阿南教室A（原孝太郎、森川凌太郎、橋本葵）③小松島少剣クラブA（大和優星、岩本響輝、橋本和馬）③徳島教室A（佐藤輝和、湯川千景、片岡恭二朗）

1・2年3位の那賀川教室わかあゆ会A

有賀杯争奪大会団体小学1・2年で優勝した新野教室

5・6年準優勝の阿南教室A

5・6年優勝の木頭錬心館A

3・4年優勝の誠武館

各クラス3位の小松島少剣クラブ

1・2年準優勝、5・6年3位の徳島教室

2019年(平成31年)2月25日　月曜日

剣道

◆十河スポーツ少年団創立40周年記念少年錬成大会（2月2日・高松市総合体育館）

◇徳島県関係の上位

【団体】小学低学年1回戦 小松島少剣クラブ（先鋒＝山本瑛太、次鋒＝上村優亜、中堅＝殿川瀬里、副将＝原瑛大、大将＝津島優生）2（代表1本勝ち）2揚武館（香川）▽2回戦 小松島少剣クラブ2－1十河B（香川）▽3回戦 小松島少剣クラブ3－1林剣道（香川）▽4回戦 坂出（香川）2－0小松島少剣クラブ

小松島少剣クラブは敢闘賞を獲得。

十河スポーツ少年団創立40周年記念少年錬成大会で敢闘賞を獲得した小松島少剣クラブ

2019年3月4日

男子 那賀川 準優勝 徳島 女子

剣道

四国中学新人大会

剣道の第14回四国中学校新人大会は3日、阿波中で4県の新人大会の男女上位4校が参加して行われ、徳島県勢は男子の那賀川と女子の徳島がともに準優勝だった。また、男子の徳島と女子の海陽が3位に入った。

◇徳島県関係と1位

【男子】予選リーグA組④小松島3敗▽B組①那賀川3勝▽C組①徳島3勝▽D組③徳島文理1勝2敗

▽4位トーナメント1回戦 小松島4―0椿原（高知）▽決勝 小松島1（代表勝ち）1―宮（高知）

▽3位トーナメント1回戦 木太（香川）2―1徳島文理

▽1位トーナメント1回戦 那賀川0（代表勝ち）0高知、満濃（香川）3―2徳島

▽決勝 満濃 3―1 那賀川

○牛田 メー 倉橋
○高木 メー 岡崎
稲木 ― 尾畑
○黒川 メー 羽坂
富田 ―メ 橋本○

【女子】予選リーグA組①徳島3勝▽B組①海陽2勝1分け▽C組④鳴門1敗▽D組③那賀川1勝2敗

▽4位トーナメント1回戦 鳴門2（代表勝ち）2西部（高知）▽決勝 鳴門1―4―1介良（高知）

▽3位トーナメント1回戦 那賀川3―0椿（愛媛）▽決勝 那賀川3―1久万（愛媛）

▽1位トーナメント1回戦 徳島4―0海陽

▽決勝

松山 北 2―1 徳島
（愛媛）
後藤 ― 松山
○林 メー 曽我
高橋 メーコ 篠原
○須賀 メー 赤川
白石 ―メ 岩原○

男子決勝の大将戦で1本勝ちした那賀川の橋本㊨＝阿波中体育館

◆卓球 ニッタク杯大会（2日・鳴門アミノバリューホール）

【男子】シングルス1位トーナメント準々決勝 足立原（龍谷大）3―2前島（城南高）、三谷（城南高）3―2竹岡（三島ウィングス）、西野（龍谷大）3―0浜田（徳島銀行）、井上（徳島銀行）3―0佐伯（城南高）▽準決勝 足立原3―1三谷、西野3―1井上

▽決勝

足立原 3（2―11、11―8、11―6、11―1）西野

▽2位トーナメント準々決勝 四宮（千松クラブ）3―1津村（山川中）、石田（城東中）3―0小西（城西中）、竹内（市場中）3―1小泉（徳島商高）、西津（城西中）3―0宮本（鳴門二中）▽準決勝 石田3―0四宮、西津3―0竹内

▽決勝

石田 3（8―11、11―1、11―9、16―14）1 西津

▽3位トーナメント準決勝 森岡（城西中）3―1平石（南部中）、有井（城南高）3―0上甲（鳴門二中）

▽決勝

有井 3（7―11、11―8、11―1、6―11、11―4）2 森岡

【女子】シングルス1位トーナメント準々決勝 戎野（徳島商高）3―0谷口（城南高）、森下（みなみクラブ）3―1平田（徳島商高）、森影（徳島商高）3―1大野（城南高）、増田（徳島商高）3―0長岡（海部クラブ）▽準決勝 森下3―2戎野、森影3―1増田

▽決勝

森下 3（11―8、11―8、11―9、12―10）1 森影

▽2位トーナメント準々決勝 坂口（藍住東中）3―0高田（城南高）、杉本（徳島商高）3―1田村（城東中）、喜多（徳島商高）3―0水吉（洲本JE）、河野（鳴門潮高）3―0中川（鳴門中）▽準決勝 坂口3―0杉本、喜多3―2河野

▽決勝

坂口 3（11―5、11―9、9―11、7―11、11―4）2 喜多

▽3位トーナメント準決勝 南（洲本JE）3―0森田（藍住東中）、山田（城東クラブ）3―0森長（鳴門中）

▽決勝

山田 3（8―11、11―1、11―8、11―8、11―9）1 南

レディース団体の記録は後日、あわースポーツで掲載。

【紙面編集】湯浅欣吾

剣道

阿南市体育祭大会団体小学高学年で優勝 した那賀川教室わかあゆ会A

◆2018年度阿南市体育祭大会（12月9日・那賀川B&G海洋センター）

【団体】小学低学年①阿南教室A（先鋒＝林巧、中堅＝須藤悠成、大将＝中村瑠琉）②阿南教室B③那賀川クラブ▽高学年①那賀川教室わかあゆ会A（先鋒＝青木謙真、中堅＝和泉皓大、大将＝桑原康輔）②阿南教室B③大野小剣道部③那賀川教室わかあゆ会B▽中学男子①那賀川中B（先鋒＝岡﨑進平、中堅＝倉橋秀汰、大将＝橋本青空）②阿南一中③那賀川中A▽同女子①那賀川中A（先鋒＝岩佐真夏花、中堅＝小畠理奈、大将＝羽坂愛彩、補員＝武藏小春）②那賀川中B③阿南中A③羽ノ浦中

【個人】小学3年以下①高瀬智菜（新野教室）②河田蒼生（剣清塾）③尺長紗和子（新野教室）③桑原健造（那賀川教室わかあゆ会）▽4年以上①黒崎蒼太（那賀川教室わかあゆ会）②澳津瑛太（那賀川教室わかあゆ会）③山﨑春花（那賀川教室わかあゆ会）③遠藤葵（那賀川教室わかあゆ会）▽中学男子①細川賢真（羽ノ浦）②中西皇斗（那賀川）③正瑞勇斗（阿南）③佐川申乃輔（阿南一）▽女子①武藏小春（那賀川）②山名来実（那賀川）③石岡大空（羽ノ浦）③高尾楓（羽ノ浦）

◆第25回東みよし町近県大会（12月16日・ふれアリーナみよし）

◇徳島県関係

【団体】小学①川島・入田合同▽中学女子②土成中

【個人】小学1年①松岡金太郎（徳島春風館道場）②稲木美月（山川修錬館）③山本恭大（市場教室）▽2年①日和田碧（山川修錬館）②後藤田みさと（山川修錬館）③川原梓翔（山城修錬クラブ）▽3年①松本有生（土成少年団）②田岡京三（淳志館）③山本匠真（市場教室）▽4年①高松宏樹（川島少年団）②榎丸稜士（山川修錬館）③前田優莉（土成少年団）▽5年③荒尾春汰（脇町教室）▽6年①前田優真（土成少年団）②篠原嵩也（川島少年団）③藏本望海（川島少年団）

▽中学2年男子①藤本享太（貞光）②近藤邑樹（山城）③大岩郁斗（阿波）▽1年女子②青山大空（江原）③上田凜（土成）▽2年女子③兼松優那（阿波）

2019年3月4日

あわースポーツ

2019年(平成31年)3月4日　月曜日

剣道

団体・小学低学年と高学年
徳島教室勢が制す

第24回徳島市スポーツ少年団交流大会（2月10日・徳島市B&G海洋センター）は小学生から中学生までの13チーム86人が参加、団体と個人戦で白熱した攻防を繰り広げた。団体小学低学年は徳島教室A、高学年は徳島教室がそれぞれ優勝。個人中学男子は添木陽仁、女子は古川ちひろの徳島教室勢が制した。

【団体】小学低学年①徳島教室A②佐古クラブ③加茂名教室③徳島教室B▽高学年①徳島教室②北井上教室A③養武館A③佐古クラブA

【個人】小学1年①森本太智（養武館）②前田柊吾（徳島教室）③中田惺（佐古クラブ）③美鳥颯佑（加茂名教室）▽2年①篠原瑛崎（佐古クラブ）②佐藤奏仁（徳島教室）③佐竹倫太朗（徳島教室）③加登健太郎（佐古クラブ）▽3年①岸田敏春（佐古クラブ）②炭木里音（徳島教室）③谷本遥（佐古クラブ）③眞貝もの（佐古クラブ）▽4年①濱野銀次郎（徳島教室）②野田宗佐（徳島教室）③板東駿平（渭東教室）③綾部杏花（徳島教室）▽5年①多田健人（養武館）②谷本真智子（佐古クラブ）③岡本望（徳島教室）③富増雅祐（徳島教室）▽6年①片岡恭二朗（徳島教室）②佐藤輝和（徳島教室）③國見菜々（佐古クラブ）③古川はる（徳島教室）▽中学男子①添木陽仁（徳島教室）②富田将太郎（北井上教室）③谷本英（佐古クラブ）③炭木一博（徳島教室）▽同女子①古川ちひろ（徳島教室）

徳島市スポーツ少年団交流大会団体小学低学年と高学年をそれぞれ制した徳島教室の選手ら

あわースポーツ

2019年（平成31年）3月11日　月曜日

剣道

◆2018年度中・四国地区スポーツ少年団交流会（2月16日・愛媛県南宇和郡一本松交流促進センター）

◇徳島県関係

【団体】小学校②徳島県代表先鋒＝松本奏利（木頭錬心館）次鋒＝平川海音（木頭錬心館）中堅＝西岡優太（木頭錬心館）副将＝福岡詩（木頭錬心館）大将＝橋本葵（阿南教室）

【個人】中学男子①橋本青空（阿南教室）

中・四国地区スポーツ少年団交流会中学男子優勝の橋本青（左端）、小学団体準優勝の県代表（左２人目から）橋本葵、松本、平川、福岡、西岡

リスペクト武道具店県少年個人選手権各学年の優勝者（左から）羽坂、河田、篠原、近藤、野田、大和、福岡

◆第1回リスペクト武道具店徳島県少年個人選手権（2月11日・鳴門ソイジョイ武道館）

【幼年】①羽坂菜那（那賀川教室わかあゆ会）②大西光（那賀川教室わかあゆ会）③水口萌香（徳島剣清塾）③山ノ井雄一朗（那賀川教室わかあゆ会）

【1年】①河田淳紀（徳島剣清塾）②棚橋爽斗（徳島剣清塾）③稲木美月（山川修錬館）③小原陽斗（大野小剣道部）

【2年】①篠原瑛騎（佐古クラブ）②高瀬智菜（新野教室）③加登健太郎（佐古クラブ）③龍田彪（石井クラブ）

【3年】①近藤偲文（誠武館道場）②茨木里音（徳島教室）③上村優亜（小松島少剣クラブ）③福岡鈴（木頭錬心館）

【4年】①野田宗佐（徳島教室）②津島優生（小松島少剣クラブ）③中川遙守（鴨島教室）③松本奏利（木頭錬心館）

【5年】①大和優星（小松島少剣クラブ）②多田健人（養武館）③岩本響輝（小松島少剣クラブ）③吉岡隼（小松島少剣クラブ）

【6年】①福岡詩（木頭錬心館）②近藤真桜（石井クラブ）③橋本和馬（小松島少剣クラブ）③三宅遼（藍住スポーツ少年団）

2019年3月13日

富岡東女子 上位進出に意欲

剣道

（27、28日・愛知県春日井市総合体育館）

男女各64チームがトーナメントを戦う。男子は阿南工・阿南光、女子は富岡東と川島が出場する。女子は富岡東の全国総体16強入りに伴い、出場枠が1増となった。

富岡東女子は全国総体2、3位校がひしめく厳しいゾーンに入った。1回戦で対戦する東海大菅生（東京）は、2017年の全国総体決勝トーナメントで敗れた相手。上位進出には県予選同様、先鋒田村の出来が重要になる。良い流れで次鋒和田津、中堅福田、副将馬見につなぎ、力のある大将朝田に託す。

27年ぶり2度目の川島は小山（栃木）との1回戦に全力を尽くす。昨年からレギュラーの副将堀井と大将篠原の奮起が鍵。高校から上段に変更した篠原は、県選手権3位の実力者。安定感のある先鋒笠井の奮起で主導権を握れば全国1勝も見えてくる。

男子の阿南工・阿南光は1回戦で全国総体16強の鹿本（熊本）に挑む。格上との対戦となるが、主将の河野を中心に素早い攻守の切り替えで相手の隙を見逃さず、勝機を見いだしたい。

上位進出に向け稽古に励む剣道の富岡東女子＝同校

【剣　道】

阿南工・阿南光（男子）

氏名	学年
◎河野　寛之	②
上条亮太郎	②
上田　広輝	②
吉岡　有朔	②
富田　哲平	①
津山　幸也	①
中東　天雅	①

監督―谷　喜史

富岡東（女子）

◎朝田　萌香	②
馬見慈理子	②
田村　眞尋	②
和田津凜紅	②
北林　葵	①
福田　優那	①
武藏　千咲	①

監督―長井　薫

川　島（女子）

◎三笠　志織	②
篠原　若葉	②
堀井乃々花	②
笠井　千捺	②
土井　亘子	①
中海　花栞	①
北村　凜	①

監督―北村　環

あわースポーツ

剣道

◆第44回徳島県西部地区少年大会
（2月17日・阿波中）

県西部地区少年大会【上】団体小学生の部を制した鳴門市光武館【中】団体中学男子優勝の北島中【下】女子優勝の土成中

【団体】小学①鳴門市光武館（先鋒＝福池謙信、次鋒＝鳴門悠生、中堅＝後藤彩祢、副将＝西村翔、大将＝浅井未来）②土成スポーツ少年団A③藍住スポーツ少年団③上浦教室▽中学男子①北島（先鋒＝紅露和輝、次鋒＝三宅澄、中堅＝永濱慶貴、副将＝撫養祈叶、大将＝谷川俊輔）②鳴島一③石井③脇町▽同女子①土成（先鋒＝松本彩愛、次鋒＝吉本彩乃、中堅＝上田凛、副将＝坂東星夢、大将＝田村凛乃）②石井③藍住③阿波・北島合同

【個人】小学3年①近藤偲文（誠武館道場）②中岡亮仁（誠武館道場）③河野晃大（誠武館道場）③三木琉真（鳴島教室）▽4年①上田優（土成スポーツ少年団）②前田優莉（土成スポーツ少年団）③中川遥寺（鳴島教室）③安友貴輔（阿波教室）▽5年①鳴門悠生（鳴門市光武館）②秋山鈴奈（鳴門市光武館）③佐藤優多（上浦教室）③四宮真一郎（鳴島教室）▽6年①横山舞（石井クラブ）②前田優貴（土成スポーツ少年団）③西村翔（鳴門市光武館）③大塚怜斗（鳴島教室）▽中学1年男子①近藤正翼（高浦）②永濱慶貴（北島）③仁木島史弥（鳴島一）③香川桜吾（高浦）▽同女子①上田瀬（土成）②松本彩愛（土成）③高田穂花（鳴島東）③大西華恋（阿波）▽2年男子①小原將暉（県立川島）②楠本康了（北島）③川村典士（鳴島一）③海部樹（県立川島）▽同女子①瀬山ちゆり（北島）②兼松優那（阿波）③四宮綾乃（藍住）③伊丹千尋（北島）

◆第43回近県少年錬成久米大会
（2月24日・愛媛県立武道館）

◇徳島県関係

【団体】中学予選トーナメント1回戦　鳴門市協会（先鋒＝豊田雄大・鳴門市光武館、次鋒＝井藤輝・大麻錬成会、中堅＝受川諒・大麻錬成会、副将＝炭谷汰・鳴門市光武館、大将＝秋山颯汰・鳴門市光武館）4－0重信中（愛媛）▽2回戦　鳴門市協会3－2愛媛光武館▽3回戦　鳴門市協会2－0久米剣道会（愛媛）▽4回戦　鳴門市協会1－0久万中（愛媛）＝鳴門市協会決勝リーグ進出▽決勝リーグ　大島中（愛媛）3－1鳴門市協会、愛媛成武館3－0鳴門市協会▽順位③鳴門市協会2敗

近県少年錬成久米大会中学団体3位の鳴門市協会

◆第25回藤花旗争奪少年大会
（3月3日・石井中）

【団体】①朝日新聞倶楽部②川島スポーツ少年団・入田錬成会（先鋒＝高松宏樹、次鋒＝鳥海芹、中堅＝篠原嵩也、副将＝住友楓雅、大将＝藏本望海）③鳴島教室③吉野川教室

【個人】1年①棚橋爽斗（徳島剣清塾）②河田淳紀（徳島剣清塾）③森本大智（養武館）③稲木美月（山川修錬館）▽2年①篠原瑛騎（佐古クラブ）②坂東真帆（吉野川教室）③加登健太郎（佐古クラブ）③上車康汰（誠武館道場）▽3年①中岡亮仁（誠武館道場）②近藤偲文（誠武館道場）③三木琉真（鳴島教室）③諏田奏（石井クラブ）▽4年①高松宏樹（誠武館道場）②吉本真野（朝日新聞倶楽部）③原田慎也（山川修錬館）③坂野良真（藍住少年団）▽5年①堀口颯希（朝日新聞倶楽部）②高嶋桜子（藍住少年団）③田代朔也（松紀和会道場）③宮田真吾（石井クラブ）▽6年①前田優貴（土成少年団）②藏本望海（川島少年団）③渡邊大樹（佐古クラブ）③大塚怜斗（鳴島教室）

藤花旗争奪少年大会個人各クラスの優勝者（左から）前田、堀口、高松、中岡、篠原、棚橋

平成三十一年度 剣道・居合道昇段審査 学科試験問題・解答例

※平成三十一年度は、以下の問題より各段二問出題されます。

この試験問題と解答例は、あくまで自分の剣道修行の参考のために記述したものである。名称等、正確に記憶しておかねばならない事柄もあるが、試験問題の多くは、今の自分のレベルで考え、自分の言葉で表現することを求めている。決して、試験のためだけに丸暗記して、こと足りえたと思わないでもらいたい。

学科問題においても、正々堂々、真剣勝負の気迫で取り組み、今の自分のありのままを表現すべきである。また、そのことが採点者の高い評価を受けることにつながることも付記しておく。

【剣　道】

※　初段の部

①　中段の構えの姿勢で注意することを書きなさい。

(1) 肩を落として背筋を伸ばす。
(2) 首筋を立てて顎（あご）を引く。
(3) 腰を入れて下腹部にやや力を入れる。
(4) 両膝を軽く伸ばして、重心を両足の中間にかけて立つ。
(5) 目は全体を見つめる。

②　三つの間合を説明しなさい。

間合とは自分と相手の距離をいう。間合には、一足一刀の間合、遠い間合、近い間合の三つがある。

(1) 一足一刀の間合＝剣道の基本となる間合で、一歩踏み込めば相手を打突することが出来る距離であり、一歩さがれば相手の打突をかわすことが出来る距離である。
(2) 遠い間合（遠間）＝相手との距離が一足一刀の間合より遠い間合で、相手が打ち込んできてもとどかないが、同時に自分の打突もとどかない距離である。
(3) 近い間合（近間）＝相手との距離が一足一刀の間合より近い間合で、自分の打ちが容易にとどくかわりに、相手の打突もとどく距離である。

③　基本打突や技の稽古で気をつけることを書きなさい。

(1) 正しい姿勢で、気を充実させ、互いの攻め合いから打突する。
(2) 適切な間合をとって、確実に気剣体一致の有効打突となるようにする。
(3) はじめは「ゆっくり、大きく、正確に」を主眼とし、習熟（しゅうじゅく）するにしたがって「速く、強く、より正確に」打突できるようにする。

④　日本剣道形で使われている「五つの構え」について書きなさい。

(1) 中段の構え＝すべての構えの基礎となる構えで、攻防に最も適した構えである。
(2) 上段の構え＝太刀を頭上に振りかぶり、相手の気を圧して、捨て身で攻撃する性格をもつ構えで、諸手（もろて）左上段・諸手右上段がある。
(3) 下段の構え＝剣先をさげて自分の身を守りながら、相手の変化に応じて攻撃に転ずる構えである。
(4) 八相の構え＝太刀を大きく右肩にとり、あいての動作を監視しながら、相手の出方によって攻撃にでる構えである。
(5) 脇構え＝半身になりながら太刀を右脇にとり、あいての動作を監視しながら、相手の出方に応じて臨機応変（りんきおうへん）に攻撃に転ずる構えである。

⑤ **「切り返しの目的」を述べなさい。**

切り返しは、正面打ちと連続左右打ちを組み合せ、基本動作を総合的に練習するためのものである。姿勢や構え、打ちの刃筋や手の内の作用、足さばき、間合いの取り方、呼吸法、さらに強靭な体力や旺盛な気力を養い、気剣体一致の打突の習得を目的とする。

※ 二段の部

① **「剣道で礼儀を大切にする理由」について述べなさい。**

剣道を修練する上で、互いに心を練り、身体を鍛え、技を磨くためのよき協力者として、内には相手の人格を尊重して常に感謝の念を持ち、外には端正な姿勢で礼儀正しくすることが、剣道にとって極めて大切なことである。稽古や試合の前後の礼法を立派に行うことはもちろんのこと、終始、正しい心、慎(つつし)みの心といった礼の本体を離れることなく、素晴らしい剣道を創造していくうえで、礼儀は大切な要素である。

② **「打突の好機」について説明しなさい。**

打突の好機はたくさんあるが基本的には次のとおりである。

(1) 相手の動作の起こり頭（出ばな）
(2) 技の尽きたところ（動作や技が終わったところ）
(3) 居ついたところ（身体の緊張がゆるんだ瞬間、気持ちで圧倒されたとき）
(4) 引き端（退がるところ）
(5) 受け止めたところ（受け止めた時に隙が生じる）
(6) 息を深く吸うところ（息を吸うときは、相手の動作が止まる）

③ **「稽古で心掛けなければならないこと」とは、どのようなことか述べなさい。**

(1) 竹刀の点検、準備運動、整理運動をはじめとした安全面に留意する。
(2) 大きな目標や研究心をもって取り組む。
(3) 礼儀作法を重んじる。
(4) 立会いの「初太刀」を大事にして、一本一本をおろそかにしないように、常に旺盛な気力で、精魂を込めて稽古をする。
(5) 基本に忠実に稽古をする。
(6) しかけていく技を積極的に使って稽古をする。
(7) 稽古後は反省し、工夫・研究を怠らない。

④ **剣道形を実施するときの「足さばき」で気をつけることを書きなさい。**

足さばきとは、相手を打突したり、相手の攻撃をかわしたりするための足の運び方である。日本剣道形では、歩み足、送り足、開き足が使われるが、注意点は次のとおりである。

(1) 足さばきは、すべて「すり足」で行い、踏み込み足は使わない。重心を上下動させず、滑らかに行うことが大切である。
(2) 足の運びは、原則として前進するときは前足から、後退するときは後ろ足から動作を起こす。
(3) 足さばきは、原則として一方の足に他方の足が伴う。特に打突時の後ろ足は残さずに、前足に伴って引き付ける。

⑤ **「正しい鍔ぜり合いと注意点」を説明しなさい。**

鍔ぜり合いとは、相手を攻撃したり相手が攻撃をしてきたときに間合いが接近して鍔と鍔がせり合った状態をいう。自分の竹刀を少し右斜めにして手元をさげ、下腹に力を入れて自分の体の中心を確実に保つようにする。お互いの鍔と鍔がせり合う中で手元の変化や体勢の崩れから打突の機会をつくる。

注意点

(1) 手元をさげ、下腹に力を入れて腰を十分伸ばす。
(2) 首を真っ直ぐに保って相手と丈くらべをする気持ちで相対し、身体が前傾しないようにする。
(3) お互いの鍔と鍔がせり合うようにする。
(4) 相手の肩に竹刀をかけたり、刃部を身体にかけたりしない。
(5) 必要以上に力んだり、気を抜いて休んだりしない。
(6) 積極的に技を出すか、分かれるようにする。

※　三段の部

①　「平常心」について説明しなさい。

物事（事象）の変化に対し動揺することなく、日頃の気持ちで冷静に対応できる磨かれた心の状態をいう。事に臨んで心を動かすことなく、ふだんと変わらない平常の心で対処することは非常に難しいことである。剣道では、この平常と変わらない心を持たなければならないことを強く求めている。

②　「三殺法」について説明しなさい。

相手を制するための手だてとして、相手の剣、技、気の三つを封ずる。

(1)　剣を殺す＝相手の剣を押さえ、払うなどして剣の働きを制する。

(2)　技を殺す＝先手先手と攻め、相手に技をしかける余裕を与えない。

(3)　気を殺す＝気力で相手を圧倒し、相手が攻撃しようとする機先を制する。

③　互格稽古で注意することを書きなさい。

(1)　修得した基本動作や応用動作を崩すことなく、充実した気勢で真剣に行う。

(2)　相手を恐れず侮（あなど）らず、相手と対等の気持ちで行う。

(3)　立会いの「初太刀」を大切にし、一本一本に精魂を込めて打突する。

(4)　間合のとり方や攻め方、打突の機会の見つけ方やつくり方、技の出し方などを工夫する。

(5)　相手をより好みしないで、多くの人と稽古をする。

④　剣道形の必要な理由と効果について述べなさい。

剣道形は剣道の技術の中でもっとも基礎となるものを選んで定められたもので、剣道形を繰り返し修練することによって、剣道の基本的な礼儀作法や技術、剣の理合を修得することができ、さらに内面的な気の働きや気位といった剣道の原理原則をも会得できる。修練の効果としては次のようなことがあげられる。

(1)　礼儀が正しく、落ち着いた態度が得られる。

(2)　姿勢が正しくなり、冷静な判断力が得られる。

(3)　間合を知り、機敏な動作が修得できる。

(4)　技について自分の悪い癖（くせ）がとれる。

(5)　気合が練られ、充実した気合が得られる。

(6)　剣道の気位が高まり、風格が備わる。

⑤　「手の内」について説明しなさい。

剣道でいう、手の内とは、竹刀の柄を持った両手の持ち方を言い、竹刀の握り方、打突したり応じたりするときの両手の力の入れ方、緩め方、釣り合いなどを総合した掌中の作用である。（竹刀の持ち方は、左手は柄頭から小指が出ないように一ぱいに持ち、右手は鍔にふれない程度に持つ、左右両手とも親指と小指と薬指とで握ります。肘は伸びすぎず、両腕の肘関節を柔らかくして軽く柄を握り、ぬれ手拭をしぼる気持ちで両手首をしめ入れるようにし、左右の親指と人差し指の割れ目が竹刀と弦と一直線になるようにします。）竹刀を強く握りしめないで、正しく保持し、手首をリラックスさせることにより、肩、肘、手首、掌へと運動が伝道し、効率のよい鋭い打突が可能となる。（打突に際しては緊張と解緊をたくみに行い、手の内のさえを生み出すよう努力しなければなりません。）

※　四段の部

①　有効打突について説明しなさい。

有効打突は、剣道試合・審判規則第十二条に、充実した気勢、適正な姿勢をもって、竹刀の打突部で打突部位を刃筋正しく打突し、残心あるものと規定されている。このような諸条件を満たした一本が有効打突となる。言いかえれば、気剣体一致の打突である。有効な打突は理合と残心からなっており、理合を要素と要件に分けると、要素には、間合・機会・体さばき・手の内の作用・強さと冴えが含まれる。要件には、姿勢・気勢（発声）・打突部位・竹刀の打突部・刃筋が含まれる。残心は、打突後の身構え・気構えである。

② 剣道の四戒について説明しなさい。

四戒とは、驚、懼、疑、惑の四つをいい、剣道修業中に、この中の一つでも、心中に起こしてはならないという戒めである。驚は「おどろく」であり、懼は「気づかい」「恐れる」、疑は「あやぶむ」「あやしむ」、惑は「心が乱れる」「思いあやまる」です。

驚＝予期しない事態に驚いて、心身の活動が乱れ、正常な判断と適切な処置がとれず、為す術のない状態になる。

懼（恐）＝恐怖のことで、相手を恐れて、精神の活動が停滞し、四肢が震えて自由な動きを失う。

疑＝相手の気持ちや行動をあれこれと疑い、平静な判断を下せず、決断がつかない状態である。

惑＝心の迷いである。心が迷うときは精神昏迷、敏速な判断や軽快な動作をなすことができない。

③ 残心の重要性について述べなさい。

打突した後でも相手に心を留めて、もし相手が再び反撃しようとしたら、直ちにこれを制し得る油断のない身構えと気構えになっていなければならない。もし、打突した後に油断していたならば、逆に相手に反撃されてしまう。また、打突した後に心を残そうとすれば、かえって残そうとするところに心が止まってしまうとされている。心を残さず、思い切って捨て身で打突することによってこそ、自然と相手に対する油断のない心が生まれ、これが相手の反撃に備える身構えと気構えになる。

④ 剣道形を行うときので「木刀の正しい操作」について説明しなさい。

木刀の操作と身体の移動を合理的に行うとともに、充実した気勢で気剣体を一致させて行うことが要諦である。特に打突をより有効にするためには、次のように刀を正しく操作することが大切である。

(1) 握り方が正しく「切り手」になっている。

(2) 握りを変えないで、正中線に沿って振り上げて振り下ろす。特に「萎やす」「すり上げる」「支える」「押さえる」ときは、左こぶしを正中線から外さないように注意する。

(3) 振りかぶりと振り下ろしは、一連の動作（一拍子）で行い、刃筋正しく行う。

(4) 打突する瞬間は、小指、薬指、拇指球で軽く握り締め、物打ちで打突部位を正確に打突する。

(5) 振りかぶりや抜き技は、左小指の握りを緩めず、剣先が両こぶしよりさがらないように注意する。

(6) すり上げは、鎬の効用を使って、半円を描く心持ちで行う。

⑤ 熱中症の症状と処置について述べなさい。

高温環境下で発生する障害の総称で、熱疲労、熱痙攣（けいれん）、熱射病の3型に分類される。

熱痙攣は大量の発汗により、汗とともに塩分が失われ塩分不足のために、筋肉の痙攣を起こす。

処置としては、涼しい場所に寝かせ、水分の補給（食塩水、スポーツドリンク等）を行う。

熱疲労は大量に汗をかきすぎることからくる、脱水症状で、全身の脱力感、めまい、血圧低下、ひどい場合は失神する。処置としては、涼しい場所に運び、頭を低くして寝かせる。水や薄い食塩水を飲ませる。

熱射病は熱中症の中でも最も重症で、体温が異常に上昇して、意識障害をおこす。ひどい場合は死亡することもある。処置としては体温をすみやかに低下させることである。冷却法として、涼しい場所に移動、水で身体を濡らし、うちわなどで送風する。また、氷水で体表を冷却する、などを行い、意識がはっきりしない場合は救急隊へ連絡する。

※　五段の部

①　審判員の心得について述べなさい。

剣道試合の審判とは、公正に両者の勝敗を裁決することである。剣道の試合は、剣道発展のための方法であり手段である。従ってその審判は、剣道の正しい発展に沿ったものであり、その発展に役立つように実施されなければならない。

一般的要件

(1)　公正無私であること。

(2)　剣道試合・審判規則、運営要領を熟知し、正しく運用できること。

(3)　剣道に精通していること。

(4)　審判技術に熟達していること。

(5)　健康体で、かつ活動的であること。

留意事項

(1)　服装を端正にすること。

(2)　姿勢・態度・所作などを厳正にすること。

(3)　言語が明晰であること。

(4)　数多くの審判を経験し、反省と研鑽に努めること。

(5)　よい審判を見て学ぶこと。

②　「気位」について述べなさい。

気位とは、自信から生ずる気品、威厳である。技術が円熟し、精神が鍛錬された結果、自然に備わるものである。竹刀を構え合わせた時、驚懼疑惑の念を生じて恐れちぢこまり、戦わないうちに負けた気持ちになるのは、相手の気位に押されて、位負けした結果である。このような気位を故意に真似しようとしても技術、精神が円熟していない限り、かえって隙を生じて、打ち込まれることになり、見苦しい結果になる。技術の進歩、精神の鍛錬の度合いは、自然と気位に現れるので、一朝一夕に備わるものではない。なお自信と慢心とは大いに違うもので、慢心は剣道で最も戒むべきものである。

③　互格稽古について説明し、指導上の留意点を述べなさい。

技能や気力が同等の者、あるいは同等に近い者が、互いに気をはかり、相手の変化に対して互格の態度や対等の気持ちで有効打突を競い合うなかで、総合的な能力を養う稽古法である。

指導上の留意点

(1)　修得した基本動作や応用動作を崩すことなく、充実した気勢で真剣に行わせる。

(2)　相手を恐れず侮らず、相手と対等の気持ちで行わせる。

(3)　立会いの「初太刀」を大切にし、一本一本に精魂を込めて打突させる。

(4)　間合のとり方や攻め方、打突の機会の見つけ方やつくりかた、技の出し方などを工夫させる。

(5)　相手をより好みしないで、多くの人と稽古をさせる。

④　剣道形を実施するときの留意点について述べなさい。

剣道形は、一定の形式と順序に従って行う一連の約束動作であるが、形を形骸化させない生きたものにするために、お互いが寸分の緩みのない気の働きをもって行わなければならない。

(1)　立会前後の作法、立会の所作、刀の取り扱いを適切に行う。

(2)　五つの構えと小太刀の半身の構えを正しく行う。

(3)　目付けや呼吸法を心得て、終始、充実した気勢、気迫をもって合気で行う。

(4)　打太刀（師の位）、仕太刀（弟子の位）の関係を理解し、原則として打太刀が先に動作を起こす。

(5)　「機を見て」「入身になろうとする」といった打突の機会を理解して行う。

(6)　打太刀は一足一刀の間合から打突し、仕太刀は物打ちで打突部位を正確に打突する。

(7)　振りかぶりは、剣先が両こぶしよりさがらないようにし、一拍子で打つ。

(8)　足さばきはすり足で行い、打突するときは後ろ足を前足に引き付ける。

(9)　残心は十分な気位をもって行う。

⑤　剣道における熱中症の予防と対処について述べなさい。

熱中症とは、高温環境に高湿度が加わると、うつ熱（体熱の放散が妨げられた状態）によっ

て、体温上昇が助長されて体温調節機能が障害された状態を総称したもので、熱失神・熱疲労・熱痙攣（けいれん）・熱射病などに大別される。剣道では夏場に発生しやすい。最も致命率の高い熱射病では、体温上昇、意識障害、痙攣、血圧低下、発汗停止などの症状をきたす。

予防するには体感温度に注目して剣道場の換気に配慮し、休息を数多くとり、水分、塩分の補給を考慮する。頭痛、めまいなどを訴える者が続発するときは、練習のペースダウンや中止など早めの対応が必要である。

対処方法は、全身の冷却、水分補給、電解質の補給を行うことであるが、応急処置としては、

(1) 全身の冷却

涼しい場所に移動し、衣服を脱がせる。水で身体をぬらし、送風する。

氷水で体表を冷却したり、頚部、わきの下、脚のつけね、膝のうしろを冷却することも有効である。

(2) 水分の補給

水分や薄い食塩水、またはスポーツドリンクを補給する。

意識障害のあるときは危険なので、体温を下げる応急処置を行いながら救急車を呼んで病院にて治療を行う。

【居合道】

※ 初段の部

① 居合道を習おうとした動機を記せ。

（例は示さない、自分の考えで述べよ。）

② 居合道と礼儀について記せ。

礼儀は人間として、また平和な社会生活をする上でも大切であり、ことに武道では昔から「礼に始まり礼に終わる」といわれ、きわめて大切なものとされてきた。技が上達しても、品位や人格が欠けているようでは、ほんとうの居合を習ったとはいえない。居合は日本刀を使っての運動である関係上、万が一にもその使用法をあやまるようなことがあってはならず、道場だけでなく、日常生活の中でも常に礼儀正しく立派な人格と精神を養う心がけが必要である。

③ 刀を安全に取り扱うための「目釘」について記せ。

目釘は、刀身と柄を固定する重要な働きをするものである。目釘の素材は、竹・角・生鉄などがあるが、通常は堅い三年を経過した古竹（真竹）材が使用される。目釘は、目釘穴と同じ太さに削り、頭部分をやや太くする。目釘の竹の表面側（表）を柄頭方向とし、ガタつきがないよう強く挿入する。練習前には、必ず目釘が抜け落ちたりゆるみがないかを点検して安全を確認しなければならない。

④ 『全日本剣道連盟居合（解説）』作法における、「㈠ 携刀姿勢」・「㈡ 出場」・「㈢ 神座への礼」より穴埋め式（五ヵ所）による問題を一問出題する。

※ 二段の部

① 居合道修行の目的について記せ。

居合は初め一種の刀法として始まったが、その目的は精神の鍛錬が第一で、第二に身体の錬磨、第三に術技の訓練という順になる。心身の錬磨は剣道と同じだが、その技術は剣道の根本となるものである。つまり刀の運用や礼儀など、すべてが剣居一体のものであり、この修行をすることは、自分自身の心身の錬磨、人格の向上につながるものである。

② 柄の握り方について記せ。

柄の握りは、右手は人差し指が柄巻きの一文字にかかるようにし、左手は柄頭を余し親指に

人差し指を付けて握る。両手の握りの間は指二本位（約三〜四㌢）で、握る力は小指、薬指、中指の順で強く握り、人指し指と親指には力を入れず切る瞬間、前にぐっと握りしめる。いわゆる茶巾絞りの要領である。

③　居合道の目付について記せ。

座ったときの着眼は四から五㍍先の床とし、立ったときの着眼は、自分の目の高さの前方、一点を見つめるのでなく、遠くの山全体を眺める気持ちで八方に心眼を開き、目は半眼、動作中の着眼は仮想敵の面、又は顔の中心部とする。切り下ろしたときは切先のあとを追うようにして倒れた仮想敵を見越した所とする。目はいつも平静でまばたきしたり、目を凝らしたりしてはいけない。

④　『全日本剣道連盟居合（解説）』術技における一本目から三本目までの「要義」と「動作一」について穴埋め式（五ヵ所）による問題を一問出題する。

※　三段の部

①　居合道の流派を自己の流派を含め五派以上記せ。

無双直伝英信流、夢想神伝流、伯耆流、無外流、水鷗流、関口流、貫心流、心形刀流、新蔭流、長谷川英信流、大森流、田宮流

②　残心について記せ。

常に油断しない心のことで、敵を斬突したあとも敵に心を残して、次の攻撃に備えて直ちに対応・制圧できるような姿勢・態度・構えをくずさないことをいう。納刀にさいしても、「納刀すなわち抜刀の心」という言葉があるように一動作ごとに気も心も充実させ隙を見せないことが大事である。

③　自信と慢心について記せ。

修練を重ねた結果、正しく立派な居合が出来るようになると、おのずから自信がついてくる。自信をもつことにより平常心を保つことが出来、如何なる場合に於いても心の落ちつきと確かな技前を発揮することが出来、そこには気位も備わってくるものである。しかし心の修業が不十分な者が軽々しく自信をもつことは、これが自負心となり、いわゆる慢心となる。慢心は修業の過程でもっとも戒めるべきものである。

④　『全日本剣道連盟居合（解説）』術技における一本目から五本目までの「要義」と「動作一」について穴埋め式（五ヵ所）による問題を一問出題する。

※　四段の部

①　居合道の呼吸について記せ。

静かに腹式呼吸する。通常は、一つの技を終えて次の技に移るときは、ゆっくりと二回呼吸して息を整え、三回目の息を吸いおわる頃に刀を抜き始める。そして吸い込んだ息を一気に吐き出し抜刀する。納刀してから軽く吐く。長い技のときは、息継ぎの必要がでてくるが、いつ息を継いだかわからないようにする。呼吸法には個人差があることからそれぞれに工夫が必要である。

②　序破急について記せ。

一般的には「序」はものごとの始まりで、静かなことを現し、「破」とはやぶれること、「急」は激しくなることである。これを居合の術技では刀の遅速を表現する用語として用いたもので、刀の運行を三段階に分析し、わかり易く表現したことばといってよい。抜刀について説明すると、鯉口を切って静かに刀を抜き始めることが序で、しだいに抜刀速度を速めることは破、抜き付けの瞬間を急という。序破急は抜刀ばかり

でなく。すべての術技に序破急の動きを生かさなければならない。

③　気剣体の一致について記せ。

「気」とは、意志とか心の精神作用をいうのであって、心の判断によって動作を起こそうとする決心を指す。「剣」とは、刀の働く作用を指す。「体」とは、体勢で、身体の力、手足の働きを指す。気剣体の三つが一致して腰が不動のものとなり、初めて有効適切に正確な技を出すことができるのである。居合は腰で抜き、腰で切るとまで言われるように腰の安定がもっとも重要であり、常に気剣体を一致させ腰の安定を心がけ修業することが肝心である。心気力の一致、心形刀の一致、心眼足の一致と言われる言葉は皆、同意語で大切な教えの一つである。

④　『全日本剣道連盟居合（解説）』術技における一本目から七本目までの「要義」と「動作一」について穴埋め式（五ヵ所）による問題を一問出題する。

※　五段の部

①　真剣の取り扱いについて留意する点を記せ。

居合道において、所有もしくは使用する真剣は、まず登録証が交付されている「登録刀」でなくてはならず、練習時や各種大会の参加時には、必ず登録証（コピーは不可）を携行し、登録刀を譲り受け、もしくは相続、購入した場合は登録証発行の都道府県教育委員会に「二十日」以内に所有者変更届けを提出しなければならない。また、体格に合わせて、刀身を短くしたり、樋の無い刀に樋を彫る場合は、都道府県の教育委員会に許可申請等の手続きを終了したのち改造を行い、新たな登録証の交付を受けなければならない。真剣を扱う居合人は少なくとも過失による事故を起こさぬよう、人前での刀の運行は勿論のこと平素から目釘や鯉口の点検、使用後の手入れや保管場所に注意して、常に安全を確保しなければならない。

②　守破離について記せ。

居合道における修業の段階を示したもので、「守」とは修業がある程度に上達するまでは、師の教えを忠実に守り、稽古に励み、理合や技術を修行し、決して他に迷わないこと。「破」とは、修業を積み、学んだ流派の教えを自分のものにし、更に進んで他の流派を学び、長所を採り入れ守の段階では得られなかった新しい分野を開拓すること。「離」とは苦心研究し破の段階を越えて、遂に独自の境地を見出し、自己の流派をあみ出し剣の奥義を極めることであり、守破離の教えは人生の生き方にも同じことがいえる。

③　居合道と剣道の関係について述べよ。

居合道は日本刀を用いてその刀法、手の内を修練するものであり、仮想する前後、左右ないし斜方の敵に対して鞘放れの一瞬に抜き打ち、又受け流した後、切り下ろして勝ちを納めるもので、いわゆる、そこに居て敵に合わすものである。しかるに居合道と剣道は古来より一流派の中に双方があって表裏一体、車の両輪の如くその理合、目的とするところは一つであって、両道を併せ修行する事によって相乗的にその効果が高められるのである。

④　『全日本剣道連盟居合（解説）』おける一本目から十二本目までの「要義」と「動作一」について穴埋め式（各五ヵ所）による問題を二問出題する。

平成31年度 徳島県剣道連盟行事予定

県内行事					
月	日	曜日	行事	場所	主催
4	7	日	少年剣道教室指導者講習会 9:30～	ｿｲｼﾞｮｲ武道館	県剣連
	12	金	西部交流稽古会 19:00～	市立川島中学校	〃
	13	土	第1回少年強化訓練 9:00～	ｿｲｼﾞｮｲ武道館	〃
	14	日	国体第一次予選会 9:30～	ｿｲｼﾞｮｲ武道館	〃
	21	日	第44回会長杯争奪高等学校剣道大会 9:30～	ｿｲｼﾞｮｲ武道館	〃
	27	土	南部交流稽古会 16:00～	鷺敷B&G体育館	〃
	29	祝月	第1回審査会（剣道 初段以下） 10:00～	ｿｲｼﾞｮｲ武道館他	〃
5	11	土	第2回少年強化訓練 9:00～	ｿｲｼﾞｮｲ武道館	〃
	12	日	剣道中央講習伝達講習会 9:30～	中央武道館	〃
			居合道春季講習会、審査会 9:00～	松茂町第二体育館	〃
	25	土	第48回中学校剣道選手権大会 9:30～	ｿｲｼﾞｮｲ武道館	中体連
	26	日	第1回剣道 審査会（二段以上） 10:00～	ｿｲｼﾞｮｲ武道館	県剣連
	未	未	国体第二次予選会（女子） 9:30～	警察学校体育館	〃
6	1～2	土～日	第59回徳島県高等学校総合体育大会 9:00～	那賀川ｽﾎﾟｰﾂｾﾝﾀｰ	高体連
	8	土	第3回少年強化訓練 9:00～	ｿｲｼﾞｮｲ武道館	県剣連
	14～16	金～日	四国高等学校総合体育大会 9:00～	ｿｲｼﾞｮｲ武道館他	高体連
	23	日	第2回審査会（剣道 初段以下） 10:00～	中央武道館他	県剣連
	未	未	国体第二次予選会（男子）、国体第三次予選会(女子) 9:30～	警察学校体育館	〃
7	5	金	平成31年度居合道六・七段審査会	徳島市立体育館	全剣連
	6～7	土～日	平成31年度居合道地区講習会	徳島市立体育館	全剣連
	6～7	土～日	第73回徳島県中学校総合体育大会 9:30～	ｿｲｼﾞｮｲ武道館	中体連
	15	祝月	第67回全日本剣道選手権大会県予選会 第58回全日本女子剣道選手権大会県予選会 9:30～	ｿｲｼﾞｮｲ武道館	県剣連
	19～20	金～土	剣道土用稽古 19:00～	論田B&G体育館他	県剣連
	26	金	第32回徳島県防犯少年柔道・剣道大会 9:00～	ｿｲｼﾞｮｲ武道館	警察本部
	27	土	第4回少年強化訓練 9:00～	ｿｲｼﾞｮｲ武道館	県剣連
	28	日	剣道連盟西部稽古会 14:00～	美郷ふるさとｾﾝﾀｰ	〃
8	25	日	剣道 四、五段受審者 講習会 9:30～	論田B&G体育館	県剣連
	31	土	第5回少年強化訓練 9:00～	ｿｲｼﾞｮｲ武道館	〃
	未	未	国体第三次予選会（男子） 9:30～	警察学校体育館	〃
9	1	日	長期育成強化訓練 9:30～	ｿｲｼﾞｮｲ武道館	〃
	7	土	第25回徳島県健康福祉祭剣道交流大会 10:00～	ソイジョイ武道館	県高齢剣友会
	8	日	第40回女子剣道大会 9:30～	ソイジョイ武道館	県剣連
	15	日	居合道伝達講習会、審査会 9:00～	論田B&G武道館	〃
	21	土	第6回少年強化訓練 9:00～	ソイジョイ武道館	〃
	22	日	第2回剣道審査会（二段以上・称号） 10:00～	ソイジョイ武道館	〃
	23	月振休	眉山ライオンズ剣道大会 9:00～	徳島市市立体育館	眉山ライオンズ
10	5	土	第16回徳島県中学校剣道1年生大会 10:00～	ソイジョイ武道館	中体連
	12	土	第10回三者対抗剣道大会(美馬支部) 13:00～	穴吹ｽﾎﾟｰﾂｾﾝﾀｰ	〃
	13	日	第3回審査会（剣道 初段以下） 10:00～	ソイジョイ武道館他	県剣連
	19	土	第7回少年強化訓練 9:00～	徳島市立体育館	〃
	25	金	南部交流稽古会 19:00～	阿南スポーツセンター	〃
	27	日	秋季講習会（全剣連後援） 9:30～	ソイジョイ武道館	〃
11	4	祝月	第44回中学校新人剣道大会 9:30～	ソイジョイ武道館	中体連
	8	金	西部交流稽古会 19:00～	脇町小学校	県剣連
	10	日	第50回徳島県少年剣道優勝大会 10:00～	松茂町総合体育館	〃
			第53回高等学校剣道選手権大会 9:30～	那賀川ｽﾎﾟｰﾂｾﾝﾀｰ	高体連
			居合道秋季講習会、審査会 9:00～	論田B&G武道館	県剣連
	16	土	第8回少年強化訓練 9:00～	ソイジョイ武道館	〃
	17	日	眉山杯大学剣道大会 9:30～	徳島文理大学	大学連
	23	祝土	第48回徳島県社会人剣道大会 9:30～	徳島市立体育館	県剣連
12	1	日	第42回全国スポーツ少年団剣道交流大会県予選会 10:00～	ソイジョイ武道館	県体協
	7	土	中四国地区剣道合同稽古会 14:00～	脇町うだつアリーナ	全剣連後援
	8	日	第3回剣道審査会（二段以上） 10:00～	北島町北公園総合体育館	県剣連
	14	土	常任理事会 13:00～	ｱﾐﾉﾊﾞﾘｭｰﾎｰﾙ視聴覚室	〃
	15	日	第68回全日本都道府県対抗剣道優勝大会県予選会 第12回全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会県予選会 9:30～	ソイジョイ武道館	〃
	21	土	第9回少年強化訓練 9:00～	松茂町総合体育館	〃
1	4	土	新年役員会、互礼会 13:30～	未定	県剣連
	5	日	平成32年 稽古始め 9:30～	北島町北公園総合体育館	〃
	11	土	第10回少年強化訓練 9:00～	論田B&G体育館	〃
	12	日	第64回県高等学校新人大会兼全国選抜大会県予選会 10:00～	ソイジョイ武道館	高体連
	18	土	第30回県下中学校剣道強化錬成大会 10:00～	ソイジョイ武道館	中体連
	19	日	第4回審査会（剣道 初段以下） 10:00～	論田B&G体育館他	県剣連
	24～25	金～土	剣道寒稽古 19:00～	論田B&G体育館	〃
	26	日	長期育成強化訓練 9:30～	那賀川スポーツセンター	〃
2	1	土	第11回少年強化訓練 9:00～	ソイジョイ武道館	〃
	16	日	第4回剣道審査会（二段以上、称号） 10:00～	ソイジョイ武道館	〃
			居合道県下大会、審査会 9:00～	論田B&G武道館	〃
	22	土	平成31年度 理事会 13:00～	未定	〃
	29～3/1	土～日	第15回四国中学校新人剣道大会 9:00～	阿波中学校	四国学剣連
3	15	日	平成31年度 総会 13:00～	ｱﾐﾉﾊﾞﾘｭｰﾎｰﾙ視聴覚室	県剣連
	21	土	第12回少年強化訓練 9:00～	ソイジョイ武道館	〃
	22	日	高段位受審者研修会 9:30～	ソイジョイ武道館	〃
	29	日	平成32年度審査員 講習会 9:30～	ソイジョイ武道館	〃

☆徳島県剣道連盟 稽古会 4月～6月《中央武道館 》
木曜日 19:00～19:15(体操・素振り)19:15～20:00(小中高一般/基本～指導稽古)20:00～20:45(高・一般合同稽古)
毎月第1木曜日 日本剣道形の稽古(対象は中学生以上) 19:00～19:45 19:45～20:45(基本稽古、合同稽古)
※7月～2020年2月の間、中央武道館が使用できない為、月一回の予定で稽古場所を変更し執り行います。
詳しくは剣道連盟ホームページに掲載致しますのでご確認下さい。

月	日	曜日	≪全剣連 居合道審査会≫	場所	主催
4	13	土	教士称号筆記試験	神戸市他	全剣連
5	3	金	八段審査会 称号（範士・教士・錬士）	京都市	〃
6	7	金	七・六段審査会	石川県	〃
7	5	金	七・六段審査会	徳島県	〃
11	9	土	教士称号筆記試験	神戸市他	〃
	30	土	七・六審査会（予定）	東京都	〃
	27	水	称号（教士・錬士）	〃	〃

月	日	曜日	≪全剣連 剣道審査会≫	場所	主催
4	13	土	教士称号筆記試験	神戸市他	全剣錬
	29	月・祝	六段審査会	京都市	〃
	30	火	七段審査会	〃	〃
5	1～2	水～木	八段審査会	〃	〃
	6	月	称号（範士・教士・錬士）	〃	〃
	11	土	七段審査会	名古屋市	〃
	12	日	六段審査会	〃	〃
8	17	土	七段審査会	長野市	〃
	18	日	六段審査会	〃	〃
	24	土	七段審査会	福岡県	〃
	25	日	六段審査会	〃	〃
11	9	土	教士称号筆記試験	神戸市他	〃
	16	土	七段審査会	名古屋市	〃
	17	日	六段審査会	〃	〃
	26	火	六段審査会（八王子市）	東京都	〃
	27	水	七段審査会（八王子市）	〃	〃
	27	水	称号（教士・錬士）	〃	〃
	28～29	木～金	八段審査会（八王子市）	〃	〃

月	日	曜日	≪県外行事≫	場所	主催
4	6～7	土～日	第54回西日本中央講習会	兵庫県	全剣連
	6	土	中、四国地区剣道合同稽古会	広島市	後援 全剣連
	21	日	第17回全日本選抜剣道八段優勝大会	名古屋市	全剣連
	29	月・祝	第67全日本都道府県対抗剣道優勝大会	大阪市	全剣連
5	2～5	木～日	第115回全日本剣道演武大会	京都市	全剣連
	11～12	土～日	第24回女子審判講習会	兵庫県	〃
	19	日	第71回四国四県剣道大会	高知県	後援 全剣連
6	3	月	第41回全日本高齢者武道大会	東京都	後援 全剣連
	9	日	第58回西日本勤労者剣道大会	高知市	後援 全剣連
	13～16	水～日	第57回中堅剣士講習会	奈良市	全剣連
	15	土	中、四国地区剣道合同稽古会	松山市	後援 全剣連
7	6	土	中、四国地区剣道合同稽古会	岡山市	後援 全剣連
	13	土	第11回全日本都道府県女子剣道優勝大会	東京都	全剣連
	20～21	土～日	平成31年度 全日本少年少女武道(剣道)錬成大会	東京都	共催 全剣連
	24～29	水～月	平成31年度 玉竜旗高校剣道大会	福岡市	後援 全剣連
8	3～6	土～火	第66回全国高等学校総合体育大会	熊本市	共催 全剣連
	7	水	第57回四国中学総合体育大会	松山市	四国中体連
	11	日	第61回全国教職員剣道大会	薩摩川内市	共催 全剣連
	18	日	国体四国ブロック大会	愛媛県	四国連合会
	21～23	水～金	第49回全国中学校剣道大会	大阪市	共催 全剣連
	31～9/1	土～日	第46回居合道中央講習会	京都市	全剣連
9	8	日	第58回全日本女子剣道選手権大会	長野県	全剣連
	7	土	中、四国地区剣道合同稽古会	高松市	後援 全剣連
	15	日	第14回全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会	大阪市	後援 全剣連
	22	日	第65回全日本東西対抗剣道大会	静岡県	全剣連
	未定		第62回全日本実業団剣道大会	東京都	後援 全剣連
	29～	日～	第74回国民体育大会剣道大会	茨城県	主管 全剣連
10	～1	～火	〃		
	12	土	中、四国地区剣道合同稽古会	広島市	後援 全剣連
	19	土	第54回全日本居合道大会	高知県	全剣連
11	3	日	第67回全日本剣道選手権大会	大阪市	全剣連
	9～12	土～火	第32回全国健康福祉祭剣道交流大会	和歌山県	後援 全剣連
2	1～2	土～日	四国高校剣道新人大会	愛媛県	四国高体連
	8	土	中、四国地区剣道合同稽古会	岡山市	後援 全剣連
	22～23	土～日	第7回女子剣道指導法講習会	姫路市	共催 全剣連
3	14	土	中、四国地区剣道合同稽古会	高知市	後援 全剣連
			第42回全国スポーツ少年団剣道交流大会		共催 全剣連
	26～28	木～土	第29回全国高等学校剣道選抜大会	春日井市	共催 全剣連

徳島県剣道連盟（執務時間 平日午前10時～午後4時）
〒770-0861 徳島市住吉3丁目9-6 栗本ﾏﾝｼｮﾝ106号 TEL 088-652-2337・FAX 088-652-2360

平成31年度 級位・段位 審査会実施 計画表

≪ 剣　道 ≫
初段以下一覧表

審査日	申込み締切日	中　部（担当支部）	西　部	南　部
4/29（祝月）	4/15（月）	ｿｲｼﾞｮｲ武道館（鳴門支部）	土成農業者ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞｾﾝﾀｰ	美波町日和佐総合体育館
6/23（日）	6/9（日）	**中央武道館**（徳島支部）	美郷ふるさとｾﾝﾀｰ体育館	小松島市武道館
10/13（日）	9/29（日）	ｿｲｼﾞｮｲ武道館（板野東支部）	三野体育館	相生体育館
1/19（日）	1/5（日）	**論田B&G体育館**（鳴門支部）	穴吹スポーツセンター	阿南武道館

＊木刀基本技　3級・・・4本まで　2級・・・6本まで　1級・・・9本

申込先	中　部	西　部	南　部
	〒770-0861 徳島県剣道連盟 佐藤佳宏 宛	**〒779-3403** **℡尾吉** **脇野** **0広川** **9美市** **0　山** **-宛川** **1　町** **5　堤** **7　外** **2　4** **-　-** **2　3** **6** **6** **4**	〒775-0203 ℡丸海 岡部 0偉郡 8人海 8　陽 4宛町 （　大 7　里 3　字 ）　松 3　原 1　3 7　5 5　の 4
日程予定	8:45 ～ 9:30 受付 8:30 ～ 9:25 剣道連盟稽古会 9:25 ～ 9:45 受審者稽古 9:50 ～　開会式 ＊初段学科、木刀基本技(3～1級)同時開始 上記終了後、5級より実技開始		

《審査受験申込時の注意》

① 審査受験申込書に全ての項目、特に現在有**する級位、段位を受領した年月日は確認して、氏名のﾌﾘｶﾞﾅ、住所等を正確に記入し 審査料を添えて申込む事。**
（この申込書は、合格後全剣連への登録の基となりますので全て明記すること。）

② 現在の級位、段位の合格後に姓名が変わった者は、氏名の下に旧姓名を書くこと。

③ 現段位を県外で登録受領した者は、その県名を記入すること。

④ 審査受験申込書の締切日は一覧表のとおりとし、事務局へ郵送又は郵便受けに直接投函する場合は、締切日までに届くようにすること。なお事務局へ郵送又は直接郵便受けに投函した場合は、締切日までに必ず申込書が到達しているか事務局に確認すること。

⑤ 審査受験申込書の取扱責任者については、一般の受審者は、支部に所属し県剣道連盟会員である事とし、取扱責任者は所属支部長が署名、捺印する事。また**大学生については、県内大学剣道部に所属する者は、剣道部責任者、県外の大学に所属する者は、出身地区の支部長の署名、捺印とする。**
小・中・高の受審者は、各所属の教室(道場)または、学校の責任者が署名、捺印する事。

⑥ 剣道四、五段の受審者は、四・五段講習又は、伝達講習会・秋季講習会を必ず受講すること。

⑦ **申込み締切後においては、審査会欠席時の審査料の返金は、行わないこととする。**

＊ **以上の項目が守れない場合は受審できませんのでご注意下さい。**

≪ 剣　道 ≫
二段以上・称号一覧表

≪ 居合道 ≫
級・段位・称号一覧表

剣道					居合道		
審査日	申込み締切日	審査段位	審査会場	四,五段講習会日時、会場	審査日	申込み締切日	審査会場
5/26（日）	5/12（日）	二段～五段	ｿｲｼﾞｮｲ武道館		5/12（日）	4/28（日）段・級	松茂町第二体育館
9/22（日）	9/8（日）	二段～五段(称号)	ｿｲｼﾞｮｲ武道館	8/25(日) 論田B&G体育館	9/15（日）	9/1（日）称号・級	論田B&G武道館
12/8（日）	11/29（日）	二段～五段	北島町北公園総合体育館（ｻﾝﾌﾗﾜｰﾄﾞｰﾑ）		11/10（日）	10/27（日）段・級	論田B&G武道館
2/16（日）	2/2（日）	二段～五段(称号)	ｿｲｼﾞｮｲ武道館		2/16（日）	2/2（日）称号・級	論田B&G武道館

注意 1.　称号審査については、行事予定表の伝達講習会(5月)または、秋季講習会(10月)を受講の上、1年以内に上記審査会において受審する事。

注意 2.　四.五段受審予定者は、四・五段講習会又は、伝達講習会、秋季講習会のいずれかを受講する事。受講から1年以内に2回の審査を受審できるものとする。(平成21年3月8日改正)

申込先	《 剣道審査申込先 》	《 居合道 審査申込先 》
	〒770-0861 徳島市住吉3丁目9-6　栗本ﾏﾝｼｮﾝ106号 徳島県剣道連盟　事務局内 藤川 和秋 宛 TEL　088-652-2337 FAX　088-652-2360	**〒770-8041** **徳島市上八万町西山1394** **居合道部事務局** **村井 恒治 宛**
日程予定	8:45 ～ 9:30　受付 8:30 ～ 9:25　剣道連盟稽古会 9:25 ～ 9:45　受審者稽古 9:50 ～　開会式 ＊ 学科試験、実技、形の順で実施	13:00 ～　開会式

徳島県剣道連盟　審査資格

平成31年４月１日現在

級・段位	資　　格
６～８級	小学１年～３年生は、認定により技倆相当の級位を与える。
５　級	小学４年生以上は、５級より受審できる。
４　級	中学生以上は、４級より受審できる。
３　級	高校生（相当年齢）以上は、３級より受審できる。
２　級	大学生、一般（大学生相当年齢以上）は、２級より受審できる。
１　級	小学６年生以上を受審資格とする。
初　段	13歳以上を受審資格とする。（年齢基準 審査日）平成24年4月1日より 居合道受審者一般（高校生相当年齢以下を除く）については、２級及び１級を認定とし初段から受審できる。
二　段	初段を１年以上経過した者。
三　段	二段を２年以上経過した者。
四　段	三段を３年以上経過した者。指定講習会を受講済みであること。
五　段	四段を４年以上経過した者。指定講習会を受講済みであること。 社会体育指導者資格初級の認定を受けた者については、五段の学科審査を免除するものとする。
六　段	五段を５年以上経過した者。
七　段	六段を６年以上経過した者。
八　段	満46歳以上で七段を10年以上経過した者。
錬　士	六段取得日より１年以上経過した者。指定講習会を受講済みであること。
教　士	七段取得日より２年以上経過した者。指定講習会を受講済みであること。

＊級位は、経過日数を必要とせず毎回受審可能。

審査料・登録料（消費税含）一覧表

平成31年４月１日現在　　〈単位＝円〉

	入会金 （徳島県で初めて受審する者）	審査料 （消費税８％含）	再審査料	登録料 （消費税８％含）
３級以下	１,０００	１,０００	──	２,５００
２　級	〃	１,５００	──	３,５００
１　級	〃	２,０００	──	３,５００
初　段	〃	３,０００	３,０００	６,９００
二　段	〃	４,０００	４,０００	９,０６０
三　段	〃	５,０００	５,０００	１２,３００
四　段	〃	６,０００	６,０００	１７,７００
五　段	〃	８,０００	８,０００	２３,１００
六　段	〃	１０,８００	──	４５,２００
七　段	〃	１５,１２０	──	５６,０００
八　段	〃	１９,４４０	──	７７,６００
錬　士	〃	１８,３６０	──	４５,２００
教　士	〃	２７,０００	──	７７,６００
範　士	〃	──	──	１６４,０００

剣道連盟事務局だより

事務局次長　木下裕康

最近、外国の大会で、日本人サポーターが試合終了後の会場でゴミ拾いをし、その姿が賞賛を受けているというニュースをよく目にすることがあります。このようなニュースを目にすると、日本人の礼儀正しさを感じます。

しかし、テレビでスポーツ中継を観戦していると、試合中に技が決まり、点が入ると自己を誇示するようにガッツポーズをしたり、会場で奇声を発しその場に大の字に寝そべるなどの行為も目にします。

また、試合中に苛ついた選手が持っていたラケットを地面に叩き付けたり、競技によってはそれを見た観客が興奮し、拍手を送るという光景が映し出されたりもしています。

競技によって違いがあると思いますが、自分の使用している道具を単なる消耗品としか見ていないような行為には疑問を感じることがあります。

さて、剣道においてはどうかといいますと、そのようなことを見かけたことはありません。

私が剣道連盟のお手伝いをさせていただくようになって、もうすぐ二年となります。自分が大会を運営する側に立ってみて、大会運営をする役員の姿を間近に見るようになりました。

役員は、早朝から大会終了まで誰かに指示されるのではなく、自分から率先して仕事をこなしており、大会の裏方として誠実に取り組んでおります。

また、審判の先生方は、一本の有効打突に神経を集中し、試合に臨む心構えを選手に説いておられます。

そして、大会に出場した選手は、技量の差はありますが、自分が修練して得た技を精一杯試合で出し合っており、一本を取ったからといってガッツポーズをすることもなく、負けても竹刀を床に打ち付ける様な事をする者は見受けられません。竹刀は刀、防具は鎧、自分の身を守る道具です。それを放り投げたり打ち付けたりすることは自分を捨てるということになるからです。

剣道では、勝敗の如何に関わらず、試合場から出るまで喜びや悔しさを表に出しません。

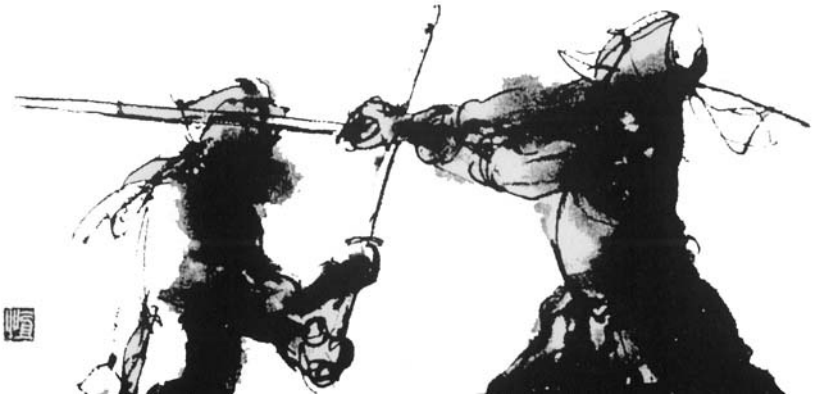
相手に敬意を払うという事が礼儀であることを皆が自然と理解しているということと思います。

その他、会場に来られた一般の観客の方や選手の保護者の方も試合の雰囲気に一喜一憂する事なく静かに試合を観戦し、大会が終われば会場に来た時と同じ状態にして帰ってくださっております。剣道の美徳とは、このようなところにも表れていると感じます。

私は皆さんが帰った後に会場の点検をしておりますが、会場に

忘れ物があったり、ゴミを回収しなければいけなかったという覚えがありません。さすが武道を志す者の大会だといつも感心しております。

これからも皆さんと共に気持ちよく大会が開催できますよう努力して参りたいと考えております。今後ともご支援とご協力をお願いいたします。



支部会員の皆さんからの情報提供のお願い

会員の表彰や訃報・ニュース等々、事務局が把握できていないと思われる事柄について、電話連絡でもかまいませんが、以下をコピーし、ファックスでお送り下さい。

徳島県剣道連盟 事務局　　TEL 088－652－2337　FAX 088－682－2360（24時間OK）

会　長	副会長	理事長	事務局長		

賞揚、報告	（支部行事予定、行事結果、会員の表彰、訃報、怪我等、ニュース 支部役員変更報告等、その他）
件　　名	
年　月　日	年　　月　　日
支　部　名	支部
支部長名	
役員名・会員名	
添付資料	有　・　無

内　　容

編集後記

徳島県剣道連盟の会長・名誉会長として、大黒柱的存在であった遠藤一美先生がご逝去されました。先生は太平洋戦争の捕虜として、シベリア抑留を余儀なくされ、その厳しい環境の中を生き抜いて復員され、自らの身をもって戦後日本の復興を築いてこられました。その間、剣道修行はもちろんのこと、社会および行政のあり方にも目を向けられ、多くの人たちからの支援を得て、市議会議員・県議会議員として活躍されました。しかし、その地位には淡々楽々として、私心がなく、温容にして、皆を楽しませるユーモアがあり、それでいてどこかに多くの戦友を亡くしてきた憂いを秘めているような先生でした。

まさに「剣道は剣の理法の修練による人間形成の道である」を体現された先生でもあります。私も先生のご遺徳にあやかり、剣道を通して、また、この編集作業の中で人間的に成長していきたいと念じております。

しかし、この『徳島の剣道』においては前号よりは早くなったとは言え、編集段取りが遅れ、今回も六月初旬に発刊ができず、申し訳なく思います。天国の遠藤先生から「もう少し、早くしてな」と暖かく叱咤激励して下さる声が聞こえてくるようです。

『徳島の剣道』第三十五号

編集委員会

木原資裕　三木毅　西谷肇一　藤川和秋　中村稔裕　別宮憲治　久保隆司　柴田宗忠　井内勝則　西本浩章

『徳島の剣道』第35号

令和元年６月30日発行

編集・発行　徳島県剣道連盟

代表者　三　木　　毅

〒770-0861　徳島市住吉三丁目9-6
栗本マンション106号室
TEL 088－652－2337
FAX 088－652－2360